



002223-000

332. 22-Sy922s3

上海日本商工会議所年報

上海日本商工会議所

第24 (昭和16年度)

1942

ADC

上海日本商工會議所年報

(昭和十六年度)

332.22
Jg 922 n3

上海日本商工會議所刊行誌目

△定期刊行

經濟月報 (毎月十五日發行)
會議所々報 (毎月十日發行)
會議所年報 (毎年一回發行)

△既刊書目

上海經濟提要 (昭和十六年十二月發行)
上海商工錄 (昭和十六年十月發行)
英文日本人商工錄 (昭和十五年十二月發行)
中國海關法規と通關手續 (第三版)
(昭和十七年一月發行)
中華民國海關輸出入稅率表
(昭和十四年九月發行)
支那事變日誌 (昭和十四年九月發行)

上海要覽 (昭和十四年八月發行)

註・右のほか昭和十三年以前にも多數の圖書あり

△參考資料

第一號 支那關稅改正意見一覽
第二號 第六號 維新政府經濟法規集
第一輯 財政金融
第二輯 商工關係
第三輯 商法公司編
第四輯 日支合辦會社法規
第五輯 其他經濟關係法規
第七號 上海に於ける邦商組合事情
第八號 華浙院稅務總局統稅章程
第九號 經濟統制規則類纂

上海日本工商會議所

第二十四次年報

十二月八日勃發した大東亞戦争は上海經濟の相貌を一變せしめた。第三國貿易の杜絶は上海港の從來誇りとせる世界的地位を根柢から揺がし、この地に芽生えてゐた支那事變勃發以後の商業、工業の復興は一大變調を來したのみならず、從來とは全く異つた指揮棒の下に奏でられる事となつた。即ち七月の資産凍結前後を通じて愈よその鋭鋒を示し始めてゐた所謂A B O D陣營の上海支配は一朝にして覆滅し去り、上海は日本を盟主とする大東亞共榮圈の一環として更生の途に上つたのである。貿易港としての上海、工業都市としての上海はこゝに百八十度の方向轉換を余儀なくせられる事となつた。物資交流の中心地として將又、金融の中心地としての上海も、一大轉換期におかれた。これを各界業者の立場より見れば未曾有の震動を覺ゆるものがあらう。

我等は日米若し戦はばと言ふ假説を耳にし始めて永年月を経て來たが、今日では假説は現實となつた。この牢記すべき歴史の一大轉換の年について、上海各界邦人業者の歩いて來た荆棘の道を可及的如實に描寫しようと努めたのが本年報である。勿論それは不完全な素描に終つたかも知れないが、大東亞戰勃發以後の見透しについて何等かの示唆を與へる事に努めた跡は隨所に讀み取つて頂けるであらう。

この種年報刊行の現時局下に於ける困難性については今更贅説しない。たゞ刊行が豫定より手間取つた原因も一半は右の困難の中にひそんでゐることを諒解されたい。最後に、繁忙の中に執筆の勞を執られた各界業者の方々に深甚の謝意を表する。

昭和十六年概觀
支那對外貿易

[illegible]

工業概況

[illegible]

勞勩事情

一、勞働賃銀と生計費指數……………**九**
二、一九四一年上海勞働爭議一覽表……………**九**

昭和十六年經濟日誌

[illegible]

昭和十六年概観

はしがき

昭和十六年即ち皇紀二千六百一年はわが皇國の歴史において、永久に記念せらるゝ年とならう。この年十二月八日、大詔は渙發され、米英兩國に對して戦端が開かれた。世界支配の野望を抱く米英の飽くなき壓迫に、わが國が遂に彼等との協調を斷念し、自己生存權確保のため、延いて恒久的世界平和確立のために、堂堂膺戦の戦ひを中外に宣言した實に歴史的、世紀的な年であつた。しかもわれらが殊に誇とするところは、わが國が米英に宣戦を布告するや、友邦獨伊兩國が欣然我れに協力し、世界新秩序建設のために共に戦ひ抜くの熱意を示したこと、わが南方の友邦泰國が米英の策謀を斷手排除して、わが國との間に攻守同盟條約を締結し、アジア解放の聖戦に進んで参加したことである。而してこの二つの事實は、本年度中に展開された他の多くの事實、例へば米國武器貸與法の成立、獨伊兩國のバルカン制覇、英國のイラクおよびシリア占領、獨伊戦争の勃發、英ソのイラン占領、防共協定の擴大延長等々にも増して、昭和十六年の歴史的、世界的意義を高からしむるものであつた。

ヒトラー總統は十二月十一日のドイツ國會における演説において、「日本は米國に宣戦を布告した最初の國である」と云ふ意味の

ことを述べたが、大東亞戦争の起因は斷るまでもなく、第一次世界大戦以後の世界の政治的經濟的混亂を招來した最大の原因は、實に米國政府の誤れる認識とそれに基づく偏狹な態度にあつたのである。

果然、御稜威の下、皇軍は海に陸に赫々たる戦果をあげ、世界各国を驚嘆せしめてゐる有様。われらは昭和十五年秋、二千六百一年の記念祝典を舉行したが、さらに昭和十六年も暮れんとする師走において、かくして次ぎの新たな皇紀二千七百年の輝しき大發展大躍進が約束されたわけである。

一、日本

昭和十六年におけるわが國の政治面を回顧すれば、まづ多角多彩を極めた帝國外交の華やかさが目を奪く。而してそのトツプにクローズアップされるのは泰佛印國境紛争の調停であらう。

前年十月末突發した兩國々境に關する武力抗争は、一月サイゴン沖のわが軍艦上において現地停戦協定が成立し、二月その本會議が東京で行はれた。しかし兩國の主張には多大の懸隔があり、且つ英米側の必死の牽制運動もあつて、會議は危ふくお流れにならんとする等、幾多の場面を展開後、結局、東亞における日本の立場と、測り知れざる日本の實力を良識せる泰佛印兩當局の賢明

によつて、わが調停は見事成果をみるに至つた。即ち三月十一日の正式調印となり、共同コミュニケ、三國交換公文書の發表となつたのである。

泰佛印國境紛争の調停成るや、當の立役者松岡外相は調印の翌日訪歐の途に上つた。訪歐は盟邦首領との親交を深むるためである。現職の國務大臣が、特定の會議に代表として海外に派遣されたことはわが國でも先例に乏しくないが、一般政策の協議を目的に外國を訪問したことはこれを以つて嚆矢とする。この訪歐ではお土産が相當に持ち歸られた。四月十三日モスコで調印された日ソ中立條約はその一である。これによつてソ聯抱込みに汲々としてゐた英米殊に米國の如き、恐らく月夜に釜を盗まれた感を抱いたことであらう。その後六月になつて日ソ通商協定が成立し、續いて十月、ノモンハン停戦協定以来足掛け三年行儀んでゐた滿蒙國境確定交渉が圓滿に妥結をみる等、對ソ關係は稍々明朗性を取戻すに至つた。

また五月には日佛印通商協定の成立をみてゐたが、七月にはさらに佛印の共同防衛に關する日佛議定書がヴィシーにおいて調印され、帝國陸海軍は佛印南部に兵力を増派して平和維持に當ることとなり、七月二十九日夫々進發をみた。

この間中華民國國民政府主席汪精衛氏の來朝を過すことは出来なかつたであらう。汪主席は周佛海氏以下の隨員を引共に、六月わが國民的歡迎裡に華やかな帝都入りをしたのであるが、長くも天皇陛下には皇室の賓客として汪主席と御會見、御款待あらせられた。汪主席の歸國と同時にわが政府は、國民政府に對し三

億圓を限度とする借款供與方を決定した旨發表した。また國民政府中央儲備銀行の在外資金をわが自由國に移行する協定は、既に汪氏來朝中に調印發表せられた。さらに八月には泰國との間に一千萬バーツの借款が成立した。但しこの借款はわが方（横濱正金銀行）がクレジットを受ける方であつて、米英の資産凍結が齎らした一現象である。十一月、防共協定がさらに五ヶ年延長された。而して期間延長の調印を機会に樞輔諸國の參加があり、昭和十一年日獨の二國間に締結された防共協定は、こゝにその參加國十三の多きに達して劃期的な強化をみるに至つた。

かくの如く一聯の軍事的、外交的成功裡にあつて遺憾ともいふべきは、日獨會商の決裂と、米英等敵性國側の資産凍結であつた。前年九月以來バタヴィアにおいて折衝中であつた日獨會商は、交渉調はす六月遂に物別れとなり、わが芳澤公使は同地を引揚げて了つた。

一方資産凍結は、わが日佛印共同防衛協定發表の前夜（七月二十五日）ルーズヴェルト米大統領は無制限國家非常時宣言に基づき、米ならびに在比島日本資産の凍結を命じ、二十六日から實施した。アメリカに歩調を合せ、イギリス並びに各種民地もまた同日日本資産の凍結を實施、さらに日英、日印、日獨各通商條約の廢棄を通告して來たが、引續き蘭印も日獨印金融協定を停止し、同時に日本資産の凍結、對日滿支および佛印輸出、日本よりの輸入に對する許可制を實施した。これに對しわが國もまた直ちに報復手段をとり、有効適切な反撃を加へて毅然たる態度を表明した。即ち七月二十八日外國爲替管理法に基づく「外國人關係取引

取締規則」てふ大藏省令の公布がこれであり、滿洲國および中華民國においても同趣旨の取締規則が實施せられた。

七月十六日首相近衛文麿公は「益々國策の遂行を活潑ならしめんがためには、まづ國內態勢の急速なる整備強化を必要とし、從つて内閣の構成も亦一大刷新を加ふるの要あるを痛感し（七月十六日政府發表）、閣僚と共に總辭職を決定したが、後繼内閣組織の大命は翌十七日同公に再降下した。第三次近衛内閣の誕生である。新内閣において注目されるのは松岡外相の退陣による豊田外交の登場であつた。しかし本内閣も組閣後僅かに三ヶ月、十月十六日唐突として退陣し、代つて東條内閣の出現となつた。東條内閣の特異性は、現役大將内閣として政戰一致の好機を發揮する上に、至便の性格を具へてゐるところにある。果然、新内閣は來朝前駐獨大使を起用して米國に派遣し、日米の話し合ひに最後の駄目押しを致さしめた。かくて百方手を盡したわが方の努力も遂に圓滿なる妥結をみるに至らず、畏くも宣戰の大詔を拜するに至り、やがては盟邦獨逸の騰起となり、日泰攻守同盟となつた。

次ぎに昭和十六年度の統計の發表を一東。

1 昭和十五年十月一日施行の國勢調査の結果は四月十七日發表をみたが、これによると帝國全版國總人口は一億五千二百二十萬六千一百一人であつた。

2 事變四ヶ年の陸軍綜合戰果——聖戰滿四年間（自昭和十二年七月至昭和十六年六月）における皇軍の偉大な綜合戰果が七月發表せられたが、敵の遺棄死體數に二百一萬五千、これに捕虜投降等を加へれば敵軍損害の總計は無慮三百八十萬（五百四

十個師）に達する。

3 本年度産米第二回豫想收穫高（十月三十一日現在）は五千五百四十六萬二千石と發表された。

4 本年度國民貯蓄目標額は百七十億圓

5 本年度公債發行額は百三十九億四千四百萬圓

6 本年度日本銀行發行高の最高記録は十二月三十一日の六十二億三千百九十萬六千圓（限外發行十五億三千百萬圓）

次ぎに本年度の第一四半期の物動計は四月決定實施されたが、本物動は八月に決定された。本物動計畫は全く自主的のものであつて、獨ソの開戦によつて兩國にも期待せず、また資産凍結によつて米英にも依存してゐない。從來の物動が、第三國物資に依存し、且つこれに依存し得た關係から、その時々第三國の事情によつて、常に改編調整を行ひつゝ實施して來たのに引換へ、十六年度物動がさりと第三國の依存を清算し、眞に日本的性格の獨自の物動となつて誕生したことは明白に想像される。

さらに本年度の經濟界について一瞥しよう。第二次近衛内閣の成立と共に澎湃として湧き起つた新體制運動は、昭和十五年九月の「基本國策要綱」をその發足點とし、同年末の「經濟新體制確立要綱」を産業經濟における新體制第一歩とした。本年に入つては、八月の「重要産業團體令」を起點として、活潑なる統制會活動を展開し、これを補足するところの營團活動と相俟つて、産業再編成は著しく推進せられるに至つた。即ち、「重要産業團體令」に基づく重要産業部門の統制會は、十月末鐵鋼以下七部門十二種に對し第一次指定があり、これらのすべては年内に設立命令が發

せられ、鐵鋼、石炭、鑛山等大半はいづれもその結成をみた。また營團活動の例をあげれば既設の住宅營團、帝都高速度交通營團の他、新たに産業設備營團と重要物資管理營團が創設せられた。かくの如く統制會活動の展開が戰時綜合計畫經濟の推進力となつてゐるとき、日商、經聯、重産協、工組中央會、商組中央會、全産聯等の經濟團體が如何に再編成されるべきかについては、相當に論議せられ、本年度における重要トピツクの一つであつた。各團體は舉つて試案を發表し、建議を行ひ、自己中心的な再編成方式を提唱した。これにつき推名商工次官が十二月の日商緊急常議員會の席上において「大東亞戰爭完遂のためには從來の因習を打破し、國內産業を再編成しなければならぬが、これがためには國家目的に即應して經濟團體を一元化する必要がある」と當局の意見を表明したことは、今後の方向を示唆するものとして注目される。

さらにまた中小商工業を中心に企業の整備統合を目標とする「企業許可令」および「企業整備令」が十二月に公布實施せられたが、貿易部門ではこれが「貿易業整備要綱」となつて、同じく十二月貿易局より發表をみた。週つて五月には「貿易統制令」が國家總動員法に基づいて制定公布せられた。而して貿易統制を實施すべき國家機關としては、前年日本東亞輸出入組合聯合會が先驅的に創設せられ、本年に入つて南洋貿易會の設立をみてゐたが、十二月末設立命令を發せられた日本貿易會の結成によつて、これら既存の諸機關は吸収統合せられる。斯くしてこゝにわが國輸出入總動員體制の元締が出来ることになつた譯である。

なほ九月に「日滿支輸出入計畫」が決定せられた。これは從來の餘剩貿易の觀念を一掃し、日滿支最大限貿易への轉換聲明であつた。その趣旨は左の二點に要約される。

- 一、まづ日本より供給する物資の數量は、日滿支綜合戰時經濟力の彈力性を考慮しつゝ、可及的多量の物資を供給すること。
- 二、滿洲および支那より供給を受ける物資の數量は、自給體制を強化するため、日滿支一體的見地に基つき、滿支生産力の發揮によりその最大限を以つてすること。

いまや大東亞戰爭の目覚ましい大勝利と共に、大東亞共榮圈が擴大強化されるに伴ひ、本「日滿支輸出入計畫」も南方建設工作と脱み合せて把握せらるべきはいふまでもないところであるが、その際においてもなほ、圓域を一體とする物資交流増強の根本方針は依然として強調されることであらう。

二、大東亞共榮圈の國々

(イ) 滿洲

滿洲國の昭和十六年度經濟施設大綱は三月決定發表せられたが、内容大體左の通り。

- 一、生産力擴充 各特殊社會の經營能率の高度發揮と、特に重點主義により鐵鋼、石炭、液體燃料および電力の増産。
- 二、物資配給 消費の規制、配給機構の適正化、生必需品輸入量の確保。
- 三、貯蓄獎勵 各年度の貯蓄目標を十一億に引上げた。

四、地方債の整理 五、税制の改正

また七月には資金計畫の發表をみたが、總額二十一億四千萬元、その調達方法は國內十一億、對日期待十一億四千萬元の振合ひとし、結局本年度對日期待は前年に比し一億圓程度の減少となつた。

十月滿蒙國境も確定され、北邊順みに明朗性を加へたが、更にブルガリヤより滿洲國正式承認の通達があつたのを始め、年内に芬蘭、泰、丁株の諸國よりも正式承認の發表があつた。これにて滿洲國承認國は十六ヶ國となり、かくて日獨伊の樞軸外交は一段と強化され、世界新秩序の確立に力強く邁進することゝなつた。六月には滿獨貿易協定再延長が取結ばれ、二月には對華中貿易方針が決定された。即ち滿洲國側は棉花、小麦粉、大豆油用ドラム、麻袋等の輸入を主とし、輸出品としては特産三品、雜穀、パルプ等を主眼とする方針で、決済方法としては從來の如くパータイ制をとる建前である。

國內的には七月四平省が新設された。これは奉天、吉林兩省より分割創設したもので、南滿における穀倉地帯をなし、省廳の所在地は四平市である。さらに同月「價格等臨時措置法」が公布され、國內商品の全般に對し、七月二十五日現在の價格をもつて釘付けとし、一律に引上げ禁止となつた。また、滿洲國開拓農場法が十一月公布されたが、本法はいふまでもなく日本内地人が滿洲開拓地において、農業を営む場合の土地制度と村造りの基本方針を規定せるもので、本法の實施により開拓農家の地位は磐石の安

きに置かれることとなつた。但し本法の實施は建國十周年にあたる昭和十七年四月一日よりとなつてゐる。なほ滿洲開拓民第一次五ヶ年計畫は本年度をもつて豫定通り十萬戸入植を了し、愈々來年度より二十二萬戸入植を目標とする第二五ヶ年計畫に入ることとなつたが、二十ヶ年百萬戸入植の大計畫はかくして着々と實を結び行くことであらう。

(ロ) 支那

華北政務委員會は民國三十年度の豫算を發表したが、歳入出各々二億一千九百萬圓と決定された。また前年七月興亞院華北連絡部が決定した華北産業五ヶ年計畫要綱は、決定直後日獨伊三國同盟の締結を見、續いて日滿支經濟建設十ヶ年計畫の發表があつたため、新たに昭和十六年を初年度とする華北經濟十ヶ年計畫が樹立せられ、再出發することゝなつた。本計畫においては、その中心課題たる地下および地上資源の増産を圖することは勿論であるが、單に資源の増産一本建とせず、出廻りを促進すべき收買機構の恒久的整備を圖ること、また大規模の重工業、化學工業勃興の際における金融經濟政策が特に考慮を拂はれることゝなつた。

さらに本年度の華北蒙疆炭の對日滿物動割當輸出については、一月北京において軍、興亞院、炭業關係者間に協議が重ねられた。華北蒙疆炭の輸入は順調に進行し、井陘、陽泉炭は二月十五日の德石線の營業開始によつて、從來の輸送能力は倍加することゝなつた。また蒙疆龍煙鐵鋼の對日輸出も年度末までに物動計畫通り積出され、或ひは結果において相當量の増加になるとさへ見

られるに至つた。

對日貿易については北支當局より十月、當局議の形式をもつて次の如き發表があつた。

一、日支における輸出入機構 日支における輸出入機構を可及的の一元化して價格調整と數量調整とを一元的に運用する。組合による輸出入、大小商社による輸出入の強化を行ふ。
二、支那向け輸出物資の調整 支那向け輸入の現行調整料は變更せず、その積立法に再検討を加へ現行品目以外にも最小限の調整料を適用する。
三、支那よりの輸入物資 價格調整令による現行價格調整法を基本とする。

三月には華北・華中の十六年度バーターの協定が取結された。十六年度バーターの總額は約一億六千萬圓、前年度に比し四千萬圓の擴張となり、品目の主なるものは華北より石炭、鹽、香煙草、華中より小麦、麥粉および卷煙草となつてゐるが、十六年度の特徵として華中よりの品目にさらに確安が追加され、米が除外された。なほ蒙疆が本バーター協定に参加して、蒙疆の華中に對する受取勘定は、華北よりの蒙疆向け物資によつて清算されるといふ三角バーター關係は、本年も踏襲されることになつた。

これと共に中北支個人バーターも既に行はれてゐたが、米英の資産凍結の結果、米ドルによる決済は當然不可能となつたので、これに替へて八月より特別圓建を採用するに至つた。而して九月より特別圓の對法幣相場を固定せしめ、法幣の對米公定相場たる五ドル十六分の五を標準として、二十二圓八分の五に決定、釘付

けた。また上海との匯中取引を統制するものとして、八月より「華北爲替管理規則」が實施せられた。

華北における聯銀券一元化工作に對しては華北政務委員會は四月告示を發し、聯銀券地區に編入さるべき地區内の舊通貨は、編入に先立ち、各地區當局の定むる日より二ヶ月間を限り、聯銀券に對しその都度定むる比率をもつて回收せしむることとなつた。蓋し舊法幣並に地方券は北方券と南方券たるを問はず、昭和十四年三月以降華北における流通を禁止されてゐたが、匪區地區においては依然多量に殘存使用されてゐる實狀にあつたからであらう。而して本年度聯銀券發行高は舊正前後を頂點として七億四千萬圓を突破したが、その後收縮傾向に轉じ、さらに秋には棉花買付資金放出のため再び増大して年初の數字と平行した。

中支においては、國民政府が政府直轄の最高機關として清鄉委員會を設置し、汪主席自ら委員長となり、七月一日を期してその活動を開始した。第一期實施區域として、崑山、蘇州、無錫、常州を連ねる線以北の揚子江下流南岸地帯が指定された。すでに第一期工作を終へて第二期工作は九月十五日より開始されたが、これにより地區内の治安確立と經濟生活の安定確保は大いに推進せられた。勿論皇軍の協力なくして行はざることはいふまでもない。

さらに日華條約實施の一として、軍當局は凡ゆる困難を排して軍管理工場の返還を斷行して來たが、中支では十一月四日現在その數六十一に達し、工場總數百三十余の中約半數が返還された。また北支では七月七日現在四十工場、南支では十月末をもつて軍

管理工場全部の返還をみた。なほこゝで國立北京師範大學、國立上海大學の二大學が、日も同じ十一月一日、南北一齊に開校されたことを附記して置く。

八月國民政府は行政機構の大改革を斷行した。機構改革の要點は警政部を内政部に、鐵道部を交通部に各々併合統一し、工商部農工部は合併して實業部を興す等であつた。同じく蒙古聯合自治政府でも七月行政機構の改革をなし、主席に德王、副主席には干品卿、蒙蒙左の二氏が就任し、北京の新民會では十一月、副會長安藤中將が大政翼贊會副總裁に轉出の後を受け、鈴木中將が新たに最高顧問として就任した。更に十二月わが駐支大使館にも移動があり、本大使は引退して重光大使となつた。

遂に帝國政府並に滿洲國政府の正式承認を得てゐた國民政府はその後漸く近代國家としての體容を整備し來たり、七月には樞輔國獨逸、伊太利、羅馬尼亞、スロヴァキヤ、クロアチヤ、西班牙、洪牙利、ブルガリアの八ヶ國より正式承認を受け、さらに八月丁抹の正式承認通告があり、これで國民政府承認國は合計十一ヶ國を數ふるに至つた。また十一月國民政府は、日獨伊三國の要請により防共協定に参加した。

この年における皇軍の作戰行動の主なるものを摘記すれば、陸軍ではまづ四月に行はれた浙江南部の新作戰であり、これはわが封鎖國內にあつて奮動を續けてゐた鎮海、寧波、温州、福州等の援將諸港に對し彈壓を加へたもの、五月には山西南部に開かれた中原作戰で、この戦果は正に徐州會戰以來のものであつた。次には九月の湘南作戰即ち長沙の占領と十月の鄭州の占領であつ

た。鄭州の占領は長沙陥落と共に重慶政権に甚大なる打撃を與へた點において二大變態であつた。

海軍では南支封鎖の擴大斷行がその主要なものである。即ち二月の香港ルートの遮斷、三月雷州半島の作戰、四月の南甯島より澳門パイアス灣入口並に田尾角より蓮花峯角に至る海岸線の封鎖決定であつて、從來わが軍の目を掠め、殘された沿海地方に海關を設置、上海、香港等より轉送される物資を輸入して斷末魔の苦悶に足掻きつゝ、輸血ルートの開通に狂奔してゐた重慶側の手はこれによつて完全に遮斷せらるに至つた。最後に空軍の活躍と、天津、上海、沙面各租界の平和的進駐については、あらためて述べるまでもあるまい。

(ハ) 南方國

わが帝國の大東亞共榮圈指導の實力を誇示する礎石として、世界の政治的關心を集めてゐた泰佛印紛爭調停會議は、調停國たる帝國の輝かしい外交的勝利のもとに、五月九日東京における泰佛印和平條約の調印をもつて、日出度く大國國となつた。かくて泰佛印調停はわが國威宣揚の上に千鈞の重味を加へ、日本の外交史に劃期的成功を持ち來たしたものであり、同時にこの成功はわが南進政策の新たな第一段階をなすものであつた。

されば本條約と前後して日佛印間には、大東亞共榮圈確立への先驅的意味をもつ廣汎なる經濟協定が取結され、續いて七月日佛印共同防衛協定、十二月には日佛印軍事協定が締結されるに至つた。中にも日佛印經濟協定について一言すれば、本協定によつて

相互に最惠國待遇を與へられたことが注目され、また佛印より日本への輸入に對しては各品目を通じて最小限を規定し、日本より佛印への輸出については最高割當數量が定められた。さらに對日輸出品目中、米、石炭、鐵礦、マンガン、タングステン、牛皮、鹽等凡そ佛印産物にして日本の必要とするものは、フランス本國の必要量を除いて殆んど全量が日本に優先的に供給されることになつた點、佛印における農工業、電氣、交通事業に對し、合辦の形式を以つて日本資本の参加を認めた點等は特筆に價する。

兩國の提携強化に伴ひ、十月にはわが特派大使府が新設せられるに至つた。即ち佛印現地にある軍事を除くわが政治、經濟、文化各般の機關は、すべて大使府の下に統合されることになり、この特命全權大使としては芳澤大使の任命をみた。

大東亞戰爭が勃發するや、名宰相ビブンの裁斷一下、友邦泰國が欣然として帝國に協力し來たことは、特に高く評價されて然るべきであらう。その具體的現れは十二月に締結された日泰攻守同盟であり、經濟的には英貨一ポンド十一ペーソの對英リントの切斷と、邦貨にして約三億三千萬圓に上る在英米資産の凍結、およびその全貿易中過半を占むる對英貿易の放棄であつた。

泰國本年度の貿易は、一月以降五月までの全輸出量九百九十六萬ピタルで、前年同期の輸出量一千七百七十六萬ピタルに比すればかなりの減少であつたが、金額は米價騰貴のため二千二百六十五萬ペーソの増加を示した。タイ國米の輸出先は日本および滿洲が最多で、本年五月の統計ではこの二國のみで過半の五二・三五%に達した。

十月わが商工省は泰國をも佛印と同様「南洋貿易調整令」による商工大臣の指定區域に指定し、その調整機關として南洋貿易會を指定した。十二月には泰國中央銀行の設立計畫が發表された。十七年一月十七日開業の豫定で資本金一千萬ペーソ、内半額は政府の出資である。

次に英領マレーは如何、所謂A B C D包圍陣内で最も強固な一環と目されてゐる英領マレーであるが、この主要産物はゴムと錫と鐵礦であることは贅言を要しないところ、就中鐵礦は日本との關係において見逃せない。こゝには統計的數字を缺くが、英領マレーの鐵礦山は大半日本の資本下に置かれてをり、日本製鐵業に強く依存してゐたのである。再び日本の手によつて開發される日も遠くあるまい。

最後に蘭印。世界の寶庫蘭印は、日本を目標として、軍擴に血道をあけて狂奔し、本年六月より九月に至る國民參議院の第一會期において、總額五億三千萬ギルダーに上る來年度豫算を議決した。これは總豫算八億ギルダー中、實に六七%を占めてをり、蘭印未會有の空前防豫算であつた。

本年度一月より五月までの五ヶ月間の蘭印貿易狀態は左の如くであつた。

一、輸入先の最高はアメリカで、その金額は五千九百四十六萬ギルダーで全輸入高の三六%、日本は第二位。

二、また輸出先の首位もアメリカが占め、その金額は一億四千二百九十二萬ギルダーで全輸出高の三九%。

前年來引續き行はれてゐた日蘭會商も遂に成らず、六月に至り

わが芳澤公使は空しくパタヴィアを引揚げたことは既述した。

今年度の蘭印をみて特に注目されるのは、從來の原料産出國の立場から前進して、工業國化への計畫を一步踏み出したことである。蓋し蘭印が世界大戰に刺激され、經濟的にある程度の自給自足の必要を感ずるに至つたからであらう。即ち國民參議會は總額五千萬ギルダーに上る工業に關する緊急事業案を通過せしめ、一千萬ギルダーは政府資本がこれに参加し、同時にその種目はアル組織して積極的工業化政策を企圖するに至つた。その種目はアルミニウム、鐵鋼、曹達、硫酸、ガラス、製紙、紡織等に亘つてゐるが、中にも紡織は最先に着手せられ、紡錘四萬錘を有する紡織工場をスマランに建設、既にその一部は竣工し、ジャヴァ産の短纖維綿で太番手糸の紡績を開始した。なほ引續き數工場が落成し、さらに人絹糸製造にも乗出すことになつた趣である。

蘭印の工業化計畫はかくの如く進捗を傳へられてゐる。しかしながら大東亞戰爭の勃發に伴ひ、所要資材の仕入先たるアメリカとの通商路が完全に閉鎖された今日、折角の工業化計畫もまづ窒息狀態に陥つてゐるものとみて差支へないのではなからうか。

三、重慶政權

蔣政權の首都重慶では、日本軍の爆撃に恐れをなし、三月重慶衛戍司令部の名をもつて佈告を發し、市民の避難分散を命じ、市の人口を二十三萬に制限した。而して衛戍司令部はこの制限命令實施にあたり、豫算百萬元を計上し、引越費用を持たぬ貧民に旅費として、各人十五元づつ支給するといふのである。同時に重慶

では米の切符配給が行はれることになつた。これは切符配給の皮切りとして、政府の全國糧食管理局の手により、市内警察區域の住民二萬三千名に對して行はれたもの。また三月行政院會議の結果、從來地方税であつた田賦を中央に移管し、しかもその納税を米、麥等による實物徵收とした。さらにまた十二月專賣制の實施を發表し、明春一月一日を期して鹽、茶、マツタの專賣を斷行することになつた。

重慶の物價昂騰は一九四〇年三月以來新たな段階に入り、本年五月以降その勢は再び急激となつてゐる。即ち一九四〇年三月より本年六月に至る十六ヶ月間に、重慶の食糧品は百三十八割の昂騰を示し、金屬、電氣材料類は百八十七割、衣類は百十四割の騰貴を示してゐる。十一月十日重慶アパス電に類れば、中國農民銀行貸付係長壽啓明は重慶の物價がすでに事變前の三十倍に達したと發表した。例へばこれを重慶市の歳入、歳出豫算にみるも、本年度は一千六百八十萬元であつて、昨年度の八百六十萬元に比すれば一躍倍額を示し、さらに一昨年度の豫算額三百二十一萬元に比すれば實に五倍に奔増してゐる。この幾何級數的激増ぶりはいふまでもなく物價騰貴の反映であらう。

然らば通貨の面は如何といふに、法幣の濫發は年と共に甚だし、中國民主政團同盟の財政評論家千家駒は、本年度の法幣増發高を一ヶ月六億元とみてゐる。當局は法幣發行高の發表を中止してゐるが、最後の發表である一九四〇年六月末では三十九億六千二百萬元であつた。而して香港金融界ではその年十二月の數字を六十億元と見積つてゐた。これより推算すれば、本年末における

法幣發行高はいかに内輪に見積つても百億元突破は確実である。かゝる悪性インフレの進行をチェックする法幣の對外價值維持の工作機關として、四月に第二次爲替平衡資金委員會が設立せられた。本委員會は一九三九年三月成立の英將爲替平衡資金委員會と同様の機構をもつものであつて、その資金として米國より借款の五千萬ドル、英國より借款の五百萬ポンド、重慶銀行提供の二千萬米ドル、および前回委員會の殘額資金と、合計一億米ドル乃至一億一千萬米ドルを有してゐる。委員の顔觸は重慶側三名、米英各々一名、即ち陳光甫、貝祖貽、席德懋、フオックス、ロジャースの五名で陳が委員長。英側委員ロジャースは後にホルバツチに代る。本部を重慶中央銀行内に、辦事處を香港滙豐銀行樓上に置いたが、爲替管理の實際は香港で行はれた。本委員會の活動は米英の資産凍結以後漸く世人の注目を牽くに至つたのであるが、ノミナルの嫌ひはあつたにせよ、法幣の對外價值をマージヤントレート對米五ドル十六分の五、對英三片三十二分の五の公定レートを以て安定せしめ、ブラツクマーケットの驅逐にもある程度成功せしめた効果はあつたやうである。

重慶政權は本年度も軍需公債十二億元を發行し、二月、六月、十月の三期に分つて賣出した。と言つても殆んど全部は政府銀行の背負ひ込みになつてゐるのだが、兎も角これにて抗戰以來の内債總額は五十九億五千四百萬元となる。外債公債も建設公債の名目で英貨一千萬ポンド、および米貨五千萬ドルを前年同様二回に分けて發行した。また本年度の全國節約建國儲蓄運動は豫定額を六億元とし、内外各勸業團體を動員して大軍となつてゐるが、十

一月中旬をもつて儲蓄高はすでに豫定額に達したと號してゐる。各省別の成績は海外および重慶市が最もよく、いづれも一億元を超え、次いで廣東省、雲南省の順であつた。

重慶政權下の經濟建設の状況については、八月經濟部長翁文瀾は訪大なる發表を行つたが、こゝにはその梗概を紹介する。

「當局は各工場を集結することの誤りを悔り、今後十五の工場區を全國に設けて工場を分設をはかり、各工場區の電力供給計畫については既に四ヶ所の工場地區に計二萬キロの水力發電を起す計畫が完成してゐる。また鐵道を運搬するために地下に工場を設ける計畫も進行中で、地下工場の最大のものとしては一萬三千四百三十三立方呎の紡績工場が完成してゐる。最大の機械工場の一たる中央機器廠は湖南から雲南に移され、鐵工業においては四川省に十五の小型機器廠が新設された。また四つの電氣廠が完成され作業を開始してゐるが、その日産能力はいづれも三トン乃至五トンである。輕工業方面では職工から奥地へ移轉された紡績は二十萬錠で、現在その中十二萬錠が運轉し、年七萬噸の絹糸を出してゐる。なほ一九三八年の生産高は三萬錠だつた。製粉業の増加は著しく、四川、陝西、雲南、廣西、貴州の五省の工場数は戰前の八から十七に増加し、また戰後外國から奥地に輸入した穀類は少くとも二萬トンに上つてゐる。」

因みに右翁經濟部長が重慶中央銀行四半期報に寄稿した論文によれば、一九四〇年末までに政府の補助により職區から奥地に移轉した工場は機械工場百八十一、電氣器具製造工場二十九、化學工場五十六、食品製造工場二十二、陶磁器製造工場十五、鐵鋼工場二十、紡績工場その地を合して總計四百五十、移轉機材および原料總計一萬二萬トン、勞働者は一萬五千人に達すると言つ

てゐる。

これにつき重慶では、十月行政院より「非常時期獎勵資金內移與辦實業辦法」なるものを制定公布して、上海遊資の奥地吸引策を講じ、また經濟部よりは沿岸都市の工業、商業の奥地移轉を圖るため、八ヶ條より成る辦法を作つて上海各業公會に通達せる等、相變らず奥地導入運動には躍起となつてゐた。

本年度における重慶への物資流入は、約十八億元とみられてゐる。その内譯は外國よりの輸入が十億元、上海より南方海路を通じて五億元、その他が方占領地から流れ込んで行つた密輸が三億元といふ次第。上海から奥地に相當の物資が流れてゐたことは、遺憾ながら認めねばなるまい。本年度では凡そ五億元は確實と言はれる。主として綿糸布類が多かつた。そのコースは上海から一旦香港に出され、香港からさらに香港ルートの遮断が嚴重になつたので、香港より海路ラングーン廻りが多くなつた。

然るに今や大東亞戰爭の勃發となつて、この殘された唯一無二の國際ルートも、すでに崩壞の運命にある。大東亞戰爭によつて重慶の受ける經濟的打撃は、上海、香港の喪失に次いで、實にこのビルマ・ルートの潰滅であらう。重慶にとつて、上海、香港の重要性は言ふまでもないところであるが、ビルマ・ルートの潰滅こそは、軍需、民需諸物資の流入の途を絶つのみならず、さらには重慶政權が外貨獲得のため、勸業に躍起となつてゐた輸出の途をも完封する。重慶では早くも政府管理の桐油、脈毛、茶、蠶產品をはじめ、輸出品滞貨の壁に背えてゐると聞く。山をなすこの

滯貨を重慶は如何にして捌くか、わが占領地帯への密輸によるデピンギも考へられるが、これとて總石に水であらう。ビルマ・ルートに代つて印度ルートの開鑿を企圖してゐるとも傳へられるが、所詮は白日の夢の域を出でまい。かくして四面楚歌、經濟的孤立に陥つて、重慶は何處へ行く！

四、上海經濟を中心として

本年の上海經濟界は多事多端、實に激動を極めた。世界の状況は軍事、政治、經濟に響つてないとはいへない動きを示し、それらの動きはどの一つとして、上海經濟を揺さぶり、大なり小なりその影響を與へないものはなかつた。

別けても、それらの最後に襲ひ來た大東亞戰爭は、從來の上海經濟に止めを刺し、その總決算を迫つたものであつた。而してその餘の幾多國際事件の機起は、この總決算に到る道程としての、ウオーミングアップであり、前提でしかなかつた、とも解されるであらう。實に大東亞戰爭こそは、紐育と共に世界の二大自由港と並稱された上海をして、完全に英米經濟の隅れ縁から切離し、百八十度の轉換を與へたものである。即ち自由主義經濟から統制經濟へ、重慶の孤島上海から大東亞の共榮國上海への、轉換であり、飛躍でもあつた。次ぎに本年度の主たる経過を回顧してみよう。

まづ一月には中央儲備銀行が創立せられ、同時に華興商業銀行はその發券機能を停止せられた。一方中、交、農の敵性四銀行では新法幣の流通妨害に乗出し、工部局の受納禁止を始め、各

華銀、華商の受入拒否を強要し、また英米側でも満蒙、花旗銀行等一齊に、新法幣による外貨賣止を決定して火に油を注いだ。かくて深刻なる通貨闘争の幕が切つて落され、三四月の頃には所謂金融デロとなつてクワイマツクスに達した。しかし敵側のいさる妨害にも拘らず、新法幣は着々と堅實なる地歩を占め、七月國府の對日借款の成功や、九月一日より一切の公租、公課納入を新法幣をもつてせしむる等、諸々の政治工作にも保護せられて、十二月にはその發行高三億に垂んとする驚異の好成績を擧げるに至つた。

また遊資問題、三十億とも言ひ、五十億とも言はれる租界遊資問題の解決は、本年度における重要課題の一つであつた。これを如何にして占領地區へ誘導すべきか、進んでさらにわが方の生産にまで参加せしむべきか、これの解決は一切の投機市場が潰滅せる大東亞戰爭勃發後において、殊に重要且つ緊要なるを痛感せしむるに至つた。この意味において本秋中支那振興が、中央儲備銀行に總額一千萬元の當座貸越勘定の設定に成功したのは特筆すべき價值があつた。

米英の資産凍結は上海にかなりの打撃を與へた。これにより上海の第三國物資の輸入は従前の三分の一に細つた。しかもそれら第三國輸入のすべては、あけて爲替平衡資金委員會の手中に委ねられた。即ち同委員會によつて指定されたA類とB類に屬する五十余の物資が、一ヶ月六百萬米ドル前後の爲替割當を奪ひ合ふことになつたのである。米、ガソリン、棉花、小麦、小麦粉、砂糖等の物資は無くならず、物價は騰貴した。反對に生糸、卵、豚毛等

輸出品は崩落を來たし、貿易商は閉店休業の態たらくとなつた。かゝる際において、工部局の活動は見逃し得ないものがあつた。事務總長フィリップが米の割當獲得のため、香港まで出張して委員會を口説いたり、投機を防止し、物價の騰貴を抑へて、最高公定價格を設定する等その活躍は認められてゐる。

なほ工部局調査による本年度の公共市場小賣物價指數を示せば次の如くである。即ち昭和十一年の各月平均を一〇〇として、本年一月の平均指數は五九五であつたが、十二月には一、三八五に上昇してゐる。さらに本年一ヶ月の平均指數は九二八で、前年度四五二の二倍強に達した。

また邦人側の小賣物價指數は同じく昭和十一年を基準として、本年一月は三〇〇であつたが、十二月には三二七になつてゐる。さらに前年度の平均指數二七一に對しては、本年度は三二七で二割弱の上昇を示した。(詳細は當所附月報参照)

一方わが方の經濟活動をみるに、經濟統制は愈々前進強化の一途を辿つた。ことに本年度經濟統制の骨子ともいふべきものは、現地自給自足を目標とする、輸入配給部門の調整と、企業統制による産業の再編成であつたらう。まづ輸入配給部門では、現地經濟統制のトップを切つて、前年中すでに一應の統制組織と形態を與へられてゐたのであるが、本年に入つては益々その機構の整備が押し進められ、當局の指導監督下に各組織の運営も漸く軌道に乗つて來た。

即ち輸入配給のみならず、生産部門をも包括運営してゐる重要物資關係組合では、本年當初において一層強化され、五月現

在では五十余の組合がこの傘下に屬することになつた。

軍配組合では本組合の最重要任務たる、軍票の價值維持は殆んどその基礎の確立をみたので、本年度は主として現地物資の配給調整の方面に重點を置いた。

因みに本年度軍票の對法幣相場の見取は、十月末の二十二圓四角を高値として、安値は一月初の五十九圓二分の一覽。なほ十二月十六日より二十五圓四角に公定せられた。(詳細は月報参照)

輸配聯合會では前年度は創立早々のことゝて、輸入部門の活動に止まつてゐたが、今年に入つては配給部門に力を注ぎ、輸入機構と配給機構の二段制に編成替へされつゝある。そのトップとして食料品組合と纖維品關係組合にこれが實現をみた。ことに食料品組合はその配給機構として、上海食料品商業組合を結成せしむる等、機宜を得たる統制措置によつて、物價調整に多大の貢獻を致した。なほ十二月末公定價格の先驅として、當局より日本内地輸入食料品公定價格が發表せられた。

對日輸出の部門では、輸入部門にみる如き、全般的な統制組合は未だ結成されるに至らないが、懸案だつた輸出代行商社制は技術的に、また能率的に難點があるとの理由で取止めとなり、新たに雜穀、肥料、卵等の主要物資につき、日本における輸入配給統制會社の中支店を機關と輸出機構として、これに當らせることになつた。さらに現地における收買機構としては、従前通り現地商社を當て、輸出機關との密接なる連絡の下に、對日輸出に協力せしむることになつた。なほ日滿支の物資交流に關し、十月東京において日滿支貿易連絡會議が開催せられたが、その具體的方策と

しては今後に俟つところが多い。

次ぎに企業統制による産業再編成の概況を一瞥すれば、その最も顯著な例としては、九月現地煙草業者を整理統合する中華煙草會社の設立決定と、十一月中支統運業者を一括して斷行された中支統運統制組合の設立、および十二月内定をみた上海オール鐵工業者の解體統合等が擧げられるであらう。

産業再編成の方針につき、當局よりの示達は次ぎの如きものであつた。

一、物動計畫の高度化により、資金資材の利用は重點企業に集中され、中支の對日資金資材手當は愈々窮乏化し、加ふるに船價難からその輸入は困難となりつゝある。
二、よつて現地における資材配給は輸入品、現地品を問はず、重點企業に對し優先的に行はれる。
三、一方現地企業は目下設立状態にあつて、業者の無益な競争摩擦は、品質および生産量を著しく低下せしめてゐる。これは現地生産力の水準維持は勿論、戰爭幅員縮減を企圖する國家方針に反する。

四、以上の結果、資材配給、消費の適正化を期すると共に、生産力の擴充乃至現地企業の恒久的發展策として、企業の整理、統合による再編成を可及的速かに實現することが必要である。これは同時に自給自足を建前としなければならない。

以上の方針による實施策として示されたものは

一、現企業を(イ)鑛山業(ロ)公共事業(ハ)船舶業(ニ)紡績その他工業の四部門に大別し、生産統制組合員は從來の如き風々の生

産を修正し、以上の範疇に當てはめるやう事業の再編成を行ふ。
二、統合の目標は製作品目の單一化、技術の専門化を計ることを原則とし、同業は有力企業に統合乃至合併する。
三、統合に際し日本より新たな物的資本の参加は原則として認めない。

右は鐵工關係を基準として示されたものであるが、他の生産事業も大體これに準じて行はれることになつた。

なほまた民間企業の統合再編成のみならず、官廳側においても十一月在行政機構の統合整備が行はれた。從來支那には大使館領事館のほか、陸海軍關係は別とするも、内務、大蔵、商工、司法、農林、鐵道、通信、厚生各省および朝鮮、台灣兩總督府から駐在員その他の職員が派遣されてゐた。然るにかゝる各出先機關は夫々の間に少からず事務の重複が認められ、命令系統の分離による國策遂行上の不便も尠からぬものがあつたので、その合理化を圖るため、軍關係を除きすべて外務省および興亞院へ統合せられることとなつたのである。すでに興亞院關係のものは十一月一日を期して實施せらるゝに至つた。

大東亞戰爭勃發によつて軍の租界進駐後、種々の適切なる非常手段が採られたことはいふまでもないが、その主なるものは、物資散逸の防止と敵産管理のための應急措置、次いで物資統制およびそれに伴ふ投機市場の崩壊等があげられる。特に自由都市上海の惡の華、投機市場の潰滅こそは注目されるところであつて、これにより不當に價格を吊上げ、若くは物資の偏在に商品市場を

混亂せしむる等、惡の諸現象は一舉に解消し、かくて一般大衆は計畫的配給制度下に、生活安定の一つのメドを得ることとなつた。

支那對外貿易

(全支十一月迄)
(上海十一月迄)

一、全支對外貿易

衆知の如く支那海關貿易統計表に於ては、輸入は海關金單位で表示し輸出は元で表示されてゐる。右の如く異なる單位の價格で貿易額が表示されてゐる爲に輸入の比較、貿易尻の計算其他の點で非常に不便である。もつとも海關統計表には金單位と元との換算率に掲げられてゐるけれども、これは法幣對英相場を十四片半に釘付しての換算率であつて、對英實際相場が三片強(十一月)に下落してしまつてはこの換算率は全く用をなさない。本稿に於ては輸入は海關金單位で輸出は元で表示し、特に輸入・輸出を同列に比較する必要がある時には對英實際相場を通じての法幣市中相場に換算して論ずることとする。

尙大東亞戰爭の勃發に伴つて海關貿易統計は公表を停止した。即ち全支貿易統計月報は十月、上海貿易統計月報は十一月限り發表されなくなつた。本稿に於て一九四一年とあるは全支貿易に於ては十月上海貿易に於ては十一月迄の額であることをこゝに斷つて置く。

さて支那事發勃發以後に於ける支那對外貿易の推移を通じて見よう。

支那對外貿易額比額表

金單位表示	指數	入		出	
		法幣市中	指數	法幣市中	指數
一九三六年	100	24,111	100	24,111	100
一九三七年	100	24,111	100	24,111	100
一九三八年	100	24,111	100	24,111	100
一九三九年	100	24,111	100	24,111	100
一九四〇年	100	24,111	100	24,111	100
一九四一年	100	24,111	100	24,111	100

右の統計に依つて明らかなる如く金額の上には於ては支那對外貿易は激増の傾向にあり、しかも輸入の側に於て著しく一九四一年に於ては輸入は輸出額の四倍近くに達するに至つた。輸入に比し輸出の増加の緩慢さは法幣購買力の低下を考慮に入れたならばそれは明らかに輸出數量の激減を示すものである。

而してこれを地域別にみると輸入の著しい増大は北支に於て、あつて中支は金單位表示ではむしろ減退を示してゐる。輸出は輸入と全く逆で中支の戦前に對する約五倍近くの増加に對し北支は僅か一・八倍弱に過ぎない。

このやうな北支輸入の著しい増大は何に原因するものであらうか、一ツの重大な要素として我々は北支經濟の中支に對する從

支那對外貿易

屬性をあげることが出来る。事變前北支貿易に於て移出入貿易は中南支等に於けるその地位よりも極めて重大な意義を有してゐた。北支の對内貿易は對外貿易と相匹敵する、否寧ろ對内貿易がより大なる地位を占めてゐたのである。そしてこれらの移入は米、小麦、高粱、胡麻、豆、小麥粉、茶、紙、砂糖、綿糸、棉花、綿織物、金屬類、鹽產物、石油、煙草、染料、顏料、化學藥品等が多く、一方移出は棉花、石炭、落花生、同上油、雜穀、鹽等が主である。即ち移入は工業生産品・食料品等であり、移出は工業原料品・農産品等であつて、北支は中南支に對し原料供給地であり同時に商品消費市場

であつた。しかるに中南支に對するこのような聯繫は種々の制限によつて一應たゞれた。勿論バーター制による交流はあるにもせよ——と考へられる。事變前程の比重を持たなくなつたことは明らかで、それは今や一個の對外貿易同様な地位に置かれ、しかも貿易數量は著しく減少し、かつての入超に對し逆に北支は中南支に對し受取勘定にさへなつてゐる。會て移入によつて覆はれてゐた貿易はこれを輸入に轉嫁せられた。そしてそれは香港・米國・關東州よりの龐大な輸入増加となつて現れたのである。

支那輸出入貿易地域別比較表

地 域	△ 輸 入 (單位百萬金單位)				
	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年
天 津	三,七五〇	八,八〇〇	一〇,三〇〇	一〇,三〇〇	一〇,三〇〇
青 島	三,一〇〇	三,一〇〇	三,一〇〇	三,一〇〇	三,一〇〇
其他北支諸港	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
上 海	三,一〇〇	三,一〇〇	三,一〇〇	三,一〇〇	三,一〇〇
其他中支諸港	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
廣 東	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
雲 南	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
其他南支諸港	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
計	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
△ 輸 出 (單位百萬金單位)					
天 津	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
青 島	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
其他北支諸港	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
上 海	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
其他中支諸港	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
廣 東	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
雲 南	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
其他南支諸港	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
計	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

支那對外貿易

次に一九四一年中の貿易を各港別に見れば輸入は上海の二五七百萬金單位(三三%)を筆頭に天津二二二百萬金單位(二九%)、雷州一〇〇百萬金單位(一五%)、青島七〇百萬金單位(九%)等が主なるものである。貿易額は別として其の相対的な比率の上に於ては一九四一年中に於ける北支諸港は前年度に比し輸入は減少し、南支殊に雷州は著しく増加した。

一方輸出は上海の一、八三三百萬金單位(七一%)を第一に蒙自一八八百萬金單位(七%)、天津一六二百萬金單位(六%)、青島九八百萬金單位(四%)、雷州九〇百萬金單位(四%)と云つた順位である。

會つての輸出港としての北支諸港の地位は著しく減少して、逆に南支特に蒙自・雷州の兩港は増加を來した。

次に全支貿易を相手國別に見ると一九四一年は、輸入は日本の一六、一三六萬金單位(二〇%)を筆頭に米國の一五、七三五萬金單位(二〇%)、香港二二、五一一萬金單位(一六%)、英印五、九

九一萬金單位(七%)、佛印五、三九六萬金單位(七%)、蘭印四七四七萬金單位(六%)等がその主なるものである。一九四〇年に比較して最も著しい増加を示したものは香港よりの輸入である。前年の三、六三五萬金單位に比し約三倍半近くの激増であつて、そして輸入品の最も多くを占めるものは綿布で香港よりの全輸入額の六〇%七、五一五萬金單位の巨額に達し、實に全支輸入綿布の九〇%を占むるに至つた。

このやうな龐大な額に對する香港よりの綿布輸入は決して上海向けではない。北支に關しては過激な統計がないが、我々の推論に従へばそれは南支殊に本年度中に急激な輸入増加を來した雷州向けであつたと思はれる。「金融商業報」はこのことに關して次のごとく述べてゐる。

「香港からの輸入額の消長と雷州に於ける輸入額の消長は符節を合してゐる點が注目される。即ち左の通り

支那對外貿易

一九四一年		香港よりの全支輸入額		雷州に於ける輸入額	
		千金單位		千金單位	
八	月	九,二二三		九,五八〇	
九	月	四,五五五		二,八二七	
十	月	一五,〇八三		二九,三六六	
十一月	月	二五,一一二		一九,七九六	
十二月	月	二五,一一二		一九,七九六	
計		一〇九,一〇三		一〇九,一〇三	

次に全支の輸出の側でも十月の特徴は香港向けの増大である。今や全支の香港への輸出増大を考へる時、その一部が米國向けであることは疑なしとしても、一部は雷州向けであつた事も想像されるのである。

以上の二表により（表略）我々は全支の對香港貿易は紡織纖維類と、化學藥品、紙、雜貨が輸出の兩面に於て増加してゐる事を知らなければならないが、これを前述の香港經由の貿易ルートと併せ考察するならば、上海及び廣東より輸出増加せるこれらの品目の一部は必ずや雷州向けであらうと推察せざるを得ないのである。全支に於ける香港からの輸入額が、全支と言はんより寧ろ雷州一港と言ひたい程、雷州の外國からの輸入額と過去三ヶ月酷似してゐる事は看過し得ない問題である。

前年度に比し著しき増減を示せる商品は左の如くである。

全支對香港輸入貿易増減比較表（單位千海關金單位）		前年度に比し著しき増減を示せる商品	
商品類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
生絲	三,五五五	三,五五五	+
漂白及染色綿布	三,〇〇九	三,〇〇九	+
棉織品	三,〇〇九	三,〇〇九	+
其他綿布	一,七五五	一,七五五	+

次に對日輸入について見よう。一九四一年中に於ける全支對日輸入額は一六、一三六萬金單位で前年度に比し二、七五四萬金單位一四・五％の減少であつた。これら對日輸入の殆んど大部分（二九四〇年にあつては約八〇％）が北支に於ける輸入である。このやうな對日輸入の約三分の一は生産資材の輸入であり、次の三分の一は飲食料品、約十分の一は衣料品といつたやうな構成であつて、生産資材・飲食料品の九〇％は北支向けのものである。これを商品別に見ると對日輸入の第一位を占めるものは穀物及穀粉の、一九七九萬金單位でその殆んど全て小麦粉及米である。次いで紙・書籍・パルプ類の、一三八〇萬金單位、生糸及人絹の、一六三萬金單位、砂糖の、一〇九一萬金單位、機械及工具九五二萬金單位等が主たる輸入品である。生糸及人絹は同品輸入額の九四％に當り、化學藥品及製藥劑は三四％強に當る。

一九四〇年に比し減少を示した商品は機械及工具類の三・三％減

支那對外貿易

全支對日輸入増減比較表（單位千海關金單位）		前年度に比し著しき増減を示せる商品	
商品類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
機械及工具	九,七三三	九,七三三	+
木	八,四四八	八,四四八	+
魚介及海産物	四,九八〇	四,九八〇	+
其他金屬製品	三,六八〇	三,六八〇	+
雜貨	一〇,三六二	一〇,三六二	+
木竹・繭・繭・繭・繭製品	三,一五五	三,一五五	+
畜産・罐詰其他食料品	六,九六九	六,九六九	+
其他	二,二五五	二,二五五	+
計	五二,六六六	五二,六六六	+

一九四一年度の對日輸入額は一五、七三五萬金單位で日本に次いで第二位にある。戦前の八、二〇〇萬金單位に比すれば約二倍近くの増加であるが、前年の一九四〇年に比較し三五三萬金單位二・二％の減少である。

米國よりの輸入の大宗をなすものは穀物及穀粉で對米總輸入額の二六％を占めてゐる。それは同國よりの小麦粉輸入で三、六三六萬金單位の多額にのぼる。次いで第二位を占めるものは前年度首位にあつた棉花綿糸及縫糸（その殆んど全て棉花）の二、一〇六八萬金單位である。右の二品目を除いた米國よりの輸入の六

全支對米輸入増減比較表（單位萬海關金單位）		前年度に比し著しき増減を示せる商品	
商品類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
金屬及礦石	七,三三七	七,三三七	+
機械及工具	六,三三〇	六,三三〇	+
油・脂肪・蠟燭・石鹼・ガム・樹脂	一,四四八	一,四四八	+
其他金屬製品	四,一〇〇	四,一〇〇	+

然してこれはこのやうな生産資材輸入額の三割に當り、一九四一年中に於けるこの地域別は判然しないが、一九四〇年に於ては北支が三・一％、上海四四％、南支二四％を占めてゐる。前年に比較して増減を示せば金屬及鑛石類（主としてアルミニウム及鐵鋼の減少）の二、一九五萬金單位（七五％減）を占めとして棉花綿糸及縫糸類（殆んど棉花）の一、四一〇萬金單位（四一％）減、煙草六九九萬金單位（五一％）減、紙・書籍・地圖及パルプ類の六七四萬金單位（九一％）減、木材二四九萬金單位（五五％）減等がその主たるものである。

一方増加を示せる商品には小麦粉の激増による穀物及穀粉類の二、一三七萬金單位（一〇七％）増加を筆頭に、車輛及船艇六六〇萬金單位（八四％）、雜貨三九五萬金單位（六九％）、機械及工具二七九萬金單位（七九％）等の増加がある。

[illegible]

今の計の内で最も多額を占める國は英領印度で一九四一年中
 に於ては、九、九一萬金單位を輸入し總輸入額の七・四％を占め第
 四位にある。續いて佛領印度支那は五、一六萬金單位（六・七
 ％）で第五位に、蘭領東印度は四、七四七萬金單位（五・九六
 ％）で第六位にある。第八位及び第九位をビルマ及泰國が占めてゐる。
 ビルマよりの輸入は前年に比較すれば約十倍近くの激増であつて
 佛印進駐後に入つて残された唯一の援蔭ルートとしての若干の
 貢獻の跡がうかがはれる。輸入額はビルマ三、七五六萬金單位
 （四・七％）、泰國二、〇六九萬金單位（一・六％）である。海峽植
 民地及比律賓は輸入額も非常に少く僅か前者は六一八萬金單位、
 後者は三三八萬金單位に過ぎない。

これらの地方から輸入するものも、重要な商品は米であつて、事變以來これら南方諸國の支那輸入貿易中における地位の上昇は

實にこの米の輸入激増にかゝるものである。米穀總輸入額一〇、二〇七萬金單位中佛印は四、三八四萬金單位、ビルマ三、〇五七萬金單位、泰國一、六五九萬金單位を占めてゐる。ビルマよりの増加は特に激しく前年の十二倍に達する額で、前にふれたビルマの總輸入額中に於ける増加も實にこの米に要因を發してゐる。米に入では第二位を占める商品に棉花がある。即ち英印からの棉花輸入は四、二五五萬金單位に達し、棉花總輸入額中の約五割に當る。その大部分が蘭印からであるが油脂・蠟燭・石炭・ガム及樹脂類(蘭印からの輸入は大部分がガソリン・石油等の油類)等も重要な輸入品である。次に一九四一年中に於けるこれら諸國よりの重要商品輸入額を掲げる。(單位萬金單位)

類別	英印	佛印	蘭印	比印	泰國	海峽殖民地	比律賓
棉花・綿糸・織糸	三三	三三	—	—	—	—	—
麻類及麻製品	二六	—	—	—	—	—	—
蠟燭及燭粉	—	—	—	—	—	—	—
砂糖	—	—	—	—	—	—	—
洗滌劑及香料	—	—	—	—	—	—	—
化學藥品及製藥	—	—	—	—	—	—	—
油脂・蠟・石鹼	—	—	—	—	—	—	—
ゴム・樹脂・石鹼	—	—	—	—	—	—	—
木材	—	—	—	—	—	—	—
石灰・燃料・ピ	—	—	—	—	—	—	—
雑貨	—	—	—	—	—	—	—

一九四一年中における全支輸出貿易を相手國別に見れば前年の米國に代つて香港が六一、九四四萬元、總輸出額中の二四％を占

めて第一位にある。次いで第二位は米國の五六、六一八萬元（一一・九％）、第三位は日本の二九、八八五萬元（一一・六％）であつた。上記三國への輸出によつて輸出總額中の約六割を占められてゐる。其他にも關東州（二〇、三七六萬元、七・九％）、蘭印（一四、五八〇萬元、五・六％）、英印（二〇、四〇八萬元、四・〇％）等は支那輸出貿易中において主要な地位を占めてゐる。

順序として香港向け輸出について若干の分析を行へば、一九四一年度中における對香港輸出額六一、九四四萬元の多額に達したがこれを前年度に比較すれば二五、一九四萬元六四％方の増加である。

對香港輸出額表（單位萬元）

年次	輸出額
一九三六年	10,628
一九三七年	12,422
一九三八年	12,110
一九四〇年	19,400
一九四一年	19,410

然して激增の原因をなすものは、タンダステン鋼及錫の街違ひの増加による礦石・金屬及其製品類の約五倍にも達する激增及それら・綿布・桐油等の各二倍近くの増加等である。勿論香港がそれらの最終輸出地ではない。タンダステン・錫は米・英援蒋借款の重要な引當品で桐油と共にその大部分が米國及英國向けのものである。綿糸及綿布の増加した支那よりの輸出の大部分を輸入した香港は、前にも一寸あたやうにその一部は米國向けであつたとしても、他の或る大きな部分は再び支那に向つて――南支特に雷州――輸出され、輸入の側における綿糸・綿布の香港よりの輸入増加となつて現されてゐると考へられる。

一九四一年中における對香港輸出商品中第一位は礦石・金屬及其製品類で一七、六二八萬圓の多額に達し鐵香港輸出額の二八%を占むるに至つた。前年第一位にあつた茶は六、〇八八萬圓から一、〇二三萬圓へと激減を示した。

第二位は織物が前年度に比し約二倍増加し八、五二九萬圓をもちつて占めてゐる。油脂及蠟も約二倍近くに倍加して第三位になり、織糸・縫糸、編織品類も増加して第四位にある。次にこれら主要商品の前年度に對する増減を示す。

對香港輸出商品増減表 (單位萬圓)

類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
礦石、鹽及其製品	三、四六元	三、四〇元	三、〇六元
礦物	八、二五元	三、七〇元	四、五五元
食米、雜米、雜穀品、メリス	六、七三元	三、四三二	三、三〇元
油脂及蠟	六、八元	二、四四四	四、三九元
漢藥劑及香料	三、五元	二、七〇	八、八〇
化學藥品、化學合成品	一、八五	二、九六	一、一一
雜貨	三、〇五五	二、二〇	八、三五五
茶	一、〇元	六、〇八	五、〇八元
動物及其產品	一、三三	二、三三	一、〇〇
其他	二、一七	八、九二	六、七五
計	六、六四四	三、五八〇	三、〇六四

一九四一年度中に於ける對米輸出額は五六、六一八萬円で前年度の五六、五六七萬元に比し極く僅かながら増加してゐる。これを月別に見れば（單位萬元）

一月 五、〇八五 六月 七、一〇〇

支那對外貿易

品名	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
米	四、九五四	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
豆	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
麵粉	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
糖	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
油	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
茶	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
絲	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
棉	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
羊毛	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
皮革	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
其他	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五

つて既に明らかだ。次いで動物及其産品類（それが豚毛・豚腸・禽毛・卵等主として構成されてゐることは既に述べた）が第二位にある。皮革類・織糸・編織品類も大切な對米輸出である。これら重要商品の輸出額を左に掲げる。

對米輸出増減比較表（單位萬元）

品名	一九四一年	一九四〇年	増減額
動物及其産品	三、〇七〇	二、九七〇	一、〇〇〇
皮革類	三、〇七〇	二、九七〇	一、〇〇〇
織糸・編織品	三、〇七〇	二、九七〇	一、〇〇〇
其他	三、〇七〇	二、九七〇	一、〇〇〇

一九四一年度の對日輸出額は二九、八八五萬元であつて前年度の二七、八八〇萬元に比すれば約六七％（上海・北支とも同じ）の増加である。上海はこの對日輸出総額の五二％を占めてゐる。

對日輸出商品の第一位を占めるものは燃料——石炭——であつて一九四一年度においては日本向け輸出額の二二％六、三四三萬元を占めた。その九七％は北支からの輸出である。主として棉

支那對外貿易

品名	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
米	四、九五四	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
豆	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
麵粉	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
糖	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
油	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
茶	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
絲	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
棉	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
羊毛	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
皮革	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五
其他	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五	五、四一五

花によつて構成されてゐる紡織品類は前年の約二倍に増加し、四、七九七萬元で第二位を占めてゐるがその八九％は上海からの輸出である。第三位の穀類及其製品類も總額三、八八五萬元の中八八％を上海から輸出してゐる。左に對日重要輸出額における上海の占める割合を示す。（單位萬元）

對日輸出増減比較表（單位萬元）

品名	一九四一年	一九四〇年	増減額
米	三、八八五	三、八八五	〇
豆	三、八八五	三、八八五	〇
麵粉	三、八八五	三、八八五	〇
糖	三、八八五	三、八八五	〇
油	三、八八五	三、八八五	〇
茶	三、八八五	三、八八五	〇
絲	三、八八五	三、八八五	〇
棉	三、八八五	三、八八五	〇
羊毛	三、八八五	三、八八五	〇
皮革	三、八八五	三、八八五	〇
其他	三、八八五	三、八八五	〇

全支輸入商品類別比較表（單位萬元單位）

品名	一九四一年	一九四〇年	増減額
生絲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
漂白及染色棉布	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
原染棉布	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
其他棉布	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
棉花・棉糸・織糸	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
棉製雜貨	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
亞麻・苧麻・大麻・黃麻及同製品	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
羊毛及毛製品	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
生糸及其製品（人絹含む）	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
金屬及礦石	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
機械及工具	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
車輛及船舶	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
其他金屬製品	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
魚介及其他海産物	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
畜産・農産及其他食料品	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
雜貨及雜貨類	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
果實種子及蔬菜	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇

支那對外貿易

關東洲	英印	佛印	日本	其他諸國	計
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇
三三〇	二二八	一〇〇	一〇〇	三三三	一〇〇〇

香港への輸出の大部分はタンダステン鋼及び錫錠。塊であつて、前者は全支那總額の全額、即ち八、三七四萬元全部が香港向けであり、前年度に比し約十二倍にも達する激増である。後者に於ても一九四一年度は六、七二二萬元で前年度の約十倍に及ぶ増加であつた。日本への輸出の大部分は鐵鋼及鋼鐵製品であつて、次表に示せる如くいづれも前年度に比し相當な輸出増加である。

第三位の動物及其製品類は前年度に比し二割方の減を示して總額二五、六三三萬元で、その五四％は米國向け輸出である。

全支輸出商品別比較表 (單位萬元)

類別	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
鐵鋼及鋼鐵製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
動物及其製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
生皮・毛皮及毛皮	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
魚介及其他海産物	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
豆類	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
穀物及其製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

計 更に貿易構成を商品の生産過程に従つて集約し支那貿易の性格を特徴づけると、

支那輸出入商品分類表 (百分比比較)

類別	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
飲食料品	一五・五	一五・五	一五・五
原料及半製品	一五・五	一五・五	一五・五
全製品	一五・五	一五・五	一五・五
雜貨	一五・五	一五・五	一五・五
計	一五・五	一五・五	一五・五

右の表によつて明らかなる如く支那貿易の特徴が全製品品の輸入に對し原料及半製品品の輸出であると言ふことに於ては變りないが、事變後の一特徴として飲食料品の著しい増加をこゝでも擧げることが出来る。そしてその要因をなすものが米穀輸入の激増によるものであることは既に述べた。そしてこれと相對的に輸出の飲食料品の項は％において減少を示してゐる。

又其他の項目に於ても全製品品の輸入減に對して輸出は約二倍以

類別	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
植物性染料	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
鮮果及加工果實	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
清酒及香料	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
油脂及蠟	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
種子	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
砂糖	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
茶	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
煙草	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
其他植物製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
竹	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
其他	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
木材・木及其製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
紙	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
紡織品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
織物・縫糸・織品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
品及メリヤス製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
其他紡織品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
礦石・金屬及其製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
硝子及其製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
石・土砂及其製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
化學製品及化學合成品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
印刷物	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
雜貨	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

上に増加した。この輸入の減少は決して支那の工業の發展を示すものではなく、寧ろ反對に衰退を示すものである。即ちそれは全製品品における生産建設材と目される機器及工具・車輛船艇・金屬製品品の輸入減退に對し綿製品・特に綿布の輸入激増と云ふ形で現されてゐる。

そして機器及工具の項は日本への依存度を一層強め、車輛及船艇の項に於ては米國が約その七割を占めてゐる。歐洲の諸工業國よりの輸入はもはや小さなものになつてしまつた。綿布輸入は日本の地位と全く變つてその七割五分は香港よりのものである。

全製品品輸出の激増は次表に於て見る如く綿針織品及綿織物の増加によるもので、中でも泰・佛印・蘭印への輸出が激増してゐる。

類別	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
紙	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
綿織品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
其他紡織品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
化學製品	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

支那對外貿易

支那對外貿易

木竹、農産品	三六	四一	一六	一六	一六
其他製造品	六五	八五	一九	三六	一六
計	九六	一二六	三六	五二	三二

二、上海對外貿易

一應支那から隔離せられたが如きその特異な自由性と、豊饒な中支那と、近代資本主義産業の支那における殆んど大部分を擁した上海は、貿易の面においても全支輸出輸入額のそれ／＼約五割以上を占めて、支那におけるそのユニークな地位を示してゐたが、支那事變の勃發によつて上海のよつてゐた背後地は狭小化せられ、分散化せられて、著しい變質を來した。我々は次に海關統計によつて若干の分析を試みよう。

尙大東亞戰爭の勃發によつて海關發表の「上海貿易統計」は十一月限り公表を停止した。従つて本稿における一九四一年貿易額とあるは十一月までの累計である。

戦前において上海輸出輸入額の全支のそれに對する比率は輸出入いづれの側においても約五割程度であつた。即ち一九三六年は輸出は五一％、輸入は五九％を占めてゐたが、輸出は其後中支農村の治安回復に伴つて、一九三八年を境として漸次その地位を回復し一九四一年には總額の七一％と云ふ巨大な比率を占むるに至つた。

一方輸出は漸減して一九四一年には三二％を占むるに過ぎない上海貿易の全支貿易額中に於いて占むる比率

金單位表示	法幣市中	指數	入	出
一九三六年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九三七年	一二五	一二五	一二五	一二五
一九三八年	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇
一九三九年	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
一九四〇年	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
一九四一年	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇

一九四一年上海輸入商品中第一位を占める商品は全支の場合と同じやうに穀物及穀粉類で前年度に比し約二倍半近くの増加を示

し、總輸入額中の二五％六、九〇三萬金單位を占むるに至つた。第二位は前年度第一位にあつた棉花綿糸及縫糸類の五、七九四萬金單位であつた。穀物及穀粉類を構成するものは主として米及小麦粉であつて、米は前年度に比し約二・六倍（數量の上では一・六倍）もの増加を示して總額五、二九九萬金單位の巨額に達した。その主要な仕出國はビルマ・佛印・泰・蘭印等の東亞米產國からであるが、特にビルマからの輸入は著しい激増振りで前年度の二十倍にも達した。

上海米穀輸入主要國

金單位（萬G.U.）	數量（萬担）	金單位（萬G.U.）	數量（萬担）
ビルマ	二、二五八	佛印	一、三九一
佛印	二、〇三一	泰	二、六九二
泰	七四九	蘭印	九八八
蘭印	二〇七	小支	一〇六

上海小麦粉輸入主要國

金單位（萬G.U.）	數量（萬担）	金單位（萬G.U.）	數量（萬担）
米	三九六	四一三	五六
カナダ	二八一	三〇七	二九
歐洲	一一一	一六三	七五

戦前における中支六省の米穀生産高は約一九、八五八萬市石で全支生産高の大半を占め、中支を通観する時は約五十萬

市石程度の過剰を生じてゐたのである。然しながら中支那は北支・南支に對する食米移出といふ重責を負ふ地位にあつて、年々約二百四十萬市石程度の外米を輸入して、北・南支に對する約三萬市石に達する食米移出を行つてゐたのであるが、日本側の大都市及主要縣城等を結ぶ點と線との占據地帯は必然的に支配下に置ける背後農村を狭小化し、同時に軍其他の需要米も相當數量にのぼつて戦後年を加へるに従つて急激に民食用としての出廻り量は減少を來して前述の如き巨額の米穀輸入を見たのである。

米に次いで小麦粉も民食として重要なものである。戦前における中支六省の小麦生産高は約一三、九六九萬市擔を生産し、殆んど地場飯用として消費され、製粉用として市場へ出廻る量は二千七百萬市擔程度に過ぎなかつたけれども、それ／＼なほ一、四〇〇萬袋ほどの小麦粉を移出することが可能であつたのであるが、生産地の狭小化と治安の不確立は一層出廻りを減少せしめ、又地場消費量の増加等も影響して三分の一程度に出廻り量が減少し、外國麥粉に依存する程度は増加の一途を辿つたのである。

米穀及小麦粉の上海移入量（單位萬担）

米	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
米	三二五	三九四	一四〇	一	一	一
小麦粉	一六	一六	一六	一六	一六	一六

第二位を占める棉花綿糸及縫糸類の五、七九四萬金單位は殆んど總てと言つていく／＼棉花輸入によるものである。即ち一九四一年中における棉花輸入は一五、四二五萬担、五、七七九萬金

單位の多額にのぼつたけれども、これを前年度に比較すれば二六%方の減少であつた。それは英領印度・エチオピア・米國等よりの輸入の減少によるものである。

上海棉花輸入主要國

	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
ブラジル	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
英領印度	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
米國	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
エチオピア	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
ベルマ	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
その他諸國	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
計	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)

近年石炭も亦重要な上海輸入商品となつた。即ち戦前の一九三六年には總額一七五萬金單位で僅か上海總輸入額の〇・五二%を占むるに過ぎなかつたものが、一九四一年には一、〇二四萬金單位、總額に對して三・七四%を占むるに至つた。

右の米・小麦粉・棉花・石炭の四品目で一九四一年における總輸入額の四七・一四%を占め、しかもこれらが一九三六年においては僅かに七・一%に過ぎなかつたものであつて、殆んど背後農村に依據してゐたものである。

右の四品目の外に戦後著しく増加を來した商品に砂糖がある。即ち一九三六年には僅か一七五萬金單位〇・七一%に過ぎなかつ

たものが一九四〇年には六四四萬金單位に増加し、一九四一年には一、五五九萬金單位九・七%を占むるに至つた。

一方減少の傾向を辿つてゐる商品は金屬及礦石・機械及工具・車輛及船舶・其他金屬製品・化學藥品及製藥劑・染料・燃料・ペイント・ワニス等の建設生産財をはじめ羊毛及毛製品及綿布等がある左にこれら重要商品の上海總輸入額中において占むる比率及び増減額を左に掲げる。

上海重要輸入商品の總額中に占むる比率(%)

	一九三九年	一九四〇年	一九四一年	一九四二年
米	0.52	0.52	0.52	0.52
小麦粉	0.52	0.52	0.52	0.52
棉花	0.52	0.52	0.52	0.52
石炭	0.52	0.52	0.52	0.52
砂糖	0.52	0.52	0.52	0.52
羊毛及毛製品	0.52	0.52	0.52	0.52
金屬及礦石	0.52	0.52	0.52	0.52
機械及工具	0.52	0.52	0.52	0.52
車輛及船舶	0.52	0.52	0.52	0.52
其他金屬製品	0.52	0.52	0.52	0.52
化學藥品及製藥劑	0.52	0.52	0.52	0.52
染料・燃料・ペイント・ワニス	0.52	0.52	0.52	0.52
其他諸國	0.52	0.52	0.52	0.52
計	100.00	100.00	100.00	100.00

其 他 一九三九年 一九四〇年 一九四一年 一九四二年

計 上海重要輸入商品の總額中に占むる比率(%)

	一九三九年	一九四〇年	一九四一年	一九四二年
其他	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
計	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)

一九四一年中における上海輸出商品の第一位を占むるものは、生糸を主たる構成品とする紡織纖維類で、總額二九、六六九萬元に達し總額の一五%を占めてゐる。そのうち生糸輸出は一七、六

二〇萬元で紡織纖維類中の五九%余を占め、その大部分は左に示す如く米・英及英印向けの輸出である。

一九四一年上海生糸輸出

	一九四一年	一九四〇年	一九三九年
米國	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
英領印度	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
日本	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
其他	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
計	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)

棉花も同類中における重要な商品で、一九四一年中では六、〇二四萬元の輸出があつた。その殆んど全てが日本及び關東州向けの輸出である。

對關東州棉花輸出

	一九四一年	一九四〇年	一九三九年
日本	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
關東州	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
其他諸國	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)
計	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)	1,000,000 (千担)

第二位を占むる商品は織糸・縫糸・絹織品及メリヤス製品を一括したグループの二六、八八四萬元である。勿論この類の主要商品は綿糸で、一三、六七二萬元に達し、主として關印・香港・佛印向けに輸出されてゐる。殊に香港向け輸出増加の大部分が支那、特

支那對外貿易

に南支向けに再輸出されたであらう事については先に全支貿易の項において説明した。

上海 綿糸輸出

	一九四一年	一九四〇年	一九三九年
數量 (萬担)	1,141	1,141	1,141
金額 (萬圓)	1,141	1,141	1,141
平均 單位 價格 (圓)	1,141	1,141	1,141
其 他	1,141	1,141	1,141
計	1,141	1,141	1,141

次いで第三位は織物類の二四、九三〇萬圓で、綿布及綿製品一九、三三二萬圓及絹織物四、六三九萬圓がその主なるものであり主として比律賓・香港・佛印・蘭印・泰等に向けて輸出されてゐる。

右の三類に第七位にある其他紡織産品を加へた合計は、戦前においては二七・五%に過ぎなかつたものであるが、一九四一年中においては上海總輸出額の四八・五%約五割を占める額に達した。皆て上海輸出貿易の背後を形成してゐた。中支農村との聯關の稀薄化は、戦争勃發後における輸出品の構成を著しく變質せしめ、輕工業地としての上海の上に立脚せしめるに至つた。

卵及び同製品は湖北・湖南・四川・河南・浙江・江西・江蘇・安徽を主要生産地とする。

上海の工業製品たる棉絹織物及び綿絲は——これさへも江蘇・浙江・湖北・北支の棉花によつてゐる——第六、七位を占めるにすぎず、しかもこの兩者の輸出額は三萬圓なるに對し桐油のみで六千八百萬圓、生糸のみで二千八百萬圓に達してゐたのである。

一九四一年においては全く逆に上海の紡織工業によつて生産された紡織纖維及製品が第四位迄を占め、總額の約五割に達するに至つた。戦前總額の約二割を占めて支那輸出品中の第一位にあつた桐油は僅か二千八百萬圓程度に減少した。

一九四一年上海重要輸出品 (單位萬圓)

- 一、綿布及綿製品 一九三三・一
- 二、生 糸 一七、六二〇
- 三、綿 糸 一三、六七二
- 四、其他綿織物 一〇、三六〇
- 五、毛 一〇、五二四
- 六、其他金屬及同製品(鐵及鋼材)以外 八、一四四
- 七、絲・綿・絹織品 七、七二一
- 八、鐵及鋼材 七、一四一
- 九、棉 花 六、〇二四
- 十、毛皮及皮革 五、八三三

上海輸出重要商品百分比

紡織纖維 一九四一年 一九三九年 一九四〇年 一九四一年 一九四〇年 一九四一年

三三・一 二二・一 二二・一 三三・一 二二・一 二二・一

支那對外貿易

上海重要商品輸出増減 (單位萬圓)

	一九四一年	一九四〇年	一九三九年
輸出額	1,141	1,141	1,141
増對一九四〇年	1,141	1,141	1,141
増對一九三九年	1,141	1,141	1,141
計	1,141	1,141	1,141

	一九三九年	一九四〇年	一九四一年	一九四二年	一九四三年
輸入	1,141	1,141	1,141	1,141	1,141
輸出	1,141	1,141	1,141	1,141	1,141
計	1,141	1,141	1,141	1,141	1,141

次に港別に見れば上海は全支出入船舶の四〇・七七%を占めて第一位にあり、一九三六年の三五・八三%に比し著しく集中化せられてゐる。第二位は青島一六・二九%、第三位は天津一二・六一%で、比率の上では昨年度に比し若干の増加を示してゐるが、噸數の上では減少であつた。前年度に比し増加を示してゐる港としては、僅かに三三五千噸から四八九千噸に増加した廣東港及び増加と考へられる烟台の五三一千噸(前年五三九千噸)があるのみである。

一、上海對外航路船舶出入情況

一九四一年十一月迄の對外航路船舶出入噸數は七、二三八千噸で、前年度に比し四、八五三噸の減少を見せてゐる。一九三六年を一〇〇として指數で現せば、一九三七年(六九・八五)一九三八年(六二・七九)一九三九年(九二・六二)一九四〇年(七四・六〇)一九四一年(四四・六六)となり、一九三九年において殆んど戰前の狀態にまで恢復した航路は、歐戰勃發後行はれた英國船の軍洋よりの引揚及び昨年の米船の引揚等によつて、再び戰前の半數にも満たない噸數に減少した。

國籍別に見て日本は、總出入噸數の五〇・一九%、六三三三噸を占めて依然第一位にあるけれども、前年度に比較すれば一、一八七噸の減少であつた。

米國は一、〇九五噸一五・一三%で第二位を占めてゐる。五行はれたプレデント汽船の引揚を契機として、全般的な在支

米國船舶の引揚が喧傳せられたけれども實際統計の上においては三〇〇千噸程度の減少であつた。

前年度第二位にあつた英國は約三分の一近くの減少を示し、僅か一、〇七八千噸の出入を見たに過ぎなかつた。英船はその特殊な地位によつて支那事變勃發後一時的に支那航運界を獨占してゐたが、漸次占領地域の擴大と沿岸封鎖の徹底によつて援將ルートは遮斷されて、英船は漸次後退を迫ると共に、歐洲における戰爭の勃發によつて、英國船會社は自らの航路の變更及び政府の徵用に基く特殊任務就航等で、一時的に支那事變勃發前以上に増加してゐた上海における英船出入は一九四一年以降急激な減少を來すに至つた。

一方前年に比し増加を示してゐる國には支那、パナマ、葡萄牙、蘇聯等がある。

一九四一年度の支那籍船舶出入噸數は一〇五千噸で、前年度に比し七倍餘の激増であつて、一九三六年の總噸數一二二千噸に殆んど近い數字にまで恢復した。

パナマは伊希開戦と共に行はれた希臘國籍船舶の轉籍を受けて、佛蘭西に次いで第四位に進出した。

支那事變勃發後全くその姿を上海に見せなかつた蘇聯邦船も二月初めて上海に入港して以來漸次復活して十一月迄に二九千噸の出入を見た。泰國は從來海關發表の船舶出入統計中において「其他諸國」に一括されてゐたのであるが、七月以降獨立に統計中に顔を出すに至つた。

上海對外航路船舶出入統計(單位千噸)

國 籍	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
日 本	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
米 國	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
英 國	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
佛 國	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
パナマ	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
和 國	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
支 那	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
瑞 典	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
瑞 士	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
蘇 聯	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
其 他	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
計	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500

二、上海對沿岸諸港航路船舶出入情況

一九四一年中における上海沿岸航路船舶出入噸數は三、六六八千噸で前年の五、〇〇二千噸に比し、二三三噸二七%方の減少であつた。一九三六年を一〇〇として指數で事變後の推移を示せば左の通りである。

年 次	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
噸數	1,000	700	700	1,400	1,400	1,300
指數	100	70	70	140	140	130

各國別に見ると前年の英國に代つて日本が全體の四〇・四九%を占めて第一位にある。噸數にすれば、一四八五千噸で、前年に比し一六〇千噸の減少であつた。

英國は一、四一八千噸三八・六%を占めて第二位にあつたが、前年の二、〇二三千噸に比し著しく増加を示して、漸次恢復の氣運にあるけれども、戰前に比すれば僅か三%にもあたらぬ數字で遠く及ばない。

獨逸は伊を是れとして希臘、瑞典、葡萄牙等の諸國は一時その中立的立場を利用し、轉籍せられた支那籍船舶を擁して、潰滅せる支那民族航運に代替するかの氣運を見せたが、歐洲大戰の進展につれて漸次減少の傾向にある。即ち獨逸は支那籍船舶を輸入轉籍して、禮和洋行其の他商社の手により、主として南支沿岸線に不定期に運航せしめてゐたが、對英宣戰布告されるや、著しくその活動範圍を狭められて江北地區及浙江福建沿岸の航行を爲す程度にすぎない。

伊太利も獨逸と同様支那籍船舶の轉籍によつて中意輪船公司を設立して航運の基礎を築かんとしたが參戰によつて、獨逸同様江北浙江、福建沿岸を僅かに航行するに過ぎない。

丁抹、諸威及び和蘭はその本國が獨逸に席捲されるや、英國は東亞における之等國籍船を拿捕して、自國の船舶管理統制下に入れて、自國船の補充を計つた。

希臘國籍船も亦伊希開戦直前にパナマ籍に轉籍した若干の船舶を除いては同じやうに英國の傘下に糾合せられた。

海運・陸運

佛蘭西の在支船舶は本國の敗北後一時運航を休止し、その歸趨が注目されたが、結局英佛協定に基き、英國の支配下に置かれた。パナマは支那籍船及希臘國籍船等の轉籍購入によつて支那航運界に年々著々たる地歩を築きつゝ進展して來た。

上海沿岸航路船舶出入統計(單位千噸)

船種	昭和十六年度	昭和十七年度	昭和十八年度	昭和十九年度
日本	1,135	1,135	1,135	1,135
英國	1,135	1,135	1,135	1,135
美國	1,135	1,135	1,135	1,135
法國	1,135	1,135	1,135	1,135
德國	1,135	1,135	1,135	1,135
蘇俄	1,135	1,135	1,135	1,135
希臘	1,135	1,135	1,135	1,135
支那	1,135	1,135	1,135	1,135
其他	1,135	1,135	1,135	1,135
合計	10,000	10,000	10,000	10,000

一、航業概況

上海—歐洲(日本郵船)

△輸出

本年の當地對歐航業は昨年八月本航路に於ける唯一の日本船たる日本郵船の配船中止以來次第に不振に陥り本年に入つてからは全く不況を極め、出帆船に於ては昨年度の一二隻に對し本年度は七隻(何れも英國船)積荷噸數に於ては昨年度の八〇、四〇一噸に對し本年度は八、〇六三噸に過ぎず、隻數に於ては九四隻積荷噸數に於て九〇%の激減を示した。

即ち歐洲大戦の長期化につれ獨逸の英船擊沈破の成果は益々英船の拂底を來し、軍需資材食糧の補給を其の植民地並に米國等に依存する英國は其所有船舶の高度運轉の手段として航行區間の短縮による船隻廻轉數の増加を計り、從來の歐洲航路も特に當地迄回航を要するもの外は印度又は新嘉坡、香港を東洋に於ける終點港となすに到つた。

依つて之が對策として當地よりの歐洲向荷物は支那沿岸船を利用して香港、新嘉坡等を接續地として輸出し又P.O.汽船、日本郵船、大阪商船等の印度航路を利用して印度方面を接續地として煙草、麥酒、雜貨等を輸出する一方、北米航路を利用して生糸等を北米大西洋岸より歐洲向再輸出する等物資補給に努力して居たが、何れも其の數量は判明しない。

然し七月皇軍の佛印進駐に次ぐ資金凍結の結果大部分の日本船は各遠洋海面より撤退の已むなきに到つたが、英國船は九月及十月に於ては各一隻の「リパブル」向配船をなし當地より卵製品、生糸、雜貨等約六三〇噸を積取り、物資補給に執拗な努力を續けた。然し之も十二月八日對英宣戰布告せらるゝに及んで長年に渉る對歐航業も此處に全く停止せらるゝに到つたのである。

海運・陸運

同盟船全體の本年に於ける積荷の主なるものは冷凍卵三、六一三噸、卵製品二、二四噸、桐油及豆油五七九噸、厨糸四七三噸の外生糸一、〇三五俵等であり之が配船數及積荷量等は左表を參照せられたい。

歐洲向積荷表(同盟全社分)

船種	昭和十六年度	昭和十七年度	昭和十八年度	昭和十九年度
日本	1,135	1,135	1,135	1,135
英國	1,135	1,135	1,135	1,135
美國	1,135	1,135	1,135	1,135
法國	1,135	1,135	1,135	1,135
德國	1,135	1,135	1,135	1,135
蘇俄	1,135	1,135	1,135	1,135
希臘	1,135	1,135	1,135	1,135
支那	1,135	1,135	1,135	1,135
其他	1,135	1,135	1,135	1,135
合計	10,000	10,000	10,000	10,000

△輸入(日本郵船經營印度線米國線等)
本年度日本郵船の遠洋就航船の上海入港隻數は合計七隻にして揚荷高は一三三、七五噸にして之を前年度に較べると入港隻數は七隻減なるも、揚荷高は却つて三二、七七四噸(約三三%増)を増加した。

一月—四月歐洲線は昨秋以來歐洲戦争のため引續き休航中なるも印度及北米太平洋沿岸方面よりの輸入は年初以來頗る盛況にて昨年同様に比し約三倍の激増就中孟買、マドラス、甲谷院、蘭貢方面よりの棉花、米等の輸入は近年稀に見る活況を呈した。又アメリカ方面よりは英船の太平洋航路撤退の結果小麦、麥粉、麥芽等の邦船による日本内地接續當地への輸入は相當量に達した。

五月—本月に入り遠洋方面の日本内地向重要物資の優先的早急積取りを要するもの多量にあつた爲め、當地揚荷に對する船隻極度に削減せられ此地揚荷の如き前月に比し著減を見た。

尙ほ前月に引續き日本内地接續晚香坡積麥粉、爪哇積玉蜀黍、南米棉花等の入貨があつた。

六月—印棉、米棉等の外日本内地に滞貨中の此地揚荷晚香坡積麥粉、爪哇米、セレス玉蜀黍、爪哇玉蜀黍等の輸送は六月に入り漸く其緒に著いたのと與亞院關係の蘭貢米(國民政府難民救済用)等大口貨物の輸入があつた爲め荷況見直し前月に比し約四割三分方の増加を示した。

七月—前月に引續き與亞院關係の蘭貢米の大口入荷を始めとして晚香坡積内地接續麥粉、前月積残り印棉、米棉等相當量に達し荷況旺盛であつた。

八月—七月下旬英米蘭等の日本資産凍結に端を發し吾國の對英米關係は急速度に緊迫し、爲に海運の臨戰態勢となり邦船の遠洋就航も又大部分停止待機の已むなきに到つた。

九月—十二月、敵性第三國の對日資産凍結實施以來遠洋就航船の當地入港殆んど中絶状態となり、僅かに十一月南米より内地

地へ歸來せる飛鳥丸を臨時當地へ回航して長期内地に滞貨累増せる中南米印度方面積此地揚貨物の一掃を見た。
昭和十六年度外國貨物輸入表

月 別	入 港 隻 数	揚 荷 噸 數
一 月	一 隻	二四、一四噸
二 月	八 隻	一六、九四二噸
三 月	一 隻	一九、四五四噸
四 月	一〇 隻	一七、七七四噸
五 月	七 隻	八、六二八噸
六 月	八 隻	一五、二三〇噸
七 月	一〇 隻	二七、七〇九噸
八 月	五 隻	二、三六〇噸
九 月	一 隻	一、五四四噸
十 月	一 隻	一、五四四噸
十一 月	一 隻	一、五四四噸
十二 月	七 隻	一三、七五五噸
合 計	七二隻	一三、七五五噸

上海—日本 (東亞海運)

前年は大體輸入に於ては荷動き旺盛に船腹それに伴はず輸出に於ては船腹に對する出荷も奥地治安の關係にて活潑なる荷動き無き状態、本年に於ては輸出荷物出廻り活潑化は輸入共に船腹の増減に左右される状態となつた。
即ち上半年は大體配船順調にて出入荷旺盛月毎に増加の傾向をたどり後半に於ける出荷に於ては土産品の出廻り期を最高調とし

最高記録を示し輸出全般的には後半は船腹不足に依り低調なる成績を示した。
尙特に國際狀勢逼迫化する年より資金凍結令實施に伴ひ輸入に於て濠洲小麦、ブラジル棉の内地接續荷物の入貨止まりたるも之に反し食料品、化學工業藥品、建築材料の輸入激増、輸出に於て鋼材、棉花、屑鐵、ボロ、油類、穀類、飼料、肥料の輸出と相待ち凍結令に反映する東亞共榮團自給自足性強化は今後の圓城貿易に大なる示唆を示し大東亞戰動發展は更に配船の合理化強化に依り今後に期待する處からざるものと思惟せらる。

△輸 出
一月二月は配船の順調荷物出廻り之に伴ひ好調なりしも三、四月に入りて本航路船腹の主力たる横濱—上海線の配船減並に四月に入り中央統制輸送組合機能充實に伴ふ配船積荷割當制實施せらるゝに及び船腹の激減、配船不調滑は一時平調となり、次いで六月は夏期新雜穀の出廻り、肥料、棉花、ボロ等原料出廻り旺盛に加へ配船減、配船不調滑を補ふ臨時船、貨積船、船腹船等の増配努力と相待ち本年最高記録を示す好成績を挙げた。然し七、八月以降〇〇事情に依る配船減は漸次其の成績を低下せしめた。
其の間七月在米日支資金凍結令公布、十二月大東亞戰動發展も本航路荷況にはさして影響はない模様であつた。
大宗品としては棉花、鋼材、屑鐵、ボロ、油類、肥料、穀類、飼料を主なるものとする。

△輸 入
前半年、月毎に成績を挙げたのは一般食料品、化學工業藥品、

建築材料、人絹類の出廻り旺盛、阪神接續ブラジル棉、濠洲小麦、麥、盤谷ゴム等の入荷、〇〇品の出廻り旺盛等に依るものであつた。
七月資金凍結令實施は八月に入り俄然ブラジル棉、濠洲小麦等の阪神接續荷物の入貨を止め漸次成績低下せるも其の反面食料品、化學工業藥品、人絹、紙等更にセメント、陶器等建築材料の激増は之をカバーし得たと雖も、船腹減の成績低下は如何ともし難く今後の配船合理化を期待する處からざるものがある。

上海—日本線上海輸出噸數一覽表

月 別	年 度	航 數	輸 出 噸 數
一 月	昭和十六年度	三	一、五八八噸
二 月	昭和十六年度	三	一〇、七五七噸
三 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
四 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
五 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
六 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
七 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
八 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
九 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
十 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
十一 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
十二 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
合 計	昭和十六年度	三	一三、三三三噸

上海—日本線上海輸入噸數一覽表

月 別	年 度	航 數	輸 入 噸 數
一 月	昭和十六年度	三	一、五八八噸
二 月	昭和十六年度	三	一〇、七五七噸
三 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
四 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
五 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
六 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
七 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
八 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
九 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
十 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
十一 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
十二 月	昭和十六年度	三	一三、三三三噸
合 計	昭和十六年度	三	一三、三三三噸

上海—北支 (東亞海運)

年初兩月は漸次出荷活況する微ありたるも北支積出荷物出廻り不況と南支線船腹強化の爲め本航路就航船渺かりし爲不振であつた。

春季出廻り期に入り輸出共俄然荷動き活潑となり、特にシベリヤ經由獨逸向荷物の大連仕向け桐油、椰子油、コブラ等の大量出荷北支ベーターに依る小麦粉の大量積出あり、之に對し北支物資も春季を待つて天津穀類(豆)の未曾有の積出あり又天津、青

烏炭の多量積出も期を同じくし之等に對應し豫め計畫せる配船増加は三、四月に入り輸出入共に新記録を呈した。
右輸出入の同時活況に伴ふ配船の合理化は六月中頃に於ける獨ソ開戦に依る大連仕向(獨逸行)荷物の杜絶も、小麦粉の大量出荷許可に依りカバーして餘りあり、正に好調の一途をたどつた。
然れ共其の間社外船の配船の減少に加へ吾社も〇〇事情に依る船腹不足は免れ難く其の配船に困難を生じた。
十二月に入り大東亞戰勃發は其の荷動きに多少の變化はあつたが本航路の性質上、配船に就き南支、臺灣航路の如き大打撃は受けなかつた。

△輸 出

本年度に於ける北支向大宗荷物として麥粉其の過半數を占めたるは北支方面食料物資補給の爲、北中支パターに依る大量積出に依るものにして棉花、紙類、セメント、コブラ、玉蜀黍等之に次ぐ更に之を月別に見れば一月二月兩月は前述の通り配船減に依り不況なりしも春季出廻期に入り三月は麥粉、棉花の荷動き活況を呈し加ふるに獨逸向大連經由荷物の積出等あり俄然出荷旺盛、引續き四月も船腹不足を告ぐる状態なりしが、五月は麥粉の積出許可繰延となり幾分小康、六月に入り獨逸戰に依り大連仕向荷物の積出杜絶せるに拘らず、麥粉の大量積出許可あり之にてカバーして餘りある状態となり更に加へてセメントの大量出荷命令あり引續き九月迄は順調なる出荷を見た。然れ共十月後又パターに依る麥粉等の出荷制限は荷況や不振となり、十二月大東亞戰勃發は本航路荷況にはさして影響なかりしもパター制々限に依

り平調裡に終つた。

△輸 入

本年度に於ける北支積當地入荷大宗品は青島、天津積石炭其の大半を占め又特に春季出廻期に入つて天津穀類(豆)は未曾有の出廻りを見た外、海州鹽を其の主たるものとす。
北支線上海輪移入噸數一覽表

年 度	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月	合 計
昭和十六年度	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸
昭和十五年度	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸	三、八七噸

△輸 出

(上海—青島—大連線)
前半期は滿洲對中支のバター大量の成立を見たる爲滿洲特産物の輸入に對し當地より棉花、小麦粉及大豆油、空ドラムの積出相當數量に上り又シベリヤ經由獨逸向荷物即ち茶、胡麻、生ゴム油類等活潑なる荷動きあり、前半期大連仕向貨物七萬噸に上りたるも、後半期は獨ソ戰勃發に因るシベリヤの杜絶及茶葉資產凍結、物資搬出入取締の強化、海關特定品目の輸出許可制度採用等種々の制約を受け、荷況頗に沈滞の一途を辿り前半期に比し積出半減した。

青島向けは定期船青島碇泊時間の關係上小口雜貨の積取りに終

上海—北支 (大連汽船)

年 度	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月	合 計
昭和十六年度	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸
昭和十五年度	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸	一〇、一〇噸

始した。

就航船數

大連 向

一〇九、〇〇七噸
二四、〇一一噸

青島 向

一〇九、〇〇七噸
二四、〇一一噸

(上海—青島—天津線)

期初青島、天津向け共に小麦粉、棉花等の出廻り旺盛にて活況を豫想されたるも重要物資積取船腹不足の爲從來永年に亘り本航路に就航せし定期貨物船、相次いで不定期船部門に編入された爲後半期に至り本航路線は遂に中絶の已むなきに至つた。

就航船數

一五、九三二噸
一九、一二三噸

天津 向

一五、九三二噸
一九、一二三噸

青島 向

一五、九三二噸
一九、一二三噸

從大連

五〇、三三三噸

當地軍配組合等の輸入機構整備と共にバター約定品たる大豆、豆油等の滿洲特産物の入荷順調なりしも、往年大連よりの輸入貨物中王座を占めたる豆粕は現地生産及南支向積出し不振によるストツク消化難等の爲入荷寥寥たり、又從來相當數量の入荷を見たるシベリヤ經由の歐亞連絡貨物即ちアニリン染料、化學藥品等の獨逸荷物は獨ソ開戦と同時に輸入杜絶となつた。

從青島

五三、八七三噸

入荷凡調にして葉黃、綿糸布等皆ての大宗貨物は全く姿を消し託送扱による野菜、青果、魚類は輸入の首位を占め豆類、落花生、實粉干等之に次ぐ。

從天津

二〇、〇八三通

前半期は豆類、糖等相當量の輸入を見たも後半期は配船減により繰りたる入荷とて無く一部は大連接続にて弗々入荷を見るに至つた。

△船客

邦人の渡支制限、旅行者の携帶金額制限或は外人旅客の査證の嚴重化等東亞情勢の險惡化を反映し邦外人の乗客數減少したるも北支中支の爲替並に物價の稍緩きを目的とせる三、四等華人旅客著増した。

青島行 五〇、二七一
大連行 一〇、六五二

上海—朝鮮 (朝鮮郵船)

朝鮮と北支那とを結ぶ航路は大正の初年當社の自營を以て其運航を見たが中南支に對しては直通航路無く豫て取引頻繁な對上海貿易は擧げて北支那或は内地を中繼とする他なく相互の不利不便尠からざるものがあつたが大正十三年六月に至り自營上海航路の實現を見ることとなつた。本航路は翌年四月より朝鮮上海航路として朝鮮總督府の命令航路となり十八航海仁川、鎮南浦、群山、釜山の各港より上海、青島の間を往復した。次で昭和十一年四月北支の驚異的發展に伴ひ積々清津、羅津、雄基三港に流下滯積せる北滿特産の上海直通輸送を劃し本航路を臨時北支へ延航對處する處があつた。然るに至十二年八月上海事變の勃發は本航路の一時休航を餘儀ならしめたが、昭和十三年四月上海方面の

治安恢復と共に直に配船復活せしめると共に昭和十五年四月には本航路の臨時に北支延長を定航化し北支上海線と改稱年十五航海清津、釜山、上海、青島の各港に寄港す。

又同時に既に昭和十三年度より開設を見たる西鮮青島線を上海迄延長し愈々緊密化する鮮支間の物資交流に寄與し、爾來今日に至る。

一、支那事變以來の本航路に於ける貨客推移

(イ)貨物關係

昭和十二年七月北支に端を發せる今次支那事變の戰火上海に及ぶや一般船舶の同港への入港は全く危殆となり本航路も自然休航の儘昭和十三年を迎へたが漸く同方面治安の恢復著しきものがあり四月以降本航路の復活を見た。而して従前本航路の北支大宗貨物たる上海白粉丸太は同地に於ける燐寸工場未だ復舊せず當分出荷の見込無き爲め本航路の北支延長を取止め爾來釜山止めとし釜山、仁川、鎮南浦より復興材料、生活必需品等當時相當の出貨を見たるも上海より朝鮮への輸入は事變前よりのストック品と目さるべき棉、棉實粕等少量のものに過ぎず、常に片船腹の狀態を以て推移した。

昭和十四年に入るや中支方面は一段と其の明朗化を増し復舊に建設に意々著しきものあり建設資材生活必需品等鮮産品の上海向輸出は引續き好調を呈した。一方上海積として同年度に於ても殆んど云ふに足らず極めて不振であつた。

昭和十五年度に於ては西鮮青島線を上海に延長すると共に從來西南鮮と上海間を往復したる航路は北支釜山より上海向と

し北中支の建設飛躍に備へる處あつた。

越えて昭和十六年に於ては朝鮮總督府の方針に基き從來の北支上海線を臺灣に延長す。

臺灣航路の新設に伴ひ朝鮮對上海間物資交流の主體は専ら西鮮青島上海線に傾注のこととなり、決戦體制下船腹は極度に壓縮せらるゝの餘儀なき情勢に置かれたるも、當社としては本航路の使命に鑑み依然配船を繼續しつゝある次第である。右情勢裏に本航路に於ける荷況推移を見るに汪精衛氏を主眼とする南京政府の基礎は愈々固まり中支の明朗は日一日と増し朝鮮との物資交流にも劃期的一天飛躍を豫期せられた。而るに極度の船腹不足は統制の強化と相俟つて本航路荷動きに深甚なる影響はあつたが朝鮮よりは林銑、黑鉛、煙草、上海よりは棉實粕其他相當の出貨あり、就中十六年度に於ける新規出廻りとして支那特産の胡椒、胡椒等多量にあり、之は支那事變後本航路再開に際し期待せられたものであつて中支奥地方面治安恢復の證左として特筆すべき事象である。

(ロ)船客關係

事變の進展に伴ひ上海方面の治安漸く恢復するや旅客の本航路を利用するもの多く當社に於ては昭和十五年四月より朝鮮鐵道局と旅客連帶輸送契約を締結し一層旅客の利便を図る處があつた。因に事變以來上海への自由渡航は禁止せられおるも一度之が解放せられんか之が増加は期して待つべきものがあり當社は之に對處して更に華中鐵道との間に昭和十六年十一月一日以降上海を中繼港とする旅客の連帶輸送契約を締結

し積極的に旅客への利便を図る處があつた。本連帶は曩に昨年四月開始せる仁川港を中繼する朝鮮鐵道局との連帶と相呼應し鮮支間旅客輸送の完遂を期する劃期的施設である。

一、大東亞戰爭勃發以後の見違し
支那事變を包含する大東亞戰爭の勃發により從來英米の大東亞に於ける搾取の據地は次々と潰え上海に於ける長年の痛たる共同租界も無事我國に接收を見、同地に於ける政治經濟文化と凡ゆる面に亘る我國の地位は牢固として抜く能はざるものとなつた。此處に明朗上海は偉大なる前進の第一歩を踏出した。

大東亞の戰果愈々擴大し大東亞共榮圈の確立は決定的存在となり且將政權も今や崩潰の一路にあり全支の汪親日政權の下に平和を謳歌するの日も近きを豫想せらるゝ折柄、豊富なる南洋資源の鮮滿支輸入の中繼港として、或は全支より集中せらるゝ特産物の對日輸出の據點として、又は本邦生產品の中支に於ける唯一の輸入港として、上海の地位は從來に増して其の重要性を加重せられ、此等諸物資は擧げて船舶を唯一の運輸機關とするものなれば鮮支間最短距離を結ぶ朝鮮上海航路の使命は、將來にかけられ居ると云ふべく期待せらるゝ次第である。

上海—漢口 (東亞海運)

本航路一貫荷物は搬出入制限の爲め出荷入荷共に低調裡に終りたるも其の反面船腹は殆んど特種荷物に依りてオールとなつた。尙三月以降減水期も過ぎて漢口直航も可能となつた事は出入荷共幾分活況を示した。

海運・陸運

△輸出
荷動きの見る可きものとしては○品其の過半数を占め一般荷物としては鹽、綿糸布、米、煙草、砂糖等にて一般荷物の出荷状態は月別にさして變化なく、別表噸數變化は大體○○品の出賃状態に左右された處が多かつた。

輸入に於ても輸出と同様で、一般荷動きにさ程大差なきも○品、接續荷物の増減に依り月別噸數の差を生ずるものと見る可きであつた。一般荷物の主なるものとしては胡麻、稻類、穀類、菜種小麦、石膏、桐油、石炭、葉煙草等である。

漢口線上海移出噸數一覽表

月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	合計
輸出噸數	三,七三三	三,八四四	三,八六六	三,八六六	三,八六六	三,八六六	三,八六六	三,八六六	三,八六六	三,八六六	三,八六六	三,八六六	三,八六六
輸入噸數	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三

上海—寧波線 (東亞海運)

六月我が軍占領後治安の維持に伴ひ他社に魁け鳴門丸一隻を以て定期航路を開始した本航路は、頭初先づ宜撫工作荷物に依り始められたるも漸次治安維持確立されるに及び他社中華輪船、浙東輪船の配船と相俟ち漸次一般荷物の荷動き活潑なるを見た。

△輸出
頭初は先づ宜撫用品たる米及食料品を主要荷物とせるも漸次一

月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	合計
輸出噸數	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三
輸入噸數	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三

海運・陸運

般雜貨の荷動きを見、十一月に入り國際狀勢逼迫は上海商人の實情、十二月に入り大東亞戰勃發に依る法幣不安は一時出荷を停頓せしめた。

△輸入

頭初治安維持の關係にて出廻りなきも月を経るに従ひ漸次寧波土產品入荷を見、月毎に好成績を示した。

大宗品としては土酒、土紙、草蓆、棉花等

寧波線上海移出噸數一覽表

月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	合計
輸出噸數	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三
輸入噸數	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三

上海—寧波線 (東亞海運)

舊年の輸出不況も本年に入り月毎に活潑となり輸入に於ては石炭の出廻り依然活潑にして南支航路船の船腹をも使用する状態であつた、十二月に入りつて大東亞戰の勃發は水域危険を伴ひ配船皆無となつた。

△輸出
本年前半期は肥料出廻期を控へ漸次活況を示し十月に入つては遂に船腹不足の爲滞貨を生ずるに至り、船腹強化計畫も十二月に入り前配大戦のため本航路へ配船も出来ざることとなつた。

大宗荷物として肥料、穀類

△輸入

大宗荷物たる石炭は四月一時特殊事情の爲積出不能となつたけれども大體に於て毎月大量基隆炭の入荷あり、又外に後半期は青果、パルプ、砂糖、木炭、茶等の入荷を見た。

寧波線上海輸出噸數一覽表

月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	合計
輸出噸數	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三
輸入噸數	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三	一,八三三

月	別	航數	輪移入噸數	航數	輪移出噸數
一	月	八	三、四四噸	三	二、四三噸
二	月	七	七、四六噸	三	二、四三噸
三	月	二	三、二四噸	八	三、四六〇
四	月	四	四、八八噸	五	七、二四〇
五	月	六	四、九八噸	七	一〇、四一
六	月	一〇	一〇、五九噸	七	一、五五五
七	月	一〇	一三、五八噸	九	四、七三
八	月	五	四、九〇噸	九	二、一七
九	月	二	一、三四噸	七	九、五二
十	月	七	七、七三噸	九	九、五五
十一	月	四	四、八八噸	八	八、四四
十二	月	七	四、六二噸	八	二、四九〇
合	計	七	四、六二噸	七	二、四九〇

南支線上海輪移出噸數一覽表

昭和十六年度

航數 輪移出噸數

一 月 八 三、四四噸

二 月 七 七、四六噸

三 月 二 三、二四噸

四 月 四 四、八八噸

五 月 六 四、九八噸

六 月 一〇 一〇、五九噸

七 月 一〇 一三、五八噸

八 月 五 四、九〇噸

九 月 二 一、三四噸

十 月 七 七、七三噸

十一 月 四 四、八八噸

十二 月 七 四、六二噸

合 計 七 四、六二噸

南支線上海輪移入噸數一覽表

昭和十六年度

航數 輪移入噸數

一 月 八 三、四四噸

二 月 七 七、四六噸

三 月 二 三、二四噸

四 月 四 四、八八噸

五 月 六 四、九八噸

六 月 一〇 一〇、五九噸

七 月 一〇 一三、五八噸

八 月 五 四、九〇噸

九 月 二 一、三四噸

十 月 七 七、七三噸

十一 月 四 四、八八噸

十二 月 七 四、六二噸

合 計 七 四、六二噸

昭和十五年度

航數 輪移出噸數

一 月 三 二、四三噸

二 月 三 二、四三噸

三 月 八 三、四六〇

四 月 五 七、二四〇

五 月 七 一〇、四一

六 月 七 一、五五五

七 月 九 四、七三

八 月 九 二、一七

九 月 七 九、五二

十 月 九 九、五五

十一 月 八 八、四四

十二 月 八 二、四九〇

合 計 七 二、四九〇

昭和十五年度

航數 輪移入噸數

一 月 三 二、四三噸

二 月 三 二、四三噸

三 月 八 三、四六〇

四 月 五 七、二四〇

五 月 七 一〇、四一

六 月 七 一、五五五

七 月 九 四、七三

八 月 九 二、一七

九 月 七 九、五二

十 月 九 九、五五

十一 月 八 八、四四

十二 月 八 二、四九〇

合 計 七 二、四九〇

二	月	五	一萬六千	六	萬六千
三	月	八	六千三百	四	二萬六千
四	月	七	八千四百	五	四萬
五	月	八	萬六千	六	三萬七
六	月	二	八千	七	二萬七
七	月	八	萬六千	八	三萬
八	月	一〇	六千	九	二萬
九	月	八	一〇千	一〇	一萬
十	月	六	三萬	一	二萬
十一	月	七	三萬	二	三萬
十二	月	七	三萬	三	三萬
合計		六	四萬	四	四萬

内河航運 (上海内河汽船)

長江三角地帯の交通において特殊の重要性をもつものに内河航運がある。此の地帯は支那に於ても内河航運に恵まれた地域で、民船可航内河水路延長は五萬軒、内小蒸汽船可航水路延長は八千軒に達し、就中江蘇省の如き可航水路の延長は四千五百軒に及ぶ従つて之等内河に依る航運は極めて重要な意義をもつので、貨物運送量に於ても事變前江南三角地帯の物資は鐵道によつて二三%汽船によつて二三%、民船によつて四五%輸送せられて居たと云ふ。

事變勃發と共に之等内河航運は一時期航狀態に陥つたこと勿論であるが、鑒て戦火の移行に伴ひ多數の支那側小輪船が邦人に購得せられて動き初め、外國船の横行も加はつて其の使用する船舶

の性質上、難然たる競争状態を呈した。内河航運の復讐は經濟的
政治的にも極めて重要であるが、同時にその統制把握は来るべき
段階に對して又重大なる意義を持つ。依つてその混亂是正と統制
の爲に昭和十三年三月暫定的に日清汽船を主體とする、江浙輪船
公司なる組合を設立し、該組合所屬以外の一切の汽船汽艇の航行
を禁止すると共に、一面有力なる日支合辦の統制会社設立が企畫
され、陸海三省指導の下に同年七月二十六日資本金二百萬圓を
以て、日華合辦支那普通法人として上海内河輪船股份有限公司が
創立され、同八月六日より業務を開始した。業務目的はいふ迄も
なく中支那主要内河航路に於ける客貨の輸送を主とするが、船舶
の貸借建造修理、倉庫及碼頭の經營をも行ふ。
現在蘇浙皖三省に涉り昭和十六年十二月末營業航路は大約九〇
餘線六千餘に達す。主要航路は

- (一) 上海を中心とする蘇州河線（蘇州、無錫、常州、丹陽、鎮江を貫く幹線並に支線として常熟、清浦、太倉、江陰、和橋、金壇等に至る相互間）
- (二) 上海を中心とする黃浦江線（松江、嘉善、嘉興、崇德、杭州を貫く幹線並に支線として該線一帶の南匯、平湖、楓涇、金山等に至る相互間及錢塘江渡船）
- (三) 上海を中心とする湖州線（一部蘇州河を經由青浦、朱家角、蘇州、平望、湖州に至る幹線並に支線）
- (四) 揚州、鎮江を中心とする江北大運河線、揚州、邵伯、高郵、淮陰を結ぶ幹線並に泰縣、興化等に至る支線
- (五) 南通を中心とする中揚大運河線（天生港より南通、唐家園

如皋、海安、東台、鹽城を貫く幹線並に支線及、(四)(五)大
運河々系を横斷的に結ぶ東台、泰縣、泰縣、興化等の線）
(六) 南京中心の京浦線、京揚線
(七) 蕪湖中心の蕪裕線、蕪安河線、蕪安線
(八) 蚌埠中心の淮河線（蚌埠、懷遠、田家庵、壽縣、五河を貫く大淮河本流）

其の使用する船舶は、創立當初僅に船舶二〇隻、借入船一二隻
計三隻の汽船に過ぎなかつたが、十六年末現在社有船一五三隻
軍貨下船二六隻、外に附船一〇隻、合計二七九隻、六、五〇五
噸の汽船に、社有船二八六隻、附船二、一一七隻、計二、四〇三
隻一〇五、六〇二噸外に荷主直接所有に係る多數の船をも合せ
運送して居る。貨客の運送形態は殆ど小汽船による、貨客船の
電報にて水上列車とも稱すべきものである。従業員は陸員日人三
一三名、中國人は八三〇名、計一、一四三名、外に船員、小汽船
船一四六一名、艇一、五二〇名、計二、九八一名あり。航路の擴
張、配船、人員の陣容、創立當初に比し隔日の感あり、業務成績
は左記の如くである。

貨客輸送統計				
月別	昭和十六年度		昭和十五年度	
	貨物	客	貨物	客
一月	九、七〇噸	三、三〇人	九、七〇噸	三、三〇人
二月	九、七〇噸	三、三〇人	九、七〇噸	三、三〇人
三月	九、七〇噸	三、三〇人	九、七〇噸	三、三〇人
四月	九、七〇噸	三、三〇人	九、七〇噸	三、三〇人

五	三、三〇噸	三、三〇人
六	三、三〇噸	三、三〇人
七	三、三〇噸	三、三〇人
八	三、三〇噸	三、三〇人
九	三、三〇噸	三、三〇人
十	三、三〇噸	三、三〇人
十一	三、三〇噸	三、三〇人
十二	三、三〇噸	三、三〇人
合計	三、三〇噸	三、三〇人

の激増振りである。
倉庫は一般荷主の便宜と蒐集機構整備の見地より、上海に收容
能力合計三棟、三萬三千噸を有し、毎月出入各々三萬噸前後の貨
物を取扱つて居る。地方に於ては蘇州、無錫、南京、蚌埠に合計
九〇〇坪、約五、〇〇〇噸、倉庫は已に設立完了し、諸多の個所
にも建設を急ぎつゝある。
小型船の建造備船には上海内河船廠並に蘇州瑞茂工場を有し、
此の種の規模に於ては中支は勿論内地に比較しても随一のもので
一は敷地八千坪、建坪二百坪、一は三千坪に六百五十坪あり、鑄
物汽機製作より、附屬機械工場あり、一ヶ年の能力は小汽船
八〇餘隻、艇二五〇隻位の建造を初め、自家所用のもの多數に亘
る船舶の修理をなして居る。
日支事變頭末の一段階に於て中支の水運は長江並に沿岸の主要
開港地は東亞海運にて、不開地相互間は中華輪船にて、又内河々
リートの航運は上海内河汽船にて担当、夫々其の分野に従つて東

亞交通體系の一環である中支の水運部門に重要な役割を果しつゝ
ある。初め業務分野に於て若干の凸凹は免れなかつたが、時日
の伸展と共に以上の理念は具體的に明瞭になり、昭和十六年末に
於て安慶上流、九江以下各港の短區間運送は幾多の犠牲と業務を
殘し、之を中華輪船に引續き、一方未開拓の蘇北地帯は十六年度
初期計畫通り東台、鹽城、興化並に江北大運河による淮陰まで除
すところなく航路を擴張し、其の他既設水路も繁閑に應じ、配船
の強化を計つた。今亦大東亞戰の勃發に依り、東亞交通體系就
中新分野南方諸地方とは刻下の作戦遂行上、將來資源獲得上絕對
海上輸送能力の強化、能率増進が必至となり、各方面の船腹は極
度に入り切られ、いさゝかの能率低調を許さず其の影響は當然
中支の航運界も一段の統制強化を必要として、昭和十七年一月一
日より中支航運統制組合の組織活動を見るに至つた。當社も其の
一員として中支全般的の航運に寄與しつゝあると共に一方其の特
異な性質上、陸上交通機關に代替する分野も背負ふて居り、其の
責任は愈々重大である。
只問題は曳船の内約半數が燃料として油を使用する爲、この補
給は窮乏に陥りつゝあることである。
大上海が、取り残された唯一の自由港としての性質が一夜にし
て喪失され、これを經由して第三國との貿易面に立脚して居た興
地との貨物移動低調は考へられる。然し航船船並に陸上運送の窮
屈、北中支水運の連絡が企圖されてゐるから、計畫實現の曉には
總取扱數に於ては十七年度も依然引續き増加するとも減少する
ことはあるまい。

(附)

以上の外支内河航運上見逃し得ないことは一般民船である。昭和十六年十月末蘇浙皖民船總會月報に依れば、上海地區二四〇〇隻、二七二、四〇〇噸を筆頭に無錫の二八、〇〇〇隻、一八二、五〇〇噸、外蘇州、杭州、鎮江、揚州、南京、蕪湖、安慶蚌埠等三省各地計二二四、〇〇〇隻、八七四、〇〇〇噸の民船が登録されて居る。又我克協會に於ては上海を中心として舟山、長江下流並沿岸航洋民船が同年十一月末一六、〇〇〇隻、二〇二、〇〇〇噸登録されて居るが、此等の内タリク内民船並に沿岸航洋我克の役割は其の数の絶大に依り大、小運送上重大なる役割を持つて居ることが推察されること序言の如くである。

三、倉庫業概況

昭和十六年中に於ける倉庫業の概要を述べると、先づ上半年に於ては南京政府の機關銀行たる中央儲備銀行創立せられ、同行發行に係る新法幣を以てする關稅納付を認められたのをスタートとして、爾來新政府の金融工作は逐次進捗し、對日三億圓のクレディット設定せられる等、若々安定の地歩を固むるに伴ひ、舊法幣に對する不安は漸次減化し、逐日低落の一途を辿り、赤字財政を補填せんがため、租界工部局が米英との合作により一月發表した四割増稅は市民惡劣的となり、臨時納稅者大會に於て不祥事を惹起せる等の事件あり、重慶側金融の混亂により期央其の機關銀行四行の休業を見る等經濟界は一抹の不安に襲はれ、舊法幣の續落

は換物人氣を呼び、諸物價並に勞銀の急騰を來し、又石炭の在庫減少による電力の供給制限は各種産業に妙からざる影響を與へた。一方米英兩國の對稱國貨凍結に次で其對日經濟壓迫は益々濃化露骨となり、期初上海在留米國婦女子其引揚を見たが、四月日ソ不可侵協定成立し、重慶政府機關及共軍事施設の徹底的覆滅新政府の政治經濟工作に對する吾國の支援強化等、支那事變完遂に一路邁進する吾國力の伸張は、租界市參事會委員の改組に現はれ、期末には新政府首席汪精衛氏の渡日となり、帝國の和平經濟其他當面の諸問題處理の具體的對策逐次確立せられると共に、執拗なる重慶側の妨害工作頻發せるテロ行為は漸く衰微に瀕した。此間國際情勢緊迫による外貨輸入難の見越により棉花、セメント、石灰、人絹糸、食料品、雜貨等の入荷多く、舊法幣の下落と香港方面華僑より流入せる巨額の遊資消化に困難せる華人の換物傾向とにより、土產雜穀、麥粉、支那棉、綿糸布、屑關等の出廻り旺んであつて又米價騰貴對策として租界當局の輸入に係る四貢米の大量檢査するあり、援蔣ルート遮斷強化による滯貨及季節向麥酒其他清涼飲料水の回着と相俟つて、當地倉庫業は租界内外共に保管費高を加へ、頗る活況を呈し満庫狀態を繼續した。下半年期に入るや對日經濟壓迫に對する報復的措置としての米英資金凍結、自給自足を目標とする物動計畫の樹立、現地各種産業の再編成等着手せられ、特定外國人取引取締令により取引を統制し、重要物資の搬出入許可制は強化せられ、利敵物資の移動脫中非占領地區への流入を嚴重監視するの措置を講ずる等重慶側内閣の出現により帝國の事變處理大東亞共榮圈確立の不動の國策は益々

四、通關業

更に將來の見透しに付一言述べると、今後大東亞共榮圈を確立するに當つては日本本土のみにては資材勞力の不足、運輸の不便製品消化力の制限等があるので大東亞の産業發達を期する上に於ては廣く南方諸地域及北邊地域をも包含して考察しなければならぬ。而して其の經濟的並に政治的中心地域は實に勞力資源と運輸利便とに優勢なる中支、殊に上海が其重點となる可きは明かなところであつて、今後中支の各種産業を興隆せしめ、一般經濟力の充實を計り、支那五億民衆をして南方諸地域の過剩物資を吸收消化せしむること最も賢明且良策であつて、斯くして始めて北米大陸の大規模な經濟力に對抗し得るものと思考せらる。

此點より見ても、將來上海港を中心とする共榮圈物資の交流は月と共に増大すべく、倉庫業も亦重要物資の保管、配給並に金融機關の一翼として益々其重要性を加ふることと確信する次第である。

事變勃發以來十三年五月迄は日本上海間及占領地域間は輸出入とも通關を要しなかつた爲通關業者は其間専ら輸送貨物の受渡し等運輸業に従事した。

十二年六月以降稅關事務再開され事變前通り通關手續を要する事となつてから通關事務が復活開始された。

十六年十二月八日大東亞戰爭開始以前の一般業務狀況を述べれば一、輸入——日本、滿州國、沿岸各港、長江各地

一、輸出——同上
向米國向輸出の主なるものは生糸、同肩、茶、豚毛、事變前との取扱件数及数量比較大要左の如し。
十三年六月以降は外支人専門方面の事業に邦人商社飛躍的進出あり従つて之等商社貨物の件数漸増し邦人通關業者の事務も愈々多忙としり、爲に従業員を新規に雇用し約二倍の人員とした。従つて事變前十數年に亘る排日風潮盛なりし當時つ取扱件数に比較すれば約二倍以上の取扱件数となつた。
他方事變後特に見る現象としては自家通關をなしてゐた商社が相當數あつたものが煩雜の爲め通關業者へ依頼する向増加し之れによる件数増加相當のものがある。
向米國の資産凍結以來米國向け輸出皆無となり一方統制に依る減貨等を合すれば三割見當の減少を見た。
更に大東亞戰開始以來は船腹の不足による滞貨等の關係上業務は一般的に閑散の状態であるが最近船腹も若干増加の傾向を見るに至つてゐる。

五、海事檢定

本上半期には相當多忙を極めたが、下半期即ち米英の對日資金凍結以後は船舶の出入、輸移出物資減退し上海海務所業務も相當の影響を受けた。
十六年中
検査件数 三五〇件
分析件数 一七〇件

六、鐵道運輸概況

△旅客運輸
華中鐵道線上海市内の上海、大通庵、江灣、西上海、南上海、新龍華の各驛に於ける乗降客は昭和十六年一月から同十二月迄の年間乗車人員四、三七八、一〇九人、降車人員四、三九二、八〇三人で、一日平均乗降とも夫々一萬二千人となつてゐる。
之を前年と比較すると乗車人員は四割九分、降車人員は四割六分の増加となつてゐるが、之等旅客の大部分は地方の治安状態や搬出入物資取締の如何、或は經濟界の微妙な動きに影響され増減を見たが、概して五月より九月迄の農繁期、及び夏季閑散期はその他の各月に比し二、三割程度の減少を示してゐる。
之等乗降客の大半を占める上海驛は、前年に比し乗降客共約三割増加し、十二月を除き一般に降車客の多かつた同驛が、十二月に至り引續く法幣の暴落と物價高に依る生活難並に大東亞戰物發に伴ふ敵性工場、失業者の増加等幾多の原因に依り、世智辛い租界を後にし平和の光に恵まれた清郷地區に新しい生活を求めて、懷しの故郷へ歸る者が急激に増加し、十二月のみは、乗車人員一日平均二、〇七七人、月間四〇、四九二人の超過となつてゐる。
其の他の各驛は孰れも昨年より二倍以上増加して本年度に於て大體事變前の數量に近く迄達したのであるが、獨り南上海驛のみは事變前乘降共一日平均一、五〇〇人近くあつたに拘らず僅に二

検査屯數 三〇萬屯

〇入程度で依然として甚だしい湖落振りを示してゐる。
西上海驛は十月一日から開設したので本年中はまだ一般へ徹底せぬ點も認められるが、租界及び滬西地區からの出入客には非常に便利である爲今後乗降客は益々増加するものと考へられる。
各驛の月別乗降人員を示せば次の通りである。
イ、月別乗車人員

驛別	上海 大通庵	江灣	西上海	新龍華	南上海	合計	平均
一月	三三,四〇〇	三六,五五〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一五〇,五四〇	一五,〇五四
二月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
三月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
四月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
五月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
六月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
七月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
八月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
九月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
十月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
十一月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
十二月	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
年計	三六,四九〇	三三,三三〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一四六,四一〇	一四,六四一
月別降車人員	三三,四〇〇	三六,五五〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一五〇,五四〇	一五,〇五四
合計	三三,四〇〇	三六,五五〇	三三,三三〇	六,六三〇	六,六三〇	一五〇,五四〇	一五,〇五四

手小荷物發着箇數 (上海、大通庵、江灣、西上海、南上海、新龍華各驛)
二月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
三月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
四月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
五月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
六月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
七月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
八月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
九月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
十月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
十一月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
十二月 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
年計 三三,四〇〇 三六,五五〇 三三,三三〇 六,六三〇 六,六三〇 一五〇,五四〇
次に旅客輸送に附随的に行はれる手荷物、小荷物は各驛の總計に於て昨年より發送一割五分、到着一割の減少となつてゐるが、その主なる原因は搬出入物資取締制限の強化にありと考へられる。左に一ヶ年間の發着數量を記し物資移動の一斑を窺ふ参考とする。

驛別	手荷物	小荷物	計	手荷物	小荷物	計
一月	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇
二月	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇
三月	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇
四月	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇
五月	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇	一四,九七〇	三三,四四〇	四八,四一〇

六月	二五三	壹零元	四零五	九零元	五三圓	六八元
七月	二五七	壹零元	三二二	九零元	四零六	二四二
八月	二六八	一四三〇	壹四〇六	二六六	五一圓	四八圓
九月	二四四	四零元	一六六	二二六	五七圓	壹四元
十月	二六三	三零元	一六九	二四四	壹八圓	四八元
十一月	二六五	三〇元	一七二	二六三	三三圓	四八元
十二月	二四二	三〇元	一七五	一〇三	四零元	三三圓
年計	二六〇二	六六四圓	四四一圓	二四〇元	三三圓	五七元
△貨物運輸						

突然として展開された獨逸戰、之を契機として英米、就中米國は公認と授予、授養を敢行する一方、日米通商條約廢棄以來英國並に關印と結び資産凍結令の發動により東亞經濟に對する實質的經濟封鎖を斷行する一方、益々軍事上の脅威を増大し、以て我に挑戰せし爲遂に十二月八日の大東亞戰爭となり、斯くの如き狀勢下に在りし上海經濟界は強く刺激され諸物價の奔騰、法幣不安の激化、物資の移動を益々窮屈化し鐵道出口に大なる影響を及ぼして居る。

本年一月より十二月迄一ヶ年内の上海地域所在四驛（上海、麥根路、江灣、南上海）の貨物發着噸數に就て之を見るに、發送噸數三六・一、四四七・七噸、到着噸數五五・二、八九九・七噸にして昨年と比較するに發送に於ては甚だしく遜色があり、之れが全般の運輸成績に及ぼした影響は甚大であつたが、到着に於ては微減を示したに過ぎない。今之を別表に見るに次表の通りである。

別表 一號

備考	指數昭和十五年一月を二〇〇とする	穀		月計一日平均	指數	到着	
		月別	月別			月計一日平均	指數
一	月	三六六	壹	五	元六七	壹	五
二	月	六六六	一五五	五	三〇〇〇	壹	四
三	月	壹六六	一〇五	五	三六六	壹	四
四	月	四〇〇	一〇五	五	一六六	壹	四
五	月	元七	壹	五	元七	壹	四
六	月	元二	一五五	五	元〇〇	壹	四
七	月	四六六	一五五	五	一六六	壹	四
八	月	元六七	壹	五	元七	壹	四
九	月	元六七	壹	五	元七	壹	四
十	月	元六六	壹	五	元六	壹	四
十一	月	元六六	壹	五	元六	壹	四
十二	月	元六六	壹	五	元六	壹	四
計		元六六	壹	五	元六	壹	四

次に年内一萬噸以上の取扱貨物及主なる仕向地を見るに別表の如く上海より搬出さるるものは綿糸布、煙草、紙等の工業品が多く又全支最大の貿易港上海を經て奥地に搬入さるる石炭、餛油、砂糖等之に次ぎ搬入さるるものは麥、野菜、果物等の食料品を首め各種原料品が大多數を占むる狀況である。

別表 二號

發 送

のうちに年内、萬圓以上の取扱貨物と主なる仕向地を見るに別表の如く、年内より搬入されるものは綿糸布、煙草、紙等の工業品が多く又支最大の貿易港上海を經て奥地に搬入する石炭、鐵油、砂糖等之に次ぎ搬入さるるものは麥、野菜、果物等の食料品を首め各種原料品が大多數を占むる狀況である。

主なる着驛

紙	穀	肥	鳥	野	果	豆	麥	木	石
類	粉	料	菜	卵	物	類	類	材	炭
二、一三	一、五五六	一七、四四四	一〇、八三五	七〇、一八五	一九、五四九	一八、四六八	二四、七一二	三三、二八一	三五、三五六
燕湖、杭州、南京	南京、鎮江、燕湖	常州、鎮江	鎮江、當塗、南京	外跨塘、常塗、南京	蕪湖、臨平、嘉興	嘉興、杭州、長安	鎮江々邊、丹陽、無錫	良山門、杭州、南京	浦口、雲山、大崑崙
紙	煙	綿	布	草	織	油	砂	糖	著
類	糸	類	類	類	類	類	類	類	類
二〇八九二	二三三、一〇	二〇九五	二七九九五	一〇四九六	一六九八三	一六二三五	無錫、杭州	主なる發祥	二、一到
南京、鎮江、杭州	杭州、南京、崑山	常州、杭州、蘇州、南京	南京、蚌埠、蕪湖、蘇州	蕪湖、蘇州、鎮江、南京	鎮江、常州、蘇州、杭州	無錫、杭州	無錫、杭州	主なる發祥	二、一到

主なる發端

七、小運送

一、概説（支那事變以來の推移概観）

昭和十三年九月十九日、軍の軍事輸送の餘力を以て一般鐵道運

送營業を開始すると共に、日本通運では驛構内に於ける貨物の取扱事務及積卸作業の一切を請負ふこととなり、併せて一般小運送業を経営する爲、先づ上海に支社を設置して支社那に第一步を印したものである。爾來これに要する人員の整備とトラックその他營業施設の擴充に努め、軍需品の運送取扱を以て軍の作戦に協力すると共に、宣撫物資の輸送或は中支經濟再建の爲の諸材料の運搬等を遂行し、其の使命達成に一意邁進したのである。

而して昭和十四年當初に於ては海關、海批、蘇嘉、南寧、津浦、淮南各線の主要驛所に營業所を設置し、更に漢口、九江に於て江運貨物の取扱を開始するに至り、同年二月には一般民需貨物の集貨配運作業に着手すると共に、上海に於ては江海間と密接な連絡を取り、通關代辦業務を行ふ様になつた。

昭和十四年五月一日、華中鐵道株式會社創立後は、日本通運は軍鐵道局に引続き、同社と貨物取扱事務及貨物積卸、貨車手押しの他作業の請負契約を締結し、又七月には軍と軍需品の全面的運送取扱契約を締結する等其の使命益々重きを加へるに至つた。

一方昭和十四年十月には京漢線、同年十一月には粵漢線、翌年一月には南潯線が軍事輸送の餘力を以て、一般民需輸送に開放せられると共に、日本通運は旅客及貨物の取扱を軍に代つて行ふことになつた。

とゝなつた。

斯の如く事業の擴張と業務の重大化に伴ひ、日本通運は昭和十五年十二月一日、上海、南京、蕪湖、杭州、漢口、九江の六箇所に支店を設置し、各驛に於ける營業所、派出所を管轄せしめることとした。現在の組織は上海支社の下に支店六、營業所一五、回

清所一、派出所一四二、荷扱所一五、計一七九の店所を有するものである。而して其の營業範圍は

- 一、鐵道貨物取扱事務
 - 二、貨物積込、取卸、集貨、配達作業
 - 三、同清業
 - 四、通關代辦、貨物運送保險代理
 - 五、貨物引換證發行、代金取立
 - 六、貨物の保管
 - 七、トラツク供給、人夫供給
 - 八、其の他前各就に關聯する一切の業務
- 等であり、中支那小運送業の整備發達に最大の努力を傾注してゐる。

二、昭和十六年中の取扱數量

昭和十六年中に於ける鐵道貨物並に水運關係貨物取扱數量は次の通りで、治安の回復と經濟狀態の平常化に伴ひ、前年に比し著増してゐる。尙軍需品取扱、自動車供給、人夫供給等に就ての統計は省略する。

イ、昭和十六年中に於ける日本通運取扱

月 別	發 送		到 着		合 計
	小口扱	車 扱	小口扱	車 扱	
一 月	八、八六	一〇、五五五	八、四四	一三、三三	一三、三三
二 月	六、三〇	九、五五三	四、五五	一〇、五五	一〇、五五
三 月	九、三七	一三、六六	八、五五	一六、八三	一六、八三

八、都市交通業

一、種目 都市交通業

一、支那事變以來の推移概観

昭和十二年八月戦火上海に擴大と同時に、蘇州河以南地區に於ける交通は杜絶した。皇軍の上海完全占領と同時に之が復舊を必

月	一	二	三	四	五	六	計
昭和十六年中に於ける日本通運取扱海運	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	八、五五〇
關係貨物取扱數量 (單位噸)	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	八、五五〇
一 月	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	八、五五〇
二 月	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	八、五五〇
三 月	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	八、五五〇
四 月	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	八、五五〇
五 月	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	八、五五〇
六 月	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	一、四二五	八、五五〇

要とし軍の命令に依り昭和十三年一月一日より興中公司が車輛五輛を以て運行を開始した。其の後中支那振興株式會社設立と共に中支重要都市に於ける都市交通運送を目的とする華中都市公共汽車股份有限公司設立され、上海(蘇州河以南地區及南市)南京、杭州、蘇州、鎮江、無錫の六都市に於て運送を開始し、今日に及んで居る。

一、昭和十六年度概況

占領地區に於ける治安の確立及避難民の復歸等に依り著しき交通量の増加を來した。當社に於ては之に對應して運行時間の改正車輛の整備、擴充に依り輸送力の緩和を圖つた。一方昨年度に引続き、國際情勢は益々切迫化し、該社所要資材に多大の影響を與へ、特に燃料部門に於ける切迫は九月以降に於て激化の一途を辿り、燃料配給量は殆ど半減するに至つた。斯る變轉極り無き狀勢も、十二月八日大東亞戰爭の勃發と共に一變し、從來の英、米勢力一掃と共に新たな發足をなす事になった。

昭和十六年營業概況(自昭和十六年一月至九月)

- 一、車 輛 數 二四八輛
- 二、總走行杆數 六八七六、三三〇杆
- 三、乘客輸送數 二八、四二七、三八六
- 四、營業路長 三二、四杆

一、第三國勢力消長

昭和十六年度に於ける外國系交通會社、即ち上海電車會社、法商電車會社、中國公共汽車公司是増加の一途を辿る交通量に對して、何れも乘客輸送數に於ては、多少の増加を示したが、一方法

幣の低落、輸入資材の高騰に依り著しき經費の膨脹を來し、之が對策として、各社共一齊に料金値上を行つた。一般に昨年度に比較して營業成績は低下を來して居る。

一、大東亞戰爭勃發以後の見透し

昭和十六年十二月八日、大東亞戰爭勃發に依り、上海電車會社中國公共汽車公司是軍に接收され、爾來軍監督の下に運送中であるが、中國公共汽車公司是燃料供給の方法無く、昭和十七年一月八日營業を停止した。一方上海電車會社は唯一の交通機關として從來通りの運送を行ひつゝあり、當社に於ても燃料節約の見地より、北四川路、楊樹浦に電車運送を電車會社との折衝に依り開始した。今後に於ける見透しとして最も要望されるものは、從來蘇州河を中心に南北に二分されて居た、交通機關の一元化が期待せられる。

車輛代燃化に依りバスの輸送力は幾分低下を免れぬが、電車の一元的運送と相俟つて相當の輸送力を發揮するものと思はれる。バス代燃車の完全整備は本年度に於て完成され、從前運行せる程度の輸送力は保持し得る見込である。

九、損害保險概況

本年度上海に於ける損害保險界は米英蘭の對日資産凍結令及び大東亞戰爭の勃發に因り一大變貌を來した。即ち前者は本邦保險會社の第三國輸出入貨物に對する海上保險の引受量を極度に減少せしめ、後者は米英等敵國系保險會社の營業禁止により、本邦保

險會社が爾後其の後繼者として上海保險界の王座を占めんとするに至つたのである。

本年度中支一圓の治安は所謂清鄉工作の進展と相俟つて著々其の成果を挙げ、治安の確立を前提條件とする損害保險に對し之が引受けを助長するところ極めて多かつた。

今本年度損害保險の概況を保險種別により略述すれば次の通りである。

(一)海上及び運送保險

昨年度に引續き本年度上半季に於ては棉花、石油、米、石炭等の重要物資の輸入並に絹絲糸布、雜貨類の輸出旺盛なりし結果海上保險は相當巨額の引受を示したのであるが六月の資産凍結令以降第三國貿易の杜絶に伴ひ之が引受は激減せざるを得ざる状態となつた。上海を起點とする奥地鐵道輸送は可成りの活況を呈したが、反面之が輸送に伴ふ綿糸布類の喪失、不着事故は相變らず頻發の跡を斷たなかつた。茲に重ねて此の種喪失防止對策の必要を強調し此の際輸送業者の一段の善處を要望する次第である。下半季に於ては南支各港仕向のものの相當巨額に達したことは特筆に値する。

本邦損保各社は従來とも海上及び運送保險に付き最低正味保險料の取極なかりしため各社個々に之を徴收して居たのであるが、三月上海日本人損保協會に於て右の點を明確にした。即ち月貨契約の場合の海上及び運送保險の最低正味保險料を保險證券承認狀又はリスクノート一通に付金五拾錢と取極め爾後各社とも右申合せを遵守することとなつた。

(二)火災保險

中支に於ける治安の恢復並に生産機構の整備は本年に入り特に顯著なるものがあつたので勢ひ奥地に於ける火災の需要も相當旺盛であつた。殊に現地に於ける中支棉の收買機構の強化に伴ひ上海及び漢口を夫々中心とする其周邊市鎮に於ける棉花の火災保險は一段と其重要性を増して來た。仍て之が引受到應ずるため六月北支棉花火災保險プールを東京に結成し北支と呼應して中支棉花の引受消化機構を確立したのである。之により棉花保險に關する限り條件料率は一定せられ一地區に於ける棉花の收容量大なる倉庫は之を數個の特定プロツクに分け一プロツクの最高引受額を金二百萬圓と定めて以て極力荷主の火災需要に應ずる途を講じたのである。資産凍結令以後の火災保險は本邦各社とも其の引受量に於て上半季と大差なかりしものと見てよいと思ふが、其後大東亞戰爭の勃發により敵國系保險會社の營業禁止のため從來是等敵性保險會社に附保して居た華人及第三國人の本邦各社への契約移管は相當活潑に行はれた模様である此の點に徴しても本邦會社の多年企圖した大陸進出計畫も愈々實現の軌道に乗つて來たかの感がある。

上海外人火災保險協會に於ては十一月以降火保料率の一部引上及び一割の臨時附加率を徴すべき旨を決議したが同協會加盟本邦會社は非加盟本邦會社との對抗上日本人物件の引受到限り臨時附加率の適用を免除せらるべき旨の諒解を得た。

(三)自動車保險

本年度自動車保險の需要は、前年度に比し略々同等と見るのが

妥當であらう。而してリスク自體の觀點よりすれば一車全體の盜難(路上にパーク中のもの及び車庫内に休車中のものを盜去るの類)事故が頻發し、保險者として之が全損金の支拂を餘儀なくせるものありことは注目すべきである。今、共佛兩租界當局の發表に係る車體盜難數字を示せば次の通りである。

昭和十四年度	七車盜難	內三車發見
昭和十五年度	四六車盜難	內三〇車發見
昭和十六年度(上半季)	九三車盜難	內六一車發見

一 方部分品の盜難も頻發の傾向にあり而も現狀に於ては部分品の市中ストックは漸減必至と見られしため相當の値上りを來し同時に修繕費の昂騰を考慮に入れば現行クリフの Theft Excess \$60 は過小に失する嫌ひあり仍つ North China Motor Insurance Association に於て、之が對策としつ

(一)盜難エキセスの限度を従來の六〇元より一五〇元に引上

のこと。

(二)自家用車の盜難に因る一車的全損担保に就ては被保險車の評價額に對する一パーセントを割増として徴收することを決議し夫々實行したのである、但し同協會加盟の本邦保險會社の引受到に係る日本人物件に對しては前記(一)を適用せざることをとした。

(四)傷害、盜難及び附子保險

此の種特殊保險は各社とも未だ積極的に營業せんとする方針を見受けなげであるが一般の需要は漸次増加の傾向にあるものと觀察せられる。

前記四項の各保險種目を通じ本年度に於ける損害事故は概ね少かつたと言へる、從つて各社の營業成績は良好なりしものと見てよいと思ふ。

要するに永年上海に確乎たる地盤を築き穩固踞坐して居た敵國系保險會社は今回大東亞戰爭を契機として茲に一齊退陣を餘儀なくせられたので、今後中支に於ける本邦保險會社の活躍こそ期待するに足ると言へるであらう。

為替及び金融

一、爲替

一、重慶爲替政策の進展と上海自由市場の消滅

重慶政権の經濟政策が、常に法幣の對外價值維持の基本線に沿つて行はれ來つたことは周知の如くであるが、上海が所謂孤島上海として重慶政権統制力未達の彼岸にあつた爲に、上海爲替市場の自由性は重慶の戰時通貨インフレーションと云ふ基本的な底流の下に、一時三十億乃至四十億と稱せられた遊資を擁し、其の恣意的な活動は法幣不安に依る通貨逃避、換物投機となり事應は常に重慶の政策と背馳した方向に趨つた。

客觀狀勢の惡化、即ち米國を中心とする國際情勢の惡化、皇軍沿海作戦の進展、中央儲備銀行の設立、日蘇條約の成立、樞輔國の新政權承認等の材料は益々この傾向を助長し、一月に於ける第四次爲替賣止より爲替は軟調の一途を辿るに至つたのである。

遊資の活動に對しては奧地經濟建設の爲の資金内移が盛に勸奨せられたにも拘らず、其の條件の劣惡と、遊資自體の非生産性の爲殆ど不成功に終り、斯くの如き情態に於ける上海市場の自由性存続の爲には法幣安定政策は絶えざる動搖と崩壊の危險に曝されねばならぬ。茲に上海市場の自由性の犠牲に於ける之が管理と統制は重慶爲替政策發展の段落に於て必然に要請せらるべき結論で

あつた。

七月英美兩國に依り採られたる資産凍結は、永い間繁榮を誇つた自由市場上海の特殊性を完全に覆滅した。其の担ひとする所は（一）邦商の外貨獲得の機會剝奪（二）法幣を通ずる資本の海外逃避の抑壓（三）英米の支持に基く他力的爲替管理型態の採用であり、其の裏に見出さるゝ意義が重慶政権爲替統制力の一元的擴充であり、其の基底とする所は上海を重慶政権の統制下に包含せしめんとする點に大きな意味を有する。

其後相繼いで生起せる諸々の事實、例へば外匯審核所の變貌、商業相場の廢止、爲替制當制の實現、政府系銀行の爲替能力増強及貿易統制等凡て此の觀點に於ける一の共通地盤に立つものと見られよう。然し乍ら斯かる統制の進展、自由市場の消滅が果して重慶統制政策の成功を約束せるものであつたらうか。

上海市場に對する貿易の統制、爲替の管理に依つて、法幣の對外價值は一定の公定相場に釘付けはせられたが、生産流通の内部的機構が依然從前の自由經濟的基礎に放棄せられた結果は、輸入物資の不足に基く一般物資の退蔵、換物投機の促進より、物價の昂騰、生産の衰退を惹起しインフレーション的效果を増大、法幣の對内價值は益々下落するに至つたのである。

重慶の戰時爲替統制力の一元的擴充と云ふ點よりすれば、かゝる上海市場を重慶の統制下に存続せしむるのも、亦上海を放棄し

て爲替及貿易市場を撲滅し奧地經濟開發に安定資金を流用するの、等しく戰時統制の進展であり、此の故にこそ重慶の一部には強硬なる上海放棄説が生ずるに至つたが、安定資金其のものは最も端的に云へば、中支に於ける英米既得權益保存の爲の擬裝手段に過ぎないものであり、重慶の統制政策が安定資金運用方針に於て英米と對立したことは興味を惹く問題である。

上海市場が從前の自由性を喪失し、物資の充分なる輸入不可能となり奧地經濟への參制が停止し、且つ市場が前述の如き混亂を呈するならば、之は經濟機構の根本的な變化であり、根本的な對策が要求せられねばならない。應急策としては工部局の物價統制を見るに至つたが、其の對策の樹立を俟つ迄もなく十二月八日上海市場は一瞬にして日本の支配下に入り、上海の歴史的自由性は完全に消滅し、法幣は其の對外價值を喪失し、上海は東亞共榮圈の自主的確立と云ふ日本の使命の下に更生することとなつたことは、重慶統制政策の高度化と云ふ事象にとつて、極めて皮肉な結果であつたと云はねばならない。

二、市況

一月 中央儲備銀行の創立發表直後より換物人氣拾頭、爲替も買慕はれ、十六日匯豐銀行は第四次爲替賣止を行ひ相場ノミナル三%五%に低落
二月 米國の武器貸與法案の上院外交委員會通過、在米外國資金凍結

案に對する大統領署名手配完了、五千萬米弗對支借款の決定米國參戰應金濃厚等、米國を中心とする國際情勢の緊迫に加へ、年末を控へ買持筋の賣戻に相場一般に強調三%、五%迄昂騰
三月 市場閑散保合の處、租界銀行テロ事件、平衡資金サポート放棄説等の爲若干軟轉
四月 日蘇條約成立、重慶四行休業、皇軍沿海作戦進展、英米借款成立等の強調材料幅輦に底意軟調乍ら小浮動大凡三%、五%見當
五月 米國參戰説、日支和平説に投機筋賣進み最高三%五%と跳上り
六月 外銀の防戰買に底意堅調乍ら平穩に越月
獨蘇開戦のニュース、獨伊兩國に對する米國資金凍結もさして響かず月央投機筋邦人銀行賣つて三%、五%迄昂騰したが後平穩、香上銀行は建値を三%、五%に變更した
七月 在米資金凍結の報に相場若干浮動したが新規取引少く、市場は各種ルーミー交錯し一般に成行待にて氣迷状態
八月 八月に入つて棉花、油、煙草の實需盛に出廻り買物殺到、香上銀行は建値を二%、四%に引下げ、月央に至り三%、五%の公定レート發表と共に外銀筋一齊に賣止め市場混亂したが、後開市場大體二%、四%見當にて實需買一方に相場は連日軟化した

九月

英米系銀行は開市場より退場して為替開市場は一應消滅、公定相場三%、五%にて市場殆んど無為、下旬對英公定相場は五%に引下げられた

十月

公定相場依然不變、安定委員會の爲替制當は上海の需要を充たすに足らず、英米香港經濟會議に對する悲觀的觀測は益々法幣不安を醸成し、米弗紙幣買入氣旺盛となり三九・五〇元の新高値を示し軍票亦投機の対象として採り上げられ、三十九圓%から三十三圓迄昂騰した

十一月

公定相場は依然不變、米國陸戰隊引揚に租界不安入氣益々激化した、米弗札は英米兩國對支貿易統制實施に依り、米弗手當の輸入不可能となつた爲二十九元迄下落、軍票は盛に買廻られ二二圓%迄昂騰したが後利喰賣、日米交渉好轉、日支和平のルーマに買手見送りにて二十七圓%迄戻す

十二月

對英米開戰、皇軍の租界進駐に依つて英米重慶銀行は接收せられ、爲替市場は消滅した。邦人銀行、中立銀行、華人銀行は十五日迄休業した。軍票に對しては十六日より公定建値二五・二五%發表せられ、市場も大體基準相場に附隨、米弗札は十八弗迄下落した。

二、金融

上半季にあつては二月爲替實需手當の決済に一時匯割引率の昂騰を示したが、一般に尤大なる遊資の處分難に金融基調は緩慢匯割引率は五月以降消滅し却つて匯割にプレミアムが生ずるに至つた。資產凍結後は法幣の外貨兌換性軟弱化に換物入氣抬頭し、双十節前後拆息は十一仙迄昂騰した。大東亞戰爭勃發後一時引縮を見せたが市場の沈滞の爲相不變の緩慢狀態を續けた。

一九四一年	匯割引率 (單位弗手當に付)	拆息 (單位仙・日歩)
二月十三日	五・五二六五	〇・〇八
三月卅一日	五・〇〇	〇・〇七
四月廿五日	七・〇〇	〇・〇六
五月二十四日	一・〇〇	〇・〇六
六月初旬匯割は却つて四一弗プレミアムが生ずるに至つた		〇・〇三
六月二十八日		〇・〇四
七月二十五日		〇・〇二
八月二十三日		〇・〇五
九月二十五日		〇・〇八
十月卅一日		〇・〇五
十一月廿九日		〇・〇六
十二月廿七日		〇・〇六

工業概況

一、概説

上海が全國工業の中心をなし、事變を経過したるにかゝらずよく從來からの地位を保持し得たことはその環境の特殊性によるものである。

昭和十六年前年の情況に較べるとそこには既に困難な條件の増大が見られ、生産はすべて減退を來してゐる。新工場の開設は稀有であつて在るものは機構の改組に止まり、舊來からの工業に於て原料の入手難から閉鎖するものが續出してゐる。それらの最も顯著なるものは製絲及び麵粉工業であつた。

本年に於て操短を餘儀なくせられたものは紡績、電器製造、機器鐵工、化學品、塗料、蠟燭、石鹼、卷煙草、毛紡織、染織、製罐、製革等の廣汎な諸部門に亘つてゐる。

その間操業をよく繼續し得たものは僅かに絹織、ゴム、製紙業のみであつた。

本年に於けるその盛衰を季節によつて比較すると、年初の三個月間を最佳として、四月より六月間には既にその減退が行はれて以後毎況愈々惡化の一途をたどり、困難なる情況が幅廣して繼續してゐる。こゝにそれらの主要な原因を概説すると次の如くである。

る。

(一) 石炭、電力の節減

上海の工業に於ける毎月の石炭、電力の需要は巨額なものである。

本年に於ける國際風雲の緊張による海上の船舶運輸の漸減は、上海の工業用石炭を目増し缺乏へと導いた。

電力公司發電所に用ふる石炭は開源公司より毎月供給されてゐるのであるが、その數量も過去に較べて減少し、毎月發電用としては僅か二萬五千噸となり過去の半數に過ぎないものとなつた。該公司の貯藏準備せる石炭を三月の統計でみると十五萬噸であるが、其後の國際情勢と運輸狀態から考へて決してそれ以上の増加は豫想し難く、茲に工業用電力の節減が問題化せられるに至つた。すべてモーターの新設は受付を停止し、所有の電力も一千キロワット以上を使用せるものは、昨年の最も使用量の多き月の百分の三十を縮小せられ、若しその百分の三十を超過する場合は三倍の料となし、其の後五月に又百分の五十を、八月には更に百分の七十を縮減するに至つた。

石炭は無煙炭の海外に仰ぐものの逐次減少せるを別として、淮南などから供給するものも工場側の需要を充し難く、石炭と電力の不足による諸工業への影響は蓋し深甚なるものがある。

電力会社の統計によると工業用電量は毎年總電量の百分の八十前後を占めてをり、各種工業部門中その使用量の最多なるものは紡績業で、毎年百分の七十餘を占め、その他は麵粉、木材、製紙、ゴム、機器、卷煙草、榨油、製糖、製氷など合計百分の三十を占めるに過ぎない。

石炭の需要も紡績業が筆頭で工業用石炭の百分の七十三強を占め、その他は染織、メリヤス、製紙業などが占めてゐる。

而して本年の屢次に亘る石炭、電力の節減によるそれらの不足は、當然各種工業の活動を制約したことは云ふまでもなく、故に生産方面に就いては下半期を上半期に較べるとその減退の差が著しく目立つてゐる。

(一)原料の入手難

本年に於ける原料の入手難は前年よりさらに甚しいものがある。上海工業の原料はもとより國內外に仰いでゐるが、それらの供給は逐月減少を呈し、五、六月以降は特に甚しさを加へてゐる。それは一昨年の英佛の敗戦後、英國及びその植民地は原料品の船舶への流出防止から、厳しい統制を施行したため、國外原料の上海への輸入は、すべて英領事館の許可證を必要とするに至つたからである。

又、輸入数量も制限せられ、即ち英、澳の羊毛、南洋及び蘭印の錫、ゴム、銅鐵などがそれである。

米國も昨夏日米關係の緊張後對上海向けの銅、鐵板、鋳力及び一部の化學原料に厳しい統制を加へ、七月二十六日にはさらに米國の中日資産凍結が行はれて輸入品の爲替申請に制限を設ける等

工業界が受けたる相續く打撃は極めて大きいものがあつた。十二月の大東亞戰勃發はその在庫原料をも封鎖するに至り、諸工場は未曾有の苦境に當面した。又國內の原料に於ても、蠶繭、小麥、落花生、胡麻、棉實、木材、皮革、棉花、藥煙草など軍によりその各産地よりの自由搬出が制限せられ、且つ船舶の不足などから上海各種工業中その影響をもつとも受けたるものは製絲工業であつた。

その三、四月間に操業せるものは僅か三軒で六月に入つてからは全部停工してゐる。

其の次が麵粉工業で下半期に於て所有せるところの在庫麥は十月間には僅か數日の操業に漸く堪へ得るに過ぎないものであつた。その他はエナメル、製罐の鐵板、皮革業の牛皮、ゴムなどの原料、又は製糖の糖卵、榨油業の棉實、落花生、毛紡織業の羊毛などに於ても不足を來さざるものはなく、すべてはその最低生産限度を餘儀なくせられ、しかも十一月にははや停工に立至つてゐる。

(三)交通の困難と販路縮小

上海の各工業製品は國內外にその販路を有し、すべては輸入の船舶を俟つて出荷せられてゐるが、昨年各地港灣が封鎖せられ、英、獨戰爭の激化は、外洋船舶の屢次の徴用を伴つた。故に昨年の噸數を外洋を往來せるものに就いてみると、既に一昨年の一千五百萬噸より一千二百萬噸に減じ、その沿海を往來せるものは一昨年の六百五十萬噸より五百萬噸に減少を見てゐる。

過去に於て香港、浙江、上海、福建及び長江下流沿岸の如く未

列記すると次の如くである。

品名	本年度輸出額(十個月)	昨年度輸出額
生絲	一七三、三四九	二五一、〇五一
綿布	一九二、九一五	七九、〇四五
金屬製品	一五二、六八四	七五、六五九
蛋製品	三七、五九五	七一、九七四
絲織品	一三六、七三三	七〇、七五〇
其他絲織	一九、五二〇	一〇一、六七三
茶葉	三二、一一二	四二、二〇九
植物油	三七、五三四	三八、九一四
化學品	四二、七五五	三四、九七四
絹織品	五三、五八四	二五、九一三
其他紡製品	二七、七二二	一八、六七八
電氣用具	一一、九七六	一七、〇六五
紙類	一一三、〇四三	一三、三四一

(四)生活費騰貴と購買力低下

上海の人口は華、外人合せて五百萬に達し、その消費力は輕視し難いものである。麵粉、毛織の如き食料品及び衣料品などの生産品は一部の再輸出せるものを除き、すべては上海に於て消費せられてゐる。

本年の労働者の生活費指數は昨年の百分の五七九に對し本年六月には既に百分の七七二を示し、十一月には百分の一、一一七に達してゐる。

即ち給料に依つて生計せるものはその収入によつて支出を維持

以上の如く各種工業は多岐な事由による多様な影響を蒙つた。國內の再輸出は、海關の統計に於ても参照すべきものがないが輸出は本年十ヶ月間の統計を昨年全年のそれと比較するとほぼ超過になつてゐる。

その超過の第一の原因は生産品の價格が昨年より倍加してゐることによるものと、第二の原因はその數量が南洋、新嘉坡、印度などの需要旺盛により増加してゐることによるものである。而して多くは八月以前に輸出せるものである。茲にその主要なものを

し難く、従つて工業製品の賣行きも自ら過去に於ける如き好調を缺き、工業生産品の消費力減退の原因をそこに伴つてゐる。かくの如く工業生産はその消費力の減退により生産額の縮減を餘儀なくし、従つてそれは労働者の生活に脅威を與へる結果となり、労資間の紛糾を惹起するに至つた。そのために本年は罷工、停工などの事件が特に多く見受けられる。

工場はこれらの影響により生産を減少し、その負担の増大を見たることは又昨年に較べてさらに著しきものがある。

こゝに三期間の生活費指数を比較すると次の如くである。

	食料	家庭	衣料	其他	總指數
二十九年十一月	六三三	六六一	四八七	四三三	五五七
三十年六月	六三九	六三三	四八七	四三三	五五七
十一月	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三

上述せる如き數項が上海工業の停滯の主要な原因である。即ち米國の日支資産凍結、安定資金委員會の原料品輸入に於ける爲替申請の制限、並に輸出禁止により各種工業は次第に停頓の狀態を露出しつゝある際に、日米の戦争勃發は國際情勢を激變せしめ、國外の販路を全く杜絶し、英米系の商社はすべて監視を受けることとなり、同時に金融方面に於ては預金拂出に制限が設けられて商業はその活動力を喪失し、就中生産事業の受けたる打撃は特に大きかつた。

そのために工業界はかかる情勢下に、極力當局の支持を得たるにもかゝらず、遂に環境の歸趨に従はざるを得ずして、停工、休業せるものを續出した。而して年末には紡績、卷煙草、絹織、

マリヤス、ゴム、毛織各工場とその他一部分の操業せるものを除き、其の殘餘のものは全部停工した。

右の如く本年各種工業に於ける國際情勢の激變と上海經濟の屋次の變動によつてもたらされた生産事業の停滯を業種別して各々その一年間の動態を分述すると次の如くである。

(一) 紡績業

上海紡績業は工業部門中の首位をなし、全埠の華、外商工場は合計六十四軒、紡績數二、一八六、〇二六錠、織機二六、八〇六台その中、華商紡績工場二十一軒、紡績數計六六、六〇八錠、織機一八、五二五台、日商及びその代理經營せるもの計三十八軒、紡績數計二、一六六、〇二六錠、織機一八、五二五台、その他は英商五軒、紡績數二四一、〇〇〇錠、織機三、六八六台である。總紡績數に就いて云へば華商は昨年より一、九四〇錠の増加で、その他は増減なしである。

本年に於ける紡績業の活動狀況は、年初の稍減退せるを除き、春季の賣行なほ旺んであつて各工場は一樣に以前の生産額を取戻してゐる。三月に於ける景況は昨年度の最終の三個月間に於けるものをなほ超過してをり、四月には華商に於てさらに錠數、織機の増加を示してをるが、電力会社が節電を行つて以後は各工場の生産額は俱に減退し、同時に英商新怡和が罷工し、又華商の大工場は操短してゐる。

七月には物價昂騰により香港向けの販路が活潑となり、工場側はその刺激を受けて一時生産を増加するに至つたが、其の後の原料の缺乏に伴ひ、奥地物資移動に統制が加へられ、これに繼い

で海關の輸出禁止が行はれ、怡和、鴻章などはすべて労働争議を發生して、十一月には公大第四廠が失火し、該業活動の減退の原因をなした。

本年に於ける綿絲の生産額は三月の七四、〇〇〇餘捆を最高とし、十月の五六、八八八捆が最低となつてゐる。綿布の生産額は三月には一一五萬疋であつたが、十月には八六萬疋への減少である。然し最近の情勢の特異性より推してその生産額の低下はさらに増大するであらう。

最近の二年間の生産額を比較すると次の如くである。

	二十九年平均(捆)	三十年平均(捆)	減少百分比
華 廠	二〇、〇一六	一九、九五九	三〇・一
日 廠	二九、六五三	二五、六二〇	六・一
英 廠	三五、四六二	三三、〇八八	三七・七
華 廠	二九、〇七六	二八、四一七	二・八

右表に據ると平均生産額は昨年より減少してをり、就中日商紡績工場のそれが最も甚しい。綿絲は百分の六一・一、綿布は百分の五九・六の減少で、その次が英商工場である。華商工場が最少で綿絲布各々約百分の三十の減少となつてゐる。但し表記の本年に於ける數字は十個月間を計上するものであるから、なほ最近の二個月間の狀況を考量すればその減少の程度は上述のものより更に大きなものとなるであらう。

綿絲布の販路は八月末の輸出禁止に遇ふ以前、春季に於ける皇軍の北海上陸による浙江、福建の封鎖線の擴大によつて、先づ最

初の打撃を見、四月に入つて奥地輸送の道が阻止されて、さらにその決定的影響を蒙つた。しかし六、七月は香港、大鵬灣等を経由して奥地輸送が行はれてをり、此の外に泰國、印度、フィリッピンなどの販路も弱からず、又日商綿絲の台灣向輸出せるものが夥しき數に上つてゐる。

北支、中支はバーター制のために華商の取引は困難であり、八月以後は海關の斷然たる輸出禁止によつて、上海の紡績業の命脈は僅かに本埠をもつて唯一の活路となすに至つた。換言すれば、その過去に於ける好況は結局一時的な現象であつたと云ふべく、本年に於ける二十支綿絲の價格は年初の一、三四五元より十一月の三、二〇〇餘元、十二支綿絲の三十九元より一百元以上の昂騰振りにはむしろ奇蹟的な事柄に類するものであらう。

資産凍結後外國爲替の相場暴落と棉花の輸入困難は遊資と投機の弊害を無制限にした。

該業の原料は、支那棉としては火機、太倉、崇明、下沙、姚花通州、安慶、烏江等毎月平均四萬担足らずで、大部分は印度より輸入し、米棉巴西が之に次いでゐる。海關の統計によつてみると本年の輸入數量は非常な減少を示してをり、昨年全年の輸入合計二百三十餘萬キントルに對し本年十個月に輸入せるもの僅かに一百三十七萬餘キントルに過ぎず、昨年の半數である。

その原因は勿論紡績工場の毎況の操短によるものであるが、又國際情勢の激變に伴ふ船腹の不足により各業者は成行きに對し傍觀的となつたことなどによるものである。

若し紡績工場の毎月の消費量を二十萬担としてみててもその不足

工業概況

は免れず、結局毎況操短によつて、辛うじて現在の在庫高をもつてなほ三、四箇月の消費に供するの外はなかつた。
該業の本年に於ける景況は昨年の好調には到底匹敵し難く、價格の昂騰を見たるもその時宜を失し、昨年の利潤率には遠く及ばない。

(一)染織業

上海の染織工場は僅かに紡績業に次ぐもので、合計三百六十餘軒、機數約四千台、本年頭初に新設せるもの計二十二軒、資本計一百五十餘萬元、共有機數五、二六台、毎軒平均資本七萬元である。然し既設の中小工場の中、既に停工せるもの二十餘軒あり、該業の凋落は既に昨年よりその徴候を露呈しつつある。
本年に入つてからも國外への販路は依然停滞し、且つ浙江の要路温州、寧波が最初封鎖を受け、後に攻略せられるに及び販路の狹隘は異常なものとなつた。
その後重慶側は奥地物資の極度な缺乏を見越し上海工業製品の奥地吸收を計り、以前に禁止せる日商の綿絲布及び獨逸の顏料、擦染の綿布を解放した。が然し此の時は上海に於てこれら獨逸の顏料及び化學顏料が缺乏せるためその價格の昂騰を來してゐた。重慶側が製品を吸收を企圖するも、要路はすべて遮断せられてをり、且つ製品は需要のみに終始して、同業者間の軋轢を激成し、いたづらに價格の昂騰を現出した。
そのために七、八月には染織工場の大部分は停工し、綿布工場は操短して漸くこれを支持したが、それも綿織品の輸出禁止に當面して半數は停工するに至つた。

年末の二箇月間に運轉せるものは僅か二千台前後で、その生産額に就いてみると、上半期の平均毎月八十萬疋を保持するに對し下半期は四、五十萬に過ぎない。
従つて本年の生産額は毎月約五十萬疋平均として昨年に較べるとその半數である。かゝる不振のよつて來るところのものは結局販路の閉塞にそのすべてを見出してゐる。

(二)製絲業

上海は曾つて製絲業の一時の全盛をみたことがあるが、本年頭初より六月間には終始三、四軒の操業をみるのみで、虹口の日商工場と合せて十軒足らずである。
華商工場の主なものには怡和、鴻大、大陸、上海宏利等であるが、その蠶絲車は未だ千台以上を超えたことがない。
此の落莫なる有様は上海工業の前途の凋落の前觸れを暗示するものがある。その生産額は昨年に比較すると甚しき低下が見られそれを過去の本絹製品を生産額に徴してみればさらに一層明白となる。

上海絲業のかくの如き衰落の所以を歸づけると(一)華中蠶絲公司の嚴重な蠶繭の統制により蘇浙產蠶區からの收買が困難となり僅か少數の裕餘せるものに依存してゐること、(二)輸出制限によつてすべては華中蠶絲公司に屬する工場の製品以外は檢査を受けて自由に輸出することを得ず、(三)歐洲戰爭の擴大によつて英、米、佛向けの販路狹少し絲價が下落したるにも拘らず、貨銀は値上を見、過去に於ける如き利潤を見ることが不可能となり各工場はその經營の關心を喪失した事、(四)絹織工場に於ける本絹の織

工業概況

造が漸次減少せるため上海に於ける販路も收縮したこと等である上海絲業界の斯くの如き不振は華中蠶絲公司にも當然反映し、その營業成績は昨年の好調に遠く及ばない、該公司の三月の開工後に於ける蘇浙兩省の蠶繭の收穫は不良であり、秋繭を收穫して繭絲後には日米關係漸く緊張して、資産凍結が行はれ國外の販路は阻止せられるに至つた。
海關統計によると本年の生絲の輸出額は去年同期のものに較べて百分の二三・四の減少である。
昨年全年と本年十箇月間を列記して比較すればその大概は窺知し得よう。

國別	二十九年	三十年(十個月)
英國	二五〇、二八一九	一、七〇二、二八一
米國	二四五、九一七	一四七、七〇二
印度	二八九、〇一六	二七二、三八二
佛國	二六、一八七	三、三七三
其他	二二九、七八〇	一七、三三三
總計	三、五二八、七一九	二、二九八、〇六〇

(四)絹織業

その操業せるもの常に二百五十軒前後あり、機數約二千四百台、大工場に於て操業狀態及びその生産額が環境の推移によつて逐次衰退せるものは別として、該業は比較的小工場が多數を占めてゐることから、その盛衰常ならず、本年は新設せる工場は皆無に等しかつた。

が然し停休業するものもあるも、またそれを繼承して經營するものがあり、即ち該業の特徴は小資本をもつて容易に經營し得ること

とが其の一、絹織品の種類多様にして國外に輸出しなくとも上海及和平地區にその販路を見出してゐることが其の二、該業の原料は一時缺乏を告げたが然し英米の需要減少に伴ひ、國內需給に餘裕を生じ且つ本年は國內絲價があまり騰貴しなかつたことが其の三、等に基因して該業はよくこれを支持することを得た。
次にその生産額に就いてみると電力節減による人絹の不足と價格昂騰及び生活費指數の上昇は美亞、美文、勝德等の諸工場に労働争議を引起してその生産額を減少せしめた。

產品	三十年(百分比)	二十九年(百分比)
本絹製品	四・二%	四・四%
人絹製品	三三・二%	三八・五%
交織製品	五三・八%	五七・一%
其他	八・八%	—
總數	一〇〇・〇%	一〇〇・〇%

該業の需要原料は二十乃至二十二條紋が約四千元、輯里絲が約三千元である。

これらは十月十一月に一時騰貴し、そのために賣惜みが行はれて價格昂騰をみた。該業は緊急なる部門に屬せざるも、人絹はその製造不足と日貨の供給減少と軍票の値上りのため暴騰して、一二號が一、千餘元より四千元となつた。

然し諸製品の價格もひとしく暴騰をみたため、該業のみ相當な利潤を得るには至らなかつた。

本年に於ける絹織品の販路の多くは安南、泰國、新嘉坡等で輸入制限に遭つてゐるにも拘らず、輸出の増加をみてゐる。此の外には上海に於て總生産額の百分の二十が維持せられ、その他は長江流域が未だ嚴重に統制せられる以前江北、京滬、滬杭一帶の需要が百分の二十前後を占めてゐた。

國外向けは香港が首位で三四〇、九三九公斤、價格一三、二五四〇〇四元、その次が印度の二九九、〇一六公斤、但し價格は前者を超過して一三、四七七、二八二元となつてゐる。その次が泰國の七七、九三六公斤、價格五、一六一、八九一元である。

十個月間の輸出總額は合計五、三五〇餘萬元で昨年全年の輸出總額二、五九〇餘萬元に較べて二倍となつてゐる。

(五) 毛紡織業

該業は合計四十八軒その中、華商が四十軒を占め、その他は外商の八軒である。これを更に分けると毛織物業が二十七軒で毛絲専門のもの、紡毛その他を兼ねるものが合計六軒その他はすべて毛織工場である。

華商各工場の資金の總計は一千一、二百萬元前後、外商は僅か八工場に過ぎないがその資金の豊富なことは華商の到底企及し得ざるものである。全埠の毛織機数は華、外商工場を合計して約一千台を數へ、此の種設備の整備に於ては事變以來の最高記録をなしたが、惜しいことは本年は海外よりの原料供給が英、濠に於て制限せられ、國內の供給も交通梗塞により又減少したことである。そのために操業の程度は昨年に較べて著しく縮減された。八月以前は大抵復業をして注文の多い工場はこれを支持したが

その後は復業も毎週三日の割合となり、十月以降は復業全部を停止するの止むなきに至つた。

毛紡織工場は外商密着を除きその他の華商安樂の如きは早くから停頓して人絹の生産に従事し、裕民は原料不足で停工し、上海毛織廠は大巾操短をみた。此の外の十餘の毛織工場もさらに營業はす、三、四、五、六月はひとしく不況裡に経過した。

その後操業を欲するものもあるも各種情勢は上半期より悪化し五六軒の工場再開せるも羊毛の獲得容易ならず、又販路は停滯し、如何ともし難き状態の下にあつた。

その織物の中に就いて推量すると昨年約一百七十八萬碼であるから、本年は羊毛及び毛絲の輸入減少を考慮して、少く見積つても四割の減少とみるべく、その生産額は多くとも一百餘萬碼に過ぎぬであらう。

毛紡織の原料は毛織工場の紡織せる羊毛の浙江の吳興、杭州附近一帶となほ少數の密輸せるものから供給されたものを除き、その他は英、濠州より輸入されてゐたが、本年英、濠州の輸出統制の強化と歐洲戦争の擴大による東亞時局への反映は往時の比にあらず又資產凍結後は輸入品の申請を困難ならしめ、そのために昨年同期に於ける羊毛の輸入は計一、七九五、八七六公斤に對し本年十個月間に輸入せるもの一、二五〇、九九七公斤で半数以上の減少である。

羊毛絲の輸入も激減して居り、原料のみに就いてみても該業の生産額の減少は疑ひ無きものであるが、製品品の價格昂騰は莫大な利益をもたらした。

其の四倍の増加であつた。

但し小麦の輸入は之に反し本年は五二二、九一九キントルで昨年同期の一、三三五、二二二キントルに對し減少の程度約一倍以上となつてゐる。

(七) 卷煙草業

卷煙草業も本年は逐次不況となり昨年とは比較にならぬものがあつた。

華商工場の筆頭をなす華成、南洋の如きも前後して德興、利興、德隆、匯業、大東等の諸工場に製造を委託した。が工場と機械を有する規模の大なる福新、大東等も、奥地の統制嚴重となるに伴ひその販路を失し、さらに労働争議を誘發してゐる。

葉煙草は未だ缺乏してゐないが、捲紙の供給に既に恐慌を生じ又美倫捲煙廠は一度失火したることなど錯綜して、此のために該業は苦境に陥つた。

英米煙草工場は華北の日商煙草工場の進出に伴ひ過去の擴張力を抑制せられ、且つ本埠日商工場の華盛、東亞等の異常な活躍振りが大きく反映して華、外商の退陣を餘儀なくせしめた。

上半期に於ける華商四大工場の毎月の平均なほ六千箱前後を産出したが、その後は四千箱前後に減少し、最近既に三千箱にも達しない状態である。

英米工場又然りで、僅かに日商工場がひとり順調な生産を續けてゐる。各月に就いて見ると、本年は一月の生産額が最高で、次が十月、三月は全部停頓しており、昨年の總生産額に較べると百分の二十七の減少である。

その主要な原因は販路が本埠のみに局限せられ、且つ此の種製品は原料の輸入が減少し外國爲替が下落したため久しく遊資を擁してゐたものの垂瀝措く能はざるものとなつたことによる。その他は僅か華北、長江下流各都市及び京滬杭一帶に少數の賣行をみた。

(六) 麵粉業

本年の麵粉工業の最大の困難は小麦の入手ができなかつたことである。

地場麥の收穫は不良の上に搬出が禁じられ、外國麥は船腹の不足で減少したため華商の兩大製粉系は早豐の年初改組を行つてより未だ製造を開始せざるを除き、福新及び華豐は臨時に操業を行つてこれを支持し、而して上半期は平均毎月僅か九日半の操業で産出せる麵粉は約一百萬包、その中には工部局の廉賣粉が二十五萬包含まれてゐる。

下半期は七月より十月迄原料不足で操業されず、十一月間に兩工場の合計八萬餘包に過ぎず、故に華商に於ける生産額は全年を通過して平均毎月僅かに九萬包のみであつた。

日商工場の生産額は近郊より小麦の入手が比較的便利に行はれたため、毎月の生産額はよく五十萬包乃至七十萬包を維持した。但しその中百分の七十は華北向の輸出に係り、パートナー對象の一環に供せられた。

此のために本埠に於てはその大半の需要を洋粉に仰ぎ、十個月間にその輸入せるものは八十八萬キントルに達してゐる。昨年全年の輸入は二十二萬餘キントルに過ぎないから、およそ

華商工場は百分の五十以上の減少である、即ち昨年の總産額四十一萬箱に對し本年の總産額は僅か三十二萬箱前後に過ぎない。

(八)皮革業

該業は合計八十餘軒で華商を代表せるものは精益、業益、中南、老永森等の諸工場である。

該業は昨年より既に牛皮の購入に困難を感じ、局面的推移に伴つてその困難を増大した。

當初華北からはなほ青島、芝罘等から供給をみてをり、浙江省は江北一帯を除いてもなほ寧波があり、その他にも一部分密輸せるものから補給を受けてゐた。

がその後長江以北が統制せられてからは専ら寧波のみを唯一の供給地として頼みにしてゐたが、四月に陥落してから該業の死命を扼せられるに至り、遂に路を海外に轉ずるの外なく、香港、海防、泰國、マニラ等に活路を求めるに至つた。

而して英國が四月にさらに牛皮の香港よりの再輸出を禁止することを命じたため、かくして最後に残るは西貢と泰國からの少數の供給に係るものとなつたが、しかしその注文せるものも何時着荷するか一定し難き有様で、少くとも二、三ヶ月は經由するものと見られ、且つ上海に於ては皮革に用ふるタンニンが甚しき缺乏を告げ、之の英米からの供給も早くから杜絶してゐる状態であつた。

が年初各工場は鋭意努力して五、六月には半開工するものが二分の一を占め、小工場に於ても四分の一の操業を見た。

ガソリンが漸く嚴重な取締を受けるに及び、愈々その低下の程度を深め、以後の二ヶ月間にそのものも大きな變化が行はれた。が然し本年は尚昨年と較べると大した差異は認められない。

(一〇)五金機器業

該業の範圍は至つて廣汎である。鑄物、電氣機器、基本工作機、各種機械の部分品などのすべてに亘つてゐる。

全上海では計一千三百軒あり、英國からの鋼鐵の輸入が一昨年六月以後杜絶して、米國も又秋より輸出禁止を行つたため五金機器の原料は電池、電球、無線電信機、錄音機等諸原料の一部分を除き、總ては本埠の在庫品にのみ依頼することとなり、而して懷中電燈、電池類は早くから輸出を禁止せられ、その生産は大量減少を來して僅かに労働者の生活を維持し得る程度となり、其他モーター、電氣機器、各種の機械類は英領印度、南洋、香港同輸出が巨額に上つてゐたが、これも四月に於ける海關の輸出禁止が太きく影響した。幸ひにも今後は華北向けの販路が活潑であるが、再三の電力節減で石炭の價格昂騰し、鋼鐵原料の暴騰は境を知らず、且つ海外への輸出解禁の望が失はれてゐることにより、十月には既に百分の五十以上の停工を生じてゐる。

昨年に較べその衰退は著しく、一昨年初頭の状況を彷彿せしむるものがある。

(一一)今後の希望

上述せる如く各種の工業生産の本年の景況は昨年には遠く及ばない、而して表面その繁榮を保持し得たのは結局通貨下落と物價騰貴とによるものである。十二月八日の大東亞戰爭勃發後の一般

以後は停工するものが日毎増加しはじめ、四大工場の中、中南が工場の一部失火して損傷を受けて停工せるを除き、その他は十一月に相次ぎ停工した。

試みに海關統計によつて之をみると昨年の生皮の輸入は計二五八三四キントル、本年十個月間の輸入は計三七、八四〇キントルであるから昨年よりは却つて増加を見てゐる。

その中目立つてゐるのは工場側に於ける大量購入で、爾後の異變に備へたことである。

本年の年初と年末の皮價は一倍以上の値上りを示してをり、華商の産額減退の所以をまたこゝにも窺知し得る。

(九)ゴム業

該業の上半期に操業せるものは合計十六軒であるが、下半期には十四軒に減じてゐる。

その中生産の大なるものにしてよく正常の業態を維持し得たものは僅かに大中華、義生、正泰、雙龍等數工廠のみである。

産額に就いて云へば、此一年間は、五月以前をもつて最佳とし三月がその最高をなしてゐる。

以後は電力節約の影響せられて逐次減退して夏季に入つて不況となり、産額は急に低下してゐる。七月末には米國の日支資産凍結が行はれ、蘭領東印度の原料の上海同輸出は禁止され、その輻輳側への流出を防止した。

そのために泰國より購求するの止むなきに至り、また他方には上海に於ける輸出禁止による原料の買占めが行はれて、工場側の需要に不足を生じたため、生産の低下を招來した、十月に入つて

經濟情勢の變動はことさらに大きかつた。金融方面は銀行に於ては預金拂出制限を施行して、大きな波紋を投じた。

本埠工業界の需要原料は十中の九近海外に仰ぎ、その大なるものは紡績業の原料であるが、その最近數年の情況をみると外棉が百分の八十を占めてゐる。

擦染業の化學原料もすべて外來であり、卷煙草業の捲紙、紙箱包裝紙の類も葉煙草の約百分の十を除き、其の他は全部外來である。

機器五金工業の銅、鐵、鋼、錫の類も一として英米からの輸入に依らざるはない。

次に販路に就いてみると國內に於ては和平區域及びその他少數のものを除き百分の七十はすべて海外に向けられてゐる。

現在の如く戰爭の最中にあつては、生産が行はれても販路がなく工業本來の製造と消費が原則的に成立せぬ現状に於て、生産事業は如何にして推進せらるべきか、多端な困難に逢着してゐる。

此の外にも原動力の問題が關聯して居り電力、石炭、ガソリンの供給は相當大きな支障を伴つてゐる。

かゝる條件の下に工業はその本年の上半期の状態への復歸を企圖することも既に容易ではなく現状を維持することに汲々としてゐる。

然し生産事業は經濟部門中の最重要の一環をなし、各國平時にあつては極力生産の増進を提唱し國內の一切の生活水準の向上が企てられ、戰時に於ける莫大な戦費は無論軍事資源によつて據出せられるが、それにも増して重要なことは、各方面の民心が

安定してゐること、軍事上の勝利によつて一層不可分のものがある。

現在日華の提携が行はれ、共同して米英東亞の殘餘勢力を驅逐し東亞和平、共存共榮の實現のために邁進すべく、偉大な艱苦にみちた使命に邁進してゐる。

かくして生産事業に課された役割又大なりと云ふべく、而かも上海は全國に於ける最大の生産都市として二重の意味に於て中心的な役割を擔つてゐる。

上述の如き事由によつて吾人は上海の工業生産を回顧する時、日華協力互助の下に、次の如き數項の諸施設を必要と考へる。

(一)消耗品生産の制限 戦時下に於ては軍用物資及び生活必需品を前提とし、巻煙草、化粧品、玩具、メリヤス及び絹織品などの諸事業はその最低生産に限定せしむ。

(二)實需品の生産増加 すべて軍需、實需に關する工業の生産増加を計らねばならぬ。即ち皮革、電器、罐詰食品、ゴム、麵粉業などであり、次に、毛織、紡績業等も軍用資源に資する處多大であるのみならず又日常生活の必需品である。

(三)原料の充分なる供給 過去に於ける租界の中立性はなほ充分清算されず、生産事業も未だ充分利用されてゐない。原料に對してはもとより嚴格な統制を施行すべきではあるが、今後はその封鎖を緩和し工場原料手當に便宜を與へ、工業界をして既成の設備を運轉して、各種需要品を供給せしむ。

(四)合理的な生産管理の採用 戦時工業は平時の生産事業とは自ら異り、自由な製造は限定せられ、原料の入手も容易ではな

い。故に一切の生産品は規定に應じ先づ普遍的な消耗品の生産を主體となし、その數量を制限し、且つ製造を規正して合法的な利益以外には不當な所得を占めることを防止し、公定價格の安定を計る。

(五)金融界と工場との關係 平時工業の發展はすべて金融界の資助に依存してゐる。戦時に於てはさらにその緊要性を深め、金融界の支持を不可欠ならしめてゐる。蓋し時局の不安な環境の下に於ては、工場側にあつてその資金あるものは勢ひ拂出を行ひ、他方その外からの回收が必ずしも圓滑を期得ざるに拘らず、同時に銀行、錢莊などの貸付も一齊にその回收を行ふため、往々工場側の立場は苦境に陥り、その資金調達は困難となる。かゝる事態にあつては私立銀行、錢莊の能力に限りあることは、怪しむに足らないことで、少くとも國立銀行がその衝に當つてこれを支援することが要望される。(中央儲備銀行調査)

二、紡績業

一、日支事變前の概況

日支事變前數年間は於ける支那紡績業は世界的經濟恐慌の影響を受け極度の苦境に沈淪したが、昭和十一年に至り例年に無い好天候に恵まれた結果各種農作物も大豊作を告げ、自然購買力も増大したので紡績業も再び活況を呈し事變直前には國籍の別無く何れも全機能を發揮せるのみならず、進んで増設擴張さへも計畫され

れるに至つた。

上海及其附近は支那に於ける紡績業の中心であり、支那紡績五〇〇萬錠中その七割は上海を中心に集中され、其の國籍別割合は支那人紡五〇％、邦人紡四五％、英人紡五％にして、日支兩國紡績業は外觀的には略相匹敵して居るが優秀なる設備と卓越せる技術更に優良なる製品を有する邦人紡績は實質的に斯業をリードしてゐたのである。

然るに南京蔣政府は上述の事情に鑑み邦人紡の躍進を抑制せんとし所謂抗日政策を實施した。即ち先づ原棉對策として支那棉の改良増産を標榜し積極的に農村合作社を支持すると共に、農民の金融を圍り極力良質棉花を支那側に確保せんとし、更に製品對策として所謂國貨提倡(國產獎勵)の美名に體れ邦人紡製品をボイコットせんとした。

二、事變に依る損害と復舊狀態

支那に於ける邦人紡績が日本對支經濟力の根幹をなす關係上豫て抗日分子よりは對支經濟侵略の最大なるものと目され終始抗日畫策の對象となつてゐたが、日支事變に於ても攻撃の主要目標となつた。即ち邦人紡は昭和十二年八月十三日戦端開始前一齊に工場閉鎖を斷行したが、敵の砲爆に曝され精紡約二十三萬錠(全體の一六％)捻糸約四萬錠(全體の一％)織機約四千台(全體の二％)破壊せられ、それに工場建物、社宅、其他原料製品の損害を加算すれば僅に三千萬圓以上の損害に上り、更に青島邦人紡(九社)及漢口泰安紡も爆破放火に遭ひ全滅の憂目を見るに至つた。然るに昭和十三年上海附近の秩序恢復と共に宣傳上の必要より操

業に着手し、舊正月後正式運轉を開始し、三月末には精紡約七十七萬錠を運轉し、四月に至り本格的に操業し、六月には八五％となり、漸次操業を擴張し、十二月末には九八％、翌年三月には全運轉となり爾來フル操業を續け、昨年九月に至り圓圓の狀勢に鑑み一律に夜業を全廢し五割操業を敢行した。

支那人紡績の損害狀態を推定すれば精紡約二〇〇萬錠中その一割以上全壞し、更に二割は大部分使用不可能となり、邦人紡が戦火治まると同時に操業を開始し得たに反し、占領地内支那人紡は殆んど再起の見込無く、日本當局の命令により邦人紡に於いて運轉することとなつた。

支那人紡績中占領地域内所在紡績は邦人紡の協力無しには自力更生不可能の事情にあつたが、唯租界内紡績(九江場、精紡三四萬錠、捻糸三萬九千錠、織機千七百台)のみは事變中も運轉を續け敗戦を外に相當の利益を擧げた。その結果昭和十三年五、六月頃より第三國人名義で紡績新設の氣運起り同年末には七工場設立せられ、昨年末に於ける操業工場は九江場に上つた。

邦人紡は前述の通り當局の指令に依り占領地域支那人紡三七工場精紡約百二十萬錠、捻糸約九萬三千錠、織機約一萬三千台を運營し、原所有者との間に適正妥當なる條件にて日支合作の實を擧げることとなつた。或る程度の修理を加へて運轉可能な設備は精紡約六十萬錠、捻糸約三萬六千錠、織機約五千五百台であるが漸次運轉數を増加し、昨年末には精紡四十七萬錠、捻糸一萬二千錠、織機三千八百台を運轉するに至つた。

其の間軍管理工場整理委員會の轉換により崇信、振華、民豐、

工業概況

大成(三)・恒大、蘇精、麗新の九工場は一應支那側に返還せられたが、同時に振華は日本側に買収され、恒大は日支合辦に移行せられた。
在上海英人紡は全支唯一のものであるが、日支事變中は邦人紡及支那人紡(一部租界内のものを除く)が戦火の爲長期に亘り閉鎖せらるに對し同年十一月より操業を開始しその製品は占領地域外より争つて購入せられ、莫大なる利益を挙げ、十六年末迄引續き操業してゐた。

三、本年度に於ける概況

邦人紡績は昨年に引續き夜業中止に依る五割操業を繼續した。然るに四月より上海電力會社の大巾節電實施せられ、七月一日より綿糸統稅倍額値上せられ、次で七月末英兩國の資金凍結令公布により新規外棉の輸入杜絶し、更に天候不順の結果中支棉の減收を見、且右出廻調を缺き現地紡績の配給極度に制限せらるるに至つた。他面八月以降資金凍結に對する報復手段として第三國人との取引抑制され、次で十月には綿糸布輸出殆んど禁止に近い許可制採用され、更に奥地向製品割當逐月減額され、製品販路も極端に縮小せらるるに至つた。

右事情により漸次五割操業の維持困難となり回轉速度の低下、停台増加等によりそれが調整を圖り十二月八日大東亞戦争勃發當時は約三割五分程度の操業となつた。本年度の月平均生産高と昨年五割操業前のそれとを比較すれば左の通り略半減してゐる。

昭和十五年
一個年平均月額

天三三箱

1100反

五割操業前平均月額
昭和十六年
一個年平均月額

天五九箱

1130反

次に本年末に於ける邦人紡各社別生産設備を示せば左の通りである。

會社名	工場數	精紡錠數	總糸錠數	織機台數
大成	一	12,000錠	33,000錠	1,200台
恒大	一	12,000錠	33,000錠	1,200台
蘇精	一	12,000錠	33,000錠	1,200台
麗新	一	12,000錠	33,000錠	1,200台
同興	二	24,000錠	66,000錠	2,400台
大豐	二	24,000錠	66,000錠	2,400台
公大	二	24,000錠	66,000錠	2,400台
内外	九	108,000錠	318,000錠	10,800台
日華	三	36,000錠	108,000錠	3,600台
上海	二	24,000錠	72,000錠	2,400台
東華	二	24,000錠	72,000錠	2,400台
裕田	二	24,000錠	72,000錠	2,400台
合計	三三	408,000錠	1,224,000錠	40,800台

出來高を比較すれば左の如し

昭和十五年	一個年平均月額	天三三箱	1100反
六月度	天三三箱	1100反	
十二月度	天三三箱	1100反	
昭和十六年	一個年平均月額	天三三箱	1100反
六月度	天三三箱	1100反	
十二月度	天三三箱	1100反	

次に委任工場 合辦工場の本年度末に於ける生産設備左の通りである。

工業概況

會社名	工場名	所在地	精紡錠數	總糸錠數	織機台數
大成	恒大	上海	12,000錠	33,000錠	1,200台
蘇精	麗新	上海	12,000錠	33,000錠	1,200台
同興	大豐	上海	24,000錠	66,000錠	2,400台
公大	内外	上海	108,000錠	318,000錠	10,800台
日華	上海	上海	36,000錠	108,000錠	3,600台
上海	東華	上海	24,000錠	72,000錠	2,400台
裕田	裕田	上海	24,000錠	72,000錠	2,400台
合計			408,000錠	1,224,000錠	40,800台

會社名	工場名	所在地	精紡錠數	總糸錠數	織機台數
大成	恒大	上海	12,000錠	33,000錠	1,200台
蘇精	麗新	上海	12,000錠	33,000錠	1,200台
同興	大豐	上海	24,000錠	66,000錠	2,400台
公大	内外	上海	108,000錠	318,000錠	10,800台
日華	上海	上海	36,000錠	108,000錠	3,600台
上海	東華	上海	24,000錠	72,000錠	2,400台
裕田	裕田	上海	24,000錠	72,000錠	2,400台
合計			408,000錠	1,224,000錠	40,800台

支那人紡績は最初七割操業を維持せるも電力配給制限の擴大と原棉手當困難により漸次操短を擴大し十二月には四割五分程度の操業となつたが、本年度末に於ける生産設備を示せば左の如し

會社名	工場數	精紡錠數	總糸錠數	織機台數
大成	一	12,000錠	33,000錠	1,200台
恒大	一	12,000錠	33,000錠	1,200台
蘇精	一	12,000錠	33,000錠	1,200台
麗新	一	12,000錠	33,000錠	1,200台
同興	二	24,000錠	66,000錠	2,400台
大豐	二	24,000錠	66,000錠	2,400台
公大	二	24,000錠	66,000錠	2,400台
内外	九	108,000錠	318,000錠	10,800台
日華	三	36,000錠	108,000錠	3,600台
上海	二	24,000錠	72,000錠	2,400台
東華	二	24,000錠	72,000錠	2,400台
裕田	二	24,000錠	72,000錠	2,400台
合計	三三	408,000錠	1,224,000錠	40,800台

工業概況

工場	新工場	昌興	廣興	公永	通成	合計	返還工場	仁德	蘇生	民生	大生	振興	合計	純米英工場	會社名	工場数	精紡錠数	燃糸錠数	織機台数
新工場	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
昌興	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
廣興	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
公永	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
通成	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
合計	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
返還工場	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
仁德	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
蘇生	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
民生	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
大生	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
振興	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
合計	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
純米英工場	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
會社名	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
工場数	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
精紡錠数	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
燃糸錠数	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
織機台数	11,000	10,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000

工場	昌興	廣興	公永	通成	合計	返還工場	仁德	蘇生	民生	大生	振興	合計	純米英工場	會社名	工場数	精紡錠数	燃糸錠数	織機台数
昌興	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
廣興	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
公永	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
通成	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
合計	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
返還工場	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
仁德	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
蘇生	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
民生	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
大生	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
振興	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
合計	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
純米英工場	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
會社名	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
工場数	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
精紡錠数	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
燃糸錠数	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000
織機台数	11,000	10,000	10,000	10,000	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	三和(英)	三	1,000	1,000	1,000

工業概況

支那は棉産國として特に將來性に於て世界有數であり、且つ棉製品の消費國としても著名なることは周知の事實である。更に中

一、中支棉の増産改良の緊要性

支那は棉産國として特に將來性に於て世界有數であり、且つ棉製品の消費國としても著名なることは周知の事實である。更に中

何んとなれば中支紡績業は情勢の推移に伴ひ或る期間自發的に最少限度の操業を維持するに迫られることあるべく、しかもその困難に耐へつ支、南支、更に泰、佛印と擴大する明日に備へて充分なる復元力を保持しなければならぬ。

前述の如き観点から中支紡績の將來に就いて二、三の點を取上げて見よう。

一、中支棉の増産改良の緊要性

支那は棉産國として特に將來性に於て世界有數であり、且つ棉製品の消費國としても著名なることは周知の事實である。更に中

支は支那三大棉産地の二つを包含し、特に江蘇一帯はその作付段別に於てその首位を占め、日支事變前には全支收穫の二割を占めてゐた。従つて東支共榮團に於ける自給自足の觀點から、中支棉の増産改良は益々その緊要性を加へるに至つた。一昨年六月設立せる華中棉産改進會は過去三年間に亘り専ら中支棉の増産改良に當り模範織作農場の設立、委任栽培地の設定、技術員、指導員の養成に努め相當の成績を擧げてゐる。今後華中棉産改進會の活動は今回の對米英開戦により極めて重要視されるものと思惟するが、右に對する組織的積極的施設が差迫つた問題の一つであらう。

二、中支紡績業の再編成と租界對策

中支紡績業の指導的立場にある在華日本紡は對支經濟の根幹をなすものにして、創業以來五州事件を始め幾度か排日侮日の厄に遭遇したが刻苦勵勵克く難局を打開し今日の地位を確保し得たのである。

更に今次日支事變に際しては當局の指導下に率先萬難を排して軍管理工場の運営に當り、一面東支新秩序建設の基礎たる宣撫工作に寄與すると同時に、日支經濟提携の實を擧げ支那人紡績業者の對日依存度を高め、併せて日滿支經濟ブロック内に於ける棉業の調整を計つたのである。

租界所在の米英人紡績乃至米英依存支那人紡績は抗日の溫床たる租界の特殊性を利用しつつあつたが、殊に支那事變直後の如きは邦人紡及支那人紡が戦火の爲め工場閉鎖の餘儀無きに立至つたにも拘らず、自國の敗戦を外に全運轉を續け所謂漁夫の利を占めたのである。

然るに今回の皇軍進駐により租界の性格が根本的に改變せられた結果、米英人紡績乃至米英依存那人紡績も否應無しに日本に依存せざるを得ざる情勢となつた。

従つて右紡績を如何に處置するかは東亞共榮圈自給自足の確立の上に重大なる意義を有するに至るべく極めて慎重に考慮されなければならぬ。

三、中支紡績製品販路の擴大とその對策

日支事變前に於ける中支紡績製品は主として中支及南支に販賣せられ、その一部は北支乃至南洋印度方面に輸出されてゐたが日支事變後は専ら揚子江流域の所謂占領地域に限定せられ、更に本年に至り米英の資金凍結に伴ふ綿製品輸出許可制の實施により海外輸出は完全に停止するに至つた。

然し乍ら今回の開戦により重慶政權の崩壊は必至の情勢にあり最早時期の問題となり、自然南支方面の販路も漸次回復される譯である。更に時局の推移に伴ひ泰國佛印方面の主要物産と綿製品との交換が急速に考慮される必要があり、日本綿製品との關聯に於て中支紡績製品もその主要部分を負擔しなければならぬ。

仍て前述の如き情勢に即應し得る如く一日も早く中支紡績業の運勢を整備しなければならぬ。

要之中支紡績業は大東亞戰爭の遂行に即應し東亞共榮圈の自給自足を確保する爲めその特殊性を極度に發揮しなければならぬ。仍て中支紡績業の指導的立場にある在華日本紡としては現在の原料難、動力、金融難等の惡環境を積極的に克服すると同時に明日の飛躍に備へて復元力を保持しつつ飽迄中支紡績業の指導者たる

の自覺と決意を持たねばならない。

三、養蠶、製絲業

△養蠶業

昭和十六年度に於ける養蠶狀況は春秋を通じて稀に見る不良氣象に遭遇し、加ふるに春蠶期に於ては國民政府の提唱による產蠶調整措置等の爲、蠶種掃立の減少もあつて收購量減少し、特に浙江省に於て思はしからず其の作柄五分作にも及ばなかつた。かくて本年の產蠶額（占領地區のみ）は江蘇省約二十七萬七千擔（鮮繭）、浙江省約二十八萬擔、計約五十五萬七千擔と推定せられ、昭和十五年に比し約三割弱の減産を見た。

而して本年度に於ては絲廠側の購繭活動でなかつた爲、殆んど其の半は土絲化せられたものの如く、特に土絲地帯たる浙江省地方に於て多く約六—七割は土絲化したと云はる。

△製絲業

一、華中蠶絲公司……華中蠶絲は一、二月は殆んど操業を休止したが三月より一部操業を開始し、四月以降七月末迄は六、〇〇六釜を以て操業を續けた。但し、同月末に至り英米の對日支資産凍結に遭ひ八月一日より約五十日間停工した。其の後九月二十日頃より約三、三〇〇釜を以て再び操業を開始し本年を終つた。斯くて本年の操業延釜數は九七七、七〇六釜であつて其の產絲量は約一五、〇〇〇擔である。

二、上海租界絲廠……上海租界絲廠は本年頭初以來原料手當困

難であつて其の經營振はず、僅かに江北地方より得た原料で二三工場が辛うじて經營して居たに過ぎず、新繭出廻期後に於ても密輸入の取締強化により原料手當意々困難を加へ、八月中二工場のみ操業し、九月に入つては全く操業するものがなく其の儘年末に至つた。

三、家庭絲廠……本年頭初より多少の操業を見たが大部分は新繭の出廻り迄休業し、新繭を仕入れたる六月中旬より一齊に開工を見た。八月に入り英米の對日支資産凍結の影響を受け一時下火の傾向を示したが、其の後十月に入り現地相互間に於ける物資移動制限の緩和、法幣の崩落乃至は生絲が上海其他地方に於ける遊資の換物對象となつた等の爲、蠶絲類の交易に活況を呈し、家庭製絲方面に於ても、原料を保有するもの又は入手し得たるものは活潑なる狀況を示した。

然し乍ら本年の蠶況思はしくなかつた爲製絲原料拂底し、家庭絲廠も十二月、大東亞戰爭勃發直前の狀況は原料難に脾肉の歎を叩つもの多き實狀であつた。然る處大東亞戰爭勃發以後に於ては特殊事情にある極少部分を除いては市況惡化した爲殆んど停工するに至つた。かくて一月より十二月迄の毎月操業釜數の合計は約二萬釜程度と云はれ其の產絲量は約一萬擔前後であつたと云ふ。

四、絹紡織

一、概論

期初に於ける絹紡製品は、對內的に於ては南京中央儲備銀行設

立後、法幣不安に伴ひ一般換物人氣多く、外貨爲替も急落を呈したのと、對外的には歐洲戰爭の發展並に日米、獨蘇の國際關係逐次緊張化する爲、海外買氣は品物不足の懸念を以て益々旺盛であつた等の原因で前期に續續し、引續き實行順調に推移したが三月より石炭不足のため電力を制限せられ、生産高は相當の打撃を蒙つた。且つ八月中より英米の對日支資産凍結の對策として、外國人取引取締規則發表により、原料たる副蠶屑物の輸入が許可せられなると共に、製品たる絹、紬糸及富士絹が殆んど全部第三國輸出品である爲め、重大なる影響を受け益々販路狭少を來すに至つた。

十二月八日になつて日米英宣戰布告以降は、從來の印度南洋向たる製品は全然引合社絶し、同時に金融機能不圓滑と物資移動制限等の關係で、所謂地場向の絹紡製品商賣も益々たる裡に越年した。

一、地場産業及び第三國勢力の消長

從來絹、紬糸及び平絹は實需關係並に價格の引合により、多少地場向に賣れる事もあつたが、大體に於いて印度南洋向へ輸出した故、本年は八月末迄即ち外國人取引取締規則發表前は自然海外買氣濃厚のため殆んど第三國へ消化した。地場向に賣約出來せる數量は輸出數の一、二割見當である。

一、今後の見通し

今後地場向として諸物資益々不足の傾向ある爲引續き一部賣れる見込あるも、輸出向は當分見込薄である。然れども皇軍の戰況如何に依つては早速南洋方面へ絹紡製品の復活を見るものと思は

一、次に参考迄に錦紡公大の絹、絹糸布の昭和十六年度に於ける生産高を示せば次の通りである。

絹糸	二六、〇〇〇反
絹糸布(富士絹)	四二〇箱
絹糸	八五〇依

五、染色捺染業

皇軍の戦果擴大と援將物資の搬出禁止益々強化せられ、外華人工場は其の製品の奥地販路全然杜絶し、僅かに南方々面に其の餘喘を保ちつゝあつたが、第二次歐洲戦争の擴大と獨逸戦争の勃發に依り、染料其他の諸原材料の暴騰入手難に、之等諸工場は殆んど休業状態に在り、反面、邦人經營諸工場の製品は、占領地区内に宣傳物資の一部として月々一定量の荷捌きが有つたが、これ又必需減退と染色加工材料の入手難に半減以下の操業状態に推移した。

年末大東亞戰勃發を契機として、赫々たる皇軍の戦果と共に南方共榮圈への宣傳或は交換物資としての輸出は期待出来るが、前述の諸原材料關係にて操業の擴大は至難と思はれる。

六、製粉業

(一)概説(支那事變以來の推移概観)

無錫寶興	二、〇〇〇、〇〇〇
丹陽金壇	一、三〇〇、〇〇〇
常州江陰	一、二〇〇、〇〇〇
鎮江	四五〇、〇〇〇
南京	一、一〇〇、〇〇〇
二、蕪湖淮南地區	一、九〇〇、〇〇〇
三、江北地區	八、五〇〇、〇〇〇
四、津浦線地區	一、一〇〇、〇〇〇
計	一九、五五〇、〇〇〇

而してその出廻りは順調に推移するものの如く期待されたが數回に亘る法幣の大暴落、世界情勢の大變化に伴つて製粉工場原料として供給されるものは生産額の四割五分八八七萬擔に過ぎず、このうち邦人工場に供給されるものは約七〇七萬擔八割五分を占め、残り一八〇萬擔は奥地華人工場にて消費されたものである。

2.小麦粉生産額

今年の占領地区内に於ける小麦粉生産額は一、四五〇萬袋にして、その内譯左の如し

邦人工場生産	一一、〇〇〇、〇〇〇袋
奥地華人工場生産	三、五〇〇、〇〇〇袋
3.邦人經營工場並にその生産設備	
現在操業中の邦人經營工場並にその生産力左の如し	
工場名	バレル
三興麵粉公司	六、三八〇
	高(毎月二十五日操業)
	七、六五六、〇〇〇袋

1.事變前揚子江流域より産出せられる小麦は全支産出量の四割に相當してをり、これに河南省の一部も加はりて、ここに揚子江の流域に上海を控へて製粉工場の發達する原因を作つたのである。勿論天候其他の事情に依り作物産額に變化あるもその生産額より見る時は製粉工場に供給される小麦は極く少量にして、問題は生産高よりも寧ろ出廻り如何にあるのであつて、戦前の上海地區への出廻り量を見るに、

江南地區	二、〇〇〇、〇〇〇擔
江北地區	五、九〇〇、〇〇〇
計	七、九〇〇、〇〇〇

漢口工場への出廻りは大體三〇〇萬擔と推定せられる。

2.事變後、其生産高は中支一帯が占領地區と非占領地區に別れたため占領地區のみの豫想しかつかず、而も正確なる調査は困難であるが、昭和十四年度は生産激減のため、且奥地の治安關係に依る交通杜絶等に原因してその出廻り高は事變前の約半分にしか達してをらぬ。また十五年度は天候に恵まれて海南線、津浦線、江北一帯豐作にして品質も向上し沿線地區の出廻りも極めて良好であつた。

(二)昭和十六年度中業界概況

1.昭和十六年中に於ける占領地區小麦生産高は左の如し

海、杭線地區	三五〇、〇〇〇擔
嘉定、崑山、太倉	八五〇、〇〇〇
蘇州地區	八〇〇、〇〇〇

東福麵粉公司	一、五〇〇
華友製粉公司	三、九五〇
鎮江麵粉公司	一、五一〇
有恒麵粉公司	二、二五〇
揚州明記麵粉廠	七一〇
三井高郵工場	五五〇
計	一六、八五〇

4.消費量

現在中支に於ける機械製粉地場消費量は約九〇〇萬袋にして其の地區別消費量は左の如し(但上海地區消費の大部分は外國粉三〇〇萬袋、租界工場麥粉二〇〇萬袋を以て賄はれた)

上海地區	四、〇〇〇、〇〇〇袋
蘇州地區	七、〇〇〇
無錫地區	六五〇、〇〇〇
杭州地區	五〇〇、〇〇〇
南京地區	六〇〇、〇〇〇
常州地區	二五〇、〇〇〇
鎮江地區	一七〇、〇〇〇
嘉善地區	一一〇、〇〇〇
嘉興地區	一九〇、〇〇〇
揚州地區	一五〇、〇〇〇
蕪湖地區	九〇〇、〇〇〇
蚌埠地區	一五〇、〇〇〇
計	三六〇、〇〇〇

工業概況

南通地區	二四〇,〇〇〇
其他	七六〇,〇〇〇
計	九〇〇,〇〇〇
5. 輸移出量	
一、輸移出地區別數量左の如し	
北支	七、〇〇〇,〇〇〇袋
滿洲	一、〇〇〇,〇〇〇
蒙支	四〇〇,〇〇〇
南支	九〇〇,〇〇〇
計	九、五〇〇,〇〇〇
一、外支粉上海港輸入數量	
外支	
外粉	
昭和十四年	一、〇〇五,〇〇〇袋
昭和十五年	一、〇七五,〇〇〇
昭和十六年	三、九六九,〇〇〇

(三) 地場産業及第三國勢力の消長
中支製粉業は原料小麦の手當如何にあり、従つて奥地治安の回復輸送機關の完全化と共に地場産業は漸次戦前の状態に復歸しつつあり、一方租界の麵粉工場は租界の封鎖に依つて占領地區内よりの供給に乏しくなる爲大なる打撃を受け、これがため租界内消費向として外國麥粉の大量輸入を見たのである。
然るに十二月大東亞戦争の勃發に依り外國麥粉の輸入は全く期待出來ざることとなり、外粉のストックを喰ひ盡せば租界消費は全部中支麥粉の負擔となり、且北支滿洲の中支麥粉に對する

全面的依存を加へたため、中支製粉聯合會は邦人業者の一致協力に強化すると共に華人工場をもその統制下に加へ麥粉の圓滑なる供給を行ふべく努力し居る。
また事變後衰微しつつあつた第三國勢力は大東亞戦争の勃發と共に完全に一掃せられ、中支製粉業今後の日華業者提携に依る活躍は大いに期待されると共にその責任は愈々重大となつて來た。
而して中支製粉聯合會は現在會員七十八社を數へ軍、興亞院等當局の指導の下に各業者間の連絡を緊密にすると共に、原料手當販賣方面に就いても協力し、また上海經濟界の變貌に對處する外現地物動計畫に即應するため、機構を擴充強化して生産配給其他に萬全を期し、また日華經濟提携の立前から華人業者と一致協力して斯業の健全なる發展を圖るべく着々準備を整へつつある。
現在租界内所在工場名並に其の生産力左の如し(註：現在華人工場は中支製粉聯合會の統制下にあらす)

工場名	現經營者	生産能力
福新第二廠	王 海	四、〇〇〇(バレル)
第七廠	"	四、〇〇〇
第八廠	"	四、〇〇〇
華 豐	福新にて經營	二、五〇〇
早豐舊廠	孫 景 西	一、二五〇
新 廠	"	五、〇〇〇
信 大	"	一、五〇〇

大 中 華

一、〇〇〇
一、三、一五〇

(四) 大東亞戦争勃發以後の見透し
大東亞戦争の勃發以來對外貿易の杜絶に依り共榮圈内相互の交易は増大し、各地物資の交流は愈々緊密化され、従つて中國民衆の主食品たる小麦粉の北支、南支、滿洲方面への供給は増大すると共に中支製粉業の任務は愈々重く、また戦局の進展と共に大東亞共榮圈が確立し滿洲小麦の輸入が見られる場合には、この原料小麦の供給を受けて製品を廣く南洋方面一帯に亘り供給することを計畫し得ることとなり、ここに中支は共榮圈内小麦粉の供給地として製粉業は發展を極めるべく今後大なる期待が持たれる。

七、榨油業

本事變に依り打撃を蒙つた上海榨油業も逐次復興整備完了し、邦人工場を以て組織せる中支製油業聯合會も新たに利生油廠を加へ九社となり、戦前邦人工場皆無に比し隔世の感がある。
一方華人側經營は大有餘油廠、大德油廠の外二、三小規模のものあるに過ぎぬ。該華人側工場は滿洲及奥地方面より的大豆入手困難と、奥地の原料高に依る採算不能とに依り目下操業中止中である。

惜て邦人九工場の製油能力は、上海市民需要の二倍に達し、尙奥地向、南支向け需要をも満すべく各社原料獲得に協力し業界の

發展を計りつゝある。尙副産物たる棉實粕、菜種粕は内地肥料として對日主要輸出商品の内に缺くべからざるものである。	
△邦人工場榨油設備	
日華製油株式會社上海工場	一〇台
水壓式ボックス型榨油機	四台
水壓式圓筒型ゲージプレス	二四台
水壓式大豆榨油機	二台
日本油脂株式會社上海工場	三台
エキスペラー榨油機	二台
ゲージプレス榨油機	二台
板榨プレス	二台
川南工業株式會社	四台
板榨式榨油機	四台
水壓大豆榨油機	二四台
吉田製油工場	四台
板榨式榨油機	四台
大日本塗料株式會社上海工場	八台
エキスペラー榨油機	四八台
水壓式大豆榨油機	二台
泰山油廠	二台
エキスペラー榨油機	二台
萬谷製油工場	二四台
エキスペラー榨油機	二四台
大豆プレス榨油機	二四台

工業概況

開行搾油廠
手搾搾油機
利生油廠
手搾搾油機
水壓式大豆搾油機

△一ヶ月製品別生産能力(邦人九工場分)

大豆油	一、三〇一、二二〇
棉實油	一、二七三、五〇〇
菜種油	二、六七七、八四〇
椰子油	二、一〇〇、〇〇〇
カボツク油	一、一〇〇、〇〇〇
桐油	三、〇〇〇、〇〇〇
胡麻油	五〇五、〇〇〇
ヒマシ油	三二二、〇〇〇
大豆粕	一四、一三、三四〇
棉實粕	六〇八八、六〇〇
菜種粕	五、四六三、二〇〇
椰子油板粕	一、四〇〇、〇〇〇
カボツク板粕	五八七、五〇〇
胡麻板粕	三二二、〇〇〇
ヒマシ板粕	一、三七〇、〇〇〇

然るに原料獲得は依然として緩和されず、各工場平均三割見當の操業率に過ぎないのは遺憾とされてゐる。従来南方方面より入荷を見た椰子、カボツク等は敵性諸國の輸出禁止と共に全く期待出来ず、中支土産たる棉實、菜種、大豆等の搾油に制限せられてゐる。大體に於て各工場共に上半期は棉實、大豆、夏期の菜種、下半期は菜種、棉實を主として搾油してゐる。

△搾油原料一九四一年度買入(邦人九工場)

棉實	一、二〇萬担	上海周邊浦東、太倉地區及北江南通地區より出廻るもの大部分なり
菜種	三〇萬担	蕪湖、蘇州、平湖より出廻る
大豆	五〇萬担	蕪湖、蚌埠方面のもの買付努力したるも本品は移動制限物資で買入意の如くならず殆んど軍配組合より滿洲物の配給を受け搾油してゐる

最近二ヶ年間製品別生産高左表の通り(邦人九工場分)

大豆油	一、八六一、〇〇〇
棉實油	一、九八三、〇〇〇
菜種油	四、七八三、〇〇〇
椰子油	五九六、〇〇〇
カボツク油	一三一、〇〇〇
桐油	四九、〇〇〇
胡麻油	三、一〇二、一八六
ヒマシ油	三、三〇五、四七八

菜種油	七、九七一、六二二
椰子油	九、九三、六〇五
カボツク油	二、一九四、〇〇〇
桐油	八二、四〇〇
胡麻油	三〇、五六一、〇九三
ヒマシ油	一三、六二九、八九三
大豆粕	一六、五八〇、七六五
棉實粕	六、五五、九五九
菜種粕	一、六五、九五九
椰子油板粕	一、六五、九五九
カボツク板粕	一、六五、九五九
桐油板粕	一、六五、九五九
胡麻板粕	一、六五、九五九
ヒマシ板粕	一、六五、九五九

大體一五、六七二割の食用油を供給したが中支の食油消費量を一ヶ月大體一千五百割乃至二千割一ヶ年合計一萬八千割、二萬五千割と推定せるに不足一萬割は滿洲より大豆油七千八百割、北支よりの落花生油二千割を以て需要を満して來た。

尙ほ副産物たる粕は内地肥料として對日の主要輸出商品の内缺くべからざるものである。

一九四一年度食用油各月相場(百市斤裸變動を示せば)

(單位：元)

棉實油	一月 一、二〇〇、二二〇	二月 一、二〇〇、二二〇	三月 一、二〇〇、二二〇	四月 一、二〇〇、二二〇	五月 一、二〇〇、二二〇	六月 一、二〇〇、二二〇	七月 一、二〇〇、二二〇	八月 一、二〇〇、二二〇	九月 一、二〇〇、二二〇	十月 一、二〇〇、二二〇	十一月 一、二〇〇、二二〇	十二月 一、二〇〇、二二〇
菜種油	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇
大豆油	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇	一、二〇〇、二二〇

△大東亞戰爭以後の見通し

大戦勃發により中支食用油の自給自足對策の必要に迫られ、軍配組合を其の指導者として中支製油業聯合會は全力を擧げて協力

を要し、原料買付、操業、製品配給、各方面共統制に着手すべく目下研究中にして最初配給方面の統制に取掛つた處華商組合も全面的に協力し目下活動中である。

在荷は邦人工場五萬担、華人工場二萬担、市中在荷三萬担見當と推定され、上海需要約三ヶ月を満すに充分にして今後原料統制宜しきを得れば食油不安は解消さるゝものと思はる。

八、煙草製造業

一、概説(支那事變以來の推移概観)

支那事變の當初は、英米トラストを初め支那資本の大宗たる南洋兄弟、華成等の有力者を筆頭に、群小製造工場合せて卅一を數へ、卷上機台數五〇三台と稱された。然るに華商業者側は事變の爲焼失逃避等により大量淘汰を受け、租界内に在つたもののみ操業再開し、その數二十社に減少、卷上機は一六九台を失つたため製品著しく不足を告げるに到つた。此處に邦人系工場始頭の機到り東洋、東亞等の商社を初め十指に及び、その保有台數一八八台を設備し、全能力を動員して製造に従事、軍需民需の供給に當り煙草界は異常の活況を呈し始めた。而して事變の慘害を蒙らなかつた英米トラストは、其大資本大機構により當局の撤出輸入の制限にも拘らず、依然煙草界の大勢を牛耳る状態であつた。

日系品は十五年當初迄は軍票の安定と品質比較的優秀であつた爲賣行非常なる好況を呈した。

一般的に煙草業者は十五年末迄は活況を見せたものと云ひ得ら

工 業 概 況

れる。然るに年末煙草配給組合の成立を見、その運行不圓滑により、且つは軍票高騰し従つて法幣建値の英米華人業者の製品に比し、日系煙草製造業界は空前の不況を呈し始めた。

一、昭和十六年中(自一月至十二月)の業界概況

十六年に於ける生産設備狀態は順中煙公司(英米トラスト)一七六台、支那側二十社にて一一七台、日本側一二二台の合計四一五台の煙草捲上機を有す。詳細次表の如し

日本鑄及日采工場

工場名	資本金	所在地	地上積	月生産額	主な製品
東洋薬煙草	10000千圓	足尾路	興台	5500千本	マリーシャル、オ ンパス、吉祥、 百花、長壽
東亞煙草	50000	横山路	豐	35000	スピニア、美芳 ゴールドンマン ション
共盛煙草	1000	華徳路	九	6000	鶴包、龍舞、黄 雲字塔、富士山
興亞煙草	1000	白利南路	五	1000	サルタン、旗 MC C
健身煙草	140	北四川路	一	6500	快馬、追東
達東煙草	1000千圓	北蘇州路	三	15000	金星
德昌煙草	1000千圓	新紀戎路	二	10000	飛龍、勝利
合同煙草	1000	華徳路	五	—	—

東映煙草	三〇〇	歐羅路	一	別米	アリナー、レイ
大體煙草	一〇〇〇	歐羅路	一	別米	アンバー、レイ
朝華煙草	一〇〇	歐羅路	一	別米	アンバー、レイ
小計	一〇〇〇千圓 一〇〇〇千元	三三	三三	別米	アリナー、レイ
英米系工場	三三	三三	三三	別米	アリナー、レイ
華商工場	三三	三三	三三	別米	アリナー、レイ
順中煙公司	三三	三三	三三	別米	アリナー、レイ
德隆煙廠	三〇〇	乾子路	九	旗美、華成煙廠代售	大英牌、老刀、 哈爾濱、仙女、 金蘭山、三鞭、 前門、白鶴包
華菲煙廠	三〇〇	河南路	三	黑八、姑娘	
和興煙廠	三〇〇	寧波路	六	紅妹、時鐘、華成煙廠代售	
廣榮煙廠	三〇〇	愛而近路	七	雙煙	
國新煙廠	三〇〇	莫干山路	二	派克、望字塔	
大東煙廠	三〇〇	華陽路	一〇	香寶	
華鼎煙廠	三〇〇	卡德路	一	新生、金球	
德興煙廠	三〇〇	愚園路	四	三杯、國光	
大東煙廠	三〇〇	徐家匯路	九	高而夫、白蘭地	
華利煙廠	三〇〇	新大沽路	三	華利、金獅	
昌達煙廠	三〇〇	哈同路	四	同力球	
利興煙廠	三〇〇	文匯路	八	皇盾牌、紅一字	
元華煙廠	三〇〇	浙江路	一	公國、金門	

工業概況

産すらも覺束ないものと思はれ

販賣狀況に就いては、華系品は前述の如く原材料不足が大なる原因となり、製造量は一般に減少したが製品不足により賣行は割合に順調であつた。

英米トラスト側は國際狀勢の緊迫化により、年初より製造増加

瑞倫煙廠	100	開封路	八	10,000	寶源、古華
大華煙廠	100	甘世栗路	六	10,000	金鐘
江浙煙廠	100	平濟路	三	10,000	鋼綑
魯信煙廠	100	康備路	七	10,000	美豐后
友利煙廠	80	平濟路	二	10,000	友利、金城 美豐、金城（和興 美豐代卷）
華成煙廠	6,000	戈登路角	1		金鼎、長城（德興 福榮代卷）
南洋兄弟	2,500	照華德路	1		寶司干、フエデ フル大東南代卷
華美煙廠	300	塘山路	1	10,000	
小計	10,100		二七		
總計	25,300千元 買100千圓			25,300	

前表にれば年産約三〇〇億本にのぼつて居るが、中支地販賣機構として中支煙草配給組合が、奥地への搬出入許可申請を一手に握つてゐるが、その運行圓滑を缺きたる點、又軍票の變動激烈しく且つては非占領地區への流失取締り嚴重となつた爲、前半期は一般に製品販行減少を示した。

華商中小資本による鉄生の工場の如きは、統制強化による原料の不足甚しく、又電力節約の強化の爲、操短又は休業せるもの多く、年産三〇〇億本は相當の割引を要し、實際は三〇〇億の生産すらも覺束ないものと思はれる。

販賣狀況に就いては、華系品は前述の如く原材料不足が大なる原因となり、製造量は一般に減少したが製品不足により賣行は割合に順調であつた。

英米トラスト側は國際狀勢の緊迫化により、年初より製造増加

し賣行相變らずの好調を呈した。

日系品に軍票建てであつた。軍票の底知れぬ高騰の爲賣價比較的高まり商況見送りを示し、且つは奥地への搬出も不円滑であり前半期の賣行は工場開始以來の非常な不振を呈した。

一、大東亞戰爭勃發以後の見通し

十二月日大東亞戰動發し、皇軍の疾風迅雷的租界進駐行はれ、敵性工場として英米トラストは軍の占領管理するところとなつた。今までの大資本を以て公然我軍票工作を擾亂し、必需品たる煙草の重慶間流失、製品のダンピング又は賣止めによる價格釣り上げ等の敵性行爲を擅にせる英米トラストも、此處に完全に止めを割られ、今や日本側の監督下に製造を許され其經費維持に充てて居る状態である。將來は當局の決定を持たねば不明である。その偉大なる機構は今後日本側諸經濟工作の一助として活用されて行くことは明白である。

戰爭開始と共に諸統制は更に嚴重となり、現地自給自足の原則より中支に於ける煙草業者は、強力なる團結を必要とし關係業者と共に一丸となり、中支地帯の需要を充たさねばならぬからう。而して現在各關係者は之が爲萬全の措置を執るべく著々準備中である。

即ち、中支日桑六社は合同により中華煙草の成立を見るのも間近く、又在中支の原料供給先たる中支葉煙草會社もその機構を擴大し、將來葉煙草の耕作を指導強化し、收買の一元化を計りつゝある。

又租界内に於ける華商工場も今迄の如き無統制は許されなくな

り、又日本側の主張たる日支提携の實行の爲にも華商工場の衰退を防ぐべく、華商製造家組合の設立を計り日本側と歩調を一にして煙草供給に協力せんとしつつある。

九、製紙業

一、概況

上海を中心として中支一帯に製産される紙は連史紙、毛邊紙、海月紙、白灰黃板紙、マニラボール、捲煙紙、印刷紙其の他各種包裝紙類にして、其の内連史紙、毛邊紙、白灰黃板紙が大部分を占め全生産量の七〇乃至八〇%である。支那事變勃發に依り上海地區製紙工場中、戦火の爲め局有に歸したものの五工場、其の他の工場は事變直後の混亂時代より次第に一般經濟界と同様一時に略型的發展を通り既設工場の開工、邦人工場の進出等事變を契機として容貌を一新した。

昭和十四年より同十五年に亘り物資の缺乏と法幣の暴落に依る換物人氣の抬頭、且つ世界戦争に依る歐米よりの紙類輸入の減少及び奥地方面に對する船舶の不均衡、加ふるに南洋香港方面に對する引合旺盛を極め異常の貴氣を示現したが、我が方に依る沿岸各投蔭ルートの封鎖徹底、並に搬出入貨物の統制強化に、當地よりの輸送は相當打撃を蒙るに至つた。

昭和十六年七月、資金凍結以降上海の對外通商は殆んど杜絶同様に歪曲化されたる結果、原材料の入手益々困難を加へ大東亞戰爭を契機として特に外、華人工場は愈々難材料の高積に喘ぐに至

り、從來の一般自由主義的色彩は次第に容貌を變じ、我が統制率下に逐次包括されつつある。

邦人工場は何れも事變後の進出ながら進歩せる技術と當局の強力なる指導統制により次第に健全なる發展的過程を辿りつつある。

一、昭和十六年度に於ける生産並に販賣高概ね左の通り

邦人側	生産數量	販賣高
邦人側	二二、〇〇〇噸	一一、〇〇〇千圓
外人側	一五、〇〇〇噸	一〇、〇〇〇千圓(推定)
合計	三七、〇〇〇噸	二一、〇〇〇千圓

邦人工場は九社にして資本總額約金八百餘萬圓
華人工場は十四、五社にして資本總額約法幣七百餘萬元
外人工場は一社のみにして資本金米貨二十五萬弗

一、工場現況左の通り

邦人工場

一、江南製紙株式會社(鎮江實業株式會社)

資本金 壹百萬圓

所在地 上海曹家渡濱北光復路一〇號電話(〇二)三六四〇

營業所 同所

設備 丸網ヤンキー抄紙機四台

生産能力 月額約三三〇噸

製品種類 毛邊紙、連史紙、海月紙等

二、株式會社上海紙業公司

資本金 日本側金參拾萬圓 華人側五拾萬元

經營 日支共同經營

所在地 蘇州楓橋

營業所 上海黃浦灘路廿四號正金ビル五〇號 電話一九五

六〇番

設備 長網ヤンキー抄紙機一台、丸網ヤンキー抄紙機二

台、計三台

生産能力 月額約一、一五〇噸

製品種類 白灰黃板紙、模造紙其の他包裝紙等

三、株式會社天津造紙廠

資本金 五百萬圓

經營 日支合辦(邦人側大日本紡績會社系)

所在地 東廠 上海浦東北護塘路三二八號

營業所 上海楊樹浦路四〇八號 電話一〇九九四番

設備

フオードリニヤ抄紙機二台、長網ヤンキー抄紙機一台、丸網ヤンキー抄紙機一台、合計四台

生産能力 月額約六〇〇噸

製品種類 印刷紙、各種包裝紙、連史紙等

四、杭州造紙廠

資本金 貳拾萬圓

經營 軍管理單獨委任經營

所在地 杭州市外小河施家村

營業所 上海開北寶山路三號 電話(〇二)六〇七八番

設備 丸網板紙抄紙機一台

生産能力 月額七三〇噸

製品種類 白灰黃板紙

五、大中華製紙株式會社

資本金 壹百五十萬圓(日商株式會社、田附商店、滿洲製

絲株式會社)

所在地 上海吳淞蘆漢濱

營業所 上海北蘇州路河濱大樓一二二室 電話四五九五六

設備 丸網ヤンキー抄紙機二台

生産能力 月額約三〇〇噸

製品種類 廢紙、毛邊紙及各種包裝紙

六、新東亞製紙株式會社

資本金 七萬五千圓(合資組織、臺灣籍)

所在地 上海楊樹浦山路二二〇二號

營業所 上海四川路三二號企業大樓二室 電話一八八七一

設備 丸網ヤンキー抄紙機二台

生産能力 月額約五〇噸

製品種類 廢紙、毛邊紙及各種包裝紙

七、井上製紙廠

資本金 六萬五千圓

所在地 上海開北天通庵路六九五號

營業所 上海北四川路哈林路二六一號 電話四四四九八番

設備 丸網ヤンキー抄紙機一台

生産能力 月額約五〇噸

製品種目 塵紙、トイレットペーパー及各種包裝紙
八、高林板紙廠

資本金 個人經營

所在地 上海刑家宅路華福里四號

營業所 上海天潼路二〇四號 電話四〇三七九番

設備 圓網抄紙機一台

生產能力 月額約六〇噸

製品種目 マニフォル

九、民豐造紙廠

資本金 壹百五十萬圓

經營 民豐造紙廠經營委員會（軍並に興亞院にて組織せしめ）

所在地 浙江省嘉興縣嘉興東門外

營業所 上海黃浦灘路廿四號正金ビル一九室 電話一五四七〇番

設備 ライスマシン一台

生產能力 月產約七〇〇箱

製品種目 煙紙

但し丸網板紙抄紙機一台あれ共一部機損せり

二、華人製紙工場

一、光中造紙股份有限公司

資本金 法幣貳拾五萬元

所在地 上海戈登路二四二弄四〇號

營業所 上海博物院路一四號

設備 フォードリニヤ抄紙機一台
生產能力 月額一五〇噸

製品種目 薄板紙、灰報紙

二、永安造紙廠

資本金 法幣四拾萬元 個人經營

所在地 上海北成都路九七一弄一〇號

營業所 同

設備 圓網抄紙機一台

生產能力 月產約四〇噸

製品種目 連史紙、毛邊紙

三、晉豐紙廠

資本金 法幣五拾萬元

所在地 上海滬西哥倫比亞路一八〇號

營業所 同

設備 單光製紙機一台

生產能力 月產約五〇噸

製品種目 毛邊紙、有光紙、各種包裝紙

四、海龍製紙廠

資本金 法幣五拾萬元

所在地 上海滬西哥倫比亞路牛橋濱五〇號

營業所 上海江西路二八號

設備 圓網抄紙機一台

生產能力 月額約二〇〇噸

製品種目 毛邊紙、連史紙、灰報紙

五、竟成造紙公司

資本金 法幣四拾萬元

所在地 上海北成都路一〇八弄一〇號

營業所 上海廣東路二〇號

設備 圓網板紙抄紙機一台 丸網ヤンキー抄紙機二台 計三台

生產能力 月額約六四〇噸

製品種目 黃灰板紙、各種包裝紙

六、國華造紙股份有限公司

資本金 法幣壹百貳拾萬元

所在地 上海西康路一七四一號

營業所 上海北京路三五六號國華大樓

設備 ヤンキー長網抄紙機三台 丸網抄紙機一台 計四台

生產能力 月額約二〇〇噸

製品種目 毛邊紙、連史紙、海月紙、有光紙、黃表古紙、各種包裝紙

七、中華製紙廠股份有限公司

資本金 法幣貳百參拾萬元

所在地 第一廠 上海東京路七六四號

第二廠 上海東京路康福路（建設中）

營業所 上海江西路漢陽大樓三二四室

設備 圓網抄紙機一台

生產能力 五〇噸

製品種目 連史紙、海月紙、其他各種包裝紙

八、天豐造紙廠

資本金 法幣六拾萬元

所在地 上海徐家匯柿子灣塘子經六六號

營業所 上海寧波路四七〇弄一號

設備 圓網板紙抄紙機一台 圓網抄紙機一台 計二台

生產能力 月額約一五〇噸

製品種目 灰黃板紙、薄板紙

九、金星造紙廠股份有限公司

資本金 法幣貳拾萬元

所在地 上海北成都路一〇九五弄二五號

營業所 同

設備 圓網板紙抄紙機一台 丸網ヤンキー抄紙機一台 計二台

生產能力 月額約一三〇噸

製品種目 白灰、單白、黃板紙、毛邊紙、連史紙、海月紙、各種包裝紙

一〇、大陸仁記造紙廠

資本金 法幣拾萬元

所在地 上海星加坡路一八七弄八〇號

營業所 上海石路一四〇弄九號

設備 圓網抄紙機一台

生產能力 月額約一〇〇噸

製品種目 灰報紙、其他各種包裝紙

一一、勤益造紙股份有限公司

工業概況

資本金	法幣四拾萬元
所在地	上海星加坡路膠州路西首二五五弄
營業所	同
設備	長網ヤンキー抄紙機一台
生産能力	月額約一〇〇噸
製品種目	灰報紙其の他各種包裝紙
二、美泰造紙廠	
資本金	法幣四拾萬元
所在地	上海博信路
設備	九網ヤンキー抄紙機一台
生産能力	月額約七〇噸
製品種目	連史紙、毛邊紙、海月紙等
三、第三國人製紙工場	
一、中國紙版製品公司(チャイナ・フアイバー・コンテナ社)	
國籍	猶太系米人經營、株式組織(十二月八日以後軍管理工場)
所在地	上海楊樹浦海州路二七三號
資本金	米幣貳拾五萬弗
設備	九網板紙抄紙機一台
生産能力	月産約五〇〇噸
製品種目	マニラボール

一〇、ゴム工業(ゴム靴)

一、概説(支那事變以來の推移概観)

上海に於ける華人ゴム工業は一九二五年以後發達したものであつて、當初事業は不振を極め經營を續けたものは數工場に過ぎなかつたが、之は當時農村に於ける疲弊が原因であつた。滿洲事變後反日運動の激化に伴ひ急速に發展し多數工場が新設され、國貨の需要に應じ來つた。前上海事變に於て之等工場多數は破産したが、幣制改革後再び工場増加を見た。

一九三七年の調査に依れば工場數は三一に上り、此の中にはタイヤイ其他ゴム製品を造つて居る處もあつたが、之等工場の資本金は五百萬弗に上り、明細は次の如くである。

資本金	工場數
五萬弗以下	一九
五萬—十萬弗	四
十萬弗—二十萬弗	五
二十萬弗—三十萬弗	一
三十萬弗—四十萬弗	一
四十萬弗—五十萬弗	一
五十萬弗—百萬弗	一
百萬弗以上	一

一九三七年に於ける生産額は、ゴム靴三千萬足、自動車タイヤイ三萬本、人力車タイヤイ約十八萬組、湯タンボ、レインコート等七十萬弗である。金城銀行經濟研究調査に依れば、一九三七年事變勃發に依り蒙つた損害は、直接的及間接的の損害を合せて、約六百萬弗であり、明細は左記の通りである。

工業概況

損害程度	工場數	資本金
一、完全に破産されたもの	五	二二萬弗
一、殆んど破産されたもの	一〇	一一六萬弗
一、損害輕微のもの	一五	一、二八五萬弗
一、破産を免れたもの	四	二四二萬弗

然して一九三八年春には操業を再開した工場があり、同年末迄には其の數は逐次増加した。此の間に新設された工場は一二工場に上るが、一方再開不能に陥つたものは八工場である。再開工場及新設工場は次の如くである。

工場數	資本金
再開工場 一四	三四八萬弗
新設工場 一二	二三萬弗

一九三六年九月より一九三七年四月に至る生産額は月額三百萬足であるが、五月より八月に至る間に於ては月額百五十萬足に半減し、年額三千萬足となつた。

一九三八年支那軍の上海撤退後、同年生産額は僅かに八百萬足であつたが、一九三九年には一千二百萬足に増加した。事變前に於て自動車タイヤイ、人力車タイヤイを製造した工場は四工場あつたが事變後は二工場に半減し勢ひ生産總額は著しく減退した。

事變前上海工場製品は三大市場に販賣されたが、其の最大なるものは南京、漢口、重慶等を含む長江流域であり、天津、北京、濟南等の北支が之に次ぎ香港、廣東方面市場が第三位を占めて居た。

一九三八年、一九三九年に之等奥地との物資交流が杜絶狀態にあつた爲、自由支那に積送されたゴム靴の數量は僅かである。

然し乍ら福建及南洋の新市場が開拓され、夥しい數量が之等方面へ輪移出された。一九四〇年日本軍に依る沿岸封鎖及取引の統制強化に伴ひ、上海に於ける製品は滞貨となつて其の處分に困難を生じ、小資本工場は多數工場閉鎖を餘儀なくされたが、其の大部分は事變後新設された工場である。

過去四年間に於て原料及製品共數回に亘り暴騰したが、一九三八年、一九三九年中、未だ原料が比較的昂騰して居なかつた時、原料手當をした工場は莫大な利益を擧げた。

然し乍ら原料の昂騰と、政治、軍事、情勢の逼迫化に依つて著しく狭隘となつた市場より見れば、薄資小工場等は還からず閉鎖其他の苦境に直面するものと思はれる。

勞働事情

一、勞働賃銀と生計費指數

華人勞働者生計費類別指數

△一九四一年と前年の比較

類別	一九四〇年	一九四一年	増減率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率

△一九四一年の年頭と年末の比較

類別	一月	十二月	増減率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率

△實際所得指數(一九三六年=100)

類別	一九四〇年	一九四一年	増減率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率
食料	四三・五	四三・五	同上増加率
住宅	四三・五	四三・五	同上増加率
衣料	四三・五	四三・五	同上増加率
雑費	四三・五	四三・五	同上増加率

華人經營工場に於ける華人勞働者の待遇

項目	一九四〇年	一九四一年	増減率
全工入	四三・五	四三・五	同上増加率
出賃工入	四三・五	四三・五	同上増加率
時間給工入	四三・五	四三・五	同上増加率
男工時間給	四三・五	四三・五	同上増加率
女工時間給	四三・五	四三・五	同上増加率
男工出賃給	四三・五	四三・五	同上増加率
女工出賃給	四三・五	四三・五	同上増加率
全工入	四三・五	四三・五	同上増加率
出賃工入	四三・五	四三・五	同上増加率
時間給工入	四三・五	四三・五	同上増加率
男工時間給	四三・五	四三・五	同上増加率
女工時間給	四三・五	四三・五	同上増加率
男工出賃給	四三・五	四三・五	同上増加率
女工出賃給	四三・五	四三・五	同上増加率

一九四一年上海勞働爭議一覽表

註一、参加人員は概數、男女別は記入せず、日數は日以上は一日として計算す、團體は主催側個人側は特記せず。
註二、▲印は爭議再發せるもの 註三、爭議中止、紛、閉以外は凡て罷業

月日	工場名	所在地	人員	日數	要求條件	結果	備考
三月	法文上海日報	公館馬路二三	五	三日	五〇%増賃、毎月半額分米 手高と炭炭一担、年末賞與 一ヶ月半分賃銀	全部解決	印刷工、植字工、若力、 見習、華人一七名新 雇、南京路に不潔文書發見
三月	中和廠	丹陽路一五九	二	二日	解雇工の復職	解決	
三月	編織廠	白克路四三	二〇〇〇	一日	待遇改善、増賃	解決	
三月	(家内雜物工)	四三	五	二日	六〇%増賃、米手當三・三元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀半分支給	解決	
三月	新亞機皮印刷公司	四三	二	一日	六〇%増賃、米手當三・三元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀半分支給	解決	
三月	福記製釘廠	四三	二	一日	六〇%増賃、米手當三・三元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀半分支給	解決	
三月	信通製煙工廠	四三	二	一日	六〇%増賃、米手當三・三元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀半分支給	解決	
三月	徐德記電筒製造廠	四三	二	一日	六〇%増賃、米手當三・三元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀半分支給	解決	
三月	拔佳皮靴公司	四三	二	一日	六〇%増賃、米手當三・三元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀半分支給	解決	
三月	新運廠	四三	二	一日	六〇%増賃、米手當三・三元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀半分支給	解決	
三月	時達五彩印刷廠	四三	二	一日	六〇%増賃、米手當三・三元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀半分支給	解決	

三三三	佛勝印刷公司	香港路一七	英	一日半	退職手当四ヶ月分賃銀	四名無條件復業、一名退職	植字工
三三三	升泰木器家具製造廠	大寶路三六〇	英	七日	五〇%増賃、米手當二四元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀支給	四〇%増賃、米手當二一 元、年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀支給	
三三三	廣慈醫院	金神父路二九七	佛	三日	同僚一名解雇反對、五〇% 増賃	一五元増賃、罷業中の賃銀 支給、理由なく解雇せず	看護婦五〇名、附添男女 二九〇名、諸人一〇〇名 臨時雇
三三三	浦東第一玻璃瓶部	夢根路二一〇	佛	七日	一〇〇%増賃、修正手當	否認	一月七日工場閉鎖
一一一	永固仁記紙版製版廠	星嘉坡路一八 七弄六	英	二日	待遇改善	交渉無し復業	
一一一	ユダヤ靴店五軒	福山地區	英	八日	四〇%増賃	資額若干減少	靴工
一一一	人和雪製煙製造廠	檳榔路五三	英	四日	六〇%増賃、米手當三二 元、理由なく解雇せず、解雇手 當三ヶ月分賃銀	四〇%増賃、米手當二七元 の賃銀なく解雇せず、罷業中 の賃銀支給、年末賞與二〇 日分賃銀	
一一一	華東皮鞋商店	南京路七七	英	二日	四〇%増賃	六名無條件復業、一名交 渉無し復業	靴工
一一一	蘇州河碼頭工人	西虹口、 老關地區	英	六日	増賃、夜間は工人側押取せ ず、工會の承認	開業毎包三仙、従六仙増賃 午後五時以後は夜業とす、 工會を承認	
一一一	銀行倉庫一三軒	老關地區	英	四日半	増賃	〇・五仙乃至一仙増賃	苦力
一一一	怡盛祥製藥廠		英	三日	五〇%増賃、米手當二四元 年末賞與一ヶ月分賃銀、夜 食費四〇仙	三〇%増賃、米手當二四元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀支給	
一一一	錦昌機器砂廠		英	四日	五〇%増賃、米手當三二 元、年末賞與一ヶ月分賃銀	三五%増賃、米手當二七元 年末賞與一ヶ月分賃銀	
一一一	中國化學工業廠	檳榔路一五〇	英	六日	解雇工七名の復職、生活手 當一八〇仙、毎月現米五 斗、八時間制	復職承認、生活手當一六 〇仙、毎月現米五斗、新年 から八時間制承認	

一一一	德昌祥茶棧	七浦路六〇二	英	五日	五〇%増賃、待遇改善	三〇%増賃、米手當二七元 年末賞與一ヶ月分賃銀	電車一時停止、蘇州路、 信開路、蘇州路、蘇州路
一一一	永興印刷製本廠	馬渡路一七七	英	六日	五〇%増賃、待遇改善	五〇%増賃、毎月四日分賃 銀追加、年末賞與一ヶ月分 賃銀、切符買一名増員	
一一一	英商電車公司	蘇州路一八五	英	二日	五〇%増賃、毎月米手當三 六元、年末賞與一ヶ月分賃銀	三五%増賃、米手當三〇元 年末賞與二〇日分賃銀	
一一一	大明電器製造廠	華成路一九弄 三六	英	四日	五〇%増賃、毎月米手當三 三元、年末賞與一ヶ月分賃銀	三〇%増賃、米手當二九〇 仙、年末賞與一ヶ月分賃銀	
一一一	同安製床廠	大沽路四一 弄三	英	三日	五〇%増賃、待遇改善	三〇%増賃、米手當三二 元、年末賞與一ヶ月分賃銀	
一一一	華利製煙廠	河南路二一 同	英	二日半	待遇改善 數名解雇反對	交渉無し復業	
一一一	商務印書館發行所	河南路二一 同	英	二日半	待遇改善	増賃承認、理由なく解雇せず	
一一一	同	河南路二一 同	英	二日半	待遇改善	三〇%増賃、米手當三二 元、年末賞與一ヶ月分賃銀	
一一一	彭福記眼鏡廠	小沙渡路七五	英	五日	五〇%増賃、毎月米手當三 二元、年末賞與一ヶ月分賃 銀、夜勤料四〇仙	三〇%増賃、米手當三二 元、年末賞與一ヶ月分賃銀、食 事供給	
一一一	榮昌機器工廠	華成路六五二	英	二日半	増賃	一二月一〇元増賃、大客數 復業、二日五〇名解雇、三 日罷工大半未償賃銀支給	英字版二〇〇名、華字版 七〇名、南京路にアサビ ヲ敷見
一一一	四達橡皮印刷所	威海衛路三五五	英	五日	増賃、待遇改善	四〇%増賃、米手當二七元 年末賞與二〇日分賃銀	
一一一	大美眼鏡	愛文義路一九 北河南路三〇	英	五日	増賃、待遇改善	交渉無し復業	
一一一	榮泰昌紙盒製造廠	共佛租界	英	五日半	待遇改善	資額減少	
一一一	理髮業五〇〇軒	澳門路五二	英	五日半	待遇改善		
一一一	福新烟公司		英	五日半	待遇改善		

113	公團司養牛公司	九六	敬徳尼庵路二	三三	三時	待遇改善	交渉中
114	華福堂	九六	黃浦灘路二	三三	三時	契約通り純益分配	交渉中
115	陽昌銀行	九六	愛多亞路三四	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
116	大北電報局	九六	愛多亞路三四	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
117	太平洋電報局	九六	愛多亞路三四	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
118	振興染色織廠	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
119	新衣業六五軒	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
120	泰順土紙	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
121	長興染織廠	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
122	興業煙公司	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
123	進益電器工廠	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
124	油漆業	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
125	上海電話公司營業部	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
126	女子運轉手	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
127	德太汽車公司	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
128	友友	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
129	美花	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
130	江蘇	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
131	福州	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
132	大康	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
133	中川	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
134	同同	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
135	同同	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
136	同同	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
137	同同	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
138	同同	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
139	同同	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中
140	同同	九六	廣龍路六八	三三	三時	二〇元増賃、毎月半増の現米	交渉中

113	大新織造廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
114	亞利昌織造廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
115	成貴源染毛織	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
116	球手雪織造廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
117	宏業針織廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
118	新亞印花織廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
119	同發祥織造廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
120	新理髮店	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
121	上海祥泰公司	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
122	沃的斯電機公司	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
123	揚同福織造廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
124	信成化學製藥廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
125	華聯織造廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
126	理髮業八軒	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
127	華新理髮店	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
128	榮新理髮店	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
129	維也納織造廠	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
130	茂華洋行上海分場	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
131	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
132	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
133	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
134	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
135	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
136	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
137	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
138	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
139	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中
140	同同	九六	勞神父路一七	三三	三時	待遇改善	交渉中

美聯實業公司 第一工廠 第二工廠 第三工廠 第四工廠	婦人服店	石利毛織廠	泰同國藥號	紙盒廠(二〇工廠)	理髮店一五軒	永動機皮廠	皮革業一四軒	五和織造廠	美商織布公司	工部局衛生課	泰來汽車公司	法商水電公司	上海自來水公司	印刷業三〇軒
新加坡路一五〇〇 同 四川路三四六 威安瑪路六九 河南路四五五	共佛組界	中央地區	武定路四二三	共佛組界	康樂路一一 康樂路九一 華德路五八一 弄六	遇而西愛路九 五路路二四九 揚州路四六四	共佛組界	共佛組界	共佛組界	共佛組界	共佛組界	共佛組界	共佛組界	共佛組界
二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半	二日半
解雇工五名の復職、待遇改善 手當引上〇仙、女工一圓仙	六〇%増賃 手當に代へ、二五封度の 解雇工の復職	二〇%増賃 承認	四〇%乃至七〇%増賃、米 價値上に準じ、一ヶ月三 乃至六元支給 承認	一四軒無條件復職、殘余大 食米供給承認 承認	實働の自費の手當引上、圓 三〇%増賃 承認	米手當二〇元乃至二四元引上 承認	交渉無し復業 承認	生活手當一八元引上 承認	元一〇%増賃、毎月米手當五 六〇仙支給 無條件復業	元一〇%増賃、毎月米手當五 六〇仙支給 無條件復業	元一〇%増賃、毎月米手當五 六〇仙支給 無條件復業	元一〇%増賃、毎月米手當五 六〇仙支給 無條件復業	元一〇%増賃、毎月米手當五 六〇仙支給 無條件復業	元一〇%増賃、毎月米手當五 六〇仙支給 無條件復業
一七日デビラ撤去する	從來米手當一日一五仙		大隅が口火となり以下逐 日合流											

華通電機機器廠	光華公司	第三區化粧品	木器業工人	中華油漆廠第二工廠	大東機器廠	義大布廠	汽車行七軒 月宮、東新 華、亞細亞	恒興染織廠	▲五和織造廠正副部	▲雄也染織廠	▲雄也染織廠	▲雄也染織廠	▲雄也染織廠	▲雄也染織廠
無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九	無錫路七二 小沙渡路五九
六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半	六日半
解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職	解雇工二名の復職
一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上	一日手當二〇仙引上

百老匯洗衣公司	都門路五三七	三〇〇	一日	待遇改善、取捨役の意向に反対	生活手當九元引上	一三元増賃	同僚七名の仕事の分擔を除外せるに抗議、同僚六〇名合流
工部局土木課	二六	三〇〇	一日	待遇改善	無條件復業	生活手當一日三五仙引上	
祥泰木行有限公司	都門路一四	三〇〇	二日	現米半増支給、生活手當一〇元引上	生活手當一日三五仙引上		
國際飯店	都門路	三〇〇	二日	待遇改善、増賃	無條件復業		
▲福新煙公司	都門路五二二	三〇〇	二日	三〇%乃至八〇%増賃、生活手當六〇仙引上、毎月の停業は賃金手當支給	二元増賃、生活手當一日二〇仙引上、毎米五斗支給、毎月の生活手當一三元三〇仙、米一斗支給、毎月二元乃至三元の特別手當支給	二〇%増賃、米手當若干引上	現在歩合率三五%、五名任意退職
華洋理髮店	都門路七三	三〇〇	二日	歩合率五〇%に引上	二〇%増賃、米手當若干引上		
商業印字館	四川路一二六	三〇〇	二日	一〇元増賃、生活手當一〇〇%引上	五〇%増賃、米手當一〇〇元引上、年末賞與半々月分賞與		
精益製菓廠	松江街二六	三〇〇	二日	二〇〇%増賃、米手當二〇元	追つて回答		
石炭運搬工人	都門路九六一	三〇〇	二日	運賃賃金一元二五仙増賃、生活手當引上	無條件復業		
中美化學廠	共・佛租界	三〇〇	二日	増賃、生活手當引上	無條件復業		
香料店一〇軒	共・佛租界	三〇〇	二日	不詳	三日分賃銀支給		
華生電器公司	共・佛租界	三〇〇	二日	一〇〇%増賃	五〇%増賃		
布織染色廠五〇軒	共・佛租界	三〇〇	二日	増賃、米手當支給	賃銀減歩		
上海製造電氣有限	福州路一八五	三〇〇	二日	増賃、米手當支給	三月分米手當五元支給、四月より一五元及一九日米賃減歩、生活手當六五仙引上		意工に對する對抗手段として四日間工場閉鎖
英商公共汽車公司	龍馬路一七一	三〇〇	二日	待遇改善、取捨役の意向に反対	生活手當九元引上	一三元増賃	同僚七名の仕事の分擔を除外せるに抗議、同僚六〇名合流

▲法南水電公司	呂班路二四九	三〇〇	二日	既決協約の履行	交渉終了復業	五元増賃	バス、電車五日間停止
華成印刷製版廠	愛多亞路一四六	三〇〇	二日	六元増賃	増賃、米手當引上		
誠字工廠	澳門路五九六	三〇〇	二日	待遇改善	四月一日より増賃		
▲五和鐵道建設部	小沙渡路四七一	三〇〇	二日	一〇〇%増賃	交渉終了復業		
鋼鐵廠四二軒	共・佛租界	三〇〇	二日	米手當四元	米手當一・七五元引上		
婦人洋服店一七軒	福州路、湖北路	三〇〇	二日	二五〇%増賃、米手當一日二〇〇仙	二五%増賃、米手當一石二〇〇仙増賃、一〇元値上、二〇〇仙増賃		
▲英商電車公司	蘇州路一八五	三〇〇	二日	電車、バスの乗客運賃	法商電車、バス乗客と同様結果		
▲法商水電公司	呂班路二四九	三〇〇	二日	米手當引上若は現米支給	未解決		
▲柳樹印刷公司	香港路一七	三〇〇	二日	生活手當一日三〇仙引上、現米月一〇・三五名、四〇%増賃	生活手當一〇%引上、現米月一〇・三五名、四〇%増賃		
美亞鐵道廠第四工場	膠州路九三四	三〇〇	二日	米手當八〇%引上	米手當一八〇元、米手當一〇元値上、一日二六仙支給		
▲華通電機機器廠	小沙渡路五九六	三〇〇	二日	米手當八〇%引上	米手當一八〇元、米手當一〇元値上、一日二六仙支給		
靴下染色業二二軒	共・佛租界	三〇〇	二日	五〇%増賃	染上一打二〇元、米手當引上、一打に付二仙の米手當引上交渉終了復業		
勝且織物廠	共・佛租界	三〇〇	二日	五〇%増賃	染上一打二〇元、米手當引上、一打に付二仙の米手當引上交渉終了復業		
男子洋服店	共・佛租界	三〇〇	二日	五〇%増賃	染上一打二〇元、米手當引上、一打に付二仙の米手當引上交渉終了復業		
五〇軒	共・佛租界	三〇〇	二日	五〇%増賃	染上一打二〇元、米手當引上、一打に付二仙の米手當引上交渉終了復業		
▲大北電報公司	愛多亞路三四	三〇〇	二日	米手當五元九角九分引上	未解決		
		三〇〇	二日	米手當五元九角九分引上	米手當五元九角九分引上、二五仙引上支給		

三六	成衣業二〇軒	共。佛組界	三〇〇〇	一日	待遇改善	月給四〇%乃至五〇%引上 出来高四四%歩合率 三〇%乃至三三%増賃、仕 立に準ずる手當二〇%乃至 三〇%引上	四月三日梅嶋の廠で六名 押引
三五	上海市四服業	共。佛組界	三〇〇〇	五日	契約改正 米手當支給、	新農工一五元、運轉手、運 車石炭一五元、運轉手、運 車石炭一五元、運轉手、運 車石炭一五元、運轉手、運	
三四	上海市煤建業	共。佛組界	三〇〇〇	二日	四〇%増賃、米手當二五元		
三一	南洋煤球廠	東京路	三〇〇	數日	待遇改善	生活手當八元引上	
三〇	▲新煙公司	澳門路五二	三〇〇	五日	待遇改善	廣備歩 一日二〇仙乃至三〇仙増賃 毎月〇・三石支給	
二九	德孚染織廠	七號路一一	三〇〇	六日半	待遇改善	三〇%増賃、米價一擔一〇 〇元超過手當一五%引上 四〇%増賃	四月一、〇〇〇名合流 五、〇〇〇名僅業
二八	上海市製履業(支那)	一〇〇	二日	待遇改善	協約締結	生活手當支給	
二七	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	數日	待遇改善	生活手當五元引上、毎月現 米〇・五擔支給	分工場三〇名は梅嶋によ り参加
二六	▲茂泰煙公司分工場	漢口路六九一	二〇	六日半	待遇改善	二〇元乃至二五元増賃、 一〇%乃至一四%増賃、朝 食手當毎月八元、徒弟毎月 三元支給	運轉手、苦力 監督職の廠で逮捕
二五	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上	一八元乃至三〇元増賃、福 業中の賃額支給	
二四	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
二三	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
二二	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
二一	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
二〇	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一九	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一八	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一七	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一六	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一五	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一四	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一三	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一二	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一一	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一〇	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
九	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
八	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
七	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
六	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
五	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
四	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
三	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
二	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		
一	▲公置助教牛公司	九六號路二	二〇〇	八日	増賃、生活手當引上		

四六	Barro Report Company	天通路五三〇	二	二日	待遇改善	交渉種し復業 日給七〇仙、徒弟は一月五 三元支給、一〇元値上、手當 賃率協約修正、六元増賃 米手當男工四〇%、女工二 三〇%増賃	一日北河南路にアデビ ラ警見
四五	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
四四	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
四三	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
四二	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
四一	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
四〇	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三九	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三八	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三七	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三六	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三五	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三四	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三三	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三二	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三一	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三〇	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二九	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二八	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二七	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二六	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二五	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二四	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二三	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二二	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二一	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二〇	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一九	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一八	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一七	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一六	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一五	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一四	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一三	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一二	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一一	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一〇	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
九	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
八	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
七	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
六	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
五	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
四	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
三	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
二	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	
一	▲茂泰煙公司	漢口路二二五	二〇	六日	待遇改善	賃率協約修正、女工一名復 職承認	

四七	曙光大戲院	五多亞路七二	五日	解雇工の手當二ヶ月分賃銀	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
四八	泰來汽車公司	河南路二六	五日	解雇工三〇名の復職	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
四九	商務印書館	愛文義路二六	五日	解雇工九ヶ月分賃銀支給、將來の再雇を約束	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五〇	景綸衫襪紡織廠	四思路二八	五日	米手當一日七〇仙支給	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五一	通惠小學校	馬浪路	五日	米手當一日七〇仙支給	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五二	亞洲影戲公司	愛多亞路五二	五日	生活手當引上	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五三	公債局衛生課	佛租界	五日	同僚の解雇反對	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五四	張利昌鋼鐵廠	普恩濟世路	五日	反對	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五五	工部局衛生課	共同租界	五日	待過改善	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五六	衛勤轉運公司	紹興路八二七	五日	六〇%増賃	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五七	海關衛生清潔服務所	寧波路四七	五日	生活手當一月一〇元引上	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五八	婦人靴店	浙江路附近	五日	待過改善	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
五九	泰來汽車公司	遇而西愛路	五日	待過改善	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
六〇	大新鐵線釘廠	嘉浦路三三八	五日	待過改善	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
六一	上海市熱貨業	小沙渡路一四	五日	一〇元増賃	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
六二	華陽染織廠	五七	五日	解雇工七名の復職	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名
六三	紅木船作樂家具製造	五七	五日	五〇%増賃	承認	四月二三日工場閉鎖、四月二四日解雇、四月二五日起工部局職員、四月二六日不況のため解雇、現在三〇名

四三	美興製線	重慶路二七〇	五日	解雇工一名の復職	承認	五月一日より二〇元引上
四四	▲公債局衛生課	重慶路二七〇	五日	復職の工人開放、解雇中の	承認	五月一日より二〇元引上
四五	新義興染織小學校	共・佛租界	五日	三月から六〇元給料引上	承認	五月一日より二〇元引上
四六	文房具製造二〇軒	共・佛租界	五日	待過改善	承認	五月一日より二〇元引上
四七	洗染業二六〇軒	共・佛租界	五日	八〇%増賃、毎月現米三斗支給	承認	五月一日より二〇元引上
四八	大上海皮革廠	買西義路二〇	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
四九	白系露人労働者協會	買西義路二〇	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五〇	信義機器廠	莫干山路三八	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五一	▲上海自來水公司	楊樹浦路四四	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五二	益強釘廠	四虹口地區	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五三	新華工程公司	四馬路三六	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五四	上海造船廠	楊樹浦路六四	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五五	▲上海造船廠	楊樹浦路六四	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五六	Mathen Tannery	中央路一〇	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五七	公和棉織廠	支路五五〇	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五八	ナショナル・ヘラル	寧波路一三〇	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上
五九	▲五和鐵道廠	小沙渡路	五日	元給料、米手當一日七〇仙、	承認	五月一日より二〇元引上

五八	治中機器工業公司	靜安寺路四四	二〇〇	一日	賃金問題の解決より衝突	無條件復業	要求なし
五九	彰印業一〇軒	共・佛組界	二〇〇	二日	二〇元増賃、二四元米六	二〇元増賃、二四元米六	
六〇	石利希兄弟紡織廠	威安瑞路四四	三三〇	三日	四〇元増賃、米手引上	二〇元増賃、米手引上	
六一	太古汽船碼頭工人	浦東バンド	一〇〇	四日	露人監視の華人コソ泥殿打	元四〇仙支給	
六二	運米場車業	佛界バンド	二〇〇	五日	資側のトラクタ雇用反対	交渉なし復業	
六三	永安公司天福樓	南京路六二七	二〇〇	六日	顧客の茶代一杯一元に引上	承認	請願車夫
六四	沙利文糖菓公司	南京路二二二	二〇〇	七日	七五元乃至一五〇元増賃、	三〇元増賃、米手引上	女給仕
六五	童延春園菓業	愛文義路六六	二〇〇	八日	ヶ月分賃銀同僚四名の復職	賃銀支給	テロブル・ボーイ、ボー
六六	德泰飲料部	廣治廟路六六	二〇〇	九日	四〇元増賃	無條件復業	イコック
六七	黃浦江渡渡船局	南京路	二〇〇	十日	賃銀協約履行工人幹部の解	賃銀協約履行	店員二四名、見習六名
六八	華成織光染廠	北蘇州路	二〇〇	十一日	五〇元増賃、毎月現米五斗	不詳	
六九	登記理髮店	南京路	二〇〇	十二日	賃銀下落による米手引上	賃銀下落による米手引上	
七〇	浙江興業銀行倉庫	北蘇州路	二〇〇	十三日	賃銀下落による米手引上	賃銀下落による米手引上	
七一	密豐織染廠	臨陽路四〇〇	二〇〇	十四日	賃銀下落による米手引上	賃銀下落による米手引上	
七二	上海市南貨業(食料品)		二〇〇	十五日	賃銀下落による米手引上	賃銀下落による米手引上	

五八	上海市油漆業	南京路七七五	二〇〇	一日	米手引上	三〇元乃至八〇元増賃	臨時解工、五月二六日壁
五九	勝利泰記服裝號	佛組界	二〇〇	二日	一五元増賃	未解決	料理店組合の通告により
六〇	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	三日	待遇改善	交渉なし復業	タイ、新規模で機業
六一	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	四日	待遇改善	承認	米手引上、見習
六二	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	五日	待遇改善	承認	徒毎月手引上四元支給
六三	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	六日	待遇改善	承認	二五二〇〇名台渡
六四	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	七日	待遇改善	承認	
六五	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	八日	待遇改善	承認	
六六	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	九日	待遇改善	承認	
六七	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	十日	待遇改善	承認	
六八	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	十一日	待遇改善	承認	
六九	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	十二日	待遇改善	承認	
七〇	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	十三日	待遇改善	承認	
七一	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	十四日	待遇改善	承認	
七二	乾物店二〇軒	共・佛組界	二〇〇	十五日	待遇改善	承認	

[illegible]

七三	豆米業二〇軒	共・佛租界	三〇〇	九日	七〇％増賃、待遇改善	不詳
七三	中國電氣有限公司 本社	Mathurst 二二〇〇 車助路五七八 里橋一〇六	二〇〇	三日	解雇工三名の復職、米手當 引上	二名復職、罷業中五四時間 分賃銀支給
七二	科学橡皮廠	佛租界	六〇	九日	解雇工一名の復職	解雇手當三ヶ月分復銀支給
七四	大中華橡膠廠	東棋盤街六三 弄三	一三〇〇	元日	昨年契約の履行、工會代表 の復職、工會補助費一〇〇 元、日曜休日就業信託銀一〇 元、月現米五斗支給、米價六 元、米標準値上每三元引上	昨年契約の履行承認、工會 代表の復職、工會補助費支 給日曜不休但し二日分復銀支 給月現米五斗支給、米手 當引上否認
七四	▲石利洛兄弟工廠	咸安瑞野街	二〇〇	三日	解雇工四名復職、待遇改善	賃銀調歩
七六	義興印刷所	陝西路益湯街	二〇	五日	毎月現米五斗支給、一〇〇％ 増賃、日曜は休息	交渉涉及復業
七九	紗織襪業工廠二二軒	共・佛租界	一、〇〇〇	九日	一五％乃至五〇％増賃、一 打每二五％増賃、朝食手當 毎月一〇元支給	無條件復業
七〇	徐重道藥房	愛文義路一〇	二〇〇	一日	解雇工一名の復職、待遇改善	無條件復業
七〇	美恩工業公司	巨福路二八一	三〇〇	?	一〇〇％増賃、米手當二 元に代へ現米三斗支給、生 活手當一日五〇仙支給	爭議解決困難、輸出需要の 缺如により停業
七二	又新印刷所	七浦路一九九	一元	五日	五〇％増賃	毎月六元引上
七二	ブルリブ牛乳店		五	五日	露人監視の解雇、解雇工二 名の復職	一三名復業、二名手當支給
七二	Blue Ribbon Dairy		五〇	五日	二名の解雇反對、露人監視 殿下に抗議願要求	解雇
七三	都邑佳藥廠	戈登路一〇四	三〇〇	八日	五〇％増賃、生活手當五〇 ％引上、米手當一五元支給	一〇〇％乃至七〇％増賃
七三	陶元春合織工場		四三	四日	勞資協約の履行	承認

倉庫動手
電話會社工人を脅迫して
四名逮捕、アザビラ街見
え、分行四四四名は荷
迫により缺勤

脅迫を恐れて缺勤
三〇〇名中一〇〇名不参
加
男女

会社名	所在地	労働争議の概要	解決の状況
▲新煙草公司	澳門路五二一	解雇工六〇名の復職、停業中の手当、米一斗支給、復職後は二〇%乃至三〇%増賃、理由なく解雇せず	六〇名に解雇手当一〇〇元、解雇中の手当、米一斗支給、復職後の増賃考慮、将来の再雇を約束
▲大東電報局	愛多路三四	五〇%増賃、一年二回の特別支給、毎月四ヶ月分賃、米一斗支給、日曜休業は特別手当支給	二五%増賃、年末賞與一ヶ月分賃、賃銀一〇%の米日分賃追加
▲江蘇汽車行	貴州路一二五	二〇%増賃、米一〇元、手当一六元、公債、不具の慰勞料	一〇%増賃、米手当一六元、慰勞料支給
仁義帽子製造廠	馬白路一五〇	労働時間改善	考慮を約束
民生鞋帶廠	開家嘴路五九	六〇%増賃、米手當三〇元、由ななく解雇せず	四〇%増賃、米手當一〇元、年末賞與一ヶ月分賃、元業中の手一當日入〇仙支給
光明織物廠	揚樹浦路	待遇改善	無條件復業
大新酒家	南京路	三五元増賃、毎月米五斗、米手當五〇%分配、サビビ	全部解雇
法商華比銀行	酒而西愛路二九〇	生活手當八〇%乃至二五〇%引上	二九名解雇、殘金無條件復業、二〇仙乃至二五仙引上、一未解決
▲華通煤礦廠	蕪湖路三五號	日給三〇仙引上、賃銀六〇%の米手當	二〇仙乃至二五仙引上、一未解決
利興機車廠	蕪湖路一〇三三	三〇%増賃、賃銀五〇%の米手當全部支給、解雇は未前に通知	未解決
福源苦力	佛界バンド	米のコン泥搬運で同僚二名逮捕に抗議	釋放

会社名	所在地	労働争議の概要	解決の状況
新煙草公司	新開路四七七	毎月米六斗支給、二〇元増賃、解雇は二ヶ月分賃、解雇手當は二ヶ月分賃、米一斗支給、復職後は二〇%乃至三〇%増賃、理由なく解雇せず	毎月米六斗支給、二〇元増賃、解雇は二ヶ月分賃、解雇手當は二ヶ月分賃、米一斗支給、復職後は二〇%乃至三〇%増賃、理由なく解雇せず
▲華慈工業廠	蕪湖路一九	待遇改善	生活手當一〇〇%乃至一五〇%引上、米三斗乃至五斗支給
▲國泰金庫印刷公司	北四川路仁智里六六六	五〇%増賃、毎月米一石支給、年末賞與一ヶ月分賃、米一斗支給、復職後は二〇%乃至三〇%増賃、理由なく解雇せず	五〇%増賃、毎月米一石支給、年末賞與一ヶ月分賃、米一斗支給、復職後は二〇%乃至三〇%増賃、理由なく解雇せず
▲照相業一六三軒	共・佛租界	四〇%乃至七〇%増賃、賃銀五〇%の米手當	一五%乃至五〇%増賃、最低五元の米手當
▲法商電報公司	呂班路二四九	生活手當外人五〇%、華人一五%の差別反對	華人生活手當一〇元引上、解雇中の賃銀一ヶ月分賃、解雇のため解雇されし工人一一名解雇、毎月二斗相當の米手當、生活手當毎月一元、解雇中の賃銀支給
美商新織公司	小沙渡路一四	毎月米四斗、生活手當一五〇仙	一一名解雇、毎月二斗相當の米手當、生活手當毎月一元、解雇中の賃銀支給
生達信封廠	厦門路二〇	二〇仙	交渉無し復業
▲美亞織物廠第九分廠	徐家園路一〇	三〇%増賃、五〇%手當引上	三〇%増賃、三〇%手當引上
▲蘇存德堂藥號	河南路五〇六	苦力一名採用反對	全部解雇、新現採用
▲美康織廠	開州路八〇	社員殴打の工人一名解雇反對	承認
▲錫蘭寶石公司	靜安寺路一九	六〇%増賃、毎月米手當三元、年末賞與一ヶ月分賃、理由なく解雇せず	無條件復業

八〇〇	▲美商ニョルス中国 縫製公司	縫製路六〇〇	米	一〇〇	閉	不況により停業、解雇手當 八〇〇元支給	天津向陽省せしむ
八〇三	▲華僑商店 華僑商店	共・佛租界	米	一〇〇	四日	三〇%乃至四〇%増賃、工 人収入最低二〇〇元	解雇手當二〇元支給
八二二	▲三三工場 第三工場	大西路一三三	米	二〇〇	三日	二〇%名解雇反対、退職手 當半々分賃支給	五〇%乃至一〇〇%増賃、 純益の九分米支給に相当 生活手當二〇元支給
八二四	▲三三工場 第三工場	倍開路九二	日	一〇〇	四日	増賃、米手當支給	二〇〇名に退職手當半々分 分賃、二〇〇名に五分分 乃至一ヶ月分賃支給
八二五	▲三三工場 第三工場	七〇〇路九二	米	一〇〇	四日	不詳	交渉幾し復業
八二六	▲三三工場 第三工場	靜安寺路五五	米	一〇〇	四日	意慢の限で二名解雇反対	手當二ヶ月分賃支給解雇 毎月一五元引上
八二七	▲三三工場 第三工場	雲南路三五	米	一〇〇	四日	一四〇%増賃	四五%増賃、新賃制は八 月三〇日より施行
八二八	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、新賃制八月 一五日より施行	華僑商店二五〇名中一七〇 名は無条件復業、清道工公 寓は事務所に改築、解雇中 の米手當七日分支給、六四 名解雇承認
八二九	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八三〇	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八三一	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八三二	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八三三	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八三四	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八三五	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給

八三六	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八三七	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八三八	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八三九	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八四〇	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八四一	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八四二	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八四三	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八四四	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八四五	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八四六	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八四七	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八四八	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給
八四九	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	六〇%増賃、労働協約の締結 生活手當六五%引上、労働 時間短縮五五名の賃金支 給、解雇工五五名の賃金支 給	五〇名は他は解雇、八月 二八日工終了閉鎖、九月一日 無条件復業
八五〇	▲三三工場 第三工場	共・佛租界	米	一〇〇	二日	請負の一五名が常雇要求	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、雇 中の賃金中分支給

九三	製菓業工人組合三〇〇軒工場八〇軒	二〇〇	六日	朝仕一足、中六〇仙、實は一食、夕食銀	朝仕一足、中六〇仙、實は一食、夕食銀	九三
九二	彼得羅布公司	一〇〇	臨時	兩人食料の半分打られし、女工に指導料、寮費中の實銀、手當支給、男女工同様に待遇	兩人食料の半分打られし、女工に指導料、寮費中の實銀、手當支給、男女工同様に待遇	九二
九一	義大布廠	二〇〇	一日	對、生活手當一五元	對、生活手當一五元	九一
九〇	中美日報館	二〇〇	一日	對、生活手當一五元	對、生活手當一五元	九〇
八九	大美轉運公司	六〇	五日	二五〇増賃	二五〇増賃	八九
八八	福和公雜貨店	六〇	數時	一〇〇〇増賃、毎日生活手當二〇元、中秋節實與二〇日分實銀	一〇〇〇増賃、毎日生活手當二〇元、中秋節實與二〇日分實銀	八八
八七	萬豐米號	六〇	臨時	増賃	増賃	八七
八六	民船木業工人	四〇〇	二日	本帮工人四〇％、舊帮工人六〇％増賃、夜間は夕食及晩食支給	本帮工人四〇％、舊帮工人六〇％増賃、夜間は夕食及晩食支給	八六
八五	▲上海市成衣業	三〇〇	二日	六〇％増賃	六〇％増賃	八五
八四	新協女子服裝公司	二〇〇	二日	五〇％増賃	五〇％増賃	八四
八三	▲上海市電影院業	三〇〇	一日	六〇％増賃、生活手當四〇元	六〇％増賃、生活手當四〇元	八三
八二	寶興洋服號	二〇〇	一日	監督とタイラーの紛争	監督とタイラーの紛争	八二
八一	大鶴織服廠	二〇〇	一日	増賃、九月二七日の紛争後、罷工が解決するまで	増賃、九月二七日の紛争後、罷工が解決するまで	八一
八〇	▲馬勒輪船公司	二〇〇	一日	炭組が解雇に反対	炭組が解雇に反対	八〇
七九	福州路三〇	二〇〇	一日	炭組が解雇に反対	炭組が解雇に反対	七九

新聞一時休刊

10-1	▲南貨業(食料品)	五月の労資協約廢止、一八元増賃	新協約考慮、三元乃至六元増賃	一日十三日五二名の働者逮捕、一七名釋放他は起訴、六日一二名逮捕
10-2	▲上海市油漆業	一日一元増賃、一日食費五元、一日から有効	五〇仙増賃、食費五〇仙、福利事業費五仙、六日から有効	七日名捕、八三名無條件復業、七名無條件復業、五名無條件復業
10-3	印刷業(上海)	九月に締結せる協約に洩れた一部工人の脅迫による不詳	未解決	一月以降三四名の靴下の製造部長は上九名の靴下のため失業、残余四名で復業
10-4	▲新康印刷所	染上打每一仙増賃、夜勤は特別手当一元支給、雇業中の食料供給	四名無条件復業、五名解雇	
10-5	公益電機廠	洗滌工一〇〇%増賃、機衣工一〇〇%増賃、機衣工一〇〇%増賃、機衣工一〇〇%増賃	三〇%乃至八〇%増賃、煙草代一日三〇仙支給	
10-6	洗衣業五軒	臨時工四名の解雇反對	無条件復業	常雇六一名は七日復業したが臨時工の脅迫で再雇
10-7	王維新	減車に反對	未解決	運轉手
10-8	大新	減車に反對	未解決	
10-9	寶通記	減車に反對	未解決	
10-10	陸順記	減車に反對	未解決	
10-11	屈臣氏汽水公司	臨時工四名の解雇反對	無条件復業	
10-12	▲德太汽車公司	二〇元増賃、毎月生活手当減車に反對	一〇%増賃、一名再雇	
10-13	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-14	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-15	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-16	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-17	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-18	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-19	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-20	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	

10-1	▲南貨業(食料品)	五月の労資協約廢止、一八元増賃	新協約考慮、三元乃至六元増賃	一日十三日五二名の働者逮捕、一七名釋放他は起訴、六日一二名逮捕
10-2	▲上海市油漆業	一日一元増賃、一日食費五元、一日から有効	五〇仙増賃、食費五〇仙、福利事業費五仙、六日から有効	七日名捕、八三名無条件復業、七名無条件復業、五名無条件復業
10-3	印刷業(上海)	九月に締結せる協約に洩れた一部工人の脅迫による不詳	未解決	一月以降三四名の靴下の製造部長は上九名の靴下のため失業、残余四名で復業
10-4	▲新康印刷所	染上打每一仙増賃、夜勤は特別手当一元支給、雇業中の食料供給	四名無条件復業、五名解雇	
10-5	公益電機廠	洗滌工一〇〇%増賃、機衣工一〇〇%増賃、機衣工一〇〇%増賃、機衣工一〇〇%増賃	三〇%乃至八〇%増賃、煙草代一日三〇仙支給	
10-6	洗衣業五軒	臨時工四名の解雇反對	無条件復業	常雇六一名は七日復業したが臨時工の脅迫で再雇
10-7	王維新	減車に反對	未解決	運轉手
10-8	大新	減車に反對	未解決	
10-9	寶通記	減車に反對	未解決	
10-10	陸順記	減車に反對	未解決	
10-11	屈臣氏汽水公司	臨時工四名の解雇反對	無条件復業	
10-12	▲德太汽車公司	二〇元増賃、毎月生活手当減車に反對	一〇%増賃、一名再雇	
10-13	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-14	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-15	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-16	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-17	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-18	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-19	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	
10-20	▲卡德汽車公司	減車に反對	未解決	

1015	啓中化學廠	澳門路五〇九	一時	待遇改善、解雇二名の復職	毎月特別手当八元支給、二名解雇
1016	安達紡織工廠	八安寺路一四	六日	米手當一日二〇仙増賃、	一〇月分賃銀一〇〇%引上、
1017	Long Kee 印刷公司	馬路四九五	三日	他からの脅迫で停業、脅迫者三〇名は工場機械一部を去る	一二月から米手當一日六仙支給
1018	建築機器廠	勞動生路一二二六弄三〇號	三日	〇元増賃、毎月米手當三〇元増賃、毎月米手當三〇元増賃、毎月米手當三〇元増賃	四名無條件復業、三名解雇、五名任意退職
1019	上海馬路總會	馬路三〇四	三日	特別手当一五元引下反對	承認
1020	墨筆製造業	南市	八日	手當一五元支給、食料又は米手當一五元支給	馬丁
1021	華生電器廠	戈登路一六	六日	元増賃、米手當一日一五元増賃、米手當一日一五元増賃、米手當一日一五元増賃	警察調停
1022	法商水電公司	呂班路二四九	一日	生活手當一〇元引上	電車、乗合自動車
1023	英商電車公司	蘇州路一八五	一日	生活手當一〇元引上	日給三〇仙引上、罷業中の賃銀五元支給を指示するも労働不服
1024	永昌織綢廠	橫路三〇九	一日	前同業交渉決裂	二名解雇
1025	婦人靴店五二軒	浙江路及びその附近	八日	普通靴仕上一足毎六〇仙増賃、花靴仕上一足毎八〇仙増賃、花靴仕上一足毎八〇仙増賃、花靴仕上一足毎八〇仙増賃	三名解雇
1026	同利織綢廠	小沙渡路一二〇九弄四二	三日	一日六〇仙増賃、毎月三五日分賃銀支給	
1027	永勤織皮製造廠	武定路四二三	三日	一〇〇%増賃、毎月現米四斗支給	

1028	大華機器廠	蘇德路八五三	四日	待遇改善	生活手當六元引上
1029	竹籠屋一三軒	共同租界	七日	増賃、待遇改善	八〇%増賃
1030	新昌織綢廠	戈登路四〇〇	八日	待遇改善	生活手當一日女工三〇仙、男工四〇仙引上
1031	分工場	小沙渡路四〇	八日	生活手當一〇〇%引上	生活手當二五%引上
1032	麥加利銀行	同	二日	増賃	一〇名無條件復業
1033	華德印刷局	新開路九〇六	二日	増賃	交渉終了復業
1034	長發皮鞋店	阿拉白司路一四四	二日	九月間業協約賃銀の履行	三五%乃至一〇〇%増賃
1035	字林西報	バンド一七	二日	月生活手當六〇元増賃、毎月一〇〇%増賃	交渉終了復業
1036	瑞瑞織綢總辦事處	楊樹浦路六四	七日	待遇改善、男女工同様、年末賞與二ヶ月分賃銀、月分賃銀、五年以上勤続工に特別獎金六〇元支給	男工一日三〇仙乃至六〇仙、女工三〇仙増賃、毎月三二日分賃銀支給、年末賞與二〇%増賃
1037	久盛織綢廠	小沙渡路一二三三弄七〇	七日	待遇改善、男女工同様、年末賞與二ヶ月分賃銀、月分賃銀、五年以上勤続工に特別獎金六〇元支給	男工一日三〇仙乃至六〇仙、女工三〇仙増賃、毎月三二日分賃銀支給、年末賞與二〇%増賃
1038	▲上海修船廠		二日	米五斗、野茶手當二五元支給	五〇%増賃、現米一日、封度特別手當八五仙支給
1039	公益紗廠	勞動生路一五	二日	米五斗、野茶手當二五元支給	未解決
1040	志裕橡皮印刷廠	澳門路五九五	二日	要求なし	一二月四日全部解雇
1041	華豐機織工廠	馬白路二四三	二日	原料不足のため停業	四ヶ月分賃銀支給解雇
1042	新華機器廠	西康路一三四	二日	五〇%増賃	

二、五	恒興染織廠	橋郷路一四〇	二、五	一〇〇%増賃 米手當六〇元、理由なく解 雇せず	六〇%乃至八〇%増賃、米 手當四〇元支給、理由なく 解雇せず
二、五	景輪杉襪紡織廠	西安路二八四	二、五	八〇%増賃、野榮手當一日 支給、雇主中の賃金及手當 支給	二六%増賃、野榮手當四五 元支給、雇主中の手當五元 支給
二、五	天成織造廠	小沙渡路五七 九弄一八〇	二、五	増賃	交渉無し復業
二、七	オスカ・ステイツ ブス商店	茂海路五〇三	二、七	生活手當毎月二三元四〇仙 増賃	交渉無し復業
二、六	▲米製業八〇軒	酒源路五	二、六	三〇%増賃	交渉無し復業
二、六	美生印書館發行所	酒源路五	二、六	一〇〇%増賃	交渉無し復業
二、六	竹造器具業四〇〇軒	四庫路三三	二、六	七〇%増賃、現米支給	三〇%増賃
二、中旬	景成木材公司	博物理路三三	二、中旬	就業中工場の門扉閉鎖に抗 し、生活手當毎月二九元、日曜 引上	無條件復業
二、八	光輝電影院	杜美路九三	二、八	生活手當毎月二九元、日曜 引上	生活手當毎月二〇元、午前 中上映は手當四五仙引上
二、八	杜美路九三	練安路五九五	二、八	五〇%増賃、生活手當三 元、月分賃銀、一週一回の休息 日	二五%増賃、生活手當三〇 元支給、雇主成績により決 定
二、八	美興織造廠	練安路五九五	二、八	八〇%増賃	四〇%増賃
二、八	但丹女衣店	華德路五二	二、八	五〇%増賃、不況のため工 場閉鎖、解雇手當支給	否、六名解雇
二、八	大新織造廠	華德路五二	二、八	五〇%増賃、生活手當一 元、月分賃銀、一週一回の休息 日	三〇%乃至三五%増賃、三 ヶ月経過後更に五%引上、一 月二回の休息日
二、八	泰山土糧	夏多路一六	二、八	一〇〇%増賃	タイラ 新雇の工人により数利續

二、一〇	▲上海市彩印業 八〇軒	界路二四一	二、一〇	一〇〇%増賃	一五〇%増賃、毎月現米五 斗支給、解雇手當二ヶ月分賃 銀、日分賃銀、一週一回の休息 日
二、一一	▲印書業一五〇軒	界路二四一	二、一一	八〇%増賃、米手當三〇 元支給	四〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一一	二馬式女服業二〇軒	界路二四一	二、一一	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一一	▲上海市司機業	界路二四一	二、一一	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一四	鴻章紡織染織廠	界路二四一	二、一四	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一五	股福記汽車運賃公司	界路二四一	二、一五	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一五	大來棉織廠	界路二四一	二、一五	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一六	絹織業一〇軒	界路二四一	二、一六	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一六	宏義織布工廠	界路二四一	二、一六	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一六	汽車行四軒	界路二四一	二、一六	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一六	銀色雲飛	界路二四一	二、一六	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給
二、一六	▲茂泰振場汽車公司	界路二四一	二、一六	五〇%増賃、生活手當六〇 元支給	三〇%増賃、米手當一日九 元支給

1113	英國製造公司	五 靜安寺路七九	八 閉	解雇手當三ヶ月分賃銀支給 年末賞與一ヶ月分賃銀支給 未解決	昨今の状況により休業
1114	油漆業	北京路	1200 紛 日	臨時工を長工同様待遇、車 ヶ月分賃銀支給、二月賃銀は給 与、一月分賃銀半減、年末賞 與三ヶ月分賃銀支給	解雇手當は交渉中
1115	▲汽車行四軒	支路路	1200 紛 日	一二月分賃銀全額、年末賞 與三ヶ月分賃銀支給	一六日より日本海軍當局 の依頼により再開 閉鎖
1116	雲南	雲南路	八 閉	解雇手當一四〇元支給 不況により解雇二五元乃至 六〇元の解雇手當支給	
1117	謀得利公司	七 開關路九二	八 閉	解雇手當一四〇元支給 不況により解雇二五元乃至 六〇元の解雇手當支給	
1118	永安紡織公司機器間	泰根路六八一	八 閉	解雇手當一四〇元支給 不況により解雇二五元乃至 六〇元の解雇手當支給	
1119	申新第九廠	漢口路一四〇	1200 紛 日	現米支給、年末賞與は一五 日支給	
1120	中央鋼鐵廠	武定路五五〇	1200 紛 日	五〇%増賃	
1121	歐亞化學廠	四庫路一五七	八 閉	休業のため	
1122	▲徐運通國藥號	愛文義路一〇	八 閉	解雇工一名の復職	
1123	細紗三〇〇軒	共・佛租界	八 閉	開北工會員の脅迫により閉 店	
1124	文成絲織廠	小沙渡路六一	八 閉	解雇手當	
1125	成興織造廠	四庫路八四九	八 閉	解雇手當	
1126	美新棉織廠	五庫路一〇一	八 閉	解雇手當	
1127	金豐工業社國藥廠	勞勃生路一二	八 閉	解雇手當	
1128	密勒轉運公司	九五路	八 閉	解雇手當	
1129	北京路一〇六	北京路一〇六	八 閉	解雇手當	

1126	Tosca Appliance Manufacturing Co.	愛文義路一二三四	一五 閉	解雇手當一ヶ月分賃銀	資材不足により休業
1127	良友轉運公司	漢口路一二六	八 閉	解雇手當一ヶ月分賃銀	休業による解雇、運轉手 三名、苦力一六名
1128	National Herald Newspaper	寧波路一三〇	八 閉	解雇手當一ヶ月分賃銀	昨今の状況により休業
1129	含芳紙廠	小沙渡路六二	八 閉	解雇手當一ヶ月分賃銀支給	不況により閉鎖
1130	Wholesale Market	佛租界	八 閉	解雇手當一ヶ月分賃銀支給	休業
1131	實業公司	膠州路五五六	八 閉	解雇手當一ヶ月分賃銀支給	配運夫
1132	▲沙利文織造廠	四庫路一二五	八 閉	一三〇%増賃、休業又は短 別手當一ヶ月分賃銀支給	休業により解雇
1133	上海皮廠	（事務所） 四川路六二〇	八 閉	解雇手當	資材不足により休業
1134	浦東工場	浦東路	八 閉	休業のため	資材不足により休業
1135	振中紡織廠	小沙渡路八四	八 閉	資材不足により休業	資材不足により休業
1136	大昌織造廠	林德路一二〇	八 閉	資材不足により休業	資材不足により休業
1137	同豐印染廠	八周家路一	八 閉	資材不足により休業	資材不足により休業
1138	▲英商中國公共汽車公司	廣福路一一	八 閉	一九日よりの賃銀半減反對 待遇改善	その他待遇改善は考慮
1139	Young Young Dyeing & Finishing Factory	佛租界 Anitai Bayes路	八 閉	八〇%増賃	女工

11110	永健仁記織造廠	男工	三一九	不況により解雇	二〇日分賃解雇手当二五元支給	女工福美、男工九名で操業
11111	靴下工場三〇軒	佛組界	一	不況による時間短縮反対	未解決	男女工
11112	錦手染織廠第四廠	華盛路一一二	三三〇	年末賞與五〇〇元と三ヶ月分賃銀	未解決	洗濯部
11113	Yang Pong 錦織廠	小沙渡路一〇五一弄一五號	二六	解雇、解雇手当八三五〇仙支給	未解決	當面の状況により停業
11114	海輪染織廠	馬白路二五五	三〇	解雇未付賃銀、解雇手当一八元支給解雇、	解雇手当一八元支給解雇、	當面の状況により停業
11115	上海クラブ	バンド三	三〇	四二日間の未拂分給料支給	未解決	クラブ委員により考慮
11116	信友企業公司	四庫路七五	三二	解雇の場合には三ヶ月分給料貸與、半年分の生手手当支給	解雇手当一一〇元乃至一四〇元支給	當面の状況により工場閉鎖
11117	アメリカン・クラブ	福州路二〇九	三〇	解雇手当三〇〇元	未解決	
11118	永安紡織廠	麥根路四九一	四〇	解雇手当	未解決	
11119	華僑銅精廠	樹州路六一〇	三	復職を要求	未解決	
11120	中國新亞昌昌製造公司	愛文義路一一三四	二五	解雇手当一年分賃銀	解雇手当二ヶ月分賃銀支給	苦力、不況により停業
11121	平和公司	楊樹浦路六	四四	解雇手当	解雇手当六ヶ月分賃銀支給	資材不足により停業
11122	大寶染織廠	慎都路二七	三〇	要求なし	解雇手当二ヶ月分賃銀支給	不況により停業
11123	昌興紡織印花公司	勞動生路一一	四〇	労働時間短縮反対	解雇手当二ヶ月分賃銀支給	不況により閉鎖
11124	美文織廠	男小沙路六四五	三〇	労働時間短縮反対	取消し	當日午後二時交渉を残し
11125	Red Wing 綿織廠	小沙渡路六一七弄二〇三	一〇	未手當	取消し	二七日工場閉鎖を宣言、一月五日工場再開、殘余三〇〇名で操業
11126	新亞化學製藥公司	四庫路一〇九三	三〇	未手當	未手當要求通り引上、年末賞與とし月五分賃銀、女工五〇名、男工三〇〇名解雇	
11127	三工場	麥根路七三五	三〇	月分賃銀	手當三〇〇元支給	

[illegible]

商品市況報告

棉花

△外棉市況

今年年初より日米關係不安を脱つて、日米米危機に其他諸國並に出、之がため製品市場恐怖人氣を誘導する反面、亦法幣價值不安を誘ひ一般物人氣を刺激する等市況動向は極めて複雑であつた。舊正月明け印棉暴騰と原棉獲得見越にて、織造手の奔騰に先づ加洲棉引合活況を呈したが、二月初週より米人引揚に依る不安人氣は製品を鈍化せしめ、棉花市況も閑散となる。爲替は對英三片、對米五片見當保合、三四月は製品一萬一下、棉花は閑散ながら先行手當難見込のため引續き伯棉加洲棉の成約あり、五月に入り米國參戰日支和平等のデマを入れ棉取定期暴落棉も一時買付見送りとなつたが、六月に入り相場再び回復伯棉の商内旺盛となり、各社大買の手合を見た。七月は紡績も手當二期の間に高値には買付はなかつたが、獨逸開戦後以來の船難を更に激化し市中相場各棉暴騰した。

變、廿六日遂に英米一齊に日資凍結令發布となり、市場之れがため混亂状態に陥り、外棉の狂騰相場はノミナルとなり、既約定解約問題に紛糾した。然し當地紡績は約六ヶ月の外棉ストックを擁して英米の資金凍結に依り直接の損害なき爲め成行静觀の態度に出でたが、直輸入業者にありては先拂ひ外棉約定の若否は死活の重大問題にて、印棉未出約定は本國處分伯棉未出品は無條件解約となり、航海中の貨物及香港滙貨は上海輸入可能の見込み、既約定は一應片附きたるも其後新製外棉輸入は絶望状態に陥り、八月八日爲替の暴落と相俟つて上海外棉市場は更に奔騰の一途を辿り、華商銀行錢莊筋の換物投資により米印棉の各棉現物市場は連日五十期刻みに暴騰、伯棉五番織八百兩の高値を現した。此間次々と未出約定の約定現の解約に迫る邦人紡、其身替りとして狼狽氣味にて現物買取り益々相場上昇を刺激した。

日資凍結後當地爲替は公定相場對英三片對米五片自由市場二片五兩に開市したるも、九月八日香港法幣安定資金委員會より爲替制當制を採用の爲替取引は公定相場一本とす旨發表あり。先づ九月九日上海制當額は米貨六百萬兩と内定したが棉花に對しては制當無く邦人商社は第三關稅獲得の途完全に杜絶せられ、右制當額を通じてなされる貿易管理の實際に依り輸入物資の不足先見越の相強き底流をなし、法幣の對内價值下落先行不定と俟つて上海在外棉は新舊相運びはなつた。綿糸布も連日暴騰の一途を辿り、十月は之がため綿業取引も立寄停止を繰返した。十一月に入り日米關係益々惡化米國マリンの引揚につて不安人氣熾、又工部局物價統制にて製品反落、棉糸最高より二百元程度下押した。

△中支棉花市況

年初上海棉は東地出廻り引續き順北支上海食渡相場百八十元見當を叩へたが細番手操算有利にて北支太倉棉の邦人紡向商内閑散、僅かに二十番手混用として通州、常熟の小口商内に止

まる。一月中日本東民需用として五萬担滿洲製綿用として一萬五千担の輸出商談出来、中支棉花協會を通じて各會員に割當てらる。舊正月明けは東地出廻り僅少年相場市況に迴響、當地紡績も五六千担の成約あつたが、三月より五月迄は紡績も細番手外棉に買氣集中し、支那棉を顧みなかつたため中支棉花は商内殆んど無く各社在庫滿腹市中在荷益々増加し外棉相場に逆行し予想と外棉輸入難見越しに六月より商談復活先づ米貨經濟により對北支商談が急進に實現し、青島、天津、濟南向七五担、更に七月に掛けて日支向十數萬担の輸出商談整ひ、茲に東地滙貨は出廻開始漸く懸念を閑くに至つた。

中支棉花協會新舊棉買付に就ては詳細曲折の結果十一月八日漸く日清及當地紡績への供給割當決定せられ最高價格も理詰めに定められ、價格的買付あり十一月中協會員は十二萬九千担の蒐集收買を見たが、十二月大東亞戰の非常事態に際會し金融の途杜絶したる故、各地買付停止の余儀なきに至り越年した。

品名	一月初至月	十月末	十一月末
米棉ミッド	三三〇	三三〇	三三〇
伯棉	三三〇	三三〇	三三〇
印棉	三三〇	三三〇	三三〇
阿コカン	三三〇	三三〇	三三〇
通州棉	三三〇	三三〇	三三〇
北支棉	三三〇	三三〇	三三〇
太倉棉	三三〇	三三〇	三三〇
上海港外棉輸入	三三〇	三三〇	三三〇

綿糸布

昭和十六年度の綿糸布市況を概観するに、之を大別して一月より三月、四月より六月、七月より九月、十月より十二月の四期に別けるものと思ふ。

一月より三月に至る第一期は、一年を通じて最も胸躍たる自由市場的色を有するものとせば、四月より六月に至る第二期は自由市場正に崩壊せんとする斷末魔の苦しみであり、七月より九月に至る第三期は統制經濟への生みの痛みを味ひ、更に十月より十二月は新東亞秩序確立への基礎の出来た秋ともへよう。

之を要するに、昭和十六年なる記念すべき一年は過去十年に比すべき大波瀾を見、精神的に父物質的に新支那再建への最も記念すべき年と云ふべきであらう。

次に各月別綿糸布市況の略説を次に述べよう。

一月は昨年来の通貨不安人氣にて換物思惑買氣旺盛、更に紡績短による適品貨物薄のため各品相場騰貴綿糸相場は一、三〇〇兩、細布龍頭四六兩二五、加工品四四兩四子一兩二八即ち前月末に比し夫々一割方の昂騰を見た。

下旬に至り米國の對支援助案や在米資金凍結案等の噂を入れ不安人氣、商内亦需端閑散とな

なり相場優勢の一路を辿り、買入の對照は思惑品たる絹糸、絹布、加工品は四子四線に集注され、その間の騰落優勢を極めた。買入方面は我軍の南支出岸接納ルートの各個擊破に南支南輪ルートの完封、上海開港密出ルートの嚴重取締に依る荷物の不流通、北支の統制實施に依る上海品の移入制限に、上海に於て從來大手筋を形成して居た天津、青島等の活躍の衰退、北支無爲持手當の各地方可換貨と小口地場商會の減少、在貨品たる五、六月外函の第三國通に買入はれ市中在貨一掃されたる模様にて南支、慈恵を開いたが、爲替相場、資金凍結による外債割安入手に依る、外商防衛の製品安値實現と十、十一日國慶關係の緊迫化に大膽投物放出に終結壓迫され、實需不振販路の狭小化に投算割れの連戦となり、最終の不味に加工品としての砂味乏しく閑散裡に終結した。

一 月 前年末重慶政府の對米借款成立に、爲替強固に、氣配低調の跡を受けて一月を迎へ、中

央儲備銀行券の新法幣出現に法幣不安人氣に、金融防衛の換物操作と資金調を控へ望調裡に推移す、併て年明け爲替強固、金銀安に買入担控氣配にづくりの跡、新法幣俾界流通の報に金融防衛の思惑買入と資金調を控へ、華商開港方面の時期物手當に氣配好轉を期し、中旬に入り爲替割安と香港人氣を期待、思惑買入に相場優勢、十六日新銀行券の俾界進出に爲替低落、金銀安に市中舊法幣に對する我當局のアタックを恐れ、金融防衛の換物買入旺盛、市中商品買物薄に相場優勢、氣配一段と悪化、中旬過ぎより南支を控へ、華商積極的な動きなく高値には値頃より利噴賣物散見せるも爲替強固と資金調を控へ、先高人氣濃厚望調裡に越月。

(修正月にて二十三日より三十日迄休市) 修正明け日米關係惡化に依る原棉手當難市中買物薄に相場優勢した。

二月 修正明け香港人氣期待と、日米關係惡化に、船運に依る外棉手當先行閑散裡に、紡績の製品賣入に、思惑防衛の絹糸物を中心に思惑買入旺盛を極め、連日相場優勢、買入一段と新高値に躍進せるも、五日我軍大膽買入上陸の報に相場優勢、中旬に入り香港ルート完全遮断に相場優勢、中旬に入り香港ルート完全遮断に香港防衛の手持品處分と時期物から思惑防衛の買入げものも加はり、相場優勢、引續き日米關係惡化に組界不安人氣増大、市中中々恐怖人氣に、手持品の縮取定期買入定期買入を認め、現物買入も全然喪失暴落を演ず、中旬過ぎより安値には香港防衛、地場買物の値頃買入と爲替軟化に依る金融防衛の買入出で、月末に至り電力防衛に依る邦人防衛の三月以降一割減の報に訪續、洋行の安値、買入送りに氣配好轉、先高人氣に相場反響、國際問題を懸念ながら底意堅調裡に越月。

四君子Mマブリン、竹林瓦斯毛、不返色月米相場

四君子Mマブリン、竹林瓦斯毛、不返色月米相場

三 月 月米相場優勢の跡を受けて、月初め日米關係強固の報を受け、引續き日米通商協定設立に爲替安、金銀高に好意低意感の買入旺盛に相場優勢、氣配強固に推移、路華北海上陸、沿海接納ルート開港、密輸ルートの完封に華商開港の換物買入思惑防衛の利噴賣出に相場優勢、安値には小口買入動しあるも市中中函開港、中旬過ぎ南支出岸接納ルートに報に、香港防衛手當の加工品買入旺盛に市中中函買入に相場優勢、折柄南洋南輪大口商談成立の好材料を入れ各品相場優勢、爲替引續き割安に金融防衛の換物買入、市況著しく活況を呈す、下旬に入り買入買入の一巡に金銀高ながら、高値には組界不安人氣に底意堅固に、相場優勢買入はす、相場優勢買入情勢強固に、閑散、月末に至り爲替強固に金融防衛の買入に際し保合望調裡に越月。

四君子Mマブリン、竹林瓦斯毛、不返色月米相場

四 月 月米相場優勢の跡に入り、月初め買入の積極的な買入も出で市中閑散定期安に氣配不味、買入合裡に終結せるも月末防衛洋行の防衛と華商防衛の換物買入華商買入、市中買物薄の折柄、南支方面より新買入合裡に市中買入の換物買入も加はり氣配好轉、中旬イースターホリデー明け、日米關係好轉、日支全面和平說市中に流布され、氣配強固に相場優勢に伸せるも、皇軍浙江沿岸奇襲入報に氣迷ひ爲替安、金銀高ながら金融防衛の解と引續く皇軍福州上陸占據の報に浮動相場を續け氣勢揚らず足値保合、廿六日皇軍對米借款成立に市中金融買物も散見、軟調裡に推移、月末に到り華商銀行の復業、爲替安に金融防衛の換物買入相場、氣配好轉、市中高値へに相場一齊上伸、望調裡に越月した。此の間市中買入防衛の唯一の密輸ルート、南支各沿岸各個擊破し、買入防衛の動き少く、爲替強固ながら時局懸念に金融防衛の買入も少く閑散に終結した。

四君子Mマブリン、竹林瓦斯毛、不返色月米相場

五 月 月米相場優勢の跡を受けて、シズンオフに買入防衛の買入乏しく、國際關係の種々諸言放送され、例年にもれず棉業五月受託期に現出、本年も相場低落生氣に乏しく閑散裡に越月。併て月初め重慶銀行の復業に、思惑防衛の換物買入強固に、市況著しく活況を呈するも、高値には、組界不安人氣に、依る地場買入完全封鎖に買入買入なく、市中中函乏しく閑散裡に終結す、路米國參戰、太平洋危機説に金融急落、爲替強固に買入、買物加はり相場優勢手持防衛の金融強迫に月末關係を惡化する投物も續出、相場引續き強固、市場收買つたす、稍恐怖人氣を呈す。思惑品は格安値には値頃買入買入はれるも、白地染染物は時期關係と格安品買入製品、外商製品に終結壓迫され全盤閑内なし。

下旬に入り米國參戰説盛んに放送され旁々日支全面和平說も相強く流布されて爲替強固に買入投物も續出、相場優勢、路米國大統閣の外交演説に強意見なく、稍々懸念を開き月末に至り端買防衛の買入入り相場小反騰越月。此の間一ヶ月を通じ殆ど買入閑内乏しく、手持筋の買入乏しく閑散裡に終結した。

商品市況

四倍	五倍	水月	探染	40白地
子四倍	スレ	晒金	五枚	40白地
初	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
高	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
安	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
末	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
月未相場	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇

六月 前月大波瀾落の跡を受けて月初初引續き買需不振に新規買入なく、依然米穀相場市中に流布され、租界不安状態の悪影響の買需絶えず、新規材料持ち廻り相保合欄に終結す。

中旬に入り外棉(特に米棉)の需配不足に依る外棉の入荷難は、船米相原低算高を招來安値には買需の小口買漁りとなり、前七月一日以来、國民政府の統制引上げ決定の報に、市中現物引合見相場相持し、持直し、現配に一變す。此の間米木工部局關連並に租界不安人氣加はり一時反落を呈するも、下旬に入り租界銀行預金引上停止に金融緩慢、遊資は勢ひ綿業界に入られ折柄國民政府主席汪精衛氏の訪日は、華商間に何らかの好果を齎すべしとの期待人氣に、綿取市場の漸進を眺め、現物市場も追従各品一齊高となり、氣配頗に好轉す。

足新設障に入り、戦争買入人氣を映し、思惑市場は買入人氣漸盛なるも、國際關係の複雑前途の見通し難に、氣運人氣に低迷氣配けとなる、但し買需加工品は今後過渡期の入荷絶えとならんとする豫想に買需漸に控へて市中通品薄に相場一齊暴落、月末に至り我帝國政府と汪主席との日華共同聲明の發表に各地輸出制限緩和を見越し思惑筋の買需となり、尙ほ南洋向新規引合綿糸、生地に商談成立、加工品は通品薄に買需アリ、二〇仁新等現物期近物成約、久し振りの第三國輸出大口成約と外棉引續き暴騰に先高人氣益々濃厚に相續し、月末す。

買漁りに相場取りに推移せるも、我日本帝國の南洋實行、日ソ緊迫化のルーツ市中に流布され、更に米海軍のアイスランド遊艦に國際關係悪化増大に先行不安視され新規買入乏しく漸落歩調となり氣運裡に終結す。

但し七月一日以降日本の第三國輸出統制實施に外國の日本品引合相保合欄は自然上通品引合に移され各品共安値はこれら外棉筋に拍られ、通品自地染織物、無地物二〇仁新等相當數賣買漁られたる體なり。

中旬に入り米棉買入相保合欄に買需筋の新規買需も杜絶、小口買合を持、十六日突如近衛内閣辭職の報に先行不安氣運に低迷す、近衛公に大命再降下に小反響せるも依然市中生氣なし。

南洋向輸出引合は引續き商談成立、稍落振る動きを見るも、國際的見地より第三國引合は自肅すべしとの防衛及び邦人同業者の申合せとなり、市中通品一齊暴落を生じ、更に日佛印關係のルーマが種々取沙汰され先行不安人氣絶えざるも、米棉買需、印棉、伯棉追従高に先行手當益々困難視され、手持筋の積極的な買需なく閑散氣運の城を脱せず。

但し此の間特種品は原棉、染料關係にて買漁られ市中小口買入あり、二十六日に至り俄然米國の在米日支資金凍結令の發令に更に英、蘭

商品市況

四倍	五倍	水月	探染	40白地
子四倍	スレ	晒金	五枚	40白地
初	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
高	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
安	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
末	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
月未相場	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇

之に追従の報を入れ為替は一時立止停止、ノミナルとなり、法幣不安、金銀高と米棉輸入杜絶見越しに先高人氣過厚買需絶え各品一齊に暴騰す、第三國向重要物資輸出暫定的停止に棉取定期利吸賣物殺到、機氣投物も加はり大暴落となり市場半狂相場を呈現、此の間華商倒産者も續出せる模様なり、月末に至り江海關の綿糸布殺出可能との報に好感漸生氣を展したるも國際關係見通し難に買需共積極的な動きなく閑散裡に越月なり。

八月 前月大波瀾落の跡を受けて月初初引續き買需不振に新規買入なく、依然米穀相場市中に流布され、租界不安状態の悪影響の買需絶えず、新規材料持ち廻り相保合欄に終結す。

中旬に入り外棉(特に米棉)の需配不足に依る外棉の入荷難は、船米相原低算高を招來安値には買需の小口買漁りとなり、前七月一日以来、國民政府の統制引上げ決定の報に、市中現物引合見相場相持し、持直し、現配に一變す。此の間米木工部局關連並に租界不安人氣加はり一時反落を呈するも、下旬に入り租界銀行預金引上停止に金融緩慢、遊資は勢ひ綿業界に入られ折柄國民政府主席汪精衛氏の訪日は、華商間に何らかの好果を齎すべしとの期待人氣に、綿取市場の漸進を眺め、現物市場も追従各品一齊高となり、氣配頗に好轉す。

拾頭に一ヶ月を通し各品相場暴騰一踏を辿り、月初初國際情勢の不透明に機動的動きなく氣運ひながら原棉輸入難、先高人氣過厚に市中買需物少く各品相持す、中央儲備銀行券の強制流通に爲替安、法幣不安換物買需相續金銀筋の買漁りに各品相場暴騰、堅調裡に推移せり特に加工品の内綿糸原糸の四倍五枚、士林布等は原棉、染料關係に思惑の好対照となり相場暴騰す、中旬北支撥込み華商無爲輸入許可に天津青島筋の市中通品買需と香港現物買需氣絶えず現物市場の好需要に相場暴騰の折柄國民政府の公租課金に諸國參照に法幣漸落、金融筋業人筋の買需みに秋手當益々昂騰と電力問題に訪顧の操業難を得、引續き買需旺盛を極め更に新高値に躍進上海棉業界初つて以來の高値相場を呈現せり、月末に至り野村、ハル會議、各地輸出取組嚴重を傳、高値には利吸賣物殺見相反落を見て越月なり。

九月 前月月末の好氣配に引續き、原棉手當益々困難となり向香港外棉筋の輸出禁止買需旺盛を極め、これら各種好材料に各品相場空前の新高に躍進市中況極めて活況を呈したり。

但し月初初日米國交調整の好時期得ず外棉新期手當益々困難となり向は地場棉本年度極度の不作に防衛原棉手當益々されるに現り紡織製品買需り努力電力不足に操縦不可避説も流布され市中買需漸に相場漸騰の折柄香港、外棉筋の香港、南洋方面買需旺盛洋行筋第三國向賣止めに通品市中買漁りに各品共又々新高値に躍進西米、ケブリン、白地探染金、白地探染仁新等市中通品買需さらわれ除中旬に入り上海相場の異狀なる暴騰は香港相場を上廻る形勢となり新規引合停頓と日米關係、日支和平の諸言又々市中に流布され、高値買需人氣過厚風速裡に推移、市況不味の折柄租界内外華紙の高物買抑制思惑筋の買入ふり糾弾輿論の喚起に華商手持

而の變氣貨物出で、大々大々思惑筋の相場一變、打ちの額に利便輸出相場が低落氣速ひ、新規商にも乏しく、調子に終始す。

下旬引續き新規材料も、因數ながら依然然續き、社の製品賣渡りに安値には實需筋の買割しに、思惑筋の小口買物も散見、江海關の非占領地區移出禁止一時動搖ありたるも、香港債可能従前と實質的に何等變化なきも、今後當然来る可き輸出禁止の前途との見通しに香港、外商筋の先見遠慮の現物、期近物の買氣旺盛を極め、中大手合成立、即度外商の手當も加はり、現物相場續き、氣配一變、更に金融筋の思惑買あふりは優勢に拍車を掛け連日相場狂騰、遂に月末に到り合算前の高値に關連目先商會發人氣濃厚に越えり。

此の間金融筋の思惑買は加工品四君子四線に集注され、割安と染料關係にて士林布野對照となり、實需品は依然然乏たるものあり。

四君子	士林布	水月	染料
初	11000	11000	11000
高	11000	11000	11000
安	11000	11000	11000
末	11000	11000	11000

十月、去る七月下旬米、英、蘭諸國の資金凍結令實施後、九月の二ヶ月間無敵數十億と稱せられたる租界内の膨大な法幣通貨は今後の物資輸入減、先行き重要物資の缺乏必然を見越し、思惑買人氣商品市場を席巻し、綿糸布又上騰歩調を辿り來りたるが十月に入り、

一、邦人紡績の原棉入手に困難となりたる事

一、國民政府の輸出許可制實施

一、輸出許可制は事實上輸出禁止と同様の結果、法幣は國際通貨としての機能喪失、通貨不安を招き法幣暴落を來したる事

一、我日本帝國の近海内閣の總辭職、東條新内閣の成立

一、香港に於ける法幣安定委員會の開催等々次から次へと重大材料出現、此の間市中各種言賣出するも結局法幣の低落より、猛烈なる換物人氣の支配する所となり市場適品薄の折相場暴騰、狂騰の進退となり月末に到り天井知らずの暴騰に大漲量に達せり。

併て月初め綿製品第三國向輸出税を繰り下げ、關稅引續き輸出可能と解せられ、香港筋、外商の現物及び期近物の買氣、引續き旺盛を極め加之外棉在貨減少と支那棉不作に依る原棉の價騰を見るに到り、紡績會社の製品賣渡りは、紡

績短必至との見通しに思惑筋金融筋の猛烈な買出動に合品一齊高を演じ市場極めて軒調裡に推移せり、八月江海關の綿製品輸出許可制公布に思惑筋の銀貨賣物出で總買人氣に氣配一變、急反落を見るに至り、中旬輸出許可制は現貨に於て輸出禁止と同様ならんと邦人業者大手筋の手持品、賣出動に引續き相場軟化輸出禁止は法幣の國際通貨としての機能を全く喪失法幣不安増大せる折、香港法幣安定委員會の上海市場放言說布され、俄然金融筋の外貨買、綿糸布買と膨大な遊資を總出動市中安値賣物を買携へ猛烈な換物人氣に、相場反騰漸歩調に急變す。

跡月米交渉不調に依る近海内閣總辭職、東條新内閣の成立に日米關係の緊迫化と租界不安人氣に日先見遠慮し難に氣速ひ市中小口買物散見相場續々高含む、二十日休日明け米、英、重慶の上海放言說又々市中に放送され、法幣引續き低落を演じ法幣の紙幣化との動搖に物價換物人氣に連日相場暴騰に奔騰を重ね市中買物皆無天井知らずの狂騰を呈す。此の間法幣不安の思惑買は綿糸、生地綿布に注がれ、加工品は依然四君子四線のみにて、黒五、士林布等、時期關係にて暫況を呈するも、換物反騰漸歩調に安値賣物に終始壓迫され殆ど見るべきものな

十一月九、十月市場大暴騰大漲の跡十一月に入り、日米交渉の経過が市場リートの主動力となり一變、先行見遠慮に大漲進裡に終せり。併、月初め十月末大暴騰の跡市場の混亂な憂慮し綿糸布市場のバロメーター、綿業取引所華系双局現物公會共臨時休業の已むなきに至り情勢の推移を靜觀する事となりたるも、綿糸布現物市場は金現相場の續騰と法幣相場市場の引續く低落に依然然買氣衰へず市中買物薄に小口手合せを見るに過ぎざるも相場又々未曾有の新高値に吹上げ大漲を呈せり、跡紡績會社の原價採算良好化期近物賣出に久方振りの大口商會成立、高値には大手筋の賣積へに高値警戒人氣となり、折柄日米交渉再開の爲我帝國來朝大使派遣聲明に日米問題を通り市中高言賣出、日米親和、日支和平說又々流布され思惑筋の銀貨賣物現れ、市況大漲進裡に一日に綿布十兩見當の

騰落となり大波瀾を演じ毎米に至り米マリン支那引續きは租界不安人氣となり總買人氣に氣配急變換物賣出一舉に於て相場大低落、奔騰に大混亂を演じ直後の事として皮肉な現象を呈せり。

中旬十日綿業取引所再開、日米交渉の経過と國際情勢の見通し難、換物人氣の行過ぎ訂正、工部局の物價統制等に總買買物取見、相場じり食となり、上海米マリン撤退決定の報に租界不安危惧に賣物賣出に新規買氣なく、一齊に大口低落を示したり。休日明け米マリン撤退は租界東慶四銀行の香港引續必至とこらんとる報を入れ法幣不安視する金融筋、まばら筋の暴動安値買狙ひと、下旬日米商談は、國南安結に至らんとの和平空氣と法幣必至との兩難に大手筋は靜觀、まばら筋の獨舞となり小口の買手手合せに相場騰落甚しく、月末に至り、國際情勢險惡化に銀行、錢莊の貸出中止、資金回收到思惑手持筋の金融機密に換物人氣は逆に物より金へミ變轉手持品一齊賣放ちに相場軟化、閑散大漲進裡に越えり。

此の間市中商内は國際情勢の險惡化に外商、怡和、倫倫各工場の、ストック大口放出見られたる外は殆ど思惑取引に終始し販路を塞がれたる孤島上海は綿糸布生産市場としての機能を全く喪失特異な現象を呈せり。

十二月、今夏暴騰米國に於て實施せられたる資金凍結令に依り日米經濟關係は全く斷絶状態となり西南太平洋よりする我帝國に對する壓迫は益々高からんとする時、平和的解決に不眠不休の野村、來相南大使の獸身的努力に不拘、頑迷なる米國爲政者の依然たる個別的態度に政治的解決の光明を瀾す能はず、全世界の注視の裡に數次のワシントン會議も五十有日余日を経て、遂に十二月八日股股たる煙聲に睡夢を破られ、我日本帝國は對米英戰開始の已むなきに至り、今次日支事變以來我軍占領下にありながら四年の久しきに亘り、盡められたる孤島上海綿業界も十二月八日を期し形勢全く一變、ここに大東亞共容圈の一大綿業基地として力強き發足、租界經濟機構も大東亞戰の一翼として大變革を齎される事となり。

倍十二月に入り、上旬大通銀行(チエス、バ

シタの預金者に対する緊急公告に法幣不安人
氣となり、恩恵筋の小口買取りに相場一齊騰
久し振りを活況を呈した。日米會談は何事意
見の一致を見るに到らず決然必至との観測大勢
なり。大手筋の繰取賣場きに相場急反落
手持筋の狼狽賣物現れ、向英系紡織製品のス
トック大口放出は引續き投げ賣行はれ、倫昌製
加工品の如きは市中相場の二割安見當にて大口
投資相當數量行はれたる模様。氣迷ひ軟勢裡に
六日大引せり。
週明け八日我日本帝國の對英英戰開始に星軍の
租界平和接收となり、一日にして世界の形勢全
く一變、上海全經濟界も事態の急變に臨時休止
の余儀なきに至りたり。
十二、三日頃より華西間に於て六日相場を標準
に小口の實需商内行はれたるも一個二個の極小
値に過ぎず。
十六日邦人銀行の一般業務開始せるも、匯割の取
扱ひに難點あり邦人銀行も受入れに躊躇せる爲
邦人訪談、邦人商社も匯割に依る取引は一應見
合せ、現金に依る小口取引のみにて殆ど休業狀
態を續けたり。
下旬金融關係に依り天津聚大、大商の賣出動に時
節節々々恐怖人氣にて相場大暴落を演じたるも
殆ど歸りたる出合なく閑散裡に推移、
月末に至り年明け相場高を期待恩恵買氣抬頭と

端明筋の買入相場見直し、對英戰藥品パ
ター對英戰組合の商談成立等各地商談成立
に好影響ながら取引保合裡に過年せり。

初	五二	五二	五二	五二	五二
高	五二	五二	五二	五二	五二
安	五二	五二	五二	五二	五二
末	五二	五二	五二	五二	五二
月米相場	五二	五二	五二	五二	五二
竹林瓦斯	五二	五二	五二	五二	五二
六日以降殆ど商内なく通運なる相場なし					
今次日安事變以來年度別相場比					
二六〇一年	四四	四四	四四	四四	四四
最前通年(月)	四四	四四	四四	四四	四四
最安通年(月)	四四	四四	四四	四四	四四
二六〇二年	四四	四四	四四	四四	四四
最高通年(月)	四四	四四	四四	四四	四四
最安通年(月)	四四	四四	四四	四四	四四
二五九九年	四四	四四	四四	四四	四四
最高通年(月)	四四	四四	四四	四四	四四
最安通年(月)	四四	四四	四四	四四	四四
二五九八年	四四	四四	四四	四四	四四
二月事變後相場比	四四	四四	四四	四四	四四
最高通年(月)	四四	四四	四四	四四	四四
最安通年(月)	四四	四四	四四	四四	四四

軍配綿業

軍配組合綿業部の昭和十六年中に於ける業績は
左の通り新聞報道があつたので参考迄に轉載す
(事業要約) 〇一五二 〇一五三 〇一五五
二五九七年
七月三十日
軍配組合綿業部が取扱つてゐる品種は生綿糸、漂白
及染色綿糸、採集綿糸等、購入は主として日本
より輸入し、配給は大部分占領地風島地で行つ
た。下半期中の購入配給状況は概ね良好で、購入
總額四百八十七萬圓、配給總額三百二十九萬圓と
なつてゐる。これを上半期に比較すると配給三十
五萬圓、購入三百十五萬圓をそれより増加し
た。同部は資産減耗後對日輸入確保に日本の第
三國向清貨の關税削減により對日輸入棉花交換用
として相當量の削減を受けた。
昭和十五年度業績は三十一萬反第一回半期當
十萬反は着荷を過分し、十六年度當三十二萬反の
十萬反の輸出は本年度へ繰越されたが、新に
對日輸入棉花交換用として十一萬反、第三國向
荷の中支向轉換分として五、六萬反、棉花交換
用分として二千萬方圓(二四四萬反計九十一萬反
を十六年度當として獲得したので、大東亞戰
動費後も支障を來さなかつた。

なほ綿布細布隔隔の下半期各月末相場は次の如く
である。
七月四八元五角、八月五五元五角、九月六十六元
十月一〇五元、十一月八〇元五角、十二月八二
元、十二月に空飛高
となり空飛高の相場となつたのは、國府財政部の部
布輸出許可制を初める賣入人氣から、重慶の上
海市場放棄説による法幣不安人氣の激化で賣入人
氣に轉ずる激動裡に、市場放棄説が根強く存在した
ためである。このため清算市場における賣方であ
つた邦商は莫大な損失を蒙つた。
落 綿
本年度初期の概況は好勢裡に迎へ比較的平穩裡
に送つたが各紡績は五〇%の操業短縮を繼續し、
落綿の生産額半減の状態は依然として改善せられ
ず、一方歐米向輸出も國際狀勢を反映して全部杜
絶した。對日輸出は油綿の市價高騰に依り不引合
となり商談はなかつたが對滿輸出は三月迄續とし
て各二、三、〇〇〇擔の取引成立した。
中期に於ては上格品は支那市價引付相場の影
響を受けて殆ど變化はなかつたが原料物即ちスカ
ッチ、カード、風綿等は此の期を通じて漸騰を續
け初期、期末の比較は二割五分乃至三割高、油綿
は水く低送相場を維持したが期末一ヶ月前より急

人絹糸布

阿波洲向商談ありたるため外交商の買進みにより
三割見當の急騰を見一躍に品薄を映して底意強調
裡に本期を終つた。
下期は六月末通關開戦によつて航路の配給減少
となり船運延滞又は不能の結果市況不振を招來し
特に七月末の資金繰結後は契約放棄による賣入分
物市場に多数現はれて暴落となり、人絹市況は一
時三割安見當を示した。然し乍ら投物一巡と換物
人氣によつて九月中旬頃より再び上昇を初め取引
に期來となつた。但し一等物等の太糸原料落綿は
支那棉花の昂騰に比例して暴騰を續けた。
本期對日取引四、〇〇〇擔對滿五、〇〇〇擔商
談成立した。十二月八日大詔後發と共に大東亞戰
争勃發、星軍租界進駐によつて租界經濟狀勢は一
變し、取引停止狀態の繼續年した。隨て紡績は原
棉難に極度の増大(約七割)行はれ、従て落綿の出
貨率減減を來し所界の前途は暗澹たるものあるを
豫測する。
人絹糸布
軍配組合の人絹部の昭和十六年中の業績は左の
通り新聞に報道されたので参考迄に轉載する。
軍配人絹部は人絹糸及人絹布を日本より輸入し
租界内華商前に配給してゐるが、下半期中の購入
總額は七百萬圓、配給總額は千五百五十九萬圓で前

毛糸、毛織物

期に比較し購入五十萬圓三百八十二圓六十一圓
配給六百二十三萬五千五百七十七圓三十七圓の増
加を示した。特に配給は一五、九%の好成績
を挙げた。この好成績は法幣不安に船運不足によ
る先高見越しの思惑買による相場の恒上りも一因
を成してゐる。十六年三月に下請華商團體である
同興公司の主任が重慶コロリストのため横死した
ので一應解散し、華人團體に個別配給を行つたが
華人の發起により九月初旬に資本金五百萬元の實
業公司が結成され、再び同公司を通じて一元約配
給を行つた。
しかして資産減耗後毎月の人絹糸五十五萬封度
輸入を七十五萬封度に増加され、新たに
八月からスフ糸月五萬封度(六〇番手双糸△四
〇番手双糸)第三國向清貨中支向轉換分として五
十萬ヤール(二萬五千反)の増加相當を受けたの
で軍配工作に更に一段の偉力を加算した。
下半期各月末の天橋二二〇の相場は左の如くであ
る。
七月一六二〇元、八月二五〇〇元、九月二五
〇元、十月二五〇元、十一月四三〇〇元、十二
月四〇〇〇元
毛糸、毛織物
一、棉製(支那事變以來の推移概観)

商品市況

迄に轉賣する。
毛糸毛織物は規格外毛織物、スフ製品に毛糸を日本より輸入し、毛織物は粗製半精、毛糸は邦人工場に配給した。下半期中の購入総額は百八萬圓、配給額は百五萬で前期に比し購入二千八百六十六圓三十四圓増、配給七十一萬圓減を示した。配給に於て減少となつたのは船關係による配給の不活発が主な原因であつた。スフ毛織物は中支那市場に初めて、且つ純毛品が割高なことから需者の歓迎を受けたことは、市場開拓の努力と共に特筆に値するものがあつた。

資源確保後、日本に消費せる第三國純毛製品にスフ糸が中支向に振向けられる事になつたので船關係が解決されれば昭和十七年度の配給は相當の好成績をあげることを豫想される。
下半期各月末の純毛サジの相場は次の如し
七月三十一元、八月三十一元、九月三〇元、十月四元、十一月四元、十二月なし。

印度ジユート
及新麻袋

一、印度ジユート
昨年来安値低送せる甲谷陀麻袋相場は、本年に入り新麻袋販賣となり、一方英政府の各種統制特に強度の輸出制限により三十留比見當を別落し

たが、獨ソ開戦後騰貴し、一時七十留比見當の高値あり、年末には六十留比見當保合となつた。
次に當地倉入値は年初ハート機三百元見當を示し、其の後當地相場の昂騰に爲替低落により五百元見當を騰貴したが、米英の對日資産凍結後は爲替取得不能となり相場判明せず。

一、新麻袋
年初青筋麻袋三元二十仙見當を示した當地麻袋市況は、原料直に製品共輸入益々困難となり、且つ米運用として買入旺盛であつた爲め相場昂騰の一路を辿り、六月には終に八元見當の高値となり七月末米英の對日資産凍結後は原料製品共輸入全く杜絶し、會社の大口操縦、怡和の操業停止により次第に在荷増となり、年末には終に十六元見當を騰貴した。

乾蘭、生絲

△乾蘭
昭和十五年の上海租界内に於ける乾蘭相場は大體前年末と同様に始つたが、蘇價の上進と春蘭の減産見越しに三月頃より騰勢に轉じ、四月には前年一月以来の高値を示し、特に凍結後は生絲と共に換物の野蠻となつて品薄買入られて相場も更に騰貴したが、九月以降は形勢全く逆轉し累月崩落した。大東亞戦後は生絲の輸出杜絶と蘇價

の凍結に一段と惡化し、各品共に千五百を割り込み、江蘇省改良種さへ高値九百元となつた。即ち左表の如くである。

昭和十六年上海租界内乾蘭相場表

（單位元）		（單位元）	
月別	改蘇省	改蘇省	改蘇省
一月	高値	改蘇省	改蘇省
二月	高値	改蘇省	改蘇省
三月	高値	改蘇省	改蘇省
四月	高値	改蘇省	改蘇省
五月	高値	改蘇省	改蘇省
六月	高値	改蘇省	改蘇省
七月	高値	改蘇省	改蘇省
八月	高値	改蘇省	改蘇省
九月	高値	改蘇省	改蘇省
十月	高値	改蘇省	改蘇省
十一月	高値	改蘇省	改蘇省
十二月	高値	改蘇省	改蘇省

△生絲
昭和十五年未緒々低送状態にあつた蘇價は新春と共に見直し模様となつた。特に三月以降は法幣不安に換物人氣強く、一面日本内地に於ける内需の活潑化と日米關係惡化を懸念した蘇省市場に於ける假需の旺盛化に内外呼應して買進まれ六月

商品市況

には相場は遂に昨年一月の最高値たる六千四百元を突破し、實需、假需を含めて商内も極めて活況を呈してゐたが、六月二十二日獨ソ開戦の報を入れた後、市場は假然停送状態となり相場は一應頭打ちの態となつた。然るに七月中旬以降、資源凍結予想に法幣の一段安、蘇省市場の騰貴高を移して、再び換物の野蠻騰貴とされ高値々々買進されてゐたが、二十六日遂に凍結令が發動されるに及んで市場は内外を通じて停止状態となつた。併し一部敵性外華商は爲替を巧に手に入れて商内を繼續、生絲輸出も八、九月は殆んど平常通りに行はれ其の敵性振りを遺憾なく發揮してゐたが、十月には輸出商談は流石に激減、十一月には殆んど杜絶の状態となり、商内は地道向一本となつた。斯くて十二月八日突如として大東亞戦が勃發するや市場は突然自失、全機能も停止する他なく、月末に至つて漸く人氣も薄付き、ノミナル相場半ら地道向四千二百元見當と極めて不勢裡に越年した。

上海に於ける各主要銘柄の生絲相場、及上海港生絲輸出高を表示すれば次の如くである。

昭和十六年蘇省の上海相場表

月別	月別	高値	安値	月末	平均
一月	一月	高値	安値	月末	平均
一月	一月	高値	安値	月末	平均

二月	高値	安値	月末	平均
三月	高値	安値	月末	平均
四月	高値	安値	月末	平均
五月	高値	安値	月末	平均
六月	高値	安値	月末	平均
七月	高値	安値	月末	平均
八月	高値	安値	月末	平均
九月	高値	安値	月末	平均
十月	高値	安値	月末	平均
十一月	高値	安値	月末	平均
十二月	高値	安値	月末	平均

昭和十九年白米統計の上海相場表				
(上海生絲輸出同盟業公會)				
(單位元、十錢換)				
月別	Extra A, d. Numbers	Extra C, d. Numbers	Food A, (Solel Class), I. Numbers	
一月	廿四	廿四	廿四	廿四
二月	廿四	廿四	廿四	廿四
三月	廿四	廿四	廿四	廿四
四月	廿四	廿四	廿四	廿四
五月	廿四	廿四	廿四	廿四
六月	廿四	廿四	廿四	廿四
七月	廿四	廿四	廿四	廿四
八月	廿四	廿四	廿四	廿四
九月	廿四	廿四	廿四	廿四
十月	廿四	廿四	廿四	廿四
十一月	廿四	廿四	廿四	廿四
十二月	廿四	廿四	廿四	廿四

(註) 原資料たる、上海生絲輸出同盟業公會が十月以降發行停止せられたる爲十月以降は不明

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
昭和十六年上海港生絲輸出高(海關調に據る)	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
(單位擔)												
白經絲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
黃經絲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
小計	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
白絲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
白經絲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
黃經絲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
小計	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
玉絲	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
總計	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇

(註) 原資料たる上海關統計月報は十二月分より發行停止となりたる爲十二月分は不明。

副都絲(屑生絲)

一、支那事變以來の推移概観
上海地方に集積する副都絲は、事變前は年額約十萬担前後で、其内約七萬担を輸出し、残りの三萬担内外を内地消費に當てて居た。其の産地は江蘇、浙江兩省を主として、安徽省も少量あり、遠く四川湖北、山東省等より移入するものも二萬担を越えた。が事變以來移出の取締り強化に伴ひ、其の減少した。十六年秋季に至り北支「バタ」の取引資料として北支より副都絲四千担以上の移入を見た。

輸出は事變以來も頭物は依然として歐米に買はれ日本向は個人「リンク」制度なりと爲替關係上英、米に一掃を輸し不振であったが、十六年一月東亞細亞輸入株式會社設立され東亞細亞「リンク」制度となつてより日本向輸出立直り、次で法幣安で採算有利となり七月下旬の東亞細亞勸告を期として、地場絹紡製品輸出社として原料、副都絲買力削減し、遂に日本向輸出の運轉地を招來した。

昭和十六年中半市況 日本向伸張
昭和十六年中に於ける上海地方副都絲市況を概説すれば、日本向は前年九月以來縮減中であつた。

た、東亞細亞輸入株式會社が一月十日創立總會開催二月十七日運轉規定より日本輸入も従来の個人「リンク」制度を東亞細亞輸入「リンク」に改められ、日本輸入業務も遂に革新的軌道に乗り輸入許可額も一三萬担九十萬に始まり、四月十六度百五十萬圓、七月九度百九十萬圓、十一月三度百五十萬圓、合計八百五十萬圓あり、其一割内外の北支支品を除く七百七十萬圓は上海輸出である。蓋し輸入規定取り軌道に乗りし三月より副都絲漸次旺盛となり新物出始め六月以降、更に旺盛を見七月末東亞細亞勸告發布に伴ひて從來英米向輸出をされてゐた、頭物副都絲が凡て日本向に振替へられ法幣崩落と相俟ち、日本内益々有利化し大東亞細亞勸告で歐米向輸出は全減し日本向獨占となり其だ高は、一時勢に轉回したが、天二物を入つては、九月以後船腹難に輸出し困難を來し十月に入つては、輸出は全然出来ず、業者は資金に窮し、翌年も閉鎖し、大恐慌を招來し奔走の結果、十一月に入り少量輸出し十二月末より長崎上げを執行し漸く曙光を認め得た。英、米兩國は日本向に比し数量に於ては略々同等であるが、金額は倍以上上つたが、資金深層難に報ひられて購入難に陥り、大東亞細亞勸告に依り愈々杜絶し對日輸出も正反對の現象を呈した。

昭和十六年中輸給状況 供給不足
上海の生産は全年度年額三千擔、北支移入四千擔、蘇浙兩省内地輸出五萬七千擔見當、其内上海への移入四萬八千擔、十五年度より持越合計二萬擔前後海外輸出三萬九千二百四十九擔金銀三萬四千六百四十六擔三十四元特種方面三千擔其金額百廿萬元内外と見られ、上海市場出通三萬五千擔、取引額三萬六千擔三千元内外と見られる。

地場消費としては地方で真綿用七千擔、絹紡公場としては邦商公六千擔内外、緯成織物五千五百擔内外、華商中學、慶濟及織成利記三千七百五十擔内外、公六、緯成、織物と合せて一萬五千擔を消費し、手持原料多少食込と見られる。

年末ストックは産地製絲工場未賣品三千擔、絹紡五工廠の手持三千擔内外の外、邦商輸出の買付に當るもの一萬擔内外は日本買付船積庫待ちのもので、上海市場には消費殆どなく只地方産地に四千擔内外、華商思惑筋の手に有るのみである。

六ヶ年相場比較
今昭和十六年過去六ヶ年相場を主要副都絲に就て示すと左の如くである。事變以來の運轉には見る可きものがある。(百斤に付法幣元)

年別	昭和十五年	昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年
品名	副都絲	副都絲	副都絲	副都絲	副都絲	副都絲
相場	150.00	140.00	130.00	120.00	110.00	100.00

玉蘭改良春 250.00 240.00 230.00 220.00 210.00 200.00

副都絲相場表(二) 單位 百斤 100 100 100 100 100 100
副都絲 100.00 100.00 100.00 100.00 100.00 100.00
緯成織物 250.00 240.00 230.00 220.00 210.00 200.00
玉蘭改良春 250.00 240.00 230.00 220.00 210.00 200.00
五ヶ年輸出状況
次は輸出状況を見るに年額三萬九千三百四十九擔、三千四百六十四萬六千三百三十四元は、前年に比し数量三割二分金額七割七分増の表示で有るが、實際は數量は僅に三分金額は四割八分の増加で價格の暴落が見られる。

輸出(昭和十六年)
日本 八、三三三擔 二、八八三萬元
英國 七、六六擔 九、三三三萬元
美國 一〇、九三擔 一、二四三萬元
大連經由中歐 一、三三擔 一、三三三萬元
其他 九、九三擔 九、九三三萬元
合計 五、三三擔 五、三三三萬元
十六年中月別市況
更に上海に於ける市況を月別に略述すれば左の如くである。

一、一月 舊來の輸入統制は愈々強化されるのみで緩和見込みなき爲、歐米筋原料や地場華商紡の買渡あり、法幣不安に因り換物人氣も加はり地元では邦商買進みも有り相場一途に昂進し陰暦年末を終つた。月中の手合高計、一〇〇〇擔内外

二、二月 舊正月前後租界華商紡營業は、僅に三三三擔に過ぎず、其製産副都絲は僅少で有り原料乾繭枯繭の憂も濃化し華商紡感々買進み爲替高も情勢悪化にも關せず、相場一途昂騰す、他方歐米向も中旬爲替大反動で一時的抑したが、特殊機に依る大貨物に需費買進し輸出昂進した。月中手合高計、一五〇〇擔内外

三、三月 租界華商紡の買渡り第三國向大手合に加ふるに對日輸出漸く軌道に乗つて地元も上海も猛烈買となり、各品一齊昂騰す、月中手合高計四〇〇〇擔内外

四、四月 租界内生産は殆ど見るべきものがない。地方小製絲數千擔があるが、之亦いふに足らず、新現出より地元に近い爲、華商紡を筆頭に歐米向及日本向輸出箱及邦商紡等總買となり、各品一齊騰進し新物出通を目前に控へながら聊かの押目もなく數ヶ月に亘る上げ一本を示した。月中の手合高計、一〇〇〇擔内外

五、五月 依然として地買人氣で各品騰進何日天井打つか見透しも付かなかつたが、月央に至り輸出は爲替と情勢緊迫に警戒見送りとなり、邦商紡には大荷口供給あり浦模様の折柄新調安新物増産の聲高きに各品買控へたが、此處に昨年八月以來殆ど十ヶ月上げが續いた當地副都絲も完全に出を打ち、反動模様を呈した。月中の手合高計、一〇〇〇擔内外

六、六月 前月央以來反動低落を續けたが、出始

めたる新物が案外高値なると特殊機に依り、輸入輸出可能なを見た英、米筋の頭物に對する買氣旺盛を眺めて租界華商紡先づ騰り出し、加ふるに汪主席の訪日に絡んで上海輸入緩和と宣傳せられ地元相場騰進し租界相場も完全に立直り再騰に向つた。月中手合高計、一五〇〇擔内外

七、七月 依然陳調を續け殊に英、米筋の買氣は愈々高り各品何れも新高値を示現したが情勢緊迫に日本向先づ買控へ續て米國向亦買渡り模様にたり、地場も製品輸出不安なと消極化し各方面共買氣漸くとなりたる折柄、廿六日には資産渡結令發表あり英、米向輸出不能案じ底意急に軟化した。月中手合高計、一五〇〇擔内外

八、八月 資産渡結令後流通されたる輸出禁止説は實現せず、外商は生絲の機會と見て輸出可能の爲、英、米向共同物に對して時に買氣を示し船腹ある時には可なり高値も買進んだが、供給者側の許可が得られず租界在品では見るべきものなく餘な商内なし、地場も邦紡は製品輸出室じて原料手持豊富で全く見送り華商紡のみ買渡、地元は邦商邦買渡いたが環境不摂に各品下押した。月中手合高計、一〇〇〇擔内外

九、九月 資産渡結令以來買得進した英、米向輸出は生絲同様遂に不許可と決した爲、密輸以外は入荷なし、賣物僅少の上に輸出検査入手難に市場愈々沈滞した。但し英、米向輸出不能の爲

商品市況

從來不引合であつた、頭物迄日本に引合ふ様になり日本籍の優勢買進みに地元取引願る旺盛な極め統制品の浦貨も一掃された。月中手合高三〇〇〇増内外

十月 英米向輸出は輸出検査入手難に極限され租界華商は製品輸出を奨励し始終買氣旺盛で北支から「バーター」制に因る移入山東兩四千増内外を買収した外、特種移入をも買取り相場昂騰した、但し船難に日本向も地元買控へ居たが法幣崩落換入氣の激發に買氣はれ相場昂騰した。月中手合高六、〇〇〇増内外

十一月 華商仍依然として買一貫に出て月央迄は他商品奔騰を誘つて買買買相繼續した。地元は軍票高に引高を辿り、日本向も船難相目鼻付き高く買進み商内可成出来たが下旬軍票暴落して採算割となり、月中手合高二、〇〇〇増内外

十二月 華商仍依然として買一貫に出て月央迄は他商品奔騰を誘つて買買買相繼續した。地元は軍票高に引高を辿り、日本向も船難相目鼻付き高く買進み商内可成出来たが下旬軍票暴落して採算割となり、月中手合高二、〇〇〇増内外

昭和十六年毎月末相場表 (百斤建単位) 元

品名	月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
品名	月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
品名	月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
品名	月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二

廣巾絹織物

年頭より法幣不安と國際狀勢の危機に思惑的換物人氣騰し、漸次より相場漸騰、二月末三月に入るに従ひ需要に増況を呈し品薄をかつ状態となつたが、同月下旬の法幣下落により買物買は大部分が抑置となり、相場強調にも拘らず採算不利に陥り商内出来ず、かかる状態の内には五月には前年より初め一般織物市況の下落、六月には獨り開戦となり、一般に見送り態度にて七月末に至るや米國其の他の對日資産凍結を見、法幣不安の念慮々激化して市場は極度の混亂を來し、空人暴落ばかりにて買取引は皆無の状態と

商品市況

なつた。又一方この時内地にて對滿支向輸出承認を停止されるに及び、從來より採算不引合にて徹々たる對日輸入はここに完全に決つたこととなり、その後は現貨品のみにて大略「ミナル」に終始し、十月の法幣暴落に起因する換物人氣物價騰貴も適品薄にて殆んど買氣なき状態であつた。十二月大東亞戰爭の大砲を拜し、對米英兩國の火蓋切られるや、租界の狀勢一變し、唯一の自由性の喪失及び金融逼迫により、閉居休業と云ふも過言でない商況となつた。

本期間を通觀するに、國際狀勢の推移に起因せる爲替の變動と相場の騰落に、思惑的取引盛んとなるも、空人暴落をみる者あり、實需に基く健康なる取引は僅少にて、特に下半年は國際情勢の推移を注視する形にて閑散裡に終り、實需は華人方面の多大の思買による手持品を逐次消化してをる現況にて、未だ相當数の「ストック」あるものと思惟する次第である。

昭和十六年一ヶ月間の對日輸入額は三八五、〇〇〇平方碼、八九八、〇〇〇圓なるも、八月以降輸出停止のため右額は主として上半期六ヶ月間の輸入額である。

現地生産額は統計資料なき爲正確なる數字不詳なるも、原絲の消費量は左記の如し。

生糸 104000000
人絹 300000000

土糸

右額は昭和十六年一ヶ月間支に於て華人用服地として本絹織物又は本絹人絹交換物に使用せられたであらうと推定せられる糸の原價に依る計算であつて、絹布として實際に賣買された金額は、右金額に約四割の製造工費が加算せられるので約二五二、〇〇〇、〇〇〇圓と推定せられる。

而して右の内約四〇％が現地に於て消費せられ、六〇％が香港、シンガポ、マニラ、シンガポール等の南洋方面に輸出せられたものと推定せられる。但し大東亞戰爭後右生産額の二分の一乃至三分の一に減せられる見込である。

莫大小

上海に於けるメリヤス工業は支那の事變前既に見るべき發達ありて、従前日本よりの輸入は殆んど其の跡を絶ち、其の生産品は單に中支一國の需要を充足せるのみならず、南北支及南洋方面に輸出せられ、上海に於ける輕工業發達の尤なるものとして算へられたものである。今事變に於て相當多數の工場は戦火の被害を蒙つたが、需要依然旺盛であつた爲比較的小規模にて生産し得る該工業は租界内に振出し、昭和十六年度に於て大小二百軒に近しい華人工場の見聞に至つた。邦人間に於ては廣泰絨布廠は當地に於ける該工業の始祖とも云ふべく二十年の歴史と名譽を保持

してゐるものであるが、事變後邦人メリヤス工場
の進出せるもの八社に及び、其の生産能力も見る
べきものがある。其の製品は中支地原産邦人の
需要を充し、更に華人同業者と競争する競争の
もとに奥地輸出方面に販路を開拓しつゝあつた。
然るに事變進展に伴ひ上海地以外に物資搬
出の制限強化せられるに及び、著しく販路が狭少
となつて、十六年度に於ける生産過剰の状況にあ
つた。

日本よりのメリヤス製品の輸入は在邦邦人の増
加に伴ひ増加したが、(十四年度) 爾後日本に於て
純輸出品の出産禁止、前達邦人工業の設備
により今日殆んど輸入を見ない。(一部人絹製品
を除く) 而して日本以外の第三国よりの輸入は當
地に於ける該工業の普通の結果、在邦外人需要を
目標とする高級品の一小部分だけである。十六年
度中に於けるメリヤス製品の相場に就ては之等製
品は、主として原料絹糸の相対低、工資及加工費
に依つて左右されるものであるから、年初より順
次高騰を示し、九、十月の期にあつて最高相場を
示したが、半面買値表示に依れば、軍需相場の昂
騰に伴ひ年初に比し漸く二割程度の騰貴に過ぎな
い。

英米の資金運送令後十六年九月江海關に於て輸
製品の出産許可制が發令され、従来第三國船を利
用し、香港又はマニラを経由し、支那奥地又は南

洋方面に輸出せられてゐた、華人生産品は完全に
販路を閉鎖せられ、華人業者の困難増大せるこ
う、更に大東亞戰の勃發により取引の停頓、金
融の硬化、需要の減退等のため現在租界華人工場
は殆んど操業停止の状況にある。
將來大東亞戰の進行に伴ひ、南方共榮圈に於け
る、メリヤス製品の需要はけだし莫大なるもので
之等製品供給の大任は實に當上海に集中するべき
ものと判断せられる。

故に今後生産販賣に就て日華工場協力提携し高
所より之を統制し、以て必要地域に對し正當な配
給の必要ありと信ぜらるが、こゝ當分の間は販路
閉鎖のため日華双方共生産維持に對し大きな困難
があるものと豫想される。

藥品

日本製品に關しては日本内地に於て前年下半期
末より實施せられたる留保金制度の藥品に對する
適用の結果日本製品の輸入原價は二三割以上高
騰を來し、其土軍需の對法幣相場は百五十元台
より逐次昇騰して、四月頃には二百一、三十元台
を示現し、結局法幣相場は日本品の短期間の
内に約十割の暴騰を爲したる譯にて従前日本品に
依つて賈値され居たる外國製品及中國製品に販路
挽回の機會を與へ邦品進出は大打撃を蒙つた。

六月下旬ソソの開戦に依り獨逸は勿論諸外國
製品の輸入の前途に暗影を投じ、多少共日本品の
運路に光明を與へたことは云へ、十月中旬急激に下
落を始めた法幣は遂に軍需百圓に對し四百元台突
破の狂亂相場を演出し、全く混沌たる形勢となり
華人向け商談は爲めに杜絶するに至つた。
尙軍需の援助の下に行はれたる清地工作は
著々として和平都を擴大しつつあるも、是が作戦
途上に於ける物資交流の制限は漢口、九江
地風への輸出制限の強化と共に鐵道沿線の地品に
對しても九月以降漸に輸出許可制の實施を見るに
至つた。一方内地よりの輸入状況は軍需組合及
輸入組合を経て全期に涉り概ね買値を迫つたが、
是が開始部門に於ては上記の如き法幣の直線的な
暴落と云ひ輸出制限強化と云ひ、原料材料の輸出に
常にオバーストックを蒙らしつつ越年した。

次に外國製品に關しては、法幣不安の反響とし
て華人側換物人風の對照物資として素人筋に於て
輸入ストロクする者多く異常の活況を呈するに至
つた。
十二月二十日現在に於ける重要醫藥品八十品目
に付き華人業者のみの在庫状況は實に夥しき數
量に昇り、此の外素人筋に於ても多數量の藥品を
保有せる様子にて中支全線の消費に充當するも
に二、三年間の使用に耐へ得るものと信ぜられ
る。

工業藥品

軍需組合の工業藥品部の昭和十六年に於ける業
績は左の通り報道されたので參考までに轉載す
る。

工業藥品部は四科に分れてをり、第一科工業藥
品、第二科醫藥藥品、第三科清酒藥品、第四科マ
チ原料及マツチを取扱つてゐる、而して各科の取
扱品目第一科は苛性苛性、硝酸苛性炭、硫酸苛
性の工業藥品、第二科は各種の醫藥藥品、第三
科は酢酸、魚油その他、第四科はマツチ及その原
材料である、下半期中の購入総額は第四科の本格
的運用開始、その他各科の購入は業績と相俟
つて野蠻を収めた。即ち購入総額千七百二十二萬
圓、配給總額千六百一十一萬圓で前期と比較し購入
において九百一十一萬圓、配給において七百三十二萬
圓を増加した、工業藥品は資産結合による輸入不
足を豫想し、又原料確保の見地から華人側への
市販を嚴重に差控へ、軍官需要を優先的に配給
し、残余を邦人工場に可能な範囲内で計画的に
配給する方針に終始した。マツチは八月より上海
占領地奥地奥地向配給を始め南京、蘇州、鎮江、無
錫、九江、漢口の出張所、安慶は安慶邦人商會同
業組合を通じて配給した。價格も前配給機構
の聯業社解散に鑑み一々四割の軍需費公定價格

制度を採用し、小賣も價格統制、消費規正の目的を
達成する見地より一人當り十個入り三包を限度と
する制限を施行せしめた。次で十一月から工場
生産原價低減のため一ヶ五錢に直上げを行つた。
大東亞戰が勃發すると共に、租界内のストロク確
保を期するために華人側の公會と連絡を取り、工
業藥品部に醫藥藥品に對し在庫の登記を行はし
め、之を中心に配給の統制組織に着手した。
下半期各月末十一月は月初めの工業藥品苛性苛
性の相場は次の如くである。
七月七〇元、八月八五〇元、九月八五〇元、十
月一、六〇〇元、十一月一、五〇〇元、十二
月一、五〇〇元
工業藥品の市況は資産結合、船舶面などから輸
入皆無が見込まれ、連月恩恵筋の買一本で恩恵を
辿り英國フランサモンド社の地位に軍需が取つて更
つたことなどの特點すべき事象となり、十一月に
法幣デフレから一時的に落潮相場を示したが、十
二月には再び騰勢相場に轉じ、大東亞戰開始まで
上げ一本の相場となつた。

石鹼

概説 安事變以來の推移概観
南京市及關北方面に散在してゐた華人及米系石鹼
工場は事變直前に於て其機械及設備を租界内に移

し、昭和十三年初頭より操業を開始した。其他華
人工場にして租界内に所在せしもの操業も亦略
同時に開始した。
英國中國肥皂有限公司所在揚子浦は月產十萬
圓の生産能力を有し、全支に於ける最大の工場で
あるが事變突發の昭和十二年十一月に至り軍需
備品内にて已に操業を開始し、日本側當局の米英
商社に對する莫大なる所望を好適とし其操業に於
て不慮振りを發揮した。
邦商工場は事變に因り全焼せしもの一部分復興
成り、他無被害工場と共に操業開始したのは概し
て十四年初頭である。事變後發達に進出して日本
油脂株式會社は南京市に所在せる米系工場にして月
產五萬圓の能力を有し前記英國中國肥皂有限公司
に次ぐ大工場の委任經營を受けたが、同工場は事
變直前其主要機械及設備を租界内に運搬し、工場
は構内空堀となり、且又所々著しく損傷せるもの
を十三年八月より復興工事に着手し機械設備を補
充新設し月產能力七萬圓に増強し十四年一月操業
を開始した。
斯くして事變前英米を背景とせる所政權の徹底
せる排日政策と底層日貨實行のため、極度の苦業
難行を賣けた邦商も、茲に自日の下斷平外支工場
業者に對し商戰を開始する事となり著々順調なる
發展を遂げつつある。特に十五年八月に至り中支
石鹼販賣協議會の結成を見、其節の意圖に従ひ軍

商品市況

緊要の實行非占據區への流出防止に一致協力しつゝ、自給ある販賣をなした。
英商中國肥皂有限公司は強大なる資本を有する倫敦ユニバーサルを母とし、當地に進出する事業拾餘年に及ぶ英米兩國の利益として自國官憲の厚き保護を受け、已に多年全支に渉り強固なる地盤を獲得した。市變突發後は原料の獲得工場の操業製品の運搬等に種々困難を伴ふ際、飽迄自國官憲の援助軍に便宜を許與せられ、從つて其地盤は容易に侵されず非占據區敵性租界内に於て全社製品は極めて歡迎を受け、十五年度の出貨は壹百萬箱に達した。
十六年中に於ける上海市況
前記状況
外人業者生産高洗滌石鹼約一、三〇〇、〇〇〇担、化粧約三〇〇、〇〇〇担、右の内租界内に販賣せられし洗滌石鹼約九〇〇、〇〇〇担であるがその内占據區及非占據區への流出多數である殘余は北支南支方面に移出した。
邦人業者生産高洗滌石鹼約四〇〇、〇〇〇担、化粧約三〇〇、〇〇〇担にして其販賣は石鹼販賣協同會に於て取扱はれ、占據區内とし、非占據區の流出防止を堅持し一部分の租界内販賣を見たに過ぎない。
奥地貿易品は軍裝建而も非占據區城への流出の相續の懸念

恐れある場合はその輸出は許可されないの自然数量の制限となり法幣匯率にも不拘、軍裝賣を容認ならしめ、市價安定を見た。然し乍ら法幣匯率相場表(洗滌石鹼一箱相場)
月別 一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月
外人製品 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇
邦人製品 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇
一面原料油は蘭印、暹羅、英海峽植民地より輸入せるもの大半を占め、彼地の輸出は許可制となり、當地に對しては工業の需用のみ許可を與へられたが、其許可を得るものは實際に於て外人工場及一部華人工場のみとなり、除外せられたる工場は之を市場に要求する外なく、從つて買取り賣込みが續き、加ふるに法幣匯率を反映し機物人気が多分に含まれ諸原料は一齊に昇騰した。
邦人工場は一部脂原料を日本内地、及滿洲國に期待し之を得たが、其價格は概して前記昇騰せる市價に準じ決定配給せられたので、又高騰となり、原料たるソーダの配給價格は市價に比し邦商に有利であるが、其數量はきつた多くは高價なる市場に求めざるを得ぬ状態にて経過した。
主なる原料市價表

幣匯に販賣せらるる安價品は租界内に充満し、之等は種々の手段を弄し盛に占據區に流れ軍裝賣に關々脅威を與へた。
品名 單位 一月 三月 六月 八月 十月
牛 脂 一箱 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇
椰子油 一箱 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇
苛性ソーダ 一箱 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇
移出概況
一、漢口向けは前年同様洗滌石鹼は現在の事情關係に因る許可制に於て檢出なく化粧石鹼のみ引續き出貨を見た。
一、北支向けはバーターに依るが邦商品は僅少の化粧石鹼を除き概して不引合に歸つたが、英商中國肥皂有限公司製品は約十萬箱の出荷をなした。其代金決済が如何なる方法に依つて爲されたか不明である。
一、南支向け邦商品は殆んど皆無であつたが英商品は相當の數量を出貨した。
製品の上海輸入
日本内地よりの輸入は實績に基據を置き朝鮮大

商品市況

運より別送の許可に限り輸入せらる。近來日本内地に於ける本品の生産は極度に制限せられたるに不拘日本内地より本年中の輸入額洗滌石鹼約十萬担、化粧石鹼約十一萬五千担にして主として邦人の需要に充當せられた。
大東亞戰動以後の業界見通し
當地業界は其需用原料の大半を南洋方面に期待したから其見通しは一面に全方面の原料輸送問題の解決否に依つて異なる。而して目下の情勢に於ては之が急遽に解決を想し得ないの故其油脂原料は不足せる當地に期待せらるゝの結果價格の昇騰も免れない。一方必要原料のソーダ類は種々の關係上今後益々入手難となるべきを以て之等を綜合せば少くとも樂觀を許さざるものがある。
對外人業者に關しては從來南洋方面より油脂原料獲得上特約的地位に在りし英米業者及一部華人業者は今後特約の抹殺により邦商と同等の立場に於て商戦をなす事となつたのは著しき趨勢と言へる。

燐寸

マツチについては當會議所發行の經濟月報四月號を参照されたい。ここには重載を避けるため轉載しない。
一、概況
國際情勢惡化に隨ひパラフィンワックス(大體蠟燭原料の殆ど八〇%はパラフィン)の關税及米國よりの輸入數量次第に減少となり(統計その一参照)一方石油の輸入激減による蠟燭需要増大、當なカーブを描いて上昇し(統計その二参照)兩者相俟つて上海に於ける品價は拂底を極むるに至り併せて法幣の下落により十四年度初より漸時市價上昇を辿り、嗣さへ七月二十六日突如實行された在米資産凍結令及同二十八日帝國の外國人關係取引取締規則公布に依り外油商社は邦人へ原料販賣を停止せる爲、その余波を受け華人側の投機も甚だざるに到つた。
十六年度に於ける蠟燭販賣卸賣價格變動左の如し。
(一)アジア石油製 王冠印
美孚 麗印 (二)西魯
日附 價格 法幣 對米 對米 對米
一月八日 二九〇 五四分 二五三分 二五三分
二月廿五日 三三三 五四分 二五三分 二五三分

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
輸入數量	一三、二八〇	二四、一六六	二二、八八四	三六、四八二	一七、四二五	一一、五九	一八、四六	一一、九〇一

(その一)パラフィンの月別輸入數量(單位公擔)
三月廿七日 三三、二二
三月廿六日 三三、二二
五月十九日 三三、二二
八月十九日 三三、二二
十月廿九日 三三、二二
日附 價格 法幣 對米 對米 對米
一月八日 二九〇 五四分 二五三分 二五三分
二月廿五日 三三三 五四分 二五三分 二五三分
三月廿六日 三三三 五四分 二五三分 二五三分
五月十九日 三三三 五四分 二五三分 二五三分
八月十九日 三三三 五四分 二五三分 二五三分
十月廿九日 三三三 五四分 二五三分 二五三分

九月	十月	十一月	十二月
五、一〇七	二、三八四	一、八八七	〇

(その二) 鐵道用地別發出數量(單位: 月)

月別	抛出數量
十六年一月	四八、六九〇
二月	六三、六六〇
三月	五七、五五〇
四月	五二、七五五
五月	四七、二七八
六月	二一、六二五
七月	二四、五五〇
八月	三二、一七八
九月	七三、二三〇
十月	一七四、六一一
十一月	一六、一九八〇
十二月	五五、九八六

三、今後の見通し

昨年十二月八日大東亞戰爭勃發による旱軍組進駐を見るに至り上海始め奥地方の經濟機構破壊されるに當り十七年二月末第七號上海出賣所指示の下に邦商と華商の繼續組合が設立された。

組合商社左の如し

イ）邦人側	理事長 榮泰洋行
榮泰洋行	三井洋行
三菱公司	福島公司

染料

支那事變後の概況
昭和十三年支那事變に依り閉鎖中であつた染工場は翌十三年下半年期より動力操業を開始し漸く舊態に回復し、その同年十二月の獨逸エチエナ會社入、十四年九月の獨逸開採の報道の都度、軍需官とその原料を以て、戰事擴大と共に必然的に増加の趨勢を見送られた染料は思はずの對象となり、再々暴騰を繰返したが、獨逸IG染料のシベリヤ路線經由は依然たる旺盛なる輸入の繼續に押へられ、亦十五年五月の露希布大暴落に於ける染工場及び奥地輻送路の禁禁化に染料市況は更に後を續け、殊に法蘭の對露票款調は日本染料界を一

層の不芳狀況に迫込んでゐる。

二、十六年度概況

本年度染料市場は獨逸開戦を契機とし、上下期下下期に於て雖然たる相異を見出し得る。即ち上下期の極度の低減行情に比し下下期は未曾有のブーム市場を現出した。

上下期不振の原因として次の諸因が考へられる。

1、歐洲戦後の見通し輸入品の過剰ストック
2、IG染料の輸入旺盛
3、染工場への貨銀とトライキに依る操業率低下
4、漸正決済期を控へての仕入手控へと、四五月の不需要期による季節的事由

下下期暴騰の原因は次の諸點である。

1、獨逸開戦に依るシベリヤ輸送路の杜絶
2、IG染料の販売数量の劇増
3、IG染料の毎月の値上断行
4、軍配染料部の販賣制限
5、一般的投機人氣

IG染料は獨逸の染料補給難を見達し七月以來毎月一回賣りに制限される販賣實情を基礎とし華商へ割當制をなし、ストック増強に懸命と見受らる。

軍配染料部も今後の對日割當得に九月末ストックの六分の一量宛の販売方針を採る。邦人染色工場優先配給をなす。華商へは從來の數分の一量し

塗料

果をあげた。下半年各月末(十二月は月初めのコ
ンビレタ下の相場は次の通りである。

七月一、〇七元九角、八月一、三六元七角五
分、九月一、九九元、十月一、二五〇元、十
一月四一、〇三元、十二月、一〇三元

相場の昂落を示したのは獨逸 I・G の昂落によら
る建值引上げ、制限買入による那品への需要増大
のためである。

[illegible]

米國	五一九、四四六
英國	二二〇、五六〇
日本輸入品は軍組關係の爲め海關經由せず	
四、大東亞戰爭後の染料界	

大東亞戰爭勃發後は軍布告により登記申告品に指定された品は品別登記帳で登記され、華人側は登記数量の變更を長期に賣賣せず、軍票組合も將來對需樹立の爲め賣賣中止をなし、獨り日Gが從來來の並みの販賣活動を示したるも買手なく、染料市況は相立不申に達した。

軍配組合染料部の昭和十六年に於ける業績は左の通り新聞に報道されたので參考迄ここに轉載する。

染料部は二科に分類され、第一科は染料、第二科は顏料、塗料、香料となつてゐる。而して第一科は硫化黑、人頭黴、直接染料、酸化染料を取扱つてゐる。獨り輸入するシベリヤ鐵道の閉鎖によりドリット染料の輸入が杜絶せるため、日本品の需要が擴大し、従つて業績も良好を示した。又資産凍結による供給不足を見越し、八月一日から華外人側への市販を停止し、配給方法をその如く決定した。

一、人頭黴は華人側の需要大部分に鑑み、華人側への市販は自由とする。

二、硫化黑は華人側需要分を控除せる殘餘を華人側へ市販する。

三、其他一般染料に就ては第二、四半期の對日輸入數量をメケ月に分ち、邦人側に先配給し、殘餘を華人側にも市販する。

右の方針は大東亞戰中まで繼續され戰時調整に効

支那事務動向に依り、當地の南莊の手は、從來不統制な職方方法に於て、當地の南莊の手は依り輸入供給され、居り、一部分特殊原料、高級原料は組内外南莊の製品が大部分使用されて居た。然る事變後の復興充てでなかつた爲め材料の需要大した事なり、其の後の復興と建設の進行に伴ひ、必然的に南莊も旺盛に成り來るものである。

然る處、昨年九月間輸出統制實施に依り、當地鐵は半減し、一部分品並に粗獷な支那製品を輸入せし現地日本工場製品に同条件で來た。從來原料は大日本工場品に依存し、殊に船舶用特殊原料は現地で製造するもの内地原料製品として輸入し、精製し居たに過ぎず、現地に於ける需要の増大と共に、南莊に於ても内地品輸

確立する立前にて、大日本染料、日本油脂、關西ペイント等現地工場は凡ゆる困難を克服して現地需要の自給に努力を盡し、一部原料入手困難なる染料を除き漸次自給の域に近接しつつある現状である。

昭和十六年度に於ける當地輸入總額は約五拾萬圓程度で、上半期に於ては約五分の一、七下半期に於ては約五分の三、三程度を輸入したが、世界情勢の悪化に伴ひ益々品外の手困難に成り難く七月廿六日米國の我國に對する資産凍結令以後外品入手の見透無く、粗悪なる一部支那製品を除き全部現地日本人工場進出内地輸入品に頼らざるを得なくなつた情勢と成つた。一方現地建設工作は漸次進展し染料の需要は益々増大して來た。其の間市場相場は外國の品薄と下落の一路を辿る法幣安の爲め、昭和十六年一月以來急激な騰貴を續け、自然内地輸入の原料も騰貴を免がれず多少の漸騰を來した。

然し内地染料が軍需組合配給品である事並に軍需組合の爲め、大體に於て大した價格の變化無く、今後現地の統制強化に依り一定價格が決定されて來るものと考へられる。

第三國商品は今迄に於ても歐洲情勢の悪化に伴ひ原料輸入困難にて漸次減少して來てゐるが、昭和十六年度に入つて船舶の不足其の他で極度に輸入減少し、一部特殊原料のみが供給され、亦價格

も騰貴を蒙り、七月以後は殆んどこの輸入も絶えた爲めにストック品は急騰した。一方支那製品も同様騰貴を蒙つたが、製品粗悪なる爲め結局日本製品に依存せざるを得ない状態である。

大東亞戰爭と共に現地染料界は内地品の輸入に待つ事は勿論、現地日本人工場技術進出増産に依り現地自給の方針に進んで行く事は當然と見る可きである。尙今迄原料不足の爲め入手出来なかつた一部染料、或は特殊染料も戰爭進展と共に入手可能となるものと考へられる。それと同時に今迄外品を使用して來た支那人其の他第三國人間は急激に日本品が使用される様になるだらう事は亦當然の成行と見られる。

五倍子

五倍子は桐油アンチモニー茶葉と共に中國特産物の一である。年産二、三千担程度の安徽省の如きは除外して主要産地は年産各約八萬担と推定される四川省、湖北省、河南省の三省である。生産高の殆ど全部は輸出に向けられ、國內消費は五倍子其儘を粉砕して助劑として使用する家内工業の域を出でざる餘程に過ぎない状態である。輸出の中七〇％は歐洲特に獨逸向けであり三〇％が對日輸出である。

歐洲戰爭勃發後獨逸商社による買付旺盛を極め

上海相場は昂騰の一途を辿りつゝ昭和十六年を迎へた。

十六年度に於ける當地の產出量は、原産地が何れも果敢非占領地である爲に其の詳細を知る事は不可能である如何なる経路を取るかは明かでないが現に角漢口、九江、安慶等に集荷され上海へ移出されるもの、陸路香港に出で上海へ轉送されるもの、非占領地から事波方面に運ばれ上海へ流入するもの、以上の方法によつて上海へ供給せられた。

邦人商社による奥地漢口方面より上海へ輸入は、一、五倍子として第三國人及華人に賣却せざる事、二、上海に於て原料として使用し製品に變形されたる場合、該製品を提納行爲となる能はる第三國人及華人に賣却せざること

と云ふ條件附にて許可された、故に邦人商社による移入は一般市中には出廻り難き事情に在る。従つて獨逸商社による買付は華人により上海に流入したものに向けられざるを得ない、其の華人による上海輸入は香港より海路行はれるもの、事波方面より流入するもの、及び如何なる経路に如何なる方法が利益せぬがニビクル三ビクルと稱する多數屋づゝ輸入せられるもの、諸條である。獨逸商社は三等を買付つてシベリヤ鐵道經由歐洲へ輸出を行つた。即ち

一、上海出廻りの不調滑

二、獨逸商社による買付

三、法幣價值の漸落

等の諸要因により市中價格は漸騰を示しつゝ上半期は推移した。

十六年度下半年は波瀾を極めた半年であつた、世界の重大事項を列挙すれば

一、六月の獨逸戰開始

一、日獨會談

一、日本の政變

一、米國の資産凍結令

一、大東亞戰爭勃發

右は上海一般市況に非常な影響を及ぼしたが五倍子市況に如何なる影響を與へたか觀察して見るに獨逸戰開始は唯一の輸送路シベリヤ鐵道閉鎖により對獨逸輸出は停止の止むなきに至つた、然し乍ら獨逸商社は既に買付済のものの放出を行はず、又依然として買付を續行するため一時値下りを豫想せられたにも拘らず五倍子市價には變動を生じなかつた、一方法幣相場は七月獨逸の獨逸承認により軟化した日本の第二次近衛内閣の退陣により一時急騰を示したが米國の資産凍結令により軟化し、日獨會談、日米會談の諸情報を入れて小波瀾を示すつも大勢は軟化の一途を辿りつゝあつた。法幣の貨幣價值下落は一般物價の騰貴を來し、五倍子も亦法幣下落に従つて漸騰を行つた。

一方、日本内地に於ては日獨會談の決裂、日米會談の悲觀的狀態によりタンニン劑の確保を斷念するに至り、五倍子統制會社の設立氣運を見るに至つた、中支那より輸入確保を目的としたものであるが「生産統制を實現して輸入中心の統制會社は設立の意味なし」と云ふ農林省意向を受けて十月中旬創立總會を開く豫定を延期して通々整備に當り「五倍子、タンニン酸の輸入、國產品の集荷開始」を目的として日本五倍子統制會社が十一月廿四日正式認可となつた。

之より先各府縣別による五倍子集荷團體は九月より十月に及んで着々と整備せられて行つた。十月末迄に整備せられたものに次の如き組合がある。

- 島根縣五倍子出荷統制組合
- 香川縣五倍子集荷統制組合
- 鳥取縣五倍子出荷統制組合
- 岡山縣五倍子集荷統制組合
- 三重縣五倍子出荷統制組合
- 高知縣五倍子集荷統制組合
- 岡山縣五倍子集荷統制組合
- 和歌山縣五倍子集荷統制組合
- 徳島縣五倍子卸賣組合
- 京都府五倍子集荷統制組合
- 兵庫縣五倍子集荷統制組合
- 大阪府五倍子集荷統制組合

大分縣產品同業統制株式會社

山口縣聯聯

福井縣木下子集荷組合

奈良縣五倍子卸賣商業組合

結核等の組合は五倍子統制會社に包含せられ

其仕入部として活動して行くことになると思はれる、日本五倍子統制會社の活動により内地に於ける栽培集荷、中支那よりの輸入は全面的に統制下に入るものと思はれる。

前記の如き情勢により下半年漢口方面に集荷せられた五倍子は上海移出を停止され對日輸出に振向けられた、年末迄に大阪神戸に輸入せられた五倍子は十八万斤に達したと云はれてゐる。

前述の如く下半年に至つて奥地漢口方面の邦人商社による上海輸入は停止の狀態となり、華人による事波結核方面よりの少量輸入を見るに過ぎなくなつた。獨逸戰開始後シベリヤ鐵道閉鎖社にも拘らず依然少量の買付を續行して居た獨逸商社は如何なる理由によるか九月末頃より猛烈な買付を再開し、此の爲供給不調滑の五倍子は急騰を演じ十一月に至つて千三百兩の高値を呈するに至つた。

十二月八日の大東亞戰爭は東亞の事情を一變せしめた、物資移動は制限され一般の取引は不活潑となり、獨逸商社による五倍子買付は大東亞戰爭を境として中止せられた、香港事波方面よりの流入遮断せられたにも拘らず一般の取引不活潑の情勢

右の如き市況による昭和十六年度五倍子上海相場の変動を表示すれば左の如くである。

右の如き市況による昭和十六年度五倍子上相場場の變動を表示すれば左の如くである。

一	月	三三〇〇〇
二	月	三五〇〇〇
三	月	三七〇〇〇
四	月	四〇〇〇〇
五	月	四二〇〇〇
六	月	五五〇〇〇
七	月	六〇〇〇〇
八	月	六四〇〇〇
九	月	六五〇〇〇
十	月初旬	七〇〇〇〇
	下旬	八五〇〇〇
十一	月初旬	一二〇〇〇
	下旬	一三〇〇〇
十二	月初旬	一四〇〇〇
	下旬	一五〇〇〇

右表によれば法幣による價格は月毎に漸騰の一途を辿り十二月は一月に比較して四倍の騰貴を示してゐる。

然し乍ら一方法幣其物の貨幣價值も下落を續けて因たてて法幣下落の跡を相續べて見なければならぬ、法幣の對金相場は大大の如くである。

法幣 一〇〇宛に對する軍票レート

一	月	六〇〇〇元
二	月	六〇〇〇元
三	月	五〇〇〇元
四	月	四三〇〇元
五	月	四二〇〇元
六	月	四四〇〇元
七	月初旬	四五〇〇元
八	下旬	四一〇〇元
九	月上旬	四二〇〇元
十	下旬	四〇〇〇元
十一	月初旬	三九〇〇元
十二	下旬	三八〇〇元
一	月上旬	二三〇〇元
二	中旬	二五〇〇元
三	下旬	二八〇〇元

(公定レート二五〇〇と決定せるも一般市中は二八〇〇五)

前記五倍子相場は各月の軍票相場に依り軍票價格に換算して考察して見るに

法幣價格	對軍票	軍票換
一	二五〇〇	一〇〇〇
二	二五〇〇	一〇〇〇
三	二五〇〇	一〇〇〇

四月	銀1000	銀1000	銀1500
五月	銀1000	銀1000	銀1500
六月	銀1000	銀1000	銀1500
七月	銀1000	銀1000	銀1500
八月	銀1000	銀1000	銀1500
九月	銀1000	銀1000	銀1500
十月	銀1000	銀1000	銀1500
十一月初旬	銀1000	銀1000	銀1500
下旬	銀1000	銀1000	銀1500
十二月上旬	銀1000	銀1000	銀1500
下旬	銀1000	銀1000	銀1500

即ち注附の貨幣價值下落を計算に入れたる五倍を價格變動を觀察すれば、上半期は大した變動は無く、下半期より漸次騰勢を辿り昭和十六年度中に於て約一倍の騰貴を示してゐる。

大東一戰により帝國は過去未曾有の豊饒の擴大によりタニン洲の需給は益々増加し、日本五倍子統會社の整備強化と共に奥地五倍子の對日輸出益々増大するものと見ねばならぬ。一方に於て南方自由市場番着の陥落、東波、紹興方面に於ける非占領地區との邊境強化とは、從來輸入によつて行はれた上海流入は其強を失ひ上海市中に於ける五倍子は漸次其數額を減少するものと思はれる。

品を世界の貨幣市場に計算に入れては五倍に
 價格を上げる觀察せば、上相場は大した變動に無
 く、下相場より漸次騰勢をみせ昭和十六年度中に
 於て約二倍の騰貴を示してゐる。
 大東亞戰に於て帝國は戰古未曾有の難關の擴大
 によりタリシ刑の需は益々増加し、日本五倍
 子統會社の整備強化と共に奥地五倍子對日輸出
 量は益々増大するものと見ねばならぬ。一方に於
 て南方自由市場奪還の陥落、寧波、紹興方面に於
 ける非占領地區との連絡強化とは、從來未だによ
 つて行はれた上海流は其途を失ひ上海市中に於
 ける五倍子は漸次其數を減少するものと思はる。

昭和十五年十六年(一月—十一月迄)上海港印刷
インキ輸入統計表 (單位封度)

輸入國別	一九〇四年	一九四一年
日本より輸入	三、五五、九二	二、五五、五三
米國より輸入	一、四九、六六	四、九二、九二
其他より輸入	二、〇三	二、六〇、三

合 計
印刷工業界も一般商品と同様に昭和十七年度程
國際情勢の激變を毎に體面、且深刻に市況に影
響を受けたる年少く三月の泰佛印協定成立或は日
米關係不安と相俟り、六月の獨ノ開戦、七月の
資産凍結令、十月の大東亞戰爭勃發等、其都度
印刷工業界にも直接、間接大きな影響を與へし
れ思召實、買控等、業界としては驚て経験せる事
なき變動的現象を計せたるやうである。

而も、年間の内六月、十二月の二度に渉る印刷界の全面的な大ストライキ、節電問題より来る作業大止短縮、十月の法曹の大暴落等の悪材料に左右せられつゝも、此の難關突破に成功し近來に左右良好なる藪内を渡け得た大きな原因は那人煙草箱印刷所方面、其他那人煙草印刷工場の活況にして、其外に法幣暴落、國際情勢の險惡化より先高見地、或は品不足懸念より来る實需を無視せる買辦的思

感覺、節電、物價高騰に於て意の如く工場が原料の生産
 出來ざりし爲、品不足を來したる事等、此等好惡懸
 各材料錯綜し一年間を通じ波瀾萬丈の動盪を見せ
 たが結局年頭の悲憤的予想を裏切り、印刷インキ
 界全般として之を歴史的に見る時良好なる足跡を殘
 し越年へととのむを得る。

只茲に特筆すべきは上記上海港印刷インキ輸入
 統計表（十二月の統計無き爲十一月の間の海關統計
 表に依る）中に現れなき如く日本製印刷インキ輸入
 が内地の輸出に對し絶對地船腹不足より意の如く輸入
 出來ざる間隙に乘じ、米國製品の恐るべき差出提
 引として昭和十五年の三倍の激増は之の間の事
 情を明かにするは第一、占め多年の印刷インキ輸
 入に於ては米國は第一位を占め、その上海印刷イン
 キ界割制を十六年度に於て再び實現し、たゞたし
 は大東亞戰爭の變たる結果を見る今日の吾々日
 本人印刷インキ界としては遺憾千萬次第である
 の。商確は十七年度に於ては各貨共に日本品の輸入
 を一掃せねばならぬが之が爲には日本品の輸入
 緩和と現地日本人工場生産増加を計るより方法無
 く而かもこの二が實現する時那品の上洋印刷イン
 キ界なりと、現地の需給調整にも動力力と成
 り得る一石二鳥の策と思惟せらる。

昭和十六年度印刷インキ消費量
 輸入之部（一月十一月迄間統計十二月は予想）

日本よりの輸入 二八萬封度
米國よりの輸入 四一萬封度
其他外國より 一六六千封度
十月輸入予想 八萬一千封度
計 七九萬七千封度 A
現地生産(予想)
邦工場 二〇萬封度
外人工場 五〇萬封度
支那工場 三三〇萬封度
計 三三〇萬封度 B
合計(A+B) 三百七十九萬七千封度
輸入部に於ては十月ヶ月間は海關統計にして間違なきも、現地生産は大概の予想なる爲、其間實際の生産に多少の差があるものと思はるゝと、實際的に十六年度の印刷インク消費量を檢討する時多少大體なる結論となるもの年四百萬封度の消費量にたつたものと認む。

支那邦製勃發以來著しく重ね來た紡織機械及要品界も、昭和十六年度に入り益々輸入困難となり、僅かに一昨年設定せられた發註許可制に依り極めて少量の入手を得たのみで、織製物の如きは依舊輸入苦難の狀態である。加ふるに紡織の原資は輸入困難、其の他諸々の情勢に依り極度の機械

紡織機械及要品

商 品 市 況

の止むなきに立上つた状態である。
現在、絹、絹に対する割当品目、針布、木骨、羊毛製品、皮革製品等の輸入配給は、さのみ困難でない模様であるが、現在の機業に使用出来得る程度である。其の間第三國製品(安部製品)も極めて少量の入手が有つたが特筆大書することなく今日に到つた。
大東亞戦争勃發後、資材の入手は困難になると思考されるも、戦争進行上、當然軍需工業方面に使用される事を覚悟せねばならぬ故、平和産業たる紡績の資材配給を望む事は、當分不可能と見なければならぬ。

米

昭和十六年の米の市場相場を列記すれば次の通り

月	西貢白米一號米	
	最低價格	最高價格
一月	八四〇〇	八七〇〇
二月	八一〇〇	八五〇〇
三月	八五〇〇	八五〇〇
四月	一〇〇〇	一四九〇〇
五月	一〇九〇〇	一五七〇〇
六月	一六〇〇	一三五五〇
七月	一一一〇〇	一三三〇〇

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
最低價格	一三一・五〇	一三六・〇〇	一三四・〇〇	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇
最高價格	一三八・五〇	一三九・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇	一三八・〇〇

備註 西貢白米一號米
「註」十一月月中旬より工部局に於て公定價格制實施
「註」十一月月中旬より工部局に於て公定價格制實施

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
最低價格	八二・〇〇	八〇・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇
最高價格	八九・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇	八五・〇〇

市況概要
一月より四月中旬頃迄は大體に於て市況は平穩且つ相場も安定振動を見なかつたが四月中旬以降より諸物價の騰貴につれ、米相場も漸次高騰、加之思惑遊資の對策を食米に求めての思惑買占、換物操作は法幣の不安、國際情勢の緊迫化につれ狂勢騰貴の一途を辿り十一月一日より共同租界工部局に於ては食米を初め麵粉、食油、其他雜糧類に對し一日の引値を以て最高價格とし價格停止を發令した。之に依り市場思惑は全面的に對せられたが、間取引は嚴重なる常局の監視にも拘ら

商 品 市 況

予行はれ居たる模様である。
尙全十一月月中旬より食米一三〇〇(八〇〇)の公定價格制を採用民食安定を計つた。尙米右價格を維持平穩に越年した。
高騰の主たる原因を挙げれば左の通り
一、重慶政府政治力の失墜、奥地への遊資誘引、法幣安定委員會等法幣維持の爲の經濟工作の失敗、上海市場放棄等
二、外米手當難、上海在庫米の減少
三、軍需の流通範圍擴大化につれ法幣價值の下落
奥地に上海思惑遊資の法幣不安に依る換物操作、食米見越買占、賣惜
一、國際情勢の緊迫化、日本關係強化の影響

小麥、麥粉、麩

月	△小麥(五〇〇)に付	
	高 價	安 價
一月	三二・六〇	三一・九〇
二月	三六・八五	三六・八五
三月	四二・五〇	四〇・八〇
四月	四二・〇〇	四〇・〇〇
五月	四二・〇〇	四〇・〇〇
六月	四二・〇〇	四〇・〇〇
七月	四二・八〇	四〇・〇〇

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
最低價格	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇
最高價格	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇	四四・〇〇

備註 小麥、麥粉、麩
「註」十一月月中旬より工部局に於て公定價格制實施
「註」十一月月中旬より工部局に於て公定價格制實施

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
最低價格	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇
最高價格	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇

市況概要
十一月法幣不安市場安定せず相場高騰、農地中甸に到り一般金融便益商内閉鎖
十二月一般市場何れも金融不調清内停頓下ら國際關係急變に相場騰貴配給を含み越年した。
△小麥粉
「註」十一月月中旬より工部局に於て公定價格制實施
「註」十一月月中旬より工部局に於て公定價格制實施

となり爲替強弱商品急落に伴ひ相場下り安
六 月 新参出廻りに入り相場軟調
七 月 新参出廻り旺盛なため形勢堅硬相場低
八 月 資金繰り資金に依り外参依存相場見通
九 月 工場側北支向参参商貨に高値買見送りな
から米其他穀類一般に強調先高見通に産地賣控
各工場共買控へ強調
十月 法幣暴落換物人気が旺盛諸商品一齊に暴騰
十一月 小参出廻り細まり相場一勢買進み相場
十二月 大東亞戦争の勃発を見たが各工場共原料
手當一巡の強保合裡に越年した。

十一月 五八〇〇 五一五〇
十二月 五六〇〇 五四五〇
一月 舊正前後にて商内開散
二月 市況保合
三月 法幣暴落相場奔騰
四月 前月高値訂正小戻す、台灣向引合旺盛
五月 台灣向引合引續き旺盛新参出廻りな控へ
相場伸縮み
六月 新参出廻りの爲市況保合買買薄
七月 月末資金繰りの爲に新高値示現
八月 法幣不安換物人気が相場暴騰、對日輸
出久振りに再開
九月 金圓建對日輸出引合開始、中支製粉聯合
會第六部(農部)會員決定
十月 法幣大暴落相場暴騰、對日輸出促進の爲
相場暴騰與亞院にて禁止せり
十一月 原案高の爲相場引續き強り
十二月 大東亞戦争勃發相場暴騰したが商内開散

雜 穀

に連れ追々對日輸出探察圈内に入ると共に、日本
内地側にて夫々輸入配給統制會社を設立、積極
的に活動を開始當地も之に呼應輸出業者は採算を
度外視し、以て日本食糧對策に全協の協力となし
た。
但し雜穀の中現在對日輸出されつゝあるものは
粟、豆、玉蜀黍等であり其他の高粱、赤小豆
綠豆等は未だ本格的引合に入つては居ないが對日
輸出を進める可能性がある。
一、昭和十六年中に於ける上海市況
(一)需給狀況
豆類は六月頃より出廻り始めたが本年は積々
需作を豫想され出廻り高價豆四〇萬擔白豆
二〇萬擔見當と稱された。
七月に入り日本では支那產豆玉蜀黍全國輸入
同業組合が發達の解消し東亞雜穀輸入株式會
社が設立され輸入統制を行ふ事となつた。
當初は爲替關係にて採算困難であつたが、軍
票高進に業者の採算切詰により漸く引合軌道
に乘つた。但し後半に至り船腹難度に窮乏
なり多量の未換出品を残す結果となつた。
本年中に於ける對日輸出高は粟、豆三十四
萬擔一千二萬担であり、上海港輸出高の九八
%を占めた。
玉蜀黍は年初より三、四月に亘り地場品の端
品品損れ相場高に西貢、爪哇、セレスポの端

大量契約を見るに至り、其後米價高となるに
及び代用食としての需要旺盛となつたため引
續き輸入盛んとなり本年中に於ける輸入高は
九萬担の多額に上り最高記録を示した。
七月産後、之等輸入玉蜀黍の特圖建に
よる對日輸出計畫がなされたが船腹資金關
係から所期の目的を達するに至らなかつた。
然し本年中輸出高は約二萬担二千萬担に上つた。
(2)相場の變動(毎月央、單位五〇底)
月 別 粟 豆 白 豆 玉 蜀 黍
(無期物) (江北物) (西貢物)
一 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
二 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
三 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
四 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
五 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
六 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
七 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
八 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
九 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
十 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
十一 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
十二 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇
三 月 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇 三三〇〇

農ノミナルなる
四月 法幣相場暴落著し相場行過ぎ訂正まで小戻
す
五月 雜穀新作行情急落へられたが本格的
相場立たず
六月 小参出廻り相場暴落に連れ市況反落
七月 豆類新物出廻り開始の市況順調であつた
が月末資金繰りの結果相場上向く
八月 法幣不安換物人気が相場暴騰、對日約定
旺盛
九月 豆類相場不變なるも船腹關係から對日換
出停頓、玉蜀黍輸入人荷旺盛相場下押す
十月 法幣暴落二回暴落のため相場一齊暴騰玉蜀
黍の如き月初に比較月末八割見當高を示した
十一月 法幣相安定相場反動安、與亞院より雜穀
對日輸出商社指定さる
十二月 大東亞戦争勃發のため相場不申、月央戦
前より稍高値にて相場再開したが市況開散裡に
越年した

綠茶、紅茶

一、概 説
支那事變發生以來の上海港輸出高は海關統計に
依れば左の如し
年 度 數量(キントル) 金額(上海元)
昭和十二年 二八、〇〇〇 三、三三三、三三三
昭和十三年 二八、〇〇〇 三、三三三、三三三
昭和十四年 二八、〇〇〇 三、三三三、三三三
昭和十五年 二八、〇〇〇 三、三三三、三三三
昭和十六年 二八、〇〇〇 三、三三三、三三三
(註)昭和十六年度は十一月迄の統計なり
該表に見る如く數量金額共に漸減の傾向を見
たるのは事變發生以來果地取引の杜絶、並に露廠取
締の茶葉對外輸出政策の關係より支那茶葉中心が
上海より香港に移つた結果と見られる。昭和十五
年度に於て數量的に稍増加し金額に於て躍進を見
たるのは前年度の軒調を受け綠茶價格の昂騰した
るの、法幣相場の低落並に獨逸向紅茶の高價賣
行によるものである。而して昨年に至り急激なる
減少を示したのは獨逸開戦に伴ひシベリヤ鐵道に
依る獨逸向輸出不能となり、且米國の資金凍結に
依り米國其他への輸出一般に困難となつた結果と
見られる。十二月八日大東亞戦争勃發と共に上海
港の茶輸出商内は遂に杜絶した。
二、昭和十六年中に於ける上海市況
(一)需給狀況
〇綠茶は昨年に引續き好況を呈し米國よりの引合
盛にして國內用と共に活潑なる需動を見た。
然るに米國の資金凍結の結果綠茶の需要著しく
減少したが外面の手により引續き香港經由米國

商品市況

「印度、南洋方面へ輸出されてゐた。然るに大東亞戦争勃発するや輸出は杜絶し、爲めに上海市場が動蕩をきたした。紅茶は獨逸、米國、南米、内地であつたが、漢口方面より原料茶入荷は陸地交通不便の爲め輸出難延し前年に比し著しく減少した。獨逸開戦により對獨輸出は遂に中絶し大口需要は無く、對米其他西内ボアもあつたが、米國の資金繰り以後は外資又は華商により、香港經由北米、印度南洋等に輸出された。紅茶の市場消費は減少して下級品の北支商移出があつたが少額である。(一)相場の変動
綠茶、紅茶共昨年好況の後を受けて市場閉塞と共に買氣旺盛であつたが、綠茶原料品と茶葉粗邊の下落關係により毛綠茶相場は近年に無き高値を示した。今月別に見る綠茶、紅茶の相場推移を表記すれば左の如し。

月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
茶葉	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元
紅茶	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元	上 100元

品名	一九四一年	一九四〇年	一九三九年	一九三八年
綠茶	100元	100元	100元	100元
紅茶	100元	100元	100元	100元
毛茶	100元	100元	100元	100元
其他	100元	100元	100元	100元
合計	100元	100元	100元	100元

三、今後の見通し
大東亞戦争に於ける星軍の勝たる戰勝に依り世界主要茶園たる印度、錫蘭、爪哇、スマトラ等が大東亞共榮圈に包含せらるゝこととなれば之れに日本、台灣、支那の茶葉を加へ世界茶產の殆ど全部共榮圈内に入る事となるであらう。試みに之等茶產國の一ヶ年の茶輸出数量を見れば一九三七年(一九三七年四月—一九三八年三月)總輸出八億七千三百萬封度、之れに對し一ヶ年の世界消費量は八億六千一百萬封度である。内英國の消費量最も多く四億一千三百萬封度にして、世界需要の半を占む。然るに英國の需要するものは紅茶であり、現在印度、錫蘭、爪哇、スマトラ等より輸入品大部分を占め支那紅茶は僅少である一方支那紅茶の產地は北阿、印度、アフガニスタン、南洋、蒙古、滿洲等各方面に渉り夫々特殊地盤を有し、自ら消費市場を具にする點注目する要がある。但し支那茶當面の問題は海外市場便益の爲め困難なるべきも共榮圈の秩序回復と共に上海市場は復舊し、南洋方面との物資の交流を始めとし、總て支那茶の輸出も舊體に復するものと信ぜらる。

葉煙草

一、概況 (支那事變以來の概況)

商品市況

事變前の中支に於ける葉煙草事業は、英米トラストが莫大なる資本を擁し、以て支那に於ける葉煙草事業を壓倒し、獨占的地位を占め日華兩業者の進出を殆ど完封してゐたものであつた。今事業を分岐點とし中支葉煙草株式會社が率先、中支に於ける各產地に進出し獨占に對面を固め、買付機構は勿論調査機關等整備し積極的に事業の發展に努め、若々活潑なる事業の進展を見てゐる。即ち全社は中支に於ける唯一の葉煙草會社にして、中支各地に產出する各種葉煙草の發展と統制に全力を傾注し、以て當局の指導の下に葉煙草の統制機關として専ら我國領内に關ひ、若々各種葉煙草の我方確保につき最善の方圖を講じてゐる。

他國當地支那葉煙草業者を以て組織せしめた中國土菸業公司を指導監督し中支各地は勿論邦人の手の固かざる地城等も進出せしめ、其の獲得に努め若々其の實績をあげてゐる。即ち十六年度米寇の蒐集實績は後述の如く已に三五〇萬封度を越えた。
更に全社は在來葉煙草の獲得を決定的ならしめる爲め無錫、杭州、大連に出張所を設け、その獲得に任じつゝあるが、之を擴大強化する爲め其他の地方に近く全社の買付機構を益々擴充し、その全面的我方確保に精進してゐる。
今や大東亞戦争の勃發により外國產葉煙草の輸入全社絶せる爲、中南支產出の葉煙草の確保は益々その重要性を加へるに至り、中支日米葉煙草會社への原料供給は勿論、滿洲方面に對しても原料葉煙草の必要に迫られて來たので、全社は更に進んで滿洲方面及その他の地域に於ける原料葉煙草の蒐集も若々計畫中で、近くその實現を見ようとしてゐる。尙全社に於ては南洋羣島占領地區の原料葉煙草の獲得工作についても目下研究中である。
一、昭和十六年度中に於ける上海市況
(一)需給狀況(邦人市場のみ)
(二)葉煙草相場
(三)葉煙草相場
(四)葉煙草相場
(五)葉煙草相場
(六)葉煙草相場
(七)葉煙草相場
(八)葉煙草相場
(九)葉煙草相場
(十)葉煙草相場
(十一)葉煙草相場
(十二)葉煙草相場

(一)内地葉煙草 約 三五萬封度
合計 約 一六九萬封度
以上は大約一ヶ年の實績であつて、昭和十六年中に獲得したものである。
(二)相場の變動
昭和十五年再乾煙品一〇〇封度當り平均八拾圓であつたが
(イ)產地に於ける減產 風陽葉は一般農產物價格及氣候關係の爲、非特減產を來した外、在來葉も運輸關係其他により逐次減產した。
(ロ)運送費の増加 前年度より約三割見當増(一)軍力料金の昂騰 漸次昂騰した。
(ハ)軍力料金の昂騰 漸次昂騰した。
等の爲再乾煙品一〇〇封度當り平均百拾圓であつて、前年比約四割の騰貴を來した。
一、競争品の消長
事變前にあつては英米トラストが支那市場、特に中支に於て壓倒的獨占を示して居たが、既述の如く昭和十六年七月の英米兩國の資産凍結後漸次復舊の一途を辿り、殊に今次大東亞戦争勃發後、敵性國社の活動は全面的に封じられつゝある實狀につき、葉煙草の我方確保は愈々決定的なるならん。
二、價格の見通し
諸理由による品騰底の爲益々漸騰の趨勢にある。

商品市況

一、電業見通し
中支に於ける電業事業は我方、即ち中支電燈株式會社の手により統制せられ、或は政治工作或は經濟工作等強大なる企圖と固たる構想の下に山東省の移入、内地電業は新占領地電業の輸入と共に、國策の買付、許州電業の移入、在津電業の買付等の諸工作は應々積極性を加へ、支那側に於ても我方の誠意の認識を深めると共にその電業確保は増加の一途を辿り、次年度の獲得額は本年度の數倍に達する見込である。

胡麻

昭和十六年二月以降十七年二月末の上海雜穀並に在貨左の通り
集積
南京 白胡麻 壹萬五千袋
明光 鮮坤同 壹萬袋
漢口 同 五萬袋
蕪湖安慶 同 壹萬五千袋
以上合計概算 四萬五千袋
上海在荷
南京 白胡麻 參千袋
明光 鮮坤同 參千袋
蕪湖 同 貳千袋
以上合計概算 八千袋

桐油

昨年の年報にも觸れた通り、本品の取扱は特殊なるものなり、一般市場にては賣買共に不可能な商出となつた。
勿論ローカルに多少の出廻はあつたが、その數量、品質、共に言ふに足らず、本品主要産地たる漢口上海産のものは特殊取扱をうけ一般商社の手には本年中一屯も入らなかつた。
従つて數量、價格等の統計數字は入手出來ず茲に記載し得ない。

茶油

十六年度に於ける茶油市況は前中期に於て温州方面より華人側に多少入荷を見たる様子なれど五月頃外人船の買進みに殆ど上海産品一掃され其後僅かつ入荷せる模様なるも在庫品は途切れ途切れとなり従て市中相場年初期に於ては百斤三百二十元見當に在りしも八月頃には四百元を越し更に十一月には七百元となり以後在庫の皆無と共に相場も立たず越年せり。

軍配穀肥

軍配穀肥の昭和十六年度業績は新聞報道によ

豚毛

輸出數量

れば左の通りであるから參考迄にこゝに轉載する
軍配穀肥部は第一科、第二科に分れ、第一科は滿洲特産品の大豆油、豆粕、北支より落花生油、第二科は棉實粕、菜種油の對日輸出を行つた、下中期中の購入配給は購入總額七百九十六萬圓、配給總額七百八十六萬圓、前期に比較して購入、配給ともに半減を見た、減少の主因は滿洲特産品の輸入約定が前期で完了した結果によるものでこれに更なる辦法として青島より相當量の落花生を移入した。
滿洲大豆油は上中期において六千五百屯（五二四萬磅）五百六十三萬三千四百四十六圓、下中期に於て千五百屯（千屯は七五萬磅）二百二十五萬二百五十圓、五千屯は八十萬磅で六十六萬六千八百圓、青島落花生油は上中期九十三屯余米、下中期八〇仙、落花生は不振であつた、また第一科の下中期對日輸出は皆無であつた。
下中期各月（十二月）の青島落花生の相場は左の如くである。
七月八元、八月八元、九月二〇元、十月一九元、十一月八元、十二月一八元

商品市況

昭和十六年度に於ける上海港よりの輸出は中國海關統計に依れば十一月末迄二、九四七公担四二にして其の内譯は左記の通りである（十一月の七日間の輸出數不明なれ共約六〇〇公担と推し得る。）

仕向國	數量（公担）	金額	仕向國別
英國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	英國
香港	一、〇〇〇	一、〇〇〇	香港
日本	一、〇〇〇	一、〇〇〇	日本
米國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	米國
オーストラリア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	オーストラリア
大連	一、〇〇〇	一、〇〇〇	大連
佛印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	佛印
其他	一、〇〇〇	一、〇〇〇	其他

即ち米英向數量の全輸出數量に對する百分率は各々七、二六にして合計九七の多きに達し正に完全なる米英依存の現象を招來した。之を昭和十一年度の輸出國別百分率たる米國四〇%、英國二五%、日本二二%主として白毛一〇%佛八%に比較せば歐洲大陸の擴大が本商品市場に如何なる變化を及ぼしたかを知らし得る。
昭和十五年に於ける輸出は一七、一七公担五、一三六、一五二で之と比較すれば十六年度は數量に於て約四、〇〇〇公担の減少と反對に金額に於ては三、四、〇〇〇、〇〇〇元の増加を

示し居るものが原因は數量の減少は現地に於ける統制強化特に金貨統制之が非常に強化された爲で有り又金額の増加は海外輸出の暴落と爲害の暴落に依るものである。

過去一、三年に於ける豚毛相場は上り一本調子に終結した。之は海外に於ける世界的物價騰貴に加へ時局情勢の需要増加に反し、供給が其の主産地たる支那に於て統制の爲減少したに依るものにして產地側又之が影響と法幣の暴落に依り暴落した。
而して之を上海毛一七號頭に就き紐青一針度當り米相場上海一〇〇斤當り法幣相場を具體的に示せば下記の通りである。

上海毛頭	米相場	法幣相場
五年五月	米一〇〇	一、〇〇〇
七月	一〇〇	一、〇〇〇
十月	一〇〇	一、〇〇〇
十二月	一〇〇	一、〇〇〇
六年一月	一〇〇	一、〇〇〇
三月	一〇〇	一、〇〇〇
四月	一〇〇	一、〇〇〇
五月	一〇〇	一、〇〇〇
六月	一〇〇	一、〇〇〇
七月	一〇〇	一、〇〇〇

現在上海に於ける在荷は約一、五〇〇担で何れも六、五〇〇元以上であるが、手持荷の何れも探るべき途を知らず、正正を控へて四苦八苦の態にて、彼等の多くは僅かに對照商の近き將來に於ける復讐に希望を懸けて居る模様である。然し需要數からして先行期前の好況は到底取戻し得べくもなく此の豚毛界は暗黒時代といふところであらう。

牛
骨

羊毛 最高 六五〇元 最矮 三〇〇元
鴨毛 最高 六五〇元 最矮 三〇〇元

七月廿六日米穀及食糧雜貨季市價表は、九月初に於て香港經由出米のみたつてゐる。

從來歐米貿易年產二萬公噸以上を舉ぐる大宗商品たり、本品技術的操作用に依り體化し手藝用織布用其他手近には大衆向として從來の棉花布面に代へる等の其の特長を利用し東亞商品化す事も尙余多し研究に價するものと期待される。

牛 骨

本年度の上海牛骨出題は十二萬磅（一袋八〇斤）であつて前期と比較約十六萬磅より二五%の減少を示してゐる。

即ち昭和十六年度(十五年八月 - 十六年七月)に於て昭和十五年八月より十二月迄は、一〇〇〇〇袋、十六年一月から七月の後半に至るまで一〇〇〇袋、合計十二萬袋對日輸出してゐる。

十六年八月以降は不景なため、露の輸出もみす、故に昭和十六年より十二月迄は一〇〇〇〇袋當地より輸出せられたことになる。

次に昭和十六年中の相場の動きをみるに

一四四月　一擔に付法幣九十九兩五〇仙
五一六月　同　十一兩一二二仙
七七八月　同　十四兩一五五〇仙
九十月　同　十八兩
十一月十二月　同　二十二兩

右は所謂客貨とて田舎より上海へ出る牛膏の相場にて、概して乾燥良好なる爲め歓迎せられ、相場も極に高揚地産のものより法幣一三元程度の高價にある。

本品も諸物の異常なる昂騰、諸提攜或は又治安問題等々出展を阻む要素のみ多く、さらに内地の統制価格は現在以上に上げることは仲々難點があつて、運賃の上昇は決して樂觀を許さぬ。

八乃至十一月迄に
計 三〇〇〇袋 二五〇〇袋
右の如く一月乃至十一月迄に八五、〇〇〇袋乃至
運好成績の場合九五、〇〇〇袋見當らぬが推
算される。

獸 腸

十六年度當初は前年後期に引續きシベリヤ鐵道
經由に於ける歐洲向輸出状況を極め一時數百擔の
消費あつたのを一掃し、市況も漸次回復し五月
頃には組六十一七元、精糖一元二・二三を指示し、
六月初の如き產地相場市場に上海市場の状況を
傳へ、相場八・九元を拂へる状態で昨年來休業中
であつた國庫も漸々復舊の傾向にあつた。

突如として中國より運來を傳へるに及ばず、又々昨
年歐洲戰動影響當時の如き状態となり、シベリヤ經
由歐洲向輸送途途中のものにハベリヤ鐵道、大連等
に於て消費され、未送出品は米商向賣りに殺到し
た爲米市も激しく混亂、春頃十七七元を拂へて居た
が一事に五十六仙に暴落、引續く爲爲更に安
きを傳へた。

—(174)—

(イ)生産額

江蘇省	一六三、三〇七
浙江省	一五八、八〇〇
安徽省	一六三、一〇〇
總計	四八五、二〇七

(ロ)輸出額

〇、〇〇六公担、八、〇三三石(約) (通關統計に依る)

(一公担は二〇〇把乃至二二〇把なり)

(ハ)消費高

本品の性質上奥地出廻品は全郡上海に集り輸出され上海に於ける消費はるべきものなし。

—

昭和十六年度は歐洲戰爭、主として獨英戰爭の激化并に獨小戰爭の勃發に伴ひ卵及卵製品の輸出

ることは、中支那資源を維持する唯一の方法なることを思ひ、關係當局に對日輸出を運動中であつ

が、此際一層拍車を懸けて之が實現に努力を爲したのである。

次で七月二十六日米蘭に於て邦人資産凍結令發表せられ、之に對して當地日本領事館の告示發布せられ、以後英國南洋及邦屬品の販賣は斷然中止せられることとなり、英國南洋輸出の約定條の英國船積取は英國海軍省側から中止して來り、全く杜絶するに至つたのである。

茲に於て英米邦工は全盤操業を中止するに至つたが、八月以降當地法幣の暴落に伴ひ香港幣との値開き莫大となり、爲めに爲替安を利用して香港外商は當地にて邦を賣渡り、其結果當地の邦相場は無類の高値を呈した。又之と同時に邦移入邦は上海へ續々流入し來つて香港、マニラ向輸出のみ盛に行はれることとなり、邦移入邦は、利益の面には何物をも犠牲にして賣行した以上は、邦商人が外人商社に結託して賣行したのである。之が爲め邦人商社は當地にて無罪に邦貨を賣渡るゝ當たつたのである、是く之に堪へて邦の買付に繼續努力したのである。然るに邦の對日輸出は十月初旬漸く關係當局の援助の下に途開かれ、茲に中支邦は最も適當なる消化市場を得ることとなり、邦人商社は全力を擧げて當地の買付、邦貨の對日輸出に努力を續けた。十二月八日大東亞戰爭勃發と同時に英米邦工場は日本軍の占領するところとなり、前記對日輸出に通過する通子線業の

み事實上、中支邦を取扱ふ工場として經營を續けて居る現状である。

八月 二〇〇兩四九仙
九月 一六七兩七仙
十月 一五二兩八仙
十一月 三五九兩五九仙
十二月 三五四兩七八仙

（A）原 邦
出題上海入荷數額
一月 一八八〇〇個 七月 三三三三〇個
二月 一六五〇〇個 八月 一三三三〇個
三月 一六五〇〇個 九月 一三三三〇個
四月 一六五〇〇個 十月 一三三三〇個
五月 一六五〇〇個 十一月 一三三三〇個
六月 一六五〇〇個 十二月 一三三三〇個
合計 三三三三〇個

（B）生 邦
生邦の輸出は本年度は香港、マニラを主な

昨年年度に比して各月大約四分の一乃至五分の一の出題りとなり漸く減少を呈して居る。

（C）冷 邦
一九四一年一月十一月冷邦邦上海輸出高次の如し。

（三）昭和十六年度邦價上海市場平均百市斤
一月 一五〇兩五八仙
二月 一八三兩七八仙
三月 一四三兩三六仙
四月 一三五兩六六仙
五月 一四三兩八五仙
六月 一六七兩八六仙
七月 一八一兩三九仙

（D）冷 邦
冷邦邦上海輸出高次の如し。

るものとし、他は對日輸出に當てられたるもので次の通りである。

一九四一年一月十一月

生邦上海輸出	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
一月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
二月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
三月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
四月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
五月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
六月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒

を一變したものである。對日輸出を除きては關税關を離れ目下の處は船廠の都合上近き將來輸出を望み得べくもない、只東亞共榮圈内の諸地域に中支邦の供給を企圖せらるゝのみである。

而して之を生産方面よりみれば常に繼續的に邦の生産を維持する爲めには是非邦貨を保持する必要あり、從て可及的速かに販路を共榮圈内に發見して資源維持を計るが當面の急務である。

海魚、淡水魚並に土產乾魚いづれも其の入荷状況は數量に於て大體前年全期と大差ないが、法幣低落に因る魚價昂騰の結果、金額に於ては漸増を示し一ヶ年間の取扱高は一億一千三百七十餘萬元に達した。（邦中水産局）

鮮魚、土產乾魚

（單位元）

（邦中水産局）

（C）乾 邦

英國政府は年初以來船廠の爲め、船廠を取ること時乾邦を以て生邦、冷邦に代へることを希望せる爲め、各邦工場は爭つて之が製造に努力し、六月英國上りの最終の配船迄毎月對英輸出を見た。一方獨逸商社も獨逸向乾邦の輸出を試みたのである。

一九四一年一月十一月

乾邦上海輸出	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
一月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
二月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
三月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
四月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
五月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒
六月	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒	一三六〇〇粒

月別	魚 類	海 魚	河 魚	乾 魚	合 計
一月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
二月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
三月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
四月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
五月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
六月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
七月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
八月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
九月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
十月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
十一月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
十二月	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇
計	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇	三三三三〇

四、今後の見送り
本品商賣の先行は大東亞戰爭勃發後判然と様相

海產物

昭和十七年一月末現在の市況左の通り

(哲田義典)

月二十			
フ	サ	カ	タ
セ	メ	キ	チ
一	二	三	四
五	六	七	八
九	一〇	一一	一二
一三	一四	一五	一六
一七	一八	一九	二〇
二一	二二	二三	二四
二五	二六	二七	二八
二九	三〇	三一	三二
三三	三四	三五	三六
三七	三八	三九	四〇
四一	四二	四三	四四
四五	四六	四七	四八
四九	五〇	五一	五二
五三	五四	五五	五六
五七	五八	五九	六〇
六一	六二	六三	六四
六五	六六	六七	六八
六九	七〇	七一	七二
七三	七四	七五	七六
七七	七八	七九	八〇
八一	八二	八三	八四
八五	八六	八七	八八
八九	九〇	九一	九二
九三	九四	九五	九六
九七	九八	九九	一〇〇

桂	カ	青	白
魚一九七五	ニ二三五 コ	魚三〇四 エ	魚二六九 草
鯛	ヒ二八〇 六	ビ一四八 三	魚二二六
	魚二六二 四		

推

買氣薄のため相場精々下落、極上冬菰
四、二〇〇元 香信一寸四、〇〇〇元
相場 華商間に多少取引ある程度
市中在貨約一〇〇箱

砂糖については軍需組合の砂糖部の一年間の業績について、既に新聞に發表されたものだけを左に轉載する。

軍團組合の砂糖製糖精糖、白糖、赤糖の購入配給を行つた。購入上には對日輸入が困難であつたため、現地輸入がカウシヤ、占領地の農地を初め、北支方面へも相當を移した。このため現地の購入量は非常に多額となり配給困難を増した。下半年中の購入量は二千四百五十三萬噸、配給總額は二千四百三十七萬噸に達し、前期に比較し輸入に於て千九百九十一萬七千五百四十九萬二噸、配給に於て八百九十三萬六千八百八十萬二噸をそれぞれ増加した。

咸	魚	二五九	海	蟹	五五
皮	子	商人	カ	ニ	二四九
ヒ	ヲ	二九六	鮒	皮	二四九
黃	魚	煮	二九六	魚	焼
					二四九

下半年中に北支那として移出した砂礫の總數は實
 は四萬五千七百七十六俵(七五、〇七八擔六四
 に達した、)しかして移出は青島砂礫輸入組合に對
 し一元的に行つた。

右の如く多量の現物輸入を行つたため、相當巨額の資金を必要とするに達し、八月中旬正金準備金に上海銀行に合計三百萬元の當座預金附屬金を設定し、その後この銀金を一千四百五十萬圓まで擴大した大東亞實業聯合會は、西有沙利銀行と本軍閥の下附銀行である滙豐公司を通して、自己所有ストックの購分方を申し立てたので、これら業者は一九二〇年に資本金五萬圓の上海商務印書館を設立し、軍閥の指撥の下に紗廠の通正契約を行はしめた。

また上海の食料作業處は出資組合で粗砂礫組、車白礫組、生砂礫組、赤砂礫組、青砂礫組、洗砂礫組の六部に分ち、理事制を布き、大部の運用處置は理事の決断を経て行ふこととし、同時に取扱を專ら、洗の一課とし、砂礫を小賣するものや車白礫、砂礫を原料とする食品小賣場業者など採取源とした關係に當つては即買は車票、小賣は車票、法幣の二本建とし定価額を附

執つた。

下半年各月末の香港精糖の相場は次の如くである
七月二一〇元、八月一六〇元、九月一六五元、
十月二九八元、十一月一九二元、十二月二〇元
相場が連月暴落を辿つたのは、資産階級による
入荷難を見越す思惑の買進りに當面し、華人の
砂糖取引所である糖業会社が閉市し其恐慌をよんだ
ため先物が値下りとなり現物もこれに連鎖して暴
落したものである、更にジャバ、チャナライン
が香港止りとなり、更に爲替對當の減少なども相
乗強調の原因に數へられる。

蘇省の都には兩湖總督を配した。現今蘇州府は舊都平遙北都であつて江蘇省、安徽省、江西省、湖北省、湖南省、河南省の廣闊に版圖を張られてゐる。然して上海及其近邊地方は、元來浙江及び安徽省の屬したる區域に屬して居たが、事變發生後其情勢は次の如く變化した。

松江（上海南西）の砲台區域に屬して居たが、事變發生に依り關東軍を屈服せしめた。中支一帶は一時總督の供給を斷たれ、饑乏の狀態を呈した之に依り、中支總督張勳は速に關東軍を雇はんと欲し、民衆を安するの爲に以て、海州鹽田（舊北關田）の調査を行ひ、その結果昭和十四年八月廿一日日支

一、概説

鹽池鹽、井鹽、岩鹽、土鹽、膏鹽等各種の鹽を產出するが、中支に於て消費せらるゝ鹽は、四川省の井鹽と少量の膏鹽（即ち湖北省應城縣產出の應鹽）を除く外は總て海鹽であつて海州鹽、淮南鹽、兩浙鹽である。

而して支那に於ける鹽の配給制度は、往昔より一定の嚴格なる統制規定所謂銷岸制度なるもの存_レ在し、一定個所の產鹽は或る一定の地域に限定配銷せらるる。即ち中支に於ては主として、兩淮鹽（淮北、淮南鹽）を配銷し、而して其中浙江省及江

蘇省の部に於ては兩湖鐵道を賜給した。現今蘇省、安徽省、湖北省、湖南省、河南省の範圍に版圖を展されてゐる。然して上海及び其邊地方は、元來兩江閩及松江江蘇(兩浙)の聯絡點に屬して居たが、事實變換其情勢は次の如く變化した。

今次事變に依り鹽業系統停頓し、中支一帶は一時鹽價の供給を斷たれ、鹽不足の状態を呈た之に依り、中支那振興株式社は速に鹽業を復興し、調査を行ひ、その結果昭和十四年八月廿一日支會社を以て華中國鹽業股份有限公司を設立した。鹽業公司是機動的鹽田の復興を計ると共に、進んで鹽田の開闢と鹽の増産を計り、中支の供給を恢復して鹽運に對すると同時に、鐵工業用鹽の輸出を爲すを以てある。

事變後中支に於けるの開始機構は、華中興業公司より上海、鎮江、南京、蘇州、安慶等主地に於て、一定價格を以て通源公司に引渡すに於て、通源公司是各地方の分公司を経て、小賣商に渡す小賣商より定價格に於て一般需要者に賣却するものである。然るに昭和十六年十二月より通源公司は解消し、新に裕興業公司設立せられ、裕公司が昭和十六年に通源公司に代り、中支に於ける鹽の配給に當ることとなつた。

二、昭和十六年中自一月至十一月に於ける上海

上海に於ける開船量
昭和六年一月より十二月迄上海に於て地
中國製炭公司より通關製炭公司に販賣せる数量
を月別に算ぐれば左の如く
但し数量中には上海に於て消費せられたる分
及通關製炭公司が更に上海以外の地方（無錫
杭州、無錫、温州等）に移出せる数量を含む
（單位噸）

一月	六五〇	七月	一七五〇
二月	一、七〇〇	八月	五〇〇
三月	一、八五〇	九月	八九三
四月	二、五二	十月	三、九九七
五月	二、六〇	十一月	四、五二五
六月	二、三五四	十二月	五、三三一
計	二二、五三		

尚この外支那工業用炭として上海に於て、
各工業家に販賣せる数量を示せば左の如し

計	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月
	五〇	八一七	八〇〇	六二〇	四八〇	五〇〇
	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
	二三〇	五七〇	二六〇	三〇〇	三七五	二〇〇
五 十 一 〇 一						

(單位題)

商品市況

2、配給価格
華中興業公司より通商興業公司に卸す價格は
現貨日金二四圓(上海O.I.F.)である
但し内日金一四圓の配給を含む。
事變前に於ける上海組の配給は一七六元八
角であつて、内配給一二元を含む。(民國
二十三年財政年度による)

蔬菜、青果

輸入品の部

一、概況(支那事變以後の推移概観)
日本産青果物(蔬菜を除く)の上海向一元的輸
入統制を計るべく上海青果卸賣株式會社の創立を
見たのは昭和十五年九月二十三日にして全年十月
三日より業務を開始した。其以前の輸入状況に付
ては事變前は餘額に商社個々の輸入取扱いに依り
其の數二十余店に及ぶ全輸入高逐年著しき増加を
來したことは明かなる所であるが、其の詳細は明
かでない。事變動後殊に昭和十三、十四年度は軍
部の需要多し事變以來第三國産及南北支産青果物
の輸入漸減し、日本産の進出上好機を得、果實
中其の主なるものは蜜柑及苹果にして、蜜柑類
之に次ぎ廣葉中主なるは馬鈴薯、玉葱であつたが
昭和十六年より青果物も内地の物資統制強化せら
るゝに至り前年に比し輸入減した傾向にある。

昭和十六年中(自一月至十二月)に於ける上海 市況		日本産主要品目の輸入數量	
月別	種類	数量	金額
一月	苹果	1,200	120,000
二月	苹果	1,500	150,000
三月	苹果	1,800	180,000
四月	苹果	2,000	200,000
五月	苹果	2,200	220,000
六月	苹果	2,500	250,000
七月	苹果	2,800	280,000
八月	苹果	3,000	300,000
九月	苹果	3,200	320,000
十月	苹果	3,500	350,000
十一月	苹果	3,800	380,000
十二月	苹果	4,000	400,000
計	苹果	32,000	3,200,000

商品市況

月別	果實	蔬菜	計
一月	1,200	1,200	2,400
二月	1,500	1,500	3,000
三月	1,800	1,800	3,600
四月	2,000	2,000	4,000
五月	2,200	2,200	4,400
六月	2,500	2,500	5,000
七月	2,800	2,800	5,600
八月	3,000	3,000	6,000
九月	3,200	3,200	6,400
十月	3,500	3,500	7,000
十一月	3,800	3,800	7,600
十二月	4,000	4,000	8,000
計	32,000	32,000	64,000

月別	果實	蔬菜	計
一月	1,200	1,200	2,400
二月	1,500	1,500	3,000
三月	1,800	1,800	3,600
四月	2,000	2,000	4,000
五月	2,200	2,200	4,400
六月	2,500	2,500	5,000
七月	2,800	2,800	5,600
八月	3,000	3,000	6,000
九月	3,200	3,200	6,400
十月	3,500	3,500	7,000
十一月	3,800	3,800	7,600
十二月	4,000	4,000	8,000
計	32,000	32,000	64,000

品名	數量	金額
ザボン	1,000	100,000
蜜柑	2,000	200,000
苹果	3,000	300,000
計	6,000	600,000

礦油

一、支那事變以來の推移概観
支那事變動後以來尙ほ、事變完全上の必要から奥地輸送制度を強化し、輸入各社の自由活動を制限したる爲に資金凍結令、國際情勢不穩等種々なる悪條件の爲輸入数は漸減した。
之を數字で示せば支那事變(昭和十一年)を昇として

種類	事變前(昭和十一年)	事變後(昭和十二年)
揮發油	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇
重油	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
煤油	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
重油	一六二、〇〇〇	一六二、〇〇〇
煤油	一三〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇
重油	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇

註 右數は中支各港の輸入數なり
一、昭和十六年中に於ける上海市況
(一)輸入數
日・米・英の資金凍結、其後の情勢逼迫、大東亞戰爭の勃發により必然的に減少した。
然るに此の日本關係強化の概算中にも拘らず、中華出口は凡ゆる鐵性金屬を悉く米國より直輸入品を入荷した。前掲礦油の月別關稅輸入統計左の如し(海關統計による)
△昭和十六年度上海月別輸入數

種類	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
揮發油	四六、九四〇・三	二、八三五・三	四、六〇一・三	六、〇八一・八	五、四七〇・七	六、八六八・四	三、九四一・〇	三、〇一四・六	二、四三三・四	二、五九七・八	四、八八六・五	四、一七五・六
重油	二、八三五・三	四、六〇一・三	六、〇八一・八	五、四七〇・七	六、八六八・四	三、九四一・〇	三、〇一四・六	二、四三三・四	二、五九七・八	四、八八六・五	四、一七五・六	四、一七五・六
煤油	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

種類	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
揮發油	三、一三三・八	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇
重油	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇
煤油	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇	二、一四四・〇

△昭和十六年度各國別上海輸入數

種類	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
揮發油	一八、九〇〇	四、四四一・二	三、八四六・八	五、五〇六・七	一、五四九・九	三、六四	四、六九〇・四	五、八七四・〇	四、四三三・八	四、一三五・三	六、〇一六・一	三、七二・四
重油	一、五四九・九	三、六四	四、六九〇・四	五、八七四・〇	四、四三三・八	四、一三五・三	六、〇一六・一	三、七二・四	五、五〇六・七	三、八四六・八	四、四四一・二	一八、九〇〇
煤油	一、五四九・九	三、六四	四、六九〇・四	五、八七四・〇	四、四三三・八	四、一三五・三	六、〇一六・一	三、七二・四	五、五〇六・七	三、八四六・八	四、四四一・二	一八、九〇〇

種類	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
揮發油	四、〇〇一	四、一五五・六	三、八二五・三	一、七三九・五	一、八九五	四、二八七・七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七
重油	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七
煤油	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一	一、〇一七	一、八六八・一

右品に使用する鐵板の入手難に合せて、鐵板類の輸入事實上停止に依り、華人工場は全部休業の止む無き状態にて奥地開放の日が訪れる迄、不況は持續されるものと見られる。

二、酸化滿飽
日本に於ける純鐵の生産、昭和十五年以來當地入荷は見るべきものなし。發石は乾電池の主要原料なるも乾電池製造減産せる今日現地需要も皆無の狀態を成つた。

三、珪瑯鐵器
珪瑯鐵器は右品に使用する鐵板の入手難に合せて、鐵板類の輸入事實上停止に依り、華人工場は全部休業の止む無き状態にて奥地開放の日が訪れる迄、不況は持續されるものと見られる。

組

幸ひにして現地工場は邦貨・華貨・西貨を合すれば千數軒、抄紙機を數台、大約四十台以上を數へ原料たるパルパは近海諸洲、白粉等に於ける代用パルパを主として、之れに中支に於て自給し得る稻葉、菠蘿、麻蔴、紙屑、楊子紙等の屑を以てするならば、新聞紙、クラフト紙又は舊新聞の抄造は尙困難であるが、之等の代用紙の製法は差程困難に非ずと思はれる。只問題は新聞紙と之れの代用紙が無いで、之れが數量は新聞紙より其の特殊性よりして、之れが丈は現在海運コスト使用後は日本内地に依存する外無きと思はれる。而して之れも高壓乾燥機印刷機を使用しなければ代用紙使用も約割不可能と云ふべきでない。

原料の外に弊社の問題が今と云へられたる最重要問題であつて、之れが解決が先決問題で之れは單に紙張に限り現工場全業全般の問題である。

大きに配分問題に付いては之れを來年の單配合取機品並に現製品を打つて一先とせる一元的配給が行はれるのは當然予想され、配給方法に付いては、邦人關係以外に華僑配給組合の積極果進に漸次中國土の是當紙の成行と思はれる。

への配額を確保するため南京、蘇州、杭州、蕪湖、安慶、鎮江の六地区に紙幣代理店を南京、蘇州、二地間に支店、紙配組合の支部を設置した。資産連結による第三國より入る紙幣入が杜絶し、殊に新聞及びクラフト紙は不足傾向にあるので、大東亞紙は華商団に働きかけ「租界機構」の登記を行はせしめ之を中心に配額の統制機構を結成せしめこれを主力中である。第二料は昭和十六年四月に設立され、七月から運用を始め、滿洲國より木材、鹽巴、豆、草、麻、人絹、人絹バルブ、棉下布、白濁よりリバガバルブを輸入し組合から購買してゐる民衆選賦廠に對しライセンスバー原料として供給し、その他私人製紙工場向けに運りてゐる。下半年各月米の需要紙の相場は次の通りである。

七月四元五角七分、八月五元八角、九月五元七角
十月八元二角、十一月七元八角、十二月七元五角

連月昂騰を辿つたのは輸入杜絶を蒙じた金廢筋買出動にもあるもので、ザラ紙はかたよりの輸入が杜絶し、クラフト紙は品薄となつたため突飛高まつた。

木 材

當地に於ける外國材の輸入状況は年初以來船隻

木材

商 品 市 況

不足の爲一途漸減中の處、資産渡結令以來は特に邦人側の外材輸入を全く杜絶した。只外人商社側は於ては十一月頃迄、マニラ、ラワン、棉、及米材を相當大量に輸入した。日米關係切迫の爲十一月頃より外人の外材輸入も亦不可能となつた。

右事情の爲年間を通じて材價大體騰上りに高騰したが、開戦と共に上昇止まり急に下押し氣配に轉じた。

右情勢に應じ支那材の移入は夏頃から漸増したが、福建方面よりの移入不可能の爲上海近郊産のみにては大きな期待は出来ない。夏以來は大體既着材の喰ひ延ばしを爲し、越年した狀態である。日本材は中支日本材輸入組合の一途輸入に依り必要量は大幅輸入された。

セメント

一、概説(支那事變以來の推移概観)

(一)中支に於けるセメント工場概況

中國水泥公司(在龍巖)、大治水泥公司(在漢口)及江南水泥公司(在蘇州山但し操業に至らず)の四セメント工場存在したが、該所所在地の軍事占領と共に順次操業を停止した。其後現地陸海外の三管當局は、右セメント工場の内上海、江南兩工場を三井に、中國工場を

三井に委任經營せしめる事となつた。三井は右二工場中江南水泥工場は機械設備等の關係で操業を開始し得なかつたが、上海水泥工場は小野田セメント社と共同で經營する事となり、既合組上海水泥經營處を組織し該名稱下に昭和十三年八月操業を開始し、三井は中國水泥工場の經營を營城セメント社に再委託し、營城社は南京水泥公司なる名稱下に昭和十三年十二月操業を開始した。即ち中支四工場に操業しつつあるのは三井、小野田兩社共同經營の上海水泥工場及營城社經營の中國水泥工場の二工場のみである。

「駐江南水泥工場は操業未開始のまま昭和十六年二月軍管理解除せられ(舊所有者に返還せられ)大治水泥工場は機械設備の主要部分が戦争の爲め局有に歸して居る爲め其儘放置せられて居る。

(二)中支セメント市況概観

昭和十二年十二月南京陥落後より上海の治安恢復と共に逐次本品需要増進したが、現地品は生産原價高の爲め内地品及北支品に壓迫せられ、現地自給自足の状況にありながら特に内地品の大規模輸入を見た。尤も昭和十四年末に及び内地及北支に於ける配給制限實施決定の輸入を止め、十五年以降中支への輸入極度に制限せらるべき形勢となり市價逐次昂騰

十五年五月よりは興亞院の配給統制下に入り一部特需を除き内地品の輸入杜絶し、主として現地品の獨り舞台となつた。尤も統制實施後外人に對しては配給極度に制限せられたので、海防セメント、比品セメント、香港セメント等交々彼等の手に依り輸入せられ、所謂統制外品として敵性外人間の需要を満たすに至つた。

昭和十六年中(自一月至十二月)に於ける上海市況

- (一)需給狀況
- (イ)生産額
- (ロ)輸入額
- (ハ)出廻高
- (ニ)取引額
- (ホ)消費額
- (一)昭和十六年十二月末在庫
- 上海セメント
- 南京セメント
- 内地より輸入セメント
- 内地より輸入セメント
- 第三國より輸入セメント
- 乃至一五〇萬担(推定在庫)
- (二)相場概況

激減し、外支人側又租界諸事業の沈滞と、歐戰亂擴大等に依る不安人氣の抬頭により萎靡の狀態にあつた。

而して昭和十六年に入り前半、奥地の治安回復による振興の漸増に需要増進し、中國品亦順調に入荷したが、建築減少に、後半需要伸びず越年した。

板硝子

一、概説(支那事變以來の推移概観)

今次支那事變勃發するや當初其の影響を受け關東州品、中國品輸入を阻まれたる爲、外國品の進出目覺しく、昭和十三年前半、既に二万箱見當に上り漸増附加を見た。同年後半に至り、上海市内外の治安回復と共に、漸次關東州品の輸入増加し、尙從來當地地方への輸入僅少なりし日本内地品も、約一万箱近く入荷を見、完全に外國品を壓倒した。

昭和十四年に入り外國品輸入漸減せると同時に日本内地品も生産制限強化の爲、輸入中止せられたるに上り、主として關東州品及中國品により賄はれたが、後半、關東州品又關滿に於ける需要漸増の爲輸入減少を見た。

越えて同十五年に入るや、關東州品依舊入荷少く、専ら中國品に依存する實狀となり、法幣下落と共に市中相場は堅調を示したが、反面需要は邦人側に於ては資金企業統制の強化の影響を受けて

- (イ)生産額
- (ロ)輸出額
- (ハ)出廻高
- (ニ)取引額
- (ホ)消費額
- (一)昭和十六年十二月末在庫
- 市在庫推定額
- (二)相場概況

減減し、外支人側又租界諸事業の沈滞と、歐戰亂擴大等に依る不安人氣の抬頭により萎靡の狀態にあつた。

而して昭和十六年に入り前半、奥地の治安回復による振興の漸増に需要増進し、中國品亦順調に入荷したが、建築減少に、後半需要伸びず越年した。

一、昭和十六年中に於ける上海市況

(一)需給狀況

(イ)生産額

(ロ)輸出額

(ハ)出廻高

(ニ)取引額

(ホ)消費額

(一)昭和十六年十二月末在庫

市在庫推定額

(二)相場概況

商 品 市 況

尤も十六年十二月租界は占領せられ日本の勢力下に入り、上海を中心とする中支經濟連直しを必要とすべきに付、一時上海經濟活動

不足の爲一途漸減中の處、資産渡結令以來は特に邦人側の外材輸入を全く杜絶した。只外人商社側は於ては十一月頃迄、マニラ、ラワン、棉、及米材を相當大量に輸入した。日米關係切迫の爲十一月頃より外人の外材輸入も亦不可能となつた。

右事情の爲年間を通じて材價大體騰上りに高騰したが、開戦と共に上昇止まり急に下押し氣配に轉じた。

右情勢に應じ支那材の移入は夏頃から漸増したが、福建方面よりの移入不可能の爲上海近郊産のみにては大きな期待は出来ない。夏以來は大體既着材の喰ひ延ばしを爲し、越年した狀態である。日本材は中支日本材輸入組合の一途輸入に依り必要量は大幅輸入された。

三井に委任經營せしめる事となつた。三井は右二工場中江南水泥工場は機械設備等の關係で操業を開始し得なかつたが、上海水泥工場は小野田セメント社と共同で經營する事となり、既合組上海水泥經營處を組織し該名稱下に昭和十三年八月操業を開始し、三井は中國水泥工場の經營を營城セメント社に再委託し、營城社は南京水泥公司なる名稱下に昭和十三年十二月操業を開始した。即ち中支四工場に操業しつつあるのは三井、小野田兩社共同經營の上海水泥工場及營城社經營の中國水泥工場の二工場のみである。

「駐江南水泥工場は操業未開始のまま昭和十六年二月軍管理解除せられ(舊所有者に返還せられ)大治水泥工場は機械設備の主要部分が戦争の爲め局有に歸して居る爲め其儘放置せられて居る。

(二)中支セメント市況概観

昭和十二年十二月南京陥落後より上海の治安恢復と共に逐次本品需要増進したが、現地品は生産原價高の爲め内地品及北支品に壓迫せられ、現地自給自足の状況にありながら特に内地品の大規模輸入を見た。尤も昭和十四年末に及び内地及北支に於ける配給制限實施決定の輸入を止め、十五年以降中支への輸入極度に制限せらるべき形勢となり市價逐次昂騰

十五年五月よりは興亞院の配給統制下に入り一部特需を除き内地品の輸入杜絶し、主として現地品の獨り舞台となつた。尤も統制實施後外人に對しては配給極度に制限せられたので、海防セメント、比品セメント、香港セメント等交々彼等の手に依り輸入せられ、所謂統制外品として敵性外人間の需要を満たすに至つた。

昭和十六年中(自一月至十二月)に於ける上海市況

- (一)需給狀況
- (イ)生産額
- (ロ)輸入額
- (ハ)出廻高
- (ニ)取引額
- (ホ)消費額
- (一)昭和十六年十二月末在庫
- 上海セメント
- 南京セメント
- 内地より輸入セメント
- 内地より輸入セメント
- 第三國より輸入セメント
- 乃至一五〇萬担(推定在庫)
- (二)相場概況

九月	同	同	同	五八元
十月	同	同	同	七五元
十一月	同	同	同	八〇元
十二月	同	同	同	八〇元
一、前年及支那事變前との比較				八〇元

(一)前年及支那事變前との比較
年末に於ける價格を昭和十五年末に於ける相場標準一箱に付三十五元半見當に比すれば約一倍にして支那事變前八元見當に比すれば約十倍となる。

一、穀物(第三國)の増長

當地へ輸入せられ居りたる第三國産白米、チエツコ、獨逸、英國等各國品なる處、歐洲大戰の勃發を以て、之等各國は戰火の渦中に入り輸入は全く杜絶するに至つた。

一、大東亞戰爭勃發以後の見通し

當地の從來の略形的繁榮を維持したる條件は根本的に失はれ、今後は大東亞共榮圈の一環として再發達すべき處、産業制は益々強化せらるべく需要増大は期待されぬ。供給方面は日本品は生産制限の爲、輸出余力少く、關東州品、中國品も船運關係其他にて入荷減少の見込であるが、當地需要は舊板前子に入荷品及中國品を以て、變板前子は日本品を以て供給可能の見込みである。

木炭

一、概説 支那事變以來の推移概観

事變前上海地區の木炭需要は中國に於ける實量共に最大生産地たる温州、漳州、象山方面よりの供給により満たされてゐた。事變後之等生産地よりの輸入が不能となり僅かに象山方面のもの幾分輸入されるに過ぎない状態となつたので業界も又相當の混亂なきを得ず事變前殆ど皆みられなかつた南京附近下蜀、湖州、杭州、長安其他の鐵道沿線産の所謂奥地炭により需要を満たすの止むなきに至りし故品質粗悪ながらも之等奥地炭は急激に産額を増すに至つた。其の間内地木炭、臺灣木炭の輸入も幾分あつたとは云へ市場を左右する數額でなく引續き上海地區需要は奥地炭、象山炭により満たされつつある状態である。

一、昭和十六年中に於ける上海市況

上海に於ける年度一ヶ年中の消費量は約九千屯乃至壹萬屯と推定される。之に對して奥地炭約六千五百屯象山炭四千六百屯臺灣炭七百屯の輸入を見てをり餘額千屯位の供給超過ストックとなつて居る。但し生産費、諸経費のこす高に依り大して相場は下落した。昭和十五年末木炭不足の聲が起り業者は言はず未經驗者と言はず木炭仕入買價に關り出した爲供給超過となり相場は混亂し大部分は失敗した。最盛期たる一月、二月より下落を始め八月末迄續いた。九月十月に入ると業者人筋の暗闘がデマにより急に上昇し始め十一月、十二月には前年同期の混亂相場に上廻る相場を現出した。

月別卸賣相場は左の通りである。
單位百キログラムに付
期 間 上 物 下 物
一 月 一 月 一 月 一 月
二 月 二 月 二 月 二 月
三 月 三 月 三 月 三 月
四 月 四 月 四 月 四 月
五 月 五 月 五 月 五 月
六 月 六 月 六 月 六 月
七 月 七 月 七 月 七 月
八 月 八 月 八 月 八 月
九 月 九 月 九 月 九 月
十 月 十 月 十 月 十 月
十一 月 十一 月 十一 月 十一 月
十二 月 十二 月 十二 月 十二 月

大東亞戰爭勃發以後の見通し
大東亞戰爭の勃發はガソリンの缺乏となり必然的に代燃炭用として木炭需要増進を來す事となり一般に需給狀態が懸念されるに至つた。然し業界では極力対策を講じつつあり奥地炭各産地増産も見立ち象山方面よりの輸入も又工作が行はれ増加を期待され、臺灣木炭も引續き輸入されるに付供給不足を來し相場暴騰を來す如き事はあるまい。

と思はれる。只こゝに恐れられるのは木炭需要増大に伴ひ全然無難なき商社、美人に依り先を見通して目茶目茶に買付け買占れる事である。然る場合業者の眞面目な計量も無効となり相場暴騰が相場暴落を來す事となる。業界も此點深く認識し強固なる團結組織の下に各官廳との連絡指導を得て供給の確保と相場の維持に萬全を期してゐる。

ゴム靴

一、昭和十六年中(二月十一日)上海市況

本年度の業界も亦實に苦難不況の連續にして、即ち本年度初頭より米英の幅幅に對する經濟壓迫は漸次本格化、米英及之等勢力國よりの諸物資の上海市場への供入抑壓に依り、直接的には生ゴム、ガソリン等の原材料の入手懸々困難に陥り、間接的には外國の輸入杜絶に依る動力不足を來す等、原材料の變調懸々露骨を極め、操業上全く多事多難の連續にして、殊に對日期待物資の壓縮に依り工業製品其他原材料の閉出しを喰つた邦人工場の打撃は頗る甚大にして、遂にゴム原料は興亞院の斡旋に依り發注許可の下にゴム組合を通じて共同購入の方法を以て漸く泰國よりの輸入手當に懸命になる等、洵に業界は非常事態に立到つたが、他方販賣方面に於ては前年度に引續き物資移

動の制限、其他販賣統制強化の爲國內極めて不賑にして、僅かに原材料不足見通しに依る先需恐慌は一時消々活氣を呼んだ點があつたが、如上の國際關係惡化に依る法幣の暴落其他に依り業界は不振であつた矢先、今次大東亞戰爭の勃發に依り狀勢激變に日華兩業者は不同時經濟連營に基き其營業は漸次轉換を應酬せしむるものと思はる。

(一)需給狀況

大體本年度に於ける生産額は日華兩工場に於て先づ一千萬足にして(内邦人工場二百九十萬足)本年度取引高は約八百萬足、之が分野を示せば
一、上海を中心とする近接地帯 四百五十萬足
二、長江流域及東地向け 二百五十萬足
三、北支及南支其他向け 一百五十萬足

の割合と見られ、一方第三國との貿易關係は海關統計に依れば輸出に於て香港、臺灣を筆頭に約六千五百九十萬足、輸入に於ては米國、日本、英國、カナダ等より約三十三萬足(七八七〇〇G)を示し居る状態であるが、事變前に比較して實に寂寥たるものである。次に上海工場に於ける在庫高は前年度四百萬足見當と推定される。

(二)相場の變動

前年度に於けるゴム靴の平均相場は大體四〇元(打)に付見當であつたが、其後原料の入手難及法幣の暴落等の爲本年に入つて其相場にも急激な暴落を來し、即ち本年三月、四月、八月で第三次に亘る大山値上げを實行したが、之に依り遂に年末に至りてはゴム靴相場は一二〇元と未曾有の高値を示し、事變前よりの變動を示せば次の如し。
(一)事變前ゴム靴一打に付 一〇元(三月相場)
(二)前年度 四〇元
(三)本年度 一二〇元
一、穀物(例へば第三國産)の増長
事變前に於ける第三國よりの輸入品は米英を初めカナダ、シンガポール、香港及關印等の米英勢力國より相當數額の輸入を示す一方、地元華人工場増大に伴ひ現地邦人工場は相當の苦痛を蒙り、之を被り、漸く再開の緒に達したか既日本軍の作戦に依り沿岸封鎖、物資の全面的移動制限及取引の統制強化等の爲大中華義生、正義等の大工場減少の一途を辿るに至つた次第であるが、然に今次の大東亞戰爭勃發するや華軍の租界進駐に依り遂に多年に亘る米英勢力の完全驅逐となり、今日日本軍の勢力下に米英品と共に多年邦人工場を閉鎖した華人工場も漸々大東亞共榮圈確立に我國策に

商品市況

順する立場に至った。
一、大東亞戦争勃発以後の見通し
大東亞戦争勃発の上には何れ帝國の南方經濟政策が決定し、主要原料たる生ゴム及ガソリン等の入手も確立安定するものと考へられるが何分右共衆國確立迄は相當長期を要しななければならぬと推定される。此の在荷數量は大量平時の常備量であつて、先づ一均衡を得たものと考へられる。結局今日に至りては飽和重點主義に依る生産擴充の建前の下に最も新情勢に即應し、合理、有效的に當面の營業を續けるの覺悟と對策を要するものと思はれる。

セルロイド生地

一、概説(事變以來の推移)
昭和十三年以來日本よりの輸入は漸増の一途を辿り昭和十五年に至つた。一方當市場の需要も當市場のインフレ振興で其間極めて旺盛であつて漸次相場の高騰を招来すると共に此の購買が又需要を一層刺激する結果となつた。此間内地に於いては昭和十五年九月以來〇割の調整料を徴せられるに至つた。
但し昭和十五年六月の經濟パニックは秋に入り本品市場に影響を與へ、同年末は反動的閉鎖性に

市中在荷約十六萬疋を揃へて過半した。
二、昭和十六年中上市市況
本年度内地よりの輸入は約二十萬疋又當市場の消費は約二十四萬疋と推定される。此の差額四萬疋は昭和十五年末の在荷より消費されたものであつて、従而本年度の市中在荷は大量十二萬疋と推定される。此の在荷數量は大量平時の常備量であつて、先づ一均衡を得たものと考へられる。

大に市價は其の間春の七円より年末十円に迄騰貴した、今之れを一覽表とせば次の如くである。

輸入数量	實需數量	証當り市價
一月 四月	20,000 疋	100,000 疋
五月 八月	20,000 疋	70,000 疋
九月 十二月	20,000 疋	80,000 疋
合計	200,000 疋	900,000 疋

三、競爭品
第三國品の輸入は最近皆無なり
現地に本品の製造家なし
四、大東亞戦争勃発以後の見通し
本品製造に際し或種軍用品必需品と全然同種のものの生産あり、従而目先當分、内地よりの供給數量の増加は見込みなしと考へられる。
又本品も他商品同様十二月八日以来相當深刻な影響を受けて居るが、元々其の實需者は主として中國農民故比較的容易に回復を見るものと考へら

玩具

一般玩具取引は例年に比して活氣乏しく終結した。價格の騰貴と法幣の暴落は生活程度低き支那一般民衆の玩具の購買力を著しく殺滅した。
本年度の
日本製品は内地公定價格により中國製品は原料の騰貴によりコストが騰貴に騰貴を重ねた。
日本製品輸入業者は年末の最盛期に於て中國製品第三國移出が停止、其のストックの大部分をただ一狭き門を通過した日本製品の長江市場にパンピングして來た爲め不振に陥年したが、中國製品工場も多くは休業し、華商側の金融操作による一時的ダンピングであるを以て追々は是正されるに至らう。

計量器

上海に於ける計量器は、主として英米品を模倣せる中國製と在來の中國品、若干日本製品により商取引が行はれて居り實に複雑な極めたものである。
事變前清政府が計量器に關する取締法規を制定し、併せて檢定制度を施行したが實行途上に挫折したのに鑑み、是等取締法規の實施を急務とすると共に、先づ規格の統一を先決しなければならぬとして、業者相計り當局と連絡中であり、速からず適當の措置が講ぜられるものと考へる。

商品市況

十六年度上半期に比し下半期は五割程度の暴騰を來したが外國品の輸入なく又日本製品も輸入漸減の状態にて、中國の現地生産が益々顯著となり、此の兩製業者は相対的に大小三十有余社を數へ大體十六年度は好調であつた。
需要状況
生産量中國人工場 三百萬
日本人工場 三〇萬
輸入量日本品 二〇萬
外國品 若干
邦貨に換算した生産及輸入額は百萬圓内外と推定す。

運動具

支那事變後當地に於ける運動具は余り振はなかつたが、運動用品の輸入は大量に於て大差無かつた。主に軍隊方面に物品が活潑であつた爲めに市中の購買力もカバリーした事になつたのである。但し内地に於ける製品の減退と製造不可能になつた鐵製品や皮革製品等運動具等品の爲めに本年は輸入額がさきに減額した。別して本年下半期に至つては船腹の不足の爲め諸手練品の商品さへも購買不能に陥つた事も原因してゐる。但し大東亞戦争勃發後の年末頃に約半振りで多少入荷出來たが、それも大した數量ではなかつた。従つて内地で出來ない物が多く有るのであるが當地で間に合ふ物は製造すべく各運動具店でも努力して居るの何ぞかと都合して行ける程になつた。當地製造は邦人としては上海英租界運動用品株式會社が皮革製品、鐵製品、木製品等專門に製造して居るが

其他には河南ふの支那人工場を利用してグローブやラケットや蹴球具等を製造して居る。値段は内地品に對して安い物は一つも無い只に革製品や鐵製品が當地で出來ると云ふのみである。然し當地には出來ない物が有る。要式野球ボールや蹴球ボール等だがそれでも現に輸入して居る物は野球バット、蹴球ラケット、弓道用具、釣具、車球用具等だがセルロイドの配給が減つたので其れを使用する藥品の關係で應々蹴球ボールが品切れを來すものと豫想される。
當地で製造されて居る革製品は之れも今迄は原料のストックが有つたが應々手薄となつて來たので品有るものは値を酌上上げる、果してどの程度現狀維持が出来るものか心細いものがある。以前は外、支那人邦商からチヨイ／＼買つてゐたが支那事變後殆んど杜絶した状態にある。但し釣具だけは支那人も良く邦商側を買ひに來る。外人もたまには來るが其他の運動具はさつぱり買はない。
昭和十六年度賣上高はそれよりも何なり前年度に比して多少は増収したやうである。
當地での製品の値段についてはすべて見よう。
一、軟式野球用品でグローブが十三円以上十九円ミットが十八円以上、マスクが十三円以上打十七円バットが二十円以上、マスコットが二十円以上、ユニホームが九円帽子が三円五十銭、ベレーが二十円ユニホームが九円帽子が三円五十銭、

商品市況

ストッキング打二平、野線が十五円
二、麻線用品、軟式ラケット八円以上、ブレス三
四半サック一円五十銭、ネット八円以上
三、革製品、ボール、バレーボール男一五・〇〇女
一三・五〇、バスケットボール二〇・〇〇一六・〇〇三
〇・フットボール二二・〇〇一六・〇〇一
ラダーボール二二・〇〇、ドッチボール一
二・〇〇、フット、チェンプ五號一・八〇、六號
二・〇〇、七號二・五〇

紫檀細工

▲業界概況
昭和十六年度に於ける紫檀製品は十五年度と大
差なく、日本人向としては二割見當、他の八割は
外支人訪問に消化されて居る。然し小賣業者の賣
上率は前年に比し四割方の減収にて不況と云ふ外
はない。
製品の賣行は相變らず大物(テーブル、茶臺子、鏡
台其他)の需要は少なく、小物(食セツト、置入
箸箱、燗箱、盆類)に相當の消化が見られる。
然し現今の如き相場の変動、紫檀材の相場上
昇は日用雑貨の急騰と共に、所業に従事する支那
職人をして増々生活苦に迫らざる結果となり、安身
立命の地をその郷里に求めて歸郷する者續出の有
様である。

従つて前正月あけには紫檀材の相場と共に、そ
の製品も中減すべく、今日までの如く豊富なる製
品を以て顧客に良品を自由に選擇せしめるが如き
事は、不可能となるかも知れぬ。

▲市況

1、需給状況

年生産額は統計の確たるものがないので、そ
の正確なる数字は不明であるが、大體百五十
萬元と見て大過なく、主として産出地、通關
より香港經由當地向け輸出され、南洋方面に
家具用材として僅少の輸出があるが物の數
ではない。

向當地では、海運線蘇州其他の方面へ總數
の百分の一見當の輸出があるのみで、大部分は
當地で消化され、尙不足を來たし居る現状で
ある。

舊て當地に於ける一年の出廻高は、大約二
百二十萬元、就中虹口方面にての取引高はそ
の二割を占める程度のもので、殘餘の七割は
支那人、一割は外人方面に向けられて居る。
原木は相變らずの品不足で現在の如き出廻高
にては、到底一般需要家の満足を得得べく
もないが、大東亞戦争の勃發と同時に僅かに
市場を潤してゐた。これらの原木は全く姿を
没し、原産地からの出廻りも杜絶し、目下上
海市場に於ける在倉は僅かに紫檀材、香紅木

を合せて三百五十本足らず、市價にて約一
萬六千元餘と云ふ心細き状態である。

此の反響と云ふべきか、昨今は紫檀草
木百斤二十一・三元見當(ブローチ)とて粗惡
極まる貴材を多數使用せる製品が出現、顧客
の忌避を蒙る一層困難ならしめ、心ある業者
の難題を買つて居る。

舊て此處で業者の立場として難を大にして
申述べた一事がある。

「紫檀細工は奢侈品だ。と云ふ事
をよく聞くが、現今の如く諸物價高騰せる折
弊年で優美で修理の何れも利く紫檀細工は、
一審費用に過ぎた商品である。

要するに紫檀は奢侈品の代名詞のやうに云
はれるのは、今日まで紫檀製品として利用され
る事が多かつたが爲である。

試みに盆一枚買つても此れ職夫で體裁よ
く生涯使用し得られる立派な貴用品は他にな
いはずである。

2、相場の變動
昨年紫檀材一等品にて最高六十元白を割
り、我々業者を驚かせたが、今年に入り百斤
二百元を迫る殺人的高値を唱へ、事々業者を
喝然たしめて居る。

左に十六年一月より十七年二月に至る相場
を掲げて見よう。但し業者として附言したい

美術雜貨

本年度は昭和十五年度に引續き、ロイカル、對
外共に下り坂を進みつつあつたが、資源委員會は
之に拍車を加へた。然れども大東亞戦争勃發迄は
ロイカル、輸出共に動きを見て居たが、十二月
は對外は全面的に停止し、ロイカルに於ても極度
に緊縮した。
僅れた美術品の動きは恒常的に存在し、機物的
傾向も之に加はり、ロイカル、ビジネスを構成し
た。

自動車及部品

昭和十六年中に上海に輸入せられた自動車及部
品品の統計を前年に比較すれば左の通りである。

(一)自動トラック、トラクター及トラクター

(二)自動車(シャシを含む)

國別	昭和十五年 (台)(金單位)	昭和十六年 (台)(金單位)
英國	三	六
獨逸	三	六
日本	三	六
再輸出	一	二

合計 九三 三三三 三六 六六六

(二)自動乘用車(シャシを含む)

國別	昭和十五年 (台)(金單位)	昭和十六年 (台)(金單位)
英國	二	三
獨逸	二	三
日本	二	三
再輸出	一	二

(三)自動車部品

國別	昭和十五年 (台)(金單位)	昭和十六年 (台)(金單位)
英國	二	三
獨逸	二	三
日本	二	三
再輸出	一	二

右に於て觀る如く、米國は昨年に引續き王座を
確保して揺ぎ無く、トラクター類に於ては數萬金圓
共に八割を占め、乗用車に實に九割に達し、部

商品市況

のは、原木が支那事變前の十二、三倍と云ふ
高値なるにも拘らず、その製品は僅かに三倍
足らずの値上りである。
一等品(紫檀材)
昨年度は十五年度同月相場毎百斤に就き
一月 四十五元(三十五元) 二十元(十七元)
四月 六十五元(五十元) 三十元(二十元)
六月 七十五元(六十元) 三十五元(二十七元)
九月 八十二元(五十五元) 四十二元(二十五元)
十二月 百三元(四十九元) 七十二元(二十二元)
一月 百五十元(五十二元) 九十元(二十八元)
二月 百九十五元(五十六元) 九十元(二十六元)
▲今後の見通し
業界として最も憂慮し居る點は、諸物價高騰の
折衝、紫檀材の高値はさて置き、原産地よりの輸
入杜絶せる一事である。
當地に於て所業に従事し依つて生計を立て居る
者萬を數へる今日、求め得る原木もなくなつた
に拱手傍觀、ひしと身に迫る生活難を打開す
る方策もなく、力つきて歸郷する者が非常に多
い。
業者は唯これを見送り、來るべき時の一大飛
躍に備へて時局を靜觀する以外方法はないことを
思へば、前途暗澹たるものがある。

品は七割を占む。日本に次ぎ、トラツクは数量二割、金額一割五歩、乗用車は数量一歩五厘、金額一歩、部分品に於ては二割三歩を占むるも、米國に比して格段の差あるを免れない。獨逸また日本に次ぐも、米國の獨占舞台たる事は前年と異ならない。

而して自動車及部分品を通じて輸入額二、五三、七八四金單位に達し、昨年の二、八九五、三八七金單位に比すれば大差無きも、數量に於ては半減し、價格が約倍加せるを知るべく、上海市似も昨年の二倍見當を稱へ、上半年に於ては需要旺盛で邦東にては本邦よりの輸入極度に制限せられ注文に應ずる能はざる状態であつたが、英米資金凍結發表以降ソソリの供給開滑を缺くに及び需要漸く減退し、殊に十二月大東亞戰以來、上海の自動車製造強化せらるゝに及び新注文は停止狀態となり、僅に石炭及木炭瓦斯發生機の取付並に修理用部分品の需要有のみであるが部分品は一部取得困難となり、取引見角沈静となつた。

昭和十五年		昭和十六年	
數量	金額	數量	金額
トラツク	三六六	四三三	九八八
乗用車	三三三	三三三	三三三
部分品	三三三	三三三	三三三
合計	三三三	三三三	三三三

砂 糖

△上 半 期

一月六日中央儲備銀行は首都南京に於いて華々しく開幕して法幣に對する搖動の第一歩を力強く踏み出したが予期された法幣不安も深刻性に乏しく相場は寧ろ輸入の順調と實需不振に支配されて伸張の裡に推移した。

然るところ三月初旬に至り爪哇上海間の運費が四月四日より約二割方（一厘に付き米價〇・九〇仙）値上げされるとの情報を入れて、相場上向氣配の矢先き三月廿一日晚重慶國銀行匯票事件勃發に伴ひ、租界不安から延いて法幣不安人氣を醸成し、投機筋の買氣を偏つて相場は急騰歩調を辿り、南洋情勢の微かな動きと、一部輸入業者の爪

昨年の全支輸入額中上海は二割五歩を占めたが本年は一割五歩が上海より輸入せられたるに過ぎず、北支地方の輸入額また上海に及ばず。即ち、全支輸入の過半は援斯ルートを通ずるものにして、昨年は九龍を経由したるに比し本年はビルマルートを通ずるもの大半に及び殊に全支輸入中トラツク額が過半に達せるは注目すべく、更に官公用及び軍用が、本統計より除外せられるに見れば其の總額は相當の龐大なる數字に達せるものと考へられる。

昨年の全支輸入額中上海は二割五歩を占めたが本年は一割五歩が上海より輸入せられたるに過ぎず、北支地方の輸入額また上海に及ばず。即ち、全支輸入の過半は援斯ルートを通ずるものにして、昨年は九龍を経由したるに比し本年はビルマルートを通ずるもの大半に及び殊に全支輸入中トラツク額が過半に達せるは注目すべく、更に官公用及び軍用が、本統計より除外せられるに見れば其の總額は相當の龐大なる數字に達せるものと考へられる。

昨年の全支輸入額中上海は二割五歩を占めたが本年は一割五歩が上海より輸入せられたるに過ぎず、北支地方の輸入額また上海に及ばず。即ち、全支輸入の過半は援斯ルートを通ずるものにして、昨年は九龍を経由したるに比し本年はビルマルートを通ずるもの大半に及び殊に全支輸入中トラツク額が過半に達せるは注目すべく、更に官公用及び軍用が、本統計より除外せられるに見れば其の總額は相當の龐大なる數字に達せるものと考へられる。

昨年の全支輸入額中上海は二割五歩を占めたが本年は一割五歩が上海より輸入せられたるに過ぎず、北支地方の輸入額また上海に及ばず。即ち、全支輸入の過半は援斯ルートを通ずるものにして、昨年は九龍を経由したるに比し本年はビルマルートを通ずるもの大半に及び殊に全支輸入中トラツク額が過半に達せるは注目すべく、更に官公用及び軍用が、本統計より除外せられるに見れば其の總額は相當の龐大なる數字に達せるものと考へられる。

南部佛印運駐に伴ひ日本邦交關係が俄かに險惡となり之と前後して日本の政變と、漸く情勢は危局をばらむに至つたので、之れを鋭敏に反映して砂糖相場はこの頃から再反騰氣勢に轉じ七月二十四日には前記の最高點百二十元相場と再び顔合せして相場の上伸を示唆するものがあつた。

七月二十六日突如米國は對日支資産に對する凍結令を發令したが、之れは晴天の霹靂で一體にして上海市場をして大混亂の淵に叩込み、末期の現象に一變せしめて、砂糖相場は一氣に百三十三元（香港幣）迄暴落したが、其後日本側の之れに對する報復措置を供れて、手持品の租界への荷移しが旺んとなる一方急ぎの傾向が支配的となり沸騰人氣に冷水一寸の觀を呈し事態の見透難から大氣迷ひとなつた。

八月一日上海糖業聯合公司（先物取引所）が時代の要求に應じて成立し先物取引を開始することになった。

この頃から投機筋と北支支那の活動が幾重に目立つて来た、之れは實需凍結令により爲替、標金市場が投機的妙味を喪失した爲め投機筋がこの方面に進出して来たので、一方北支が香港、爪哇からの直接輸入が不可能に陥りたる爲め、輸入先を上海に求めたからであつた。上海租界から北支方面に流出した砂糖は本期米迄に約四十萬ビタルの大體に達した模様である。之れと時期を同じうし

て、當道軍配組合砂糖部も占領地品供給の不足を見通して租界に於いて積極的に買付を開始したのでなきに先行輸入困難見越の華商筋の買人氣に益々拍車を掛け、法幣不安を醸込んで相場は更に上進し殆んど止まる處を知らず十一月四日には有史以來の新高點三百七十七元（爪哇白蜜）迄吹き上げて支人筋をして啞然たらしめたのであつた。

勿論之れは砂糖のみならず其他の米、麵粉などの食料品も夫々奔騰したので漸く政府問題化するに至り米、麵粉が先づ租界當局によつて價格統制が實施され、繼いで砂糖もその氣運濃厚となつて來たので熱狂せる買人氣をして漸く沈静せしめた。

一應の落付きを取戻して見ると、これ迄輸入探算も需給關係も完全に無視して吊上げた相場であるだけに大きな反動來を供れるものも出て來るし勞々、日本關係が益々惡化の傾向を辿りつゝある折柄、大量の手持ちの危險を憂慮して再び急ぎの人氣が勃出して來たので相場は暴落から三轉して急騰の足取りを變り、それに惡感の對照としてここを買込んだ素人筋が我れも（と）投げ始めたので俄に相場は一割千里の大暴落を演じ、聯合公司の需給案も効かばこそ世紀的大崩落を重ねて僅か一ヶ月間に百九十九元を落して十二月六日には精糖百八十五元、白蜜百九十元、赤蜜百六

十二元五十仙の安値を付けたが、この相場、之世界に殘された唯一の自由市場上海の砂糖相場の最期のものとなつたのである。

十二月八日大東亞戰爭の勃發と共に砂糖市場は勿論上海の各市場も一齊に休市の態に陥るに至り事態の推移を靜觀するの外なき情勢に一變したのであつた。斯くて傳説と歴史を誇つた上海糖業公會も投機の花形とし上海糖業聯合公司も一應の終止符を捺し二百有餘の華商糖業者は大東亞共榮團建設の一翼として再出發し、砂糖市場が新たな組織と機構の下に新發展するに至つたのである。

其後糖業聯合公司是解散の浮目に遭ひ、糖業公會は當時に在り高五十五萬九千三百三十二袋（約八十萬ビタル）別に多少の登記現れあり、を以て現物出賣の形式により上海糖業聯合發展處を組織し日本側關係當局の指導監督の下に中支占領地範圍に租界内に於ける砂糖需給統制の一翼機關として更にするに至つたのである。

尙は大東亞戰爭直後の上海砂糖相場高を示せば左の如し（軍配組合手持を含む登記砂糖のみ）

大東亞戰爭直後の上海砂糖相場高統計			
精糖	四〇四元	白蜜	三八八元
赤蜜	三三三元	青糖	三六八元
黃蜜	三三〇元	冰糖	三八八元
餅砂	六		

計

先づ輸入方面から觀察するに本年度に於ける砂糖の輸入は前年度に比較して約九割増しの二百六十七萬餘ピクルとなり支那事變以來最高レコードとなつてゐる。

これは中支の需要増もさること乍ら東亞の糖蜜低連の時局關係により見込輸入が増加したことが最大の理由であらう。勿論日本糖の輸入は物價關係により制約されてゐる關係上、前年度契約品の未輸出分と、本年度の中支向對當數量だけではあつたからこれには關係ないが爪哇糖は最大消費地たるスエズ以西の歐洲市場が第二次世界大戰の影響を受けて喪失し大いに賣氣を見せ居た先きに大に之の傾向が極めて顯著であつた。

従つて本年度の爪哇糖の輸入數量は相對的にも絶對的にも急増して百九十七萬余担にして全輸入數量の七割三分強と云ふ歴史的なものであつた。香港糖が之に次いで四十三萬余担の二割六分強日本糖は僅かに二十六萬六千余担（免稅輸入を含む）で全輸入數量の一割弱となつてゐる。

次に移出であるがこれは通關する調査統計なき爲め不明なるも本年度上海よりの移出の最大のものは中支占領地であることは云ふ迄もないがこれを除けば北支那で殊に天津への移出は前述の如く八月以降僅に三ヶ月間に約四十萬ピクルの多い

計

先づ輸入方面から觀察するに本年度に於ける砂糖の輸入は前年度に比較して約九割増しの二百六十七萬餘ピクルとなり支那事變以來最高レコードとなつてゐる。

これは中支の需要増もさること乍ら東亞の糖蜜低連の時局關係により見込輸入が増加したことが最大の理由であらう。勿論日本糖の輸入は物價關係により制約されてゐる關係上、前年度契約品の未輸出分と、本年度の中支向對當數量だけではあつたからこれには關係ないが爪哇糖は最大消費地たるスエズ以西の歐洲市場が第二次世界大戰の影響を受けて喪失し大いに賣氣を見せ居た先きに大に之の傾向が極めて顯著であつた。

従つて本年度の爪哇糖の輸入數量は相對的にも絶對的にも急増して百九十七萬余担にして全輸入數量の七割三分強と云ふ歴史的なものであつた。香港糖が之に次いで四十三萬余担の二割六分強日本糖は僅かに二十六萬六千余担（免稅輸入を含む）で全輸入數量の一割弱となつてゐる。

次に移出であるがこれは通關する調査統計なき爲め不明なるも本年度上海よりの移出の最大のものは中支占領地であることは云ふ迄もないがこれを除けば北支那で殊に天津への移出は前述の如く八月以降僅に三ヶ月間に約四十萬ピクルの多い

吳服物

一月初頭内地の織物界は一般不振の狀態を反映し「マル公値」と相照れる第一制、二制、三制或は品に依つては五割安のものさへあり「マル公」一杯のものは稀に見る程度に騰る氣運の裡に二月に入りしが此頃昨年来の懸念より輸出業者の受託手數料率は漸く軌道に入りはつきりと五分より一割迄と決定の時を同じくして三月四月と順次高騰し

文房具

商務は依然として不振を脱しないが春季に於ては新學期年度等にて四月及九月頃に多少の活況を見せたが別段の事なく日本人向としては先づ一年を通じ平穩なる商況裡に経過した。

本年一月より十二月に至る一ヶ月間輸入承認書發行高は約五百二十萬圓の内輸入高の分約三百萬圓前後である。内紙筆は九月より組合の中に鉛筆部を設置せられ、九月より十二月に至る四ヶ月間に於ける輸入額四萬二千圓、内販賣額三萬八千圓の數量を示した。

高年筆は相當輸入額を見たが十月に至り留保金

は四割五分を減せられ、輸入は殆ど日本人向を除く外は皆無の狀態である。留保金無き時でも支那製品月と共に増額の一途を辿つてあつた時に右の留保金を減せられた爲支那製品獨占の感がある。

昭和十六年支那輸入統計
輸入承認（留保金含む） 三、五三三、三〇九
輸入費（同右） 二、六八六、六九六

輸入 四、二二〇、七
販賣 三、七九三、三
KOTO

帽子及原料

（一）概説（支那事變以來の推移概観）

昭和十二年八月支那事變は遂に當上海に波及するに至つた結果、當地に於ける華人經營帽子加工業者の大部分は職火を蒙り破滅し、業者又一時難を避けて四散した爲、當時外人輸入業者に依り内地より輸入せられた「フェルト」帽體を筆頭とする其他原料品は全面的荷役不能の己むを得ざる情勢の爲約一ヶ年間を推移し當時の莫大なる消費の減少に付ては全く見通し付かず、多大の困難を豫想せられたが一方此の間支那の支那各地に於ける諸たる販賣に併行して我當局に依つて示された日支共存共榮を建前とする施政方針に基

き、我と提携し来る者に對しては之を拒まざるのみならず、必要に應じては適當なる保護すら與へる等の、我國の正當適切な措置に信賴し、事變翌年には早くも租界内に於て工場再建を計畫、操業再開の機運を迎へるに至り商品の荷動きも漸次活潑となり、昭和十三年秋より十四年春にかけて消費も一掃せられ更に引續き新規約定の取扱も行はれ茲に業界は常態に復するに至つた。斯くの如き帽子生産機構の順調なる整備進捗せられる一方、所政權の浸透に伴ふ約さざる法幣價值下落は必然的に當地物價高を招來するや、法幣不安換物人氣も加つて商品の荷動き活潑化するに同時に、更に爲替に基く海外輸出内にも容易なる情勢に恵まれ業界は昭和十四年秋以來健全なる發展を續け其内部も年を重ねるに従ひ累増の好調を示した。

（二）昭和十六年（自一月至十二月）に於ける上海市況

（一）需給狀況

本品は冬物並に夏物との二種類に大別せられ、其原料品生産狀況としては、冬物即ち「フェルト」帽體は上海に於て大部分生産せられ、夏物主として萬國帽體、紙布草バマ帽體等は之が供給を内地より仰いで居る。

（二）當地に於ける「フェルト」帽體製造業者及び一ヶ年間に於ける生産額及び金額（概數）

夏物仕入季節の五月には大體「マル公」一杯に近く、商來の特品小値より仕入原價が高い奇現象を呈するに至つた。如斯行にて逐月高騰の一途を辿り来る關係上、銷場情報の發行は著しくなかつたが、一方現地製造農地並に其の他の織物品の發行旺盛であつた爲め上半期は平穩に終つた。

轉つて秋各物の仕入季節の七月に入つて來英への經濟漸行に従ひ、輸出機構の立替に當つて織物物は關税へも輸出禁止となり、十二月十三日に至つて一應輸出解除されたが過去五ヶ月半に渉る長期間布帛製品のみ輸入を以て幸じて支へたのであつて商務は最も不振の極端年となつた。

社名	生産數量
堀江製帽廠	日本 若干打平均 打 三〇三千元
仁金同	華人 三千打 同 八〇〇同
華生同	同 三千打 同 一〇〇〇同
利源同	同 六千打 同 一〇〇〇同
同	同 一千打 同 合同
合計	九千打 合計六〇三千元

（三）日本よりの輸入數量及金額概數

十六年度中支那日本輸入關稅組合員に依り輸入せられた金額九十萬圓にして其内約七割強は夏物原料である。

中支那日本輸入關稅組合員名

理事長	三井洋行	吉田
副理事長	廣大洋行	裕洋行
理事	清水洋行	宇都洋行
會計理事	中村洋行	永吉
	華興公司	大和公司
	三洋商會	新華洋行
	新華洋行	高島屋
	野崎商店	株式會社

（四）華商帽子加工業者

堀江製帽廠	德興製帽廠	中南製帽廠
榮瑞記同	董華昇同	冠福同
冠益同	廣生同	冠東同
永安同	福利同	源福同

新華同	元元同	中學同	四一六月	四一三月	三〇〇
大中央同	宏業同	中華同	リボン	三〇〇	三〇〇
小呂宋同	順祥同	湯藥同	一三三	七九月	三〇〇
新昌同	新成同	清昌同	四一六月	三〇〇	三〇〇
福記同	華順同	清昌同	一三三	三〇〇	三〇〇
福源同	華源同	清昌同	一三三	三〇〇	三〇〇
廣大洋行	清水洋行	中村洋行	一三三	三〇〇	三〇〇
（一）相場の変動			四一六月	三〇〇	三〇〇
フエルト帽製造場	清水洋行	中村洋行	一三三	三〇〇	三〇〇
帽子用皮	元〇元	七九月	三〇〇	三〇〇	三〇〇
帽子用皮	元〇元	七九月	三〇〇	三〇〇	三〇〇
帽子用皮	元〇元	七九月	三〇〇	三〇〇	三〇〇

（二）競争品
高級フエルト帽子等英米兩國より小量輸入せられ
た。そのみにして資源凍結令以來全輸入せられ
た。

らす今後は停止の外なき情勢である。
（四）大東亞戦争勃発以後の見通し
フエルト帽製造用主要原料羊毛の要る肩毛等
は従来主として之が供給は済州に依存せしもので
あるが對英米資産凍結令發布以來、當地にも輸入
困難となり市中在清洋行にむき得る情勢であつた
ところに加へ、大東亞戦争勃発の爲全面的に輸入
杜絶の結果上物帽製造原料の要は現在市中在清以
外其の手當の方法なく、自然現地に於て出廻るべ
き反毛類にて製造せる地物帽のみの生産に轉換
せられるべく、又對日輸入に依存せる夏物原料品
等の如きも愈々入荷困難なるべく、當地商内高
は昨年比し減少する外なからうと豫想せらる。

市況報告商社名

棉花	東洋棉花	工業藥品	小麥、麥粉	三井物産	吉田號	木炭	新民洋行
加工棉花	東洋棉花	石鹼	綠豆、紅豆	三井物産	華中藥業	セロロイド	世界通益藥房
軍用棉花	東洋棉花	燐寸	茶葉、紅茶	三井物産	華中藥業	玩具	清和洋行
軍用棉花	東洋棉花	燐寸	茶葉、紅茶	三井物産	華中藥業	玩具	清和洋行
軍用棉花	東洋棉花	燐寸	茶葉、紅茶	三井物産	華中藥業	玩具	清和洋行
軍用棉花	東洋棉花	燐寸	茶葉、紅茶	三井物産	華中藥業	玩具	清和洋行
軍用棉花	東洋棉花	燐寸	茶葉、紅茶	三井物産	華中藥業	玩具	清和洋行
軍用棉花	東洋棉花	燐寸	茶葉、紅茶	三井物産	華中藥業	玩具	清和洋行
軍用棉花	東洋棉花	燐寸	茶葉、紅茶	三井物産	華中藥業	玩具	清和洋行
軍用棉花	東洋棉花	燐寸	茶葉、紅茶	三井物産	華中藥業	玩具	清和洋行

昭和十六年經濟日誌

（注）○印は經濟問題 ×印は經濟に關聯あるも寧ろ政治或は外交軍事問題と見られるもの

一 月 中

- フランス政府は佛印に關稅自主權を賦與
- 國民政府財政部長周傳氏は海關の納稅には今後新法使用を報告
- 國民政府中央儲備銀行開業
- 蘇聯海關總局は煙草、土煙、酒類、燐寸、洋灰、洋酒等の納稅引上を實施
- 米大統領は二月三日以後海關、南滿、亞細、ニッケル、炭酸加里の六種品目に輸出許可を實施する旨發表
- 香港政府はわが領事館宛書面を以て開關を含むスタンプメタルの全面的輸出禁止を通告し来る

十六日（水）

- ×滿洲國初代駐華大使呂慶唐氏汪主席に信任狀捧呈
- ×香港における華人タロの創設を目的とする香港政府の移民制限法（昨秋決定）實施
- 中央儲備銀行上海分行開業
- 日ソ漁業條約暫定取決めモスコにおいて訓印（二十九日効力發生）
- 共同租界上海電車公司は去る八日認可された三五%料金を値上を實施
- 紡績工業は一ヶ月の食庫使用料一俵二元四角に増額決定
- ×泰、佛印停戰協定訓印

一日（土）

- 國プロツク向け輸出に際しての内、地業者の現金保証は解消し留保金の現地凍結停止實施
- 去る一月二十二日興亞院より正式認可を得たる上海棉業取引所の綿布上場は本日初立會
- 米大統領は鐵鋼産に鐵鋼製品の輸出品目を百四十八種に且つて再指定（十五日實施）
- ×南支那軍艦部隊は海軍部隊と協力惠州東南方海岸に奇襲上陸敢行香港ルートの要衝淡水を占領、他の一部は沙魚涌占領
- ×四割増税案上程の工部局納稅者大會は前同本市參事會、ケズウイック議長兩氏の演説等流血の慘事を惹起して停會したが本日遂に可決通過す、邦人團會議出席せず

八日（土）

- ×精註日中國民代表信任狀捧呈
- 國民政府社會部は整理委員會を派し上海市議會を接収
- 佛印政府は邦人商社の進出を全面的に阻止する輸入統制組合の設立に關する總督令を公布
- 米政府の援佛借款五千萬の額目決定の決定をみた目ジョーンズ商務長官發表
- 皇國を核心とする日、獨、支一元化の交通政策要綱閣議で決定
- 上海市船舶業公會は三月一日より股費（船料金の改正）を實施に決定
- 邦人個人銀行は法幣預金の利率引

九日(金)
○正金銀行と印度支那銀行間に爲替協定成立、爲替決済相場は白ビヤストル對九十八圓半賣
○佛印泰同の平和條約東京で調印十日(土)
○印度政府は更に四十九品目に亘り輸入制限實施
十二日(月)
○華鐵主幹、日滿支運給運輸清算會議開
○工部局直輸入外米百十元で廉價開始に市米價忽ち暴落す
○支那銀行續結糸布担保の融資拒絶合せ發表で二〇番手變局九〇元方格下は本年最初の暴落
十四日(水)
○商工省は貿易統制令公布、内地十五日、鮮台等は二十五日より實施
○上海外商通商銀行業者六社保管料の引上げ共同發表
○當局は中華火柴全國產銷聯合社の問題に關聯し中支那特許販賣協議會の改組を決定す
二十日(金)
○上海總領事館で現地不正營業摘發、第一回五十四件に引續き百二十八件爲業取消斷行
○法幣平衡委員會通過に設立二十一日(水)
○米國北京天津駐屯軍第二次引揚げ二十七日(火)
○わが科學技術新體制立案綱は閣議決定公表さる
○我國とイラン國間に修好條約成立二十八日(水)
○共租界事は水道、瓦斯、電力大内閣上を認可
○ル大統帥の輸出統制法適用を署名と共に比島が艦船向け船舶の設備を棄す
三十日(金)
○商工省は價格統制令の有効期間満了を通告し、同令の九、一八停止價格條理刪除方針決定
三十一日(土)
○六月一日より英系通貨取引の補償制實施、正金銀行に集中附定設定と決定
○けふ滿期の滿鐵貿易協定有効期間再延長さる
六月 中
一日(日)
○中華航空會社上海一北京、鄭州一汕頭、廣東一海口間の三航線空路を開く
二日(月)
○上海棉紗公會(上海中國棉紗布交易股份有限公司)非公式に開市四日(水)
○對日輸出許可制を強化の旨ハル米國務長官聲明す
五日(木)
○佛印に集積しありし援物資は安全地帯に搬出賣場中の冒佛印進駐軍發表
○中支國對日輸出につき中支那軍要交換物資配給組合と農林省との間に協約なる
○上海、東京間無線電信復舊開通七日(土)
○五月中旬以降縮小一途を辿つた關稅引率は本月に入つて遂に消失し逆に關稅千圓に對し二元のプレミアムの奇現象を呈す
八日(日)
○マツチの配給を軍要交換物資配給組合で開始す
九日(月)
○井上與亞院華中連絡部長は歸國某要職に、後任には落合秀九郎陸軍少將
十一日(水)
○日ソ通商協定並に貿易交換協定モスクワで調印
○共同租界電車、バスの五割値上げ奉事會で承認、來月一日より實施
十四日(土)
○獨伊及び歐洲の二十一ヶ國在米資金の凍結をル大統帥命令す
○訪日の汪精衛政府主幹八人隨九で上海出發
十五日(日)
○軍は國民政府と協力揚子江下流域一定の地域に於て清鄉工作實施と中支軍當局發表
十七日(火)
○工部局警察特別總監赤木親之氏重慶アロに赴る
十八日(水)
○佛軍の現行給給率を五〇%方引上げを蘇聯總領事局より佛軍總司令部に提出す

者に通告、七月一日以降實施
十九日(木)
○民國二十九年發行の舊法幣の流通を二十日以降禁止と漢口市政府布告す
二十日(金)
○國民政府中央儲備銀行の在外資金をわが自由國に移行する協定は前正金銀行と米朝中の閣財政部長との間に正式調印
○アメリカ政府は米東海岸よりの石油輸出禁止
二十一日(土)
○ヒットラー獨逸對ソ宣戰布告を發し連發開始
二十三日(月)
○重慶政權田賦現物徵收案を可決す
○近衛首相、汪院長共同聲明を發表す
二十四日(火)
○棉花、絲糸布の統稅率一〇〇%引上げの案は兩府行政院會議通過、七月一日より實施すと發表
二十五日(水)
○工部局は二年繼續し來つた麵粉販賣を本日なつて打ち切り、工場無期停業
二十七日(金)
○前年來引續き交渉中なりし日蘭會商遂に成らず、芳澤使節はバタヴィアを引揚ぐ
二十八日(土)
○帝國政府は國民政府に三億圓を貸度とする借款供與を決定と政府當局發表
七月 中
一日(火)
○皇軍協力の下に國民政府は清鄉工作開始
○大蔵省は米貨および英系通貨を除く第三國(十二ヶ國)通貨爲替にも爲替集中制を實施
○上海市府は上海市復興銀行の設立決定
○北支軍當局は第三國人の北支銀行に對し許可制を實施
二日(水)
○御前會議において帝國の重要國策決定す
四日(金)
○日佛印銀行協定締結さる
七日(月)
○北支軍管理工場四十ヶ所中國間に返還
○商工、農林兩省令を以て貿易統制令施行規則を改正公布即日實施
○支那派連署總參謀長板垣中將は大陸に遊散朝鮮軍司令官に、後任總參謀長は後宮中將とさる
十日(木)
○暴利行為取締規則改正され買占め與借拘合せ販賣禁止、十五日より實施
十一日(金)
○財政金融基本方針案閣議で決定
十四日(月)
○佛印輸出代行商社の第二回追加九品目廿七社決定
十五日(土)
○關印政廳爲替統制局は爲替銀行に對し關爲替の先物を賣却せざる様通告
○國民政府清鄉地庫物資統制及び運銷管理暫行辦法實施(十日公布)
十六日(水)
○近衛内閣總辭職
十七日(木)
○北支經濟產業開發に關する最高會議開議なりし日華經濟協議會解散
十八日(金)
○第三次近衛内閣成立
○絲糸布製品の南方向け輸出を日本紡績聯合會中止す
十九日(土)
○日本銀行の公定歩合引下げを認可の旨大蔵省發表
二十一日(月)
○在華日本紡績同業會上海、青島、天津各支部は南洋向絲糸布の輸出を中止と決定、本日以降實施
○上海の郵船會社は航路日程の發表を中止す
二十二日(火)
○中支方面海軍最高指揮官細萱中將内地に歸還、後任は侯爵小松輝久中將
○かねて辭表呈出中なりし本多大使は留任と決定
二十五日(金)
○ルーズヴェルト大統帥は在米日本資産凍結令を公布廿六日より効力發生の旨發表同時に在米支那資産も凍結す

- 二十六日(土)
- 佛印に關する共同防衛につき帝國政府聲明發表
 - 英國政府は全英帝國にわたり日本資産を凍結する旨發令し、同時にクレイグ駐日大使より日英通商條約の廢棄を通告し来る
 - 香港政府は香港における外國資産凍結のため防衛法を修正追加し、これを日本帝國及び滿洲國に適用する旨の特別命令を發す
 - 二十七日(日)
 - 佛印シヤバ銀行は正金銀行に對し金庫協定を停止する旨正式通告
 - 二十八日(月)
 - 帝國政府は外國人關係取引取締規則を大藏省令を以て公布即日實施適用の指定國アメリカ合衆國及び同國領地全體、フィリピン聯邦、大藏大臣告示を以て米國系法人として三十箇國を指定
 - 大藏省では英米兩國並びに北部アイルランド聯合自主國、カナダ、香港にも外國人關係取引取締規則を適用
 - 外國人關係取引取締に關する告示
- 第二十九號、告示第二〇號を國內總領事公布
- フアンモク佛印經濟相は對日資産凍結につき、日本と佛印の爲持取引關係は當分停止し、日滿支、佛印向け輸出は許可制にき限り日本人に對し預金の受入れ及び支拂を禁止する旨聲明
 - 江蘇省は小山田行政廳務司の名において糖類、食料品、油、化學品、雜貨、肥料、綿製品、綿布、金屬類、鑽石の上海より日本以外の第三國境は非占領地向けの輸出に對し許可制度を發表アニリン染料、藥品(漢藥を除く)棉花を追加日滿不可分一體の大義に則り國內英米資産凍結と滿洲國政府發表華北に於ては外國人關係取引取締に關する日本總領事館告示並に華北政府委員會臨時特別取引取締法を適用
 - 蒙古政府も外國人關係取引取締に關する政令を發布
 - 二十九日(火)
 - 佛印印度支那の共同防衛に關する日佛議定書サインに於て佛印を〇し即日實施
 - 大藏省では外國人關係取引取締規則適用の英國系法人を指定
 - 大藏省では和蘭及び蘭屬東印度に取引取締規則を適用する旨追加指定
 - 佛印リットマン情報部長は決濟方法解決せば對日自由協定實行と言明
 - 第三國人との既約定は一切解約し佛印共同委員會決定
 - 國民政府は指定人資産處理辦法を發令公布
 - 佛印昇高局は食米價格安定に初の公定價格を決定即日實施
 - 三十日(水)
 - 大藏省では取引取締規則による指定外國人關係の取引について一般許可を發表
 - 臺灣總督府では總督府令を以て外國人關係取引取締規則を公布即日實施
 - 國內總領事は更に告示第二二號を以て印度、香港、和蘭、蘭屬東印度を追加指定
- 江海關の第三國向け重要輸出品の品別制約的通過の停止は品目別に改める旨發表、綿糸布は除外される
- 華北現物市場は再び急買人氣となり約二百元の急騰、數日來の荒高下に倒産者數漸出で立賣停止
 - 中央儲備銀行では上海より和平地區内同行支店又は辦事處への爲替の手續料を免除
 - 佛印政府は日本よりの輸入爲替決済に關する法令を發表
 - 香港政府は中華民國(滿洲を除く)及び同國在住者の在香港資産を凍結する命令を公布
 - 三十一日(木)
 - 華北當局では爲替集中制基準通貨變更規則を發表、日本金圓を基準とすることとなり即日實施
 - 印度準備銀行は印度各銀行に對し支那預金全部を封鎖する旨の訓令を發す
 - 大藏省では一般許可第三三號を以て指定外國人關係取引は一月間千圓を限度として許可することとなる
 - 上海銀業公會創立總會
 - 二十六日(火)
 - 大藏省短期資金運用に關し引受制度を實施日本興業銀行に發令
 - 二十七日(火)
 - 東亞海運株式會社公布され廿八日より
 - 二十九日(金)
 - 第二十四年(即ち昭和十六年)度生産物計畫に關し十六年度生産物計畫大改訂を閣議で決定
 - 法幣安定委員會の報告に基づき在上海外國銀行十四行は一律に自由市場との外貨取引を中止

- 八月 中
- 一日(金)
 - 兩支軍は和平地區、非和平地區との人及び物の一切の交通を隔絶の布告を發す
 - 日泰間に一千萬バツ(約一千六百萬圓)借款の契約成立せる旨大藏省當局發表
 - 滿洲國及び關東州よりの重要物資輸入に輸入税免除を大藏省發表七日より實施
 - 波正監氏大使館事務官に任せられ上海工部局特別顧問となる
 - 滙豐銀行ではスマーリンドレイトの引下げを行ひ對英三片、對米は五片半で振替
 - 上海商業聯合公司業務開始
 - ルーズヴェルト大統領發動機用燃料運に航空機用潤滑油の對日輸出停止を命令
 - 二日(土)
 - 上海鮮魚輸入組合當局より認可する
 - 五日(火)
 - 輸出不能に因る損失補償制度實施要綱の改正閣議で決定、從來の二
- 千萬圓の外更に五千萬圓増額
- 八日(金)
 - 中支軍管理の上海、無錫兩地紡績、四、製油、製粉一の六工場を返還
 - 大藏省英國系、米國系及び和蘭系の本邦法人六社を追加指定
 - 米國省省在米日本資産凍結總額を一億三千萬米和と發表
 - 上海爲替市場大台割れを演ず
 - 九日(土)
 - 上海爲替市場遂に對英二片、對米四片半と未曾有の安値出現(第四次崩落)金現市場は順勢騰
 - 十一日(日)
 - 八・一停止令
 - 重慶宣傳部長王世杰は重慶政權は上海市場の法幣を安定せしむるに決した旨聲明
 - 華北政府委員會爲管理規則六ヶ條公布即日實施
 - 國民政府の育成強化に在行政機構の整備統合を臨時與政院會議で決定
 - 十四日(水)
 - 米價對策に關し二重價格制を採る
- 方針決定の旨并野原相發表
- 十五日(金)
 - 鹽務行政當局酒、ビール、味噌、醬油の現地製造に對し新規許可を與へずその方針を決定發表
 - 國民政府財政部公報、公團納入は一切儲備券を使用すべき旨布告
 - 九日(土)
 - 上海社會局綿糸布その他に無因場外取引禁止
 - 上海復興銀行創立總會
 - 十六日(日)
 - 在華各國公使館を大使館に昇格、初代大使上賀正氏
 - 國民政府行政機構改革十四部制を十部制に中央政治委員會で決定
 - 十八日(月)
 - 興亞院華中連絡部南京大使館派遣職員の復命を發令
 - 法幣安定委員會對英三片、對米五片半のマロチャント・レートを發表
 - 十九日(火)
 - 海運國家管理要綱閣議で決定
 - 二十日(水)
 - 上海電力公司では對富屋超過に對
- の通過計畫を決定發表
- 二十一日(木)
 - 國民政府許可收買品百十三件
 - 二十三日(土)
 - 二十六年第二期(四半期)以降の物資動員計畫閣議で決定直ちに實施
 - 二十三日(土)
 - 大藏省では一般許可第三三號を以て指定外國人關係取引は一月間千圓を限度として許可することとなる
 - 上海銀業公會創立總會
 - 二十六日(火)
 - 大藏省短期資金運用に關し引受制度を實施日本興業銀行に發令
 - 二十七日(火)
 - 東亞海運株式會社公布され廿八日より
 - 二十九日(金)
 - 第二十四年(即ち昭和十六年)度生産物計畫に關し十六年度生産物計畫大改訂を閣議で決定
 - 法幣安定委員會の報告に基づき在上海外國銀行十四行は一律に自由市場との外貨取引を中止

三十日(土)
○株式價格統制令公布即日施行
三十一日(日)
○上海市碼頭工會成立大會市商會に於て舉行

九月中

一日(月)
○中支における邦人企業につき興亞院中支連絡部は、邦人企業監督要領を設け、これが指導監督の任に當つてゐるが、更に「工業監督實施細則」を實施して指導監督の強化を図ることとなつた
○中支邦人輸入配給組合聯合會各組合別事務局を廢止し綜合事務局を設置す
○上海外油四社ガソリン、潤滑油其他潤滑サービス料一切現金販賣を實施
三日(水)
○價格統制令改正勅令公布
○興亞院經濟官民懇談會開催
×星軍目的を完了して福州を撤退五日(金)
○七・七禁止許可品目一項目を追加合計八項目となる

八日(月)
○大蔵省英國委任統制官タンガニイカを取引取締規則適用國に追加指定
○大蔵省本邦法人九社を指定國法人に追加指定
○兄玉中支邦人輸入配給組合の調査問題に關し談話發表
○法幣安定委員會市場による爲替の供給停止
九日(火)
○法幣安定委員會九月中暫行辦法公布
○食料品輸入配給組合改組方針日俱における臨時總會に於て決定
十日(水)
×支那方面總司令長官島田繁太郎大將は、廣西軍鎮守府司令長官轉補後任司令長官に古賀峰一中將親補さる
○華中戰線停止中の六千餘名中三千餘名は、揚子江に歸還開始
○法幣安定委員會上海市場への爲替供給額を月六百萬兩と決定
十一日(木)
○在中支邦人系煙草製會同要圖與

亞院當局より發表
十二日(金)
○上海新設同業組合創立總會
十五日(月)
×上海防務司令官に牧田豐三郎少將轉職發令、前任者武田盛治少將其要職に
○上海銀行聯合準備委員會手形交換辦法を改正實施
十六日(火)
○對支輸出入計畫及本年度資金統制計畫開議で決定
十七日(水)
○爲替市場再出現
十八日(木)
×星軍湖南に新作戰開始
○國幣銀行對米公定レートを五兩% (從來五兩%)に引下ぐ
二十二日(月)
○法幣安定委員會香港銀行の法幣預金を凍結すると共に法幣の自由賣買を禁止す
二十三日(火)
○國民政府財政部通告を以て廿五日以降の上海より非占領地の海峽港又は都市間物資輸移は一切嚴禁

禁の旨公布
二十四日(水)
○中華民國に於ける指定外國人關係取引取締令外務省令第三五號を以て公布さる
二十六日(金)
○獨子江下流物資移動取締暫行規定公布され十月一日より實施
二十八日(日)
×星軍長沙完全占領
二十九日(月)
○上海外油四社ガソリン價格切符制を實施
×英米蘇三國會談モスクワで開催(十月一日まで)
十月(中)
一日(水)
○上海金銀市場金銀兌換相場を變更香港の對外爲替相場を採用
○重慶財政部中央銀行のマーチャントレット四片、七兩%を取消し三片、五兩% (法幣安定委員會の公定レート)に變更
二日(木)
×精兵駐日大使外交部長に、徐良外交部長駐日大使に更迭發令

四日(土)
×星軍鄭州完全占領
七日(火)
○日滿支經濟協同會議主體日滿支貿易連絡會議東京で開議(十日まで四日間)
○上海市場の不安定化、綿糸布狂騰金條一萬圓突破、軍票最近高値三九圓、賣三九圓、買、米兩札二四元一角、新高值
○工部局營業用場所に對する特別課金一九四二年一月一日以降評價額八%を基礎とし賦課の旨告示す
八日(水)
○國民政府綿糸布輸出許可制實施、綿糸布定期市場日狂騰から一轉低落
九日(木)
○佛印へ資源調査團派遣を閣議で決定
十日(金)
○本年度產額實收高二千三百九十四萬石(前年比二九三三萬石減)と發表さる
○英、米、所經濟金融會議香港で開

十三日(月)
○各商品市場一齊暴騰、砂糖、綿糸布市場急停停止
十六日(水)
×近衛内閣辭職
○日本向け綿製品の運送再開さる、小包一一個五十圓まで
十七日(金)
×後藤内閣組閣の大命東條陸軍中將に降下
○上海金條定期取引停止、二十日からは現物一本へ
二十日(月)
×佛印四島一上海間の直通無線電信開通
○上海棉業取引所廿一日より綿糸布とも新規賣買に對し特別課金(本課金の四倍)追徴理事會で決定
○重慶財政部次長上海市場への爲替供給繼續の旨聲明す
二十一日(火)
○中支物資統制委員會第二回會議與亞院中支連絡部に於て開催、和平地區への物資配給その他につき協議

二十三日(水)
○在上海滿洲通商代表部設廠的解散を以て總領事館に昇格開館
○對日輸入特別レートの規定標準を法幣對米相場三兩%に變更、對日輸入一七圓丁
○上海棉業取引所新規賣買停止
二十四日(金)
○特別對日輸入一五圓、輸出一八圓、北支向輸入一七圓、輸出一八圓、更改
○軍票最高值二圓、賣、二三圓丁買
二十五日(土)
○七百餘兩を一九とする上海報工會上海市商會に於て結成式舉行
二十七日(月)
○上海食料品商業組合創立總會
二十八日(火)
○重要産業第一次指定開議で正式決定
○重慶スゴークスマン上海に於ける海法幣價值維持再聲明
二十九日(金)
○法幣安定委員會十一月分上海爲替相場方針について聲明發表

三十日(水)
×在上海英國大使館情報部在支英人に對して最後的引揚勸告をなす
三十一日(木)
○綿糸布定期市場玉の解合完了
○金塊市場二萬三千一百圓の騰貴の高値
○米兩札三九圓丁の新高値
十一月(中)
一日(土)
×在支帝國行政機關の興亞院統合實施さる
○國民政府特種品輸出運銷管理暫行規則公布實施
○華北政務委員會對華北以外的小額通貨流通禁止辦法公布(明年一月一日實施)
二日(日)
×日光節約時間廢止上海時間に復す
四日(火)
○商工省關稅支輸出調整品目に四品目を追加指定
○中支軍管理工場中更に紡績及製油關係工場を國民政府に正式返還
○工部局物價統制に關し土地業稅附則第五十三條を追加告示

- 軍票對法幣兌換價二五圓丁、買二五圓と公定
○陸海軍新鋭部隊協力の下に英領ギルネオに敵前上陸
○臨時議會に於て警察三件、敵産管理法案、臨時警察處罰の特例に關する法律案等成立
○治安に關する緊急佈告を上海方面大日本陸海軍最高指揮官發す
○邦、外、華商各銀行預金支拂制限撤廢、一般業務再開
○中支調查機關聯合會時局對策調査情報連絡會議を日華俱樂部に開催
○共同租界事務會議議長岡本一策氏外務省に復歸し後任に岡崎勝男大使館事務官現職の候補に就任
十七日(水)
○重要物資のストック申告、上海方面陸海軍最高指揮官佈告
○日本陸海軍抑留封印倉庫内所在物資は返還もしくは正當買上げする旨上海陸海軍報道部長談話表
十八日(木)
○廿日以降の乗用又は運搬のための自動車(オートバイを含む)の運行を禁する旨局内總領事告示
○食米百キロ以上購入邦人に對し總領事館警察經濟係食米買附證明書を發行
○軍票買入を漢口、上海兩銀行にも許可
○上海陸海軍總司令部聯合創立總會十九日(金)
○中華民國駐荷特命全權大使に重光葵氏内閣發表
○海務院官制公布即日實施、長官に原清海軍中將
○ガソリン消費規正大綱與亞院華中連絡部發表
○上海捕獲取引所再開、臨時措置として特別還金金を従来の二倍に引上ぐ
二十日(土)
○陸海軍部隊協力下に未明ミンダオ島(比島)に上陸、午後五時首都ババオ完全占領
二十一日(日)
○日泰攻守同盟條約バンコックに於て正式調印
○工部局麥粉使用の凡ゆる種別、菓子及び指定以外のパン製造販賣禁止
二十二日(月)
○工部局燃料確保及びその消費量削減のため電力制當實施
○中支那郵政配給組合創立總會
○チャイナ英首相ワシントンに對する書
二十三日(火)
○午前十一時ウエー島完全占領
○敵産管理法並に同法關係諸法令公布即日施行
○紅口制邦人錢莊一部營業再開
二十四日(水)
○第七十九帝國議會召集さる
○中支航運統計組合船舶料決定、來年一月一日より實施
○外白渡橋一橋通關電車運轉
二十五日(木)
○大本營陸海軍部發表、午後五時五十分香港の敵降旗申出、軍は午後七時卅分停戦を命じたり
○日本人經營タタリ料金片道でも往復料金
二十六日(金)
○共同租界居住抗日害業公會、共產黨系宣傳機關、書店、印刷所等操縦
二十七日(土)
○英、米貨を基としたる對外為替相場を廢止、自主的為替改定開始につき買附相談發表
○大陸省為替相場公定指點要綱發表
○上海總力團國會第一回打台會日本俱樂部に開く
二十九日(月)
○自主的為替相場に關する大陸省令公布、來年一月一日より實施
○委任に關する緊急佈告を上海方面大日本陸海軍最高指揮官發す
三十日(火)
○日本内地輸入邦人必需食料品公定價格決定、卅一日より實施
○中央儲備銀行圖面の受附實施
三十一日(水)
○上海、關中國及外國輸入砂糖類並に化粧品類に臨時特種稅證の告示(告示第一六六〇號)一月一日より實施

統計資料

上海貿易國別輸出統計

金額單位=千元

年 度	1936年	1937年	1938年	1939年	1940年	1941年
國 別						
米 國	119,578	145,105	34,779	176,797	449,233	448,831
香 港	18,176	27,121	39,348	92,963	209,452	384,408
日 本	60,410	36,879	15,469	30,019	93,730	161,447
關 東 州	8,584	7,453	4,208	13,670	44,917	160,172
蘭 領 印 度	3,662	2,994	5,906	17,156	47,762	143,553
英 領 印 度	9,582	5,829	10,093	39,306	87,606	101,373
佛 領 印 度	742	987	2,552	14,903	9,982	91,700
英 國	37,474	47,713	26,799	66,107	154,500	89,835
英 領 植 民 地	6,701	7,283	7,782	25,798	60,312	83,611
泰 國	881	514	1,742	9,087	42,725	76,769
フ イ リ ッ プ ィ ン	5,282	5,875	5,996	15,039	31,657	70,753
ビ ル マ	317	166	497	1,853	10,328	27,288
エ ジ プ ト	2,981	1,903	1,949	3,363	2,945	22,122
南 阿	781	1,650	1,305	2,578	12,129	16,625
海 洲	1,886	2,488	1,416	4,065	13,460	8,708
加 奈 陀	1,920	2,032	1,310	4,124	14,171	5,778
セ イ ロ ン	966	678	450	1,823	4,369	1,622
ア ル ジ エ ン テ イ ン	153	137	144	126	850	1,475
ブ ラ ジ ル	54	21	8	87	644	888
モ ロ ッ コ	11,128	8,210	7,400	7,381	13,696	786
瑞 西	34	8	46	583	839	286
ア ル ジ エ リ ア	2,587	1,872	1,390	1,316	2,656	88
伊 太 利	3,213	6,399	768	2,236	5,523	11
佛 蘭 西	22,745	26,162	12,000	23,912	31,706	6
其 他 諸 國	52,517	63,148	33,727	44,401	27,743	30,882
總 計	362,274	404,672	223,039	594,693	1,372,910	1,939,012
純 輸 入 額	361,401	404,395	222,181	591,703	1,367,284	1,925,512

註 1941年ハ1月—11月迄ノ貿易額ナル

上海貿易國別輸入統計

金額單位=千海關金單位

年 度	1936年	1937年	1938年	1939年	1940年	1941年
國 別						
米 國	59,786	51,187	26,523	47,415	87,214	59,540
佛 領 印 度	1,639	2,875	6,094	4,111	20,534	29,731
蘭 領 印 度	10,801	11,307	8,124	10,298	16,600	29,404
英 領 印 度	7,508	4,054	5,314	42,147	46,079	25,228
ビ ル マ	668	206	299	798	1,988	24,746
日 本	33,007	33,750	16,991	36,733	23,616	24,696
ブ ラ ジ ル	1,581	1,016	1,143	13,802	12,773	22,309
泰 國	579	434	101	1,208	5,802	11,006
英 國	30,082	30,266	12,968	16,069	15,479	9,228
獨 逸	47,522	36,561	14,989	18,773	6,697	8,700
加 奈 陀	5,680	5,390	1,578	2,840	3,196	6,406
海 洲	5,525	4,540	1,398	10,351	8,339	6,312
香 港	1,623	1,677	2,455	3,279	4,499	5,678
フ イ リ ッ プ ィ ン	1,403	1,360	1,037	1,136	1,181	3,343
關 東 州	2,187	1,717	3,411	6,123	1,524	3,364
瑞 西	2,268	2,369	2,406	2,104	1,606	2,430
英 領 植 民 地	2,395	2,675	1,094	1,796	2,997	1,525
エ ジ プ ト	3,332	2,318	1,045	3,261	3,161	1,106
ア ル ジ エ ン テ イ ン	309	355	192	493	1,026	602
佛 蘭 西	3,963	2,870	1,838	3,019	1,388	356
英 領 東 ア フ リ カ	540	421	193	752	1,819	287
南 阿	166	82	395	463	381	256
ス エ ー デ ン	1,578	2,034	877	877	472	222
伊 太 利	4,850	3,045	1,455	3,535	1,335	128
其 他 諸 國	16,074	21,998	6,126	7,449	4,623	4,623
總 計	245,656	224,509	118,941	238,832	280,129	279,097
純 輸 入 額	244,732	223,642	116,426	235,618	275,191	273,652

註 1941年ハ1月—11月迄ノ貿易額ナル

上海貿易類別輸出統計

金額位單=元

△再輸入を控除す

年 度 別	1936年	1937年	1938年	1939年	1940年	1941年
動物及其產品	50,648,834	62,641,982	44,788,190	102,121,066	101,934,612	182,527,978
生皮、毛皮及毛皮	21,004,327	25,653,320	4,232,680	13,301,879	40,724,287	58,351,932
魚介及其他海產物	417,699	368,987	229,431	1,121,109	2,948,248	5,085,762
豆類	5,530,487	5,001,001	1,665,851	6,429,233	13,724,146	19,633,164
穀類及其製品	16,892,271	11,369,921	2,931,315	21,823,941	23,145,458	69,164,186
植物性染料	1,066,196	1,374,105	124,296	392,567	2,193,303	1,543,797
鮮果及加工果實	640,623	611,523	282,858	1,761,124	3,842,727	4,788,406
調味料及香料(化學藥劑を含まず)	3,634,194	3,647,834	1,330,683	5,663,863	13,686,951	21,018,559
油脂及蠟	72,919,779	86,267,738	7,461,391	6,316,657	33,914,323	39,393,695
種子	20,191,077	16,399,135	683,986	2,816,190	10,329,825	24,587,149
酒類	230,741	371,300	479,513	1,322,049	5,835,147	14,502,525
砂糖	495	1,535	266	911	9,297	18,698
茶	24,902,427	23,367,530	13,365,642	11,377,733	42,309,184	34,647,997
煙草	3,351,345	3,446,838	3,422,449	4,444,135	6,514,351	24,044,371
蔬菜	1,319,500	1,142,102	733,704	2,001,810	7,433,972	16,058,523
其他植物製品	2,158,243	2,760,561	2,660,136	6,944,262	15,160,335	26,646,969
竹	334,556	256,323	102,308	317,402	638,350	1,406,119
燃料	197,834	314,431	188,717	1,374,183	9,704,143	11,943,201
廢物	60,377	23,736	5,120	52,370	23,167	14,871
木材・木及其製品	767,187	946,113	782,691	2,760,890	8,075,496	15,433,702
紙	960,180	1,528,027	1,120,551	3,142,653	13,341,634	26,599,814
紡織纖維	43,373,399	55,876,373	38,195,305	157,991,711	313,082,330	296,990,236
絲・絹・綢緞品及リヤス製品	29,150,638	25,023,863	39,414,370	79,756,590	172,422,658	268,140,966
織物	18,770,557	16,438,507	20,151,706	55,534,971	112,021,705	249,303,427
其他紡織產品	3,070,610	3,704,080	5,035,872	20,919,478	66,403,545	122,452,338
鑽石・金銀及其製品	18,060,796	35,965,302	6,556,077	20,737,043	73,355,237	153,157,426
硝子及其製品	154,333	235,844	798,343	4,419,231	18,678,830	31,400,370
石・土砂及其製品	1,784,763	1,976,438	1,309,207	5,802,205	14,472,208	21,259,826
化學藥品及化學合成品	2,244,089	1,916,697	2,731,708	11,331,843	34,974,035	49,027,506
印刷	1,938,047	2,104,367	2,244,890	5,499,678	7,121,914	7,121,914
雜貨	10,540,082	13,565,193	19,336,793	35,967,140	97,053,730	132,724,087
合 計	361,400,621	404,395,416	222,181,071	591,703,197	1,367,283,727	1,929,511,835

註 1941年へ1月——11月迄ノ貿易額デアル

— (231) —

上海貿易類別輸入統計

金額單位=海關金單位

△再輸出を控除す

年 度 別	1936年	1937年	1938年	1939年	1940年	1941年
生絲	1,353,685	3,024,725	502,172	537,122	97,194	10,916
漂白及染色綿布	2,058,303	1,358,039	734,937	1,076,237	448,364	212,103
絨・染・綿布	219,908	163,977	46,435	126,687	249,261	42,375
其他綿布	363,619	306,343	139,542	238,980	170,769	66,795
棉花・絲・及・雜貨	19,096,592	7,726,118	5,440,800	64,013,767	78,654,854	57,940,156
絲・製・雜貨	446,655	464,545	332,131	335,532	194,955	243,464
亞麻・苧麻・大麻・黃麻・及其製品	3,574,265	3,044,632	1,698,276	2,749,619	3,636,070	1,574,898
羊毛及毛製品	11,122,448	13,861,658	3,352,080	7,522,216	9,632,131	5,960,990
生糸(人絹を含む)及其製品	2,329,427	3,869,942	2,258,098	5,176,961	4,859,424	4,709,846
金屬及礦石	27,745,465	33,759,061	11,604,037	14,257,117	18,588,819	6,595,148
機械及工具	14,793,332	15,579,234	7,575,848	8,209,554	7,144,331	4,902,091
車輛及船舶	10,615,070	9,927,346	2,790,679	3,312,436	3,321,893	3,429,573
其他金屬製品	16,039,543	13,432,055	4,370,160	5,748,973	4,365,031	3,976,775
魚介及其他海產物	3,105,431	2,293,588	1,135,769	1,360,686	1,777,917	1,773,406
畜產食品・罐詰及其他食品	2,683,364	2,297,399	1,943,938	2,175,247	2,395,989	3,795,012
穀物及穀粉	6,784,871	5,226,843	4,619,356	16,991,879	29,342,203	69,034,801
果實・種子及蔬菜	1,893,009	1,849,113	2,076,665	3,240,521	2,952,232	3,106,965
調味料及香料	1,454,332	1,375,468	938,475	1,351,030	1,533,888	2,031,316
砂糖	1,761,238	1,732,707	3,081,422	4,316,443	6,436,575	15,587,517
酒・麥酒及其他飲料	551,831	455,113	365,834	842,112	840,006	1,091,194
煙草	6,740,693	7,124,613	7,909,126	13,013,678	15,345,329	8,272,803
化學藥品及製藥劑	12,361,093	12,556,067	6,843,513	11,553,042	12,129,746	10,305,240
染料・顏料・ベイント及ワニス	13,626,107	10,514,979	5,867,834	9,504,372	7,017,329	8,238,567
油脂・蠟燭・石鹼・ガム及レジン	17,889,410	16,213,574	13,104,356	18,651,683	15,742,053	17,486,011
紙・書籍・地圖及ハルブ	18,450,595	20,001,392	9,018,989	10,139,376	11,651,835	12,442,668
皮革及其他動物實製品	1,176,557	1,161,622	805,000	1,707,963	2,196,148	4,339,899
木材	5,829,635	4,392,965	1,985,483	4,511,025	5,828,680	4,716,798
木・竹・藤・麻・及其製品	1,909,368	1,567,091	943,663	1,681,031	1,886,452	1,497,363
石炭・燃料・ピツチ及ケール	1,537,895	1,345,456	3,244,515	9,792,082	18,221,746	10,473,433
陶器・磁器・鐵器及硝子類	1,077,589	1,159,699	675,645	774,960	615,696	927,829
石材・土砂及其製品	764,652	828,380	426,423	849,544	869,431	627,391
雜貨	37,833,273	19,946,432	5,114,769	9,105,812	7,044,332	8,198,743
合 計	244,731,710	223,841,871	116,426,002	235,617,577	275,190,897	273,652,676

註 1941年へ1月——11月迄ノ貿易額デアル

— (232) —

上海貿易ブロック別輸入統計 (1)

金額単位=千海關金單位

類別	日本及關東州		南方共榮				
	日 韓 台	關 東 州	佛 度	印 支	暹 羅 印 度	比 律 賓	海 峽 民 地
生 綿 布	8	—	—	—	—	—	—
漂 白 及 染 色 綿 布	50	—	—	—	—	—	—
擦 染 綿 布	3	—	—	—	—	—	—
其 他 綿 布	16	—	—	—	—	—	—
棉 花 綢 糸 及 縫 糸	77	—	6	—	—	—	—
綿 製 織 貨	66	—	—	—	—	—	—
亞 麻 苧 麻 大 麻 黃 麻 及 其 製 品	72	—	134	—	95	3	—
羊 毛 及 毛 製 品	1,171	—	—	—	—	—	—
生 系(人 絹 を 含 む)及 其 製 品	4,108	—	—	—	—	—	—
金 屬 及 鑄 石	326	576	289	31	18	608	—
機 械 及 工 具	1,694	—	—	—	—	1	—
車 輛 及 船 艇	1,831	—	—	—	—	—	—
其 他 金 屬 製 品	712	1	—	18	—	—	—
魚 介 及 其 他 海 產 物	1,237	69	78	141	187	180	—
畜 產 食 料 品 罐 詰 及 其 他 食 料 品	1,204	40	19	273	47	23	—
鹽 物 及 鹽 鈣	32	3	22,220	4,949	—	6	—
果 實 種 子 及 蔬 菜	1,662	786	22	239	179	25	—
漢 藥 劑 及 香 料	527	72	44	209	—	150	—
砂 糖	1,276	5	—	11,243	—	—	—
酒 麥 酒 及 其 他 飲 料	480	—	—	—	—	—	—
煙 草	374	—	—	15	201	—	—
化 學 藥 品 及 製 藥 劑	490	1	11	953	20	—	—
染 料 顏 料 ベ イ ン ト 及 ワ ニ ス	134	1	29	86	—	35	—
油 脂 蠟 燭 石 鹼 ガ ム 及 レ ジ ン	207	1,400	51	10,072	221	23	—
紙 書 籍 地 圖 及 パ ル プ	1,402	7	—	—	—	7	—
皮 革 及 其 他 動 物 質 製 品	79	1	803	27	—	10	—
木	584	—	12	31	1,698	40	—
木 竹 藤 柳 檜 參 茸 及 其 製 品	308	31	26	72	224	103	—
石 炭 燃 料 ビ ッ タ 及 タ ー ル	2,352	3	5,839	735	—	—	—
陶 磁 器 玻 璃 織 器 及 硝 子 類	610	81	—	—	—	—	—
石 材 土 砂 及 其 製 品	248	29	124	—	—	—	—
雜 貨	1,879	187	7	201	45	298	—
*其 他	81	1	18	109	412	14	—
合 計	24,695	3,264	29,731	29,404	3,342	1,325	—

註 * 印ノ項ハ海關統計中ノ「Other Countries」ニ含マレル上記各國ノ貿易額デ、實際ニハ三十二ノ類
 目中「一」デ表サレタキル類ノイヅレカニ含マレルベキ數字デアル、尙上記統計ハ一月以降十一
 月迄ノ貿易額デアル。

上海貿易ブロック別輸入統計 (2)

金額単位=千海關金單位

國	香 港	泰 國	米 國	英 國 及 其 屬 領				其 他 諸 國	總 額
				英 國	加 奈 陀	英 領 印 度	ビ ル マ		
—	—	—	2	1	—	—	—	—	11
—	—	—	119	16	—	—	—	27	212
2	—	—	21	19	—	—	—	—3	42
1	—	—	12	37	—	—	—	—	67
16	—	—	10,292	129	—	21,331	1,511	24,579	57,940
20	—	—	51	13	2	—	—	91	242
112	—	—	17	206	—	900	—	36	1,575
22	—	—	199	2,572	—	—	—	1,967	5,961
14	10	—	305	187	6	—	—	85	4,710
456	—	—	3,214	491	190	297	—	63	6,595
3	—	—	1,788	1,335	86	—	—	—205	4,602
—	—	—	2,123	185	1	—	—	—310	3,430
39	—	—	1,836	371	38	—	—	962	3,977
39	186	—	16	—	70	18	—	—423	1,772
50	22	—	1,358	109	22	37	—	408	3,795
172	7,552	—	5,122	1	3,451	5	22,924	2,614	69,035
45	—	—	445	1	—	24	—	9	3,107
432	47	—	420	8	237	45	2	—112	20,81
2,386	—	—	625	3	—	—	—	—	50
3	—	—	35	442	28	—	—	—	103
7	—	—	6,739	264	—	704	1	—	8,372
780	—	—	4,382	1,159	89	—	—	14	2,736
102	10	—	1,196	509	29	17	—	26	6,065
67	61	—	4,298	117	—	173	241	233	322
176	—	—	8,554	262	2,007	—	—	—	28
302	714	—	1,452	41	94	55	—	359	394
—	235	—	1,743	—	29	—	—	—	350
60	128	—	40	4	—	86	—	255	160
—	—	—	100	—	—	1,445	—	—	—1
4	—	—	117	78	—	—	—	—	38
104	—	—	70	31	—	—	—	—	21
154	2,040	—	2,868	548	11	15	11	43	—78
11	30	—	67	39	19	70	55	321	4,192
5,576	11,006	59,546	9,229	6,409	25,228	24,745	6,312	39,083	279,087

上海貿易ブロック別輸出統計 (A)

金額単位=千元

類別	日本及關東州		南方 共 榮				
	日 本	關 東 州	佛 印 支 那	暹 羅 印 度	比 律 賓	海 峽 植 民 地	
動物及其產品	9,246	5,390	597	768	2,511	1,244	
生皮、毛皮及毛皮	1,337	11,857	130	16	—	47	
魚介及其他海產物	293	546	—	134	102	913	
豆類	13,317	2	97	16	729	4,827	
穀類及其製品	37,962	24,448	1,057	12	156	336	
植物性染料	—	1,361	—	—	—	—	
鮮果及加工果實	90	10	125	20	547	630	
演劇劑及香料 (化學藥劑を含まず)	853	990	160	513	94	151	
油脂及蠟	1,006	17,188	174	—	20	58	
種子	14,622	7,104	3	17	341	269	
酒類	38	1	125	480	33	127	
砂糖	—	—	8	—	—	—	
茶葉	18	14,669	111	52	7	1,182	
煙草	114	1	394	25	—	—	
藥劑	661	330	631	299	2,401	6,596	
其他植物製品	491	1,087	730	441	2,758	3,413	
竹	93	—	—	180	45	117	
燃料	1,393	—	407	1,368	239	1,016	
鑄鐵	—	—	—	—	—	—	
木材、木及其製品	61	16	106	735	473	552	
紙	240	29	3,408	1,198	134	3,591	
紡織品	43,334	31,422	4,921	500	228	1,965	
鐵系、鐵系製品及メッキ製品	9,341	5,907	12,849	59,880	8,195	8,175	
鐵製品	2,456	119	25,139	34,903	21,808	11,068	
其他紡織品	8,432	4,742	13,125	9,241	12,359	9,504	
鑄石、金屬及其製品	12,880	29,424	19,346	10,370	6,671	9,091	
硝子及其製品	251	—	633	6,168	2,009	3,711	
石灰、土砂及其製品	133	9	300	2,425	2,651	2,197	
化學藥品及化學合成品	838	779	701	1,321	313	4,344	
印刷物	197	24	102	727	166	540	
雜貨	1,411	2,075	6,157	10,007	5,651	12,945	
*其他	290	2	54	247	117	2	
合 計	161,447	160,172	91,700	148,553	70,753	88,611	

註 * 印ノ項ハ海關統計中ノ「Other Countries」ニ含マレル上記各國ノ貿易額デ、實際ニハ三十一ノ類別中「一」ヲ表サレタキル類ノイテレカニ含マレルベキ數字デアル。尙上記統計ハ一月以降十一月迄ノ貿易額デアル。

上海貿易ブロック別輸出統計 (B)

金額単位=千元

國	米 國	英 國 及 其 領 屬					其他諸國	總 額
		英 國	加 拿 大	英領印度	ビルマ	澳 洲		
香 港	10,822	160	99,864	50,076	4	943	51	182
泰 國	644	—	43,710	34	20	51	3	—
—	2,875	22	—	—	—	16	40	—
—	411	51	132	—	—	69	—	—
—	5,057	184	1	—	—	—	—	—
—	183	—	—	—	—	—	—	—
—	1,923	107	1,103	—	—	20	—	—
—	15,372	354	736	1,868	8	3	5	—
—	13,634	—	739	6,402	118	61	8	110
—	1,148	4	1,334	—	—	—	—	—
—	3,335	1,092	6	—	—	4,250	545	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	7,411	73	8,322	—	65	74	8	32
—	8,372	—	—	—	—	500	—	—
—	4,392	460	188	1	—	—	28	—
—	9,196	1,036	5,265	349	124	14	979	—
—	703	34	88	2	—	56	62	—
—	5,835	—	3	—	—	672	—	—
—	2	—	10	—	—	—	—	—
—	2,947	330	3,297	42	57	4,508	614	8
—	11,102	1,598	664	—	—	3,310	1,237	—
—	8,794	472	160,725	25,532	1,177	14,191	119	1,077
—	72,319	12,377	54,931	743	1,611	12,789	2,791	1,108
—	90,396	19,184	3,419	131	59	24,214	8,419	1,084
—	20,138	11,000	18,086	106	194	1,665	3,333	570
—	15,962	10,883	3,732	59	106	21,188	2,456	354
—	6,459	2,608	1,859	—	955	2,964	—	161
—	6,739	1,793	3,429	77	121	193	305	—
—	22,505	2,215	7,803	2,333	7	1,054	678	1,085
—	4,035	514	312	63	—	116	297	—
—	31,782	9,927	28,493	1,942	761	8,414	4,116	2,920
—	—	401	60	25	245	38	1,174	12
—	294,408	76,769	448,831	69,835	5,778	101,373	27,288	8,703
—	—	—	—	—	—	—	—	74,791
—	—	—	—	—	—	—	—	1,339,012

手形交換所手形交換高週別表

(上海證券交易所手形交換所手形交換高週別表)

週 別	交 換 額		轉 帳 數	代 收 數		合 計
	國 幣	外 幣		會 員 往 來	外 行	
1	243,716,749.63	14,614,896.22	689,713,883.91	83,191,613.27	85,243,983.00	1,097,839,736.08
2	285,257,973.60	13,044,147.19	745,684,783.55	109,296,947.20	86,979,900.88	1,330,232,745.13
3	305,485,347.56	14,024,990.91	990,299,489.65	133,902,061.74	99,243,153.39	1,605,455,024.25
4	54,994,833.05	3,123,962.14	103,190,729.32	13,201,153.24	11,739,383.84	276,983,083.09
5	220,271,993.21	11,033,489.34	619,565,338.86	97,339,150.52	41,090,597.36	839,323,333.89
6	247,503,388.60	9,762,013.13	686,044,114.53	106,922,654.61	54,209,798.06	1,103,800,973.30
7	273,973,313.50	10,740,889.43	766,077,510.21	113,091,762.73	69,408,491.53	2,323,392,772.80
8	311,393,378.87	10,249,183.28	906,086,355.00	131,536,240.41	74,637,484.46	1,435,163,787.01
9	273,549,243.43	10,483,419.08	735,612,389.11	113,635,743.29	74,320,883.02	1,332,392,665.51
10	296,893,442.13	9,038,014.20	808,120,637.20	133,941,711.02	75,774,021.06	1,332,392,665.51
11	295,483,333.65	10,339,890.60	892,333,980.83	139,693,404.37	83,336,390.23	1,332,392,665.51
12	323,083,124.89	10,232,080.13	913,334,037.12	139,391,233.85	83,336,390.23	1,332,392,665.51
13	236,423,294.93	10,111,163.13	887,173,177.12	132,790,306.83	87,114,723.65	1,332,392,665.51
14	215,603,268.61	6,433,393.48	602,244,416.80	97,487,447.47	69,404,317.03	1,332,392,665.51
15	281,563,446.35	9,133,373.09	713,092,949.49	133,223,476.57	93,279,709.24	1,332,392,665.51
16	286,893,476.05	10,270,878.04	470,868,538.12	139,338,582.70	116,092,947.39	1,332,392,665.51
17	301,143,204.18	14,297,903.13	984,232,932.72	137,993,218.73	95,431,732.73	1,332,392,665.51
18	272,813,599.02	9,519,542.86	795,363,692.81	127,439,844.36	91,773,652.32	1,332,392,665.51
19	263,997,977.52	11,038,754.17	767,029,880.93	119,633,411.07	83,161,432.44	1,332,392,665.51
20	290,043,151.67	11,992,021.79	812,704,538.01	113,796,332.28	90,203,883.53	1,332,392,665.51
21	248,039,947.08	11,693,881.72	739,461,036.63	116,640,238.70	74,729,135.87	1,332,392,665.51
22	246,909,691.53	11,593,333.13	733,222,373.88	105,393,337.01	83,336,390.23	1,332,392,665.51
23	240,546,108.66	15,189,347.29	107,093,194.33	116,510,244.87	80,046,172.27	1,332,392,665.51
24	251,635,237.83	11,919,491.70	829,331,235.46	133,668,537.73	92,196,570.57	1,332,392,665.51

25	277,277,140.20	8,090,793.20	833,939,088.06	135,073,926.28	91,619,512.79	1,340,635,906.61
26	266,576,227.14	8,653,354.43	702,543,334.60	104,593,657.06	84,015,070.76	1,316,089,444.03
27	289,086,130.79	8,284,137.80	910,340,487.05	124,657,049.21	97,171,988.10	1,430,189,703.14
28	286,086,761.12	6,131,201.12	863,000,714.81	134,373,733.88	96,719,471.78	1,346,545,697.41
29	296,603,892.40	5,303,896.33	833,000,793.27	130,930,199.80	86,873,504.77	1,235,567,072.72
30	274,100,102.23	7,143,632.22	1,531,997,930.62	176,270,381.35	139,419,516.06	1,342,042,389.63
31	290,693,969.29	5,873,061.84	940,539,692.16	141,612,241.32	109,623,151.69	1,347,344,116.40
32	333,799,025.67	4,441,105.64	1,073,311,387.69	173,750,712.07	137,382,128.15	1,719,633,820.22
33	337,416,457.65	3,673,306.37	1,207,749,386.97	201,613,691.92	133,696,510.23	1,904,137,933.29
34	375,627,797.43	2,082,143.92	1,387,385,415.73	210,023,026.62	133,061,931.01	1,973,633,974.76
35	336,159,322.44	2,083,300.38	1,388,795,431.97	183,173,995.07	133,333,833.14	1,973,469,733.00
36	336,655,572.00	3,424,301.95	1,313,913,383.16	169,333,743.70	150,241,371.31	1,417,166,697.94
37	305,233,933.00	1,735,023.79	813,279,146.01	162,672,533.08	134,126,012.11	1,342,042,389.63
38	281,431,988.80	1,667,019.13	637,277,051.33	172,247,533.77	161,061,324.23	1,342,042,389.63
39	342,779,895.04	1,539,177.04	739,080,081.77	230,351,546.31	180,170,219.07	1,551,430,919.73
40	351,323,901.29	667,743.36	652,534,601.19	138,206,133.25	124,131,473.13	1,217,333,722.42
41	360,383,111.33	1,011,034.94	884,743,305.88	292,533,514.33	187,630,913.54	1,703,900,411.73
42	406,209,651.88	2,035,333.75	1,139,473,430.87	284,113,731.85	198,599,389.12	1,938,433,737.23
43	439,635,919.14	2,035,333.75	1,192,499,309.29	236,973,622.08	138,003,197.36	2,104,173,431.77
44	479,750,570.35	637,376.77	1,196,666,104.73	314,132,655.81	254,176,354.30	2,245,469,053.87
45	397,271,543.75	1,094,904.80	1,095,274,439.21	236,967,913.62	197,330,279.30	1,523,123,735.44
46	439,083,935.16	432,239.02	731,673,633.57	211,726,976.62	160,597,532.63	1,491,736,139.51
47	336,656,402.36	304,453.90	299,204,097.08	73,129,216.51	6,033,173.10	1,431,515,453.39
48	110,211,971.71	71,392.00	137,874,043.14	51,636,028.97	11,579,221.69	305,673,837.84
49	84,637,096.21	—	132,212,297.31	60,459,748.97	17,024,709.27	271,029,143.37
50	71,381,387.32	—	—	—	—	—
51	—	—	—	—	—	—

倫敦別月現物外那支

(單位=噸)

題 類 別	商 品	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月
英 國	最 廉 價	44.00	44.00	42.00	42.00	39.00	40.00	47.00	47.00	48.00	48.00	50.00	53.00
(1898年)	最 廉 價	44.00	42.00	42.00	39.00	38.00	38.00	43.00	47.00	47.00	47.00	47.00	53.00
佛 國	最 廉 價	45.00	42.47	40.44	40.44	40.00	38.00	45.00	46.00	46.00	46.00	48.00	52.00
(1908年)	最 廉 價	42.47	40.44	40.44	40.00	37.00	37.00	42.00	45.00	45.00	46.00	46.00	52.00
ス ー	最 廉 價	38.50	38.50	34.00	34.00	32.00	30.00	30.00	30.50	30.50	29.50	32.00	37.00
(1912年)	最 廉 價	38.50	38.50	34.00	34.00	32.00	30.00	30.00	30.50	30.50	29.50	32.00	37.00
普 魯	最 廉 價	34.35	34.00	31.00	31.00	29.00	21.00	27.00	30.00	29.00	29.50	32.00	37.00
(1913年)	最 廉 價	34.35	34.00	31.00	31.00	29.00	21.00	27.00	30.00	29.00	29.50	32.00	37.00
中 國	最 廉 價	34.00	31.00	31.00	32.00	28.50	31.00	38.00	38.00	38.00	38.00	38.50	43.50
(1925-1947)	最 廉 價	34.00	31.00	31.00	32.00	28.50	31.00	38.00	38.00	38.00	38.50	38.50	43.50
暹 羅	最 廉 價	47.00	47.00	47.00	43.00	43.00	46.00	51.00	57.00	60.00	60.00	70.00	72.00
(1903年)	最 廉 價	47.00	47.00	47.00	43.00	43.00	46.00	51.00	57.00	60.00	60.00	70.00	72.00
津 浦	最 廉 價	16.00	16.00	14.00	14.00	14.00	14.00	14.00	17.00	17.00	17.00	18.00	20.00
(1908年)	最 廉 價	16.00	16.00	14.00	14.00	14.00	14.00	14.00	17.00	17.00	17.00	18.00	20.00
津 浦	最 廉 價	15.00	15.00	13.00	13.00	11.00	10.00	12.00	12.50	13.00	13.00	15.00	18.00
(1908年)	最 廉 價	15.00	15.00	13.00	13.00	11.00	10.00	10.00	12.50	12.50	13.00	13.00	18.00
津 浦	最 廉 價	13.00	13.00	12.00	11.00	10.00	10.00	10.00	12.50	12.50	13.00	13.00	18.00
(1910年)	最 廉 價	13.00	13.00	12.00	11.00	10.00	10.00	10.00	12.50	12.50	13.00	13.00	18.00
津 浦	最 廉 價	17.00	16.00	14.00	14.00	12.00	10.00	13.00	14.00	14.00	15.00	17.00	20.00
(1905年)	最 廉 價	17.00	16.00	14.00	14.00	12.00	10.00	13.00	14.00	14.00	15.00	17.00	20.00
津 浦	最 廉 價	15.00	15.00	14.00	14.00	14.00	14.00	13.00	15.00	15.00	16.00	18.00	20.00
(1911年)	最 廉 價	15.00	15.00	14.00	14.00	14.00	14.00	13.00	15.00	15.00	16.00	18.00	20.00
津 浦	最 廉 價	13.00	13.00	12.00	12.00	10.50	9.00	9.00	13.00	13.00	13.00	15.00	19.00
(1913年)	最 廉 價	13.00	13.00	12.00	12.00	10.50	9.00	9.00	13.00	13.00	13.00	15.00	19.00
津 浦	最 廉 價	13.00	13.00	11.00	11.00	10.00	9.00	9.00	11.00	11.00	12.00	13.00	16.00
(1917年)	最 廉 價	13.00	13.00	11.00	11.00	10.00	9.00	9.00	11.00	11.00	12.00	13.00	16.00
津 浦	最 廉 價	10.00	10.00	10.00	10.00	9.00	9.00	9.00	10.00	10.00	11.00	14.00	15.00
(1937年)	最 廉 價	10.00	10.00	10.00	10.00	9.00	9.00	9.00	10.00	10.00	11.00	14.00	15.00

支那内債現物月別上海相場

(單位=元)

國 別	高 低	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月
統 計	甲 { 最高	81.65	76.20	76.70	76.20	76.10	80.85	80.15	79.00	79.50	78.50	77.40	75.00
	最低	74.95	68.80	73.10	72.80	73.80	76.60	73.65	75.90	77.10	72.80	72.40	58.00
統 計	乙 { 最高	75.90	69.40	68.90	68.00	68.80	75.00	74.40	74.80	75.00	73.40	72.40	70.40
	最低	69.10	64.60	67.35	65.30	66.25	69.50	71.10	69.10	71.55	69.80	67.10	55.80
統 計	丙 { 最高	72.05	67.15	66.95	66.95	67.25	73.35	72.35	71.25	72.80	72.05	70.70	68.15
	最低	64.90	62.25	65.30	63.00	64.30	67.80	68.70	66.15	70.55	65.80	65.05	55.00
統 計	丁 { 最高	70.30	63.90	64.55	64.40	65.35	70.40	69.80	68.80	69.70	69.15	67.50	66.00
	最低	63.45	59.80	62.80	61.80	62.20	65.80	67.70	64.95	68.80	64.30	63.40	51.00
統 計	戊 { 最高	70.35	65.35	65.20	64.90	66.00	71.40	71.25	69.45	70.80	70.00	69.80	67.50
	最低	63.85	60.10	63.35	62.10	63.35	66.55	68.15	65.20	68.45	65.65	65.00	54.00
統 計	六 { 最高	7.00	7.55	—	—	—	—	—	—	6.50	—	—	—
	最低	6.75	7.00	—	—	—	—	—	—	6.10	—	—	—

價物賣卸商邦海海上

(昭和十六年中)
當會 議 所 調 査
(單位=圓元)

			電信爲替市中實		單 票		華 票(百元)		海關金單位換算率	
			イギリス (一円)	アメリカ (百元)	(午 後)		対法幣レート			
			現 物	現 物	市 値	中 値	賣 値	買 値	華 票	法 幣
一 月	最 高	片 3%	弗 5%	元 59%	59%	元 168.00	177.50	元 2,796	元 5,985	
	最 低	3 ^{01/4}	5%	57%	58%	168.00	169.00	2,792	4,831	
	平 均	3 ^{03/4}	5%	59—	59%	168.00	172.35	2,793	4.88	
二 月	最 高	3%	5%	58%	58%	—	179.00	2,799	5,119	
	最 低	3 ^{01/4}	5%	54%	55—	—	170.50	2,794	4,921	
	平 均	3%	5%	55%	56—	—	175.87	2,796	5,022	
三 月	最 高	3%	5%	55%	55%	—	187.00	2,794	5,309	
	最 低	3 ^{12/4}	5%	40—	41%	—	174.50	2,794	4,974	
	平 均	3 ^{03/4}	5%	50%	48%	—	180.10	2,794	5,168	
四 月	最 高	3 ^{15/4}	5%	47%	48—	—	188.00	2,813	5,341	
	最 低	3 ^{11/4}	5%	43—	43%	—	180.50	2,796	5,201	
	平 均	3%	5%	45%	46—	—	182.98	2,800	5,279	
五 月	最 高	3%	5%	43%	44—	—	188.00	2,796	5,341	
	最 低	3%	5%	41%	42%	—	178.50	2,794	5,036	
	平 均	4%	5 ^{11/4}	42 ^{03/4}	43%	—	182.39	2,796	5,182	
六 月	最 高	3 ^{11/4}	5%	45—	45%	—	182.00	2,794	5,109	
	最 低	3%	5%	43—	43%	—	179.00	2,972	5,085	
	平 均	3 ^{10/4}	5%	44%	44%	—	180.28	2,794	5,121	
七 月	最 高	3%	5%	44%	45—	—	190.00	2,796	5,421	
	最 低	3%	5%	42—	43%	—	182.00	2,794	5,166	
	平 均	3%	5 ^{17/4}	43%	44%	—	185.14	2,794	5,268	
八 月	最 高	3%	5%	43%	42%	—	208.00	2,796	5,924	
	最 低	2%	4%	39%	40%	—	190.00	2,794	5,440	
	平 均	2%	4 ^{07/4}	41—	41%	—	197.44	2,795	5,629	
九 月	最 高	3%	5%	40%	40%	—	210.00	2,796	6,012	
	最 低	2%	4%	39%	40—	—	201.99	2,794	5,840	
	平 均	2 ^{07/4}	4 ^{01/4}	40%	40%	—	205.23	2,795	5,884	
十 月	最 高	3%	5%	39%	40%	—	205.00	2,796	6,711	
	最 低	2%	5%	22—	23—	—	205.00	2,794	5,952	
	平 均	3%	5%	32%	33%	—	205.00	2,795	6,230	
十一 月	最 高	3%	5%	31%	32%	—	205.00	2,794	6,790	
	最 低	3%	5%	23%	23%	—	205.00	2,794	6,794	
	平 均	3%	5%	25%	25%	—	205.00	2,794	6,762	
十二 月	一 日	3%	5%	27%	28—	—	205.00	2,794	6,790	
	六 日	3%	5%	31%	31%	—	205.00	2,794	6,790	

品名	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
白米	80 斤	¥102.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
熟米	80 斤	¥101.00	108.00	117.00	142.50	133.00	137.50	155.00	158.50	144.50	192.00	205.00	205.00
松江米 (No. 1)	"	105.00	72.60	88.50	115.00	96.00	97.00	98.00	88.50	135.50	133.00	206.00	206.00
松米 (No. 1)	"	84.00	88.00	111.40	149.00	136.50	127.50	132.00	129.00	138.80	134.00	191.50	191.50
外米 (No. 1)	"	77.00	82.00	107.20	140.50	121.50	122.00	122.00	—	120.00	152.00	173.00	178.00
同(購買) (上質品)	"	70.20	80.00	107.50	139.00	131.50	122.00	122.00	113.00	114.50	159.00	158.00	158.00
麥小	100 市斤	45.40	49.60	55.20	—	—	¥40.00	51.18	58.08	—	—	—	33.70
大麥	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外麥	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豆	50 斤	—	—	46.60	—	—	43.00	47.50	56.00	—	92.00	—	¥22.00
大豆	"	41.00	44.00	—	—	—	—	—	75.57	—	105.00	84.50	33.50
小豆 (江北平製品)	60 斤	39.90	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豌豆 (嘉定)	"	39.30	—	54.00	—	51.06	49.50	55.41	60.00	¥80.74	66.00	¥35.50	¥38.00
麥粉	1 袋	23.00	—	29.40	28.50	—	¥29.50	30.00	34.00	—	—	—	—
麥皮 (上海)	60 斤	23.10	24.20	28.50	28.50	27.00	31.00	29.00	33.00	34.00	50.00	55.00	¥37.00

統計資料

—(232)—

[illegible][illegible]

[illegible]

化學工業品

品名	単位	数量	単価	金額	備考
硝酸アンモニウム	100kg	100	27.00	2,700.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	26.00	2,600.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	25.00	2,500.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	24.00	2,400.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	23.00	2,300.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	22.00	2,200.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	21.00	2,100.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	20.00	2,000.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	19.00	1,900.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	18.00	1,800.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	17.00	1,700.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	16.00	1,600.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	15.00	1,500.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	14.00	1,400.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	13.00	1,300.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	12.00	1,200.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	11.00	1,100.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	10.00	1,000.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	9.00	900.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	8.00	800.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	7.00	700.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	6.00	600.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	5.00	500.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	4.00	400.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	3.00	300.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	2.00	200.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	1.00	100.00	
硝酸アンモニウム	100kg	100	0.00	0.00	

[illegible]

策 劃

紙種	紙 (18封度)	1連	21.00	34.00	38.00	37.00	38.00	36.00	37.00	46.00	48.00	75.00	72.00	70.00	25.00
白有光紙 (18封度)	"	"	35.00	39.00	43.00	45.00	45.00	45.00	45.00	56.00	58.00	90.00	90.00	90.00	29.00
色有光紙 (18封度)	"	"	38.50	37.00	45.00	49.00	41.00	47.00	50.00	58.00	58.00	92.00	78.00	80.00	35.00
裏紙 (23封度)	"	"	31.00	33.00	41.00	43.00	41.00	40.00	44.00	50.00	55.00	75.00	68.00	65.00	28.00
毛邊紙 (32封度)	"	"	30.00	31.00	40.00	41.00	40.00	38.00	42.00	48.00	53.00	74.00	65.00	65.00	24.00
信紙 (32封度)	"	"	52.00	55.00	65.00	65.00	70.00	63.00	70.00	100.00	100.00	170.00	200.00	160.00	52.00
信紙 (32封度)	"	"	56.00	57.00	70.00	70.00	75.00	70.00	75.00	105.00	110.00	170.00	220.00	180.00	55.00
同紙 (30封度)	"	"	240.00	250.00	290.00	290.00	290.00	250.00	240.00	280.00	280.00	450.00	480.00	500.00	235.00
黄紙 (30封度)	"	"	600.00	600.00	600.00	600.00	620.00	590.00	800.00	850.00	850.00	1,800.00	2,000.00	2,000.00	608.00
甲種造紙	1封度	10噸	1.70	1.70	1.80	2.00	2.00	2.00	2.20	3.00	3.00	5.50	6.50	5.00	1.00

支那産品

品名	単位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	昭和15年 十二月
植物油	1 罎	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.60
椰子油	50 罎	700.00	680.00	750.00	760.00	770.00	830.00	800.00	840.00	900.00	1,050.00	1,300.00	1,400.00	650.00
亞麻仁油	60 罎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
菜油	80 罎	350.00	350.00	340.00	350.00	360.00	390.00	390.00	400.00	450.00	500.00	—	—	300.00
猪油	60 罎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
畜産品														
羊毛 (17號上等毛)	60 罎	3,500.00	3,500.00	4,300.00	3,900.00	3,900.00	3,700.00	3,700.00	4,300.00	4,300.00	4,300.00	30,000.00	—	3,400.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	3,000.00	3,000.00	3,700.00	3,300.00	3,300.00	—	—	—	—	—	30,000.00	—	2,900.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	2,000.00	2,000.00	2,700.00	2,300.00	2,300.00	—	—	—	—	—	30,000.00	—	2,700.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	4,700.00	4,700.00	4,500.00	4,500.00	4,500.00	820.00	800.00	700.00	780.00	890.00	1,000.00	—	450.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	300.00	320.00	450.00	340.00	680.00	650.00	650.00	450.00	500.00	600.00	680.00	—	270.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	8 罎	10 罎	13 罎	20 罎	30 罎	30 罎	32 罎	23 罎	23 罎	25 罎	30 罎	—	8 罎
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	780.00	710.00	720.00	730.00	800.00	900.00	800.00	900.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	—	500.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	600.00	610.00	500.00	780.00	750.00	980.00	800.00	800.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	—	380.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	210.00	230.00	300.00	320.00	300.00	400.00	350.00	380.00	400.00	400.00	500.00	—	150.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	400.00	410.00	480.00	600.00	650.00	680.00	600.00	600.00	600.00	650.00	800.00	—	420.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	500.00	530.00	580.00	700.00	730.00	790.00	750.00	760.00	1,000.00	1,550.00	1,400.00	—	410.00
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	2.40	2.70	2.70	4.00	4.00	4.00	4.00	4.50	4.50	4.50	8.00	—	1.90
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	0.70	0.70	1.30	0.80	0.70	0.70	1.00	1.00	1.10	1.10	1.10	—	0.55
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	11.00	12.50	13 罎	15 罎	17 罎	17.50	18 罎	20 罎	20 罎	25 罎	17 罎	—	10 罎
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	7.00	8 罎	8.50	10 罎	9 罎	9 罎	10 罎	10 罎	10 罎	15 罎	15 罎	—	7 罎
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	0.80	0.90	0.90	1.00	1.00	1.00	1.10	1.10	1.40	1.50	2 罎	—	0.90
羊毛 (17號下等毛)	60 罎	40.00	45 罎	45 罎	45 罎	48 罎	45 罎	45 罎	50 罎	50 罎	50 罎	60 罎	—	35 罎

(単位)

上海邦商小賣物價

(昭和十六年中)
當會購所調在
(單位=圓)

品名	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	昭和15年 十二月
米														
白米	100 罎	78.00	75.00	76.85	76.85	76.85	78.85	79.85	85.00	80.00	80.00	75.00	85.00	79.30
白米	100 罎	38.00	37.00	38.00	35.00	36.00	38.00	38.00	35.00	35.00	36.00	—	38.00	30.30
白米	100 罎	0.25	0.30	0.32	0.32	0.32	0.32	—	0.32	0.32	0.32	0.32	0.32	0.30
白米	100 罎	0.35	0.35	0.35	0.35	0.40	0.45	—	—	0.45	0.45	0.45	0.45	0.35
白米	14 罎	0.50	0.45	0.50	0.52	0.50	0.50	0.50	0.52	0.52	0.52	0.50	0.52	0.45
白米	65 罎	0.24	0.24	0.22	0.22	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	0.20	0.24	0.24
魚														
鮑魚	100 罎	5.00	5.00	5.00	4.00	3.00	4.50	2.50	2.50	3.00	2.50	2.50	2.50	5.00
鮑魚	100 罎	1.50	1.50	1.50	1.50	1.00	—	1.50	—	—	2.50	2.50	—	1.50
鮑魚	100 罎	0.70	0.70	0.70	0.70	0.80	0.70	0.70	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.65
鮑魚	100 罎	0.40	0.40	0.40	0.35	0.35	0.35	0.35	0.50	0.50	0.50	0.45	0.45	0.45
鮑魚	100 罎	1.00	1.10	1.30	0.80	1.00	0.80	0.80	1.00	1.00	0.90	1.30	1.30	1.00
鮑魚	100 罎	0.60	0.60	—	—	—	—	—	1.00	1.00	—	—	—	0.65
鮑魚	100 罎	0.65	0.70	—	—	0.65	—	—	1.00	1.00	—	—	—	0.70
鮑魚	100 罎	2.35	2.80	2.80	3.20	3.00	2.30	4.00	2.50	2.80	2.70	2.50	—	2.90
鮑魚	100 罎	1.60	1.60	1.60	1.60	—	—	1.60	1.40	1.80	1.80	1.60	—	2.00
鮑魚	100 罎	0.40	0.35	0.35	0.35	0.40	0.35	—	—	0.50	0.50	0.45	—	—
鮑魚	100 罎	0.50	—	—	—	0.55	—	—	—	—	—	—	—	—
肉														
肉 (ロース上)	100 罎	2.30	2.30	2.30	2.40	2.50	2.50	2.50	2.30	2.70	2.00	2.00	2.00	2.00
肉 (ロース上)	100 罎	1.40	1.40	1.40	1.30	1.60	1.60	1.60	1.60	1.80	1.80	1.80	1.80	1.70
肉 (ロース上)	100 罎	1.80	1.80	1.70	1.60	2.00	1.70	1.80	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	1.80

(単位)

支那産品

[illegible][illegible]

—(246)—

—(247)—

—(248)—

上海公共市場小賣物價

(昭和十六年中)
上海共同租界工務局調查
(單位=元)

品名	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	昭和十六年
肉類														
鮮肉類														
牛	1封度	2.08	2.28	2.45	2.92	3.16	3.30	3.31	2.90	2.90	2.80	3.91	4.22	5.56
羊	"	1.18	1.40	1.42	1.47	1.51	1.60	1.66	1.44	1.50	1.74	3.57	3.64	3.99
豚	"	1.64	1.60	1.48	1.58	1.88	2.16	2.16	1.97	2.85	3.31	3.38	2.92	3.28
牛	"	2.35	3.24	3.46	3.85	3.92	4.67	5.15	4.94	5.76	5.80	5.78	6.09	6.09
山	"	1.64	2.06	2.28	2.90	3.00	3.13	2.96	3.67	3.18	3.05	3.31	2.22	2.45
乾肉類														
牛	1封度	1.39	1.61	1.68	1.87	-	-	-	-	-	-	2.40	3.10	3.42
羊	"	2.46	2.50	2.41	2.48	2.56	2.99	2.90	2.90	3.91	4.22	5.56	5.56	5.56
豚	"	1.78	2.35	2.65	3.10	3.44	3.62	3.65	3.48	3.55	3.72	3.72	3.72	3.72
牛	"	2.65	2.65	2.61	2.59	2.72	4.41	3.90	3.90	5.40	5.08	5.67	6.08	6.08
山	"	2.39	3.08	3.14	3.08	3.08	2.98	2.79	2.88	3.52	4.06	5.06	5.29	5.29
魚類														
鮮魚類														
鰵	1封度	1.19	1.19	1.31	1.60	1.44	1.44	1.98	2.09	2.80	3.91	4.22	5.56	5.56
鰵	"	1.27	1.40	1.45	1.98	2.31	2.31	2.05	2.10	2.53	2.53	2.65	2.65	2.65
鰵	"	0.96	0.96	1.02	1.39	1.31	1.07	1.53	1.52	1.52	2.34	2.34	2.34	2.34
鰵	"	1.46	1.04	1.09	1.13	1.07	1.10	1.52	1.52	1.52	2.34	2.34	2.34	2.34
鰵	"	1.46	1.83	1.44	1.30	1.31	1.73	1.78	1.78	1.61	2.15	2.57	3.04	3.04
鰵	"	0.40	0.41	0.50	0.68	0.68	0.61	0.70	0.82	0.82	1.19	1.20	1.31	1.31

(0.96)

本報社

鰵	1封度	1.17	1.28	1.17	1.27	1.27	1.42	1.73	1.84	1.90	1.92	1.91	2.20	1.13
鰵	"	0.81	0.83	0.86	0.70	0.74	0.84	0.91	0.98	1.16	1.30	2.10	2.10	0.78
鰵	"	0.76	0.68	0.70	0.70	0.74	0.84	0.91	0.98	1.16	1.30	2.10	2.10	0.78
鰵	"	3.16	3.35	3.69	3.38	3.94	4.23	4.50	4.50	5.08	6.42	9.65	10.00	2.80
鰵	"	1.03	1.16	1.18	1.31	1.50	1.35	1.56	1.71	2.36	2.97	2.88	4.00	1.09
鰵	"	1.47	1.53	1.64	1.90	1.66	2.18	2.65	3.30	5.11	3.80	2.82	2.70	1.33
鰵	"	1.19	1.21	1.14	1.30	1.23	1.19	1.65	1.82	2.33	2.76	2.92	2.70	1.33
鰵	1封度	0.23	0.24	0.24	0.30	0.39	0.42	0.45	0.49	0.55	0.61	0.60	0.60	0.23
鰵	"	0.51	0.52	0.59	0.65	0.69	0.71	0.80	0.88	1.27	1.66	1.80	1.12	0.66
鰵	"	1.31	1.01	1.17	1.51	1.53	1.55	1.83	1.83	2.59	2.72	2.66	2.00	1.33
鰵	"	1.95	2.06	2.37	2.52	3.15	2.46	2.62	2.62	3.56	3.08	3.16	2.40	1.78
鰵	"	1.70	1.76	1.96	2.50	2.30	2.34	2.73	2.73	3.83	3.41	3.65	3.50	1.50
鰵	"	0.80	0.87	0.89	0.97	1.07	1.24	1.48	1.48	1.61	1.54	1.67	2.70	0.74
鰵	"	0.94	0.99	0.94	1.01	1.35	1.41	1.53	1.53	2.13	2.29	2.41	2.40	1.08
鰵	"	0.74	0.78	1.05	0.76	1.06	1.33	1.40	1.40	1.24	1.30	1.33	2.00	0.73
鰵	"	0.60	0.63	0.61	0.63	1.11	1.18	1.35	1.35	1.90	1.33	1.33	1.50	0.53
鰵	"	-	-	-	1.15	1.11	1.18	1.35	1.35	1.90	1.33	1.33	1.50	0.53
鰵	1封度	0.51	0.60	0.64	0.68	0.84	1.07	0.99	0.99	1.40	1.47	1.33	1.50	0.61
鰵	"	1.38	1.47	1.50	1.53	1.55	1.58	1.51	1.51	1.39	1.40	1.39	1.50	1.11
鰵	"	0.62	0.62	0.63	0.67	0.79	0.74	0.82	0.82	0.94	1.10	1.48	1.90	0.61
鰵	"	0.54	0.60	0.60	0.56	0.76	0.71	0.80	0.80	0.95	1.06	1.15	1.30	0.50
鰵	"	0.60	-	-	-	0.73	1.00	-	-	-	2.00	1.90	2.60	0.58
野菜類														
鮮	1封度	0.23	0.31	0.29	0.30	0.35	0.33	0.70	0.70	0.43	0.42	0.41	0.35	0.20
洋	"	-	-	-	1.50	1.50	1.00	1.24	1.24	1.53	1.40	1.40	-	-
菜	"	1.39	1.13	0.93	0.89	0.55	0.89	0.85	0.85	1.02	1.70	2.36	1.60	1.14
(乾)	"	-	-	-	-	-	0.50	0.50	0.50	0.59	0.26	-	-	-
豆	"	1.43	-	-	0.73	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-

(1.98)

[illegible][illegible]

[illegible]

上海勞動者生活必需品物價

(昭和十六年中)
上海共同租界工部局調査

品名	單位	一月												合計
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
食料品														
買麥	市斤	96.497	93.347	114.645	113.913	135.355	159.471	114.607	113.987	112.941	116.651	126.750	133.580	
小麥	1 市斤	24.619	25.500	31.888	30.941	31.613	31.278	33.554	34.831	34.273	40.693	63.392	46.464	
生麥	"	4.732	4.500	6.772	6.590	6.635	6.621	6.780	6.780	7.700	1.085	1.085	1.306	
胚麥	"	1.875	1.860	1.638	1.763	2.010	1.925	1.946	2.358	2.738	3.153	3.750	3.385	
內麥	"	1.455	1.588	1.735	2.165	2.530	2.613	2.490	2.775	3.600	2.533	3.390	3.235	
鮮麥	"	1.008	1.421	1.265	1.447	1.539	1.427	1.866	2.144	2.215	2.555	3.288	3.458	
雜麥	"	0.707	0.868	0.555	0.687	0.757	0.668	0.921	0.957	1.415	1.676	1.670	1.808	
白鴨豆	1 個	0.173	0.179	0.177	0.156	0.172	0.151	0.109	0.240	0.384	0.307	0.306	0.387	
鴨豆	1 市斤	1.012	1.018	1.083	1.172	1.343	1.367	1.511	1.586	2.225	2.352	2.947	2.804	
家豆	1 市斤	1.980	1.890	1.713	1.718	1.836	1.813	1.732	2.063	2.448	2.377	3.530	4.323	
脂豆	"	0.297	0.381	0.350	0.359	0.407	0.414	0.428	0.553	0.553	0.517	0.595	0.558	
油豆	"	0.357	0.209	0.468	0.454	0.478	0.459	0.493	0.591	0.595	0.585	0.595	0.774	
隨食	"	0.887	0.721	0.728	0.755	0.915	0.908	0.817	1.007	1.204	1.444	2.386	2.221	
砂梁	"	0.376	0.449	0.485	0.526	0.597	0.535	0.583	0.610	0.673	0.688	0.706	0.738	
梁	"	1.139	1.032	1.159	1.261	1.242	1.539	1.251	1.590	1.435	1.453	1.501	1.664	
高粱	1 丁	0.030	0.035	0.050	0.056	0.050	0.056	0.050	0.059	0.075	0.100	0.189	0.185	
高豆	1 丁	0.636	0.636	0.650	0.650	0.650	0.650	0.650	0.650	0.650	0.650	0.650	0.650	
豆	1 丁	0.025	0.025	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	
豆	1 市斤	0.239	0.239	0.246	0.246	0.250	0.251	0.278	0.306	0.306	0.420	0.500	0.500	
豆	"	0.310	0.318	0.295	0.246	0.255	0.240	0.331	0.485	0.452	0.414	0.501	0.500	
豆	"	0.194	0.190	0.205	0.205	0.197	0.177	0.100	0.243	0.311	0.335	0.401	0.376	
豆	"	0.073	0.068	0.052	0.052	0.052	0.150	0.173	0.274	0.304	0.298	0.327	0.183	
豆	"	0.066	0.050	0.001	0.051	0.094	0.109	0.189	0.351	0.351	0.357	0.254	0.219	

在現末月二十年六十和順 查開會案同讀訪本日華在

錄附報年所議會工商本日海上

金本資ノ社本地内ハ印

[illegible]

[illegible]

上海日本商工會議所既刊年報目錄

第一次	上海日本商工會議所年報	第十三次	上海日本商工會議所年報
第二次	同	第十四次	同
第三次	同	第十五次	同
第四次	同	第十六次	同
第五次	同	第十七次	同
第六次	同	第十八次	同
第七次	同	第十九次	同
第八次	同	第二十次	同
第九次	同	第二十一次	同
第十次	同	第二十二次	同
第十一次	同	第二十三次	同
第十二次	同		

(大正七年版)

(大正八年版)

(大正九年版)

(大正十年版)

(大正十一年版)

(大正十二年版)

(大正十三年版)

(大正十四年版)

(大正十五年版)

(昭和二年版)

(昭和三年版)

(昭和四年版)

(昭和五年版)

(昭和六年版)

(昭和七年版)

(昭和八年版)

(昭和九年版)

(昭和十年版)

(昭和十一年版)

(昭和十二年版)

(昭和十三年版)

(昭和十四年版)

(昭和十五年版)

昭和十七年六月十五日印刷
昭和十七年六月十五日發行

(定價全卷圖五拾錢)

不	許	復	製
編輯者	重野吉雄	印刷人	上海天機齋 八八號
發行所	上海海濱路三〇號	發行所	上海日本商工會議所



203